講　義　概　要
シ ラ バ ス

共通科目 …… P. 153

専門科目(英語観光学科) …… P. 195

専門科目(心理こども学科) …… P. 267

教職に関する科目(英語観光学科) …… P. 327

現代人間学部

共 通 科 目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC		11101	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾﨑 秀夫	必修	2				

授業の到達目標
現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、KAISEIパーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

授業の概要
キリスト教は西暦１世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の３大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画
1 はじめに　宗教とは
2 世界の三大宗教(仏教)
3 世界の三大宗教(イスラム教)
4 創造神話
5 アブラハム
6 出エジプト
7 カナンへの帰還
8 王国の成立と発展
9 王国の分裂
10 バビロン捕囚
11 ユダヤ教の成立とメシア待望
12 ナザレのイエス　その生涯
13 イエスの宣教
14 イエスの裁判､十字架上の死と復活
15 キリスト教の成立と発展

授業の方法
講義、発問、討議

準備学修
信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
最低でも３分の２以上の出席が必要である。

テキスト
『聖書』（新共同訳（旧約続編つき））　日本聖書協会（新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書
百瀬文晃『キリスト教の輪郭』（女子パウロ会）
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』（PHP研究所）

留意事項
この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかり学んで欲しい。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
聖書概論	ET/PC		11105	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 陽子	必修	2				

授業の到達目標
聖書について知ることで、キリスト教文化圏の人々が常識として持っている知識や習慣、考え方について学び、理解や交流の基盤となるような教養を身に着ける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、In（国際性）を目指す。

授業の概要
聖書とはどのような書物かということを知るために、それぞれの内容や特徴を順番に概観していく。聖書が教える普遍的な知恵に触れ、苦しみ、愛、悪、救い、徳などのテーマについて考察する。

授業計画
1 イントロダクション
2 モーセ５書①
3 モーセ５書②
4 歴史書
5 知恵文学
6 預言書
7 マルコによる福音書
8 マタイによる福音書
9 ルカによる福音書
10 ヨハネによる福音書
11 使徒言行録
12 パウロの手紙①
13 パウロの手紙②
14 全教会への手紙
15 黙示録

授業の方法
講義形式だが、意見やコメントも求める。

準備学修
「聖書」（新共同訳の場合は続編付き）の最初にある、創世記１章～３章まで読んでおくこと。

課題・評価方法、その他
平常点30％、定期試験70％

欠席について
規定に従う

テキスト
「聖書」新共同訳 旧約聖書続編付き　日本聖書協会発行

参考図書
「旧約聖書」図解雑学　雨宮慧著　ナツメ社
「いま聖書を学ぶ」曽野綾子著　ワック株式会社
「カトリック教会のカテキズム」カトリック中央協議会　など

留意事項
授業には「聖書」を持参

教員連絡先
moriyoko@kaisei.ac.jp

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	Ⅰ	集中	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾﨑 秀夫	選択	2				

授業の到達目標
本学と深い関係のあるｱｼﾞｱの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アシジは訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn(国際性)に重点を置く。

授業の概要
中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に８泊９日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画
1 研修に出る前の準備のクラス　第１回　イエスの生涯を中心に
2 研修に出る前の準備のクラス　第２回　フランシスコの生涯と思想
3 研修に関する具体的な準備の集まり
4 研修の日程１日目:関西空港から出発ミラノ着
5 研修の日程２日目:ミラノにて大聖堂､聖アンブロジオ教会等を訪問
6 研修の日程３日目:フィレンツェにて聖マルコ修道院､大聖堂を訪問
7 研修の日程４日目:アシジの聖フランシスコ大聖堂､クララ教会等を訪問
8 研修の日程４日目:サンタ･マリア･デリ･アンジェリ教会へ
9 研修の日程５日目:アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10 研修の日程５日目:サンダミアーノ修道院へ
11 研修の日程６日目:ローマのフォロロマーノ､ラテラノ教会等を訪ねる
12 研修の日程７日目:バチカン美術館､特にシスティーナ礼拝堂を訪ねる
13 研修の日程７日目:サンピエトロ大聖堂
14 研修の日程８日目:日本に向けて出発
15 研修の日程９日目:関西空港着

授業の方法
事前の講義と研修旅行。

準備学修
イエスやアッシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法、その他
その他

欠席について

テキスト
川下勝「アッシジのフランシスコ」清水書院、2004

参考図書
j.ヨルゲンセン著、佐藤要　訳「アシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988
チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第　伝記」あかし書房、1989

留意事項
研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
聖書と現代	ET/PC		11113	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 陽子	必修	2				

授業の到達目標
「人間のいのちの尊厳を守る」という、社会におけるキリスト教の根本原理について知り、多様な価値観、多量の情報が行き交う現代世界で、主体的に考え、判断し、行動できることが養われることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

授業の概要
2000年以上前から保管され伝えられている聖書の教えが、社会で行われる人間活動の様々な分野において、どのように生かされているのかを見て行く。

授業計画
1 イントロダクション
2 社会生活
3 教会の社会教説
4 社会の目的
5 正義の徳
6 家族と社会
7 経済
8 仕事
9 環境
10 政治
11 国家
12 世界規模の問題
13 平和
14 若者と希望
15 まとめ

授業の方法
講義形式だが、意見やコメントも求める。

準備学修
現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって授業に臨んでほしい。

課題・評価方法、その他
平常点30％、定期試験70％

欠席について
規定に従う。

テキスト
特に定めず、その都度資料を紹介する。

参考図書
「カトリック教会のカテキズム」カトリック中央協議会
教皇庁正義と平和協議会「教会の社会教説綱要」カトリック中央協議会
その他、ローマ教皇の諸文書など

留意事項
授業には「聖書」を持参しなくてもよいが、授業で引用された箇所は、自分で確認しておくこと。

教員連絡先
moriyoko@kaisei.ac.jp

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キリスト教と文化	①/②		11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾﨑 秀夫	選択	2				

授業の到達目標
とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教にかんしても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要
まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。　般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画
1 導入
2 聖書と歴史
3 出エジプトと歴史研究(1)
4 出エジプトと歴史研究(1)
5 古代における宇宙観
6 古代における天動説と地動説
7 中世における天動説
8 コペルニクス(1)
9 コペルニクス(2)
10 ジョルダーノ・ブルーノの地動説
11 ガリレオ・ガリレイ(1)
12 ガリレオガリレイ(2)
13 科学の発達とキリスト教
14 聖骸布
15 まとめ

授業の方法
講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修
地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
５回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト
とくに定めない。

留意事項
講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤		11201	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標
この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、１年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画
1 (1)オリエンテーション
　(2)言語１
2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
3 (1)言語２
　(2)オリエンテーション(記事レポートについて)
4 (1)言語３
　(2)読書
5 (1)言語４
　(2)読書
6 (1)社会１
　(2)プレゼンテーション・ツールの使用法
7 (1)社会２
　(2)読書
8 (1)社会３
　(2)読書
9 (1)社会４
　(2)レポートの書き方
10 (1)数学１
　(2)レポートの書き方
11 (1)数学２
　(2)読書
12 (1)数学３
　(2)プレゼンテーション
13 (1)数学４
　(2)プレゼンテーション
14 (1)確認試験１
　(2)読書
15 (1)確認試験２
　(2)代表者プレゼンテーション

授業の方法
演習形式

準備学修
webで参照すること。

課題・評価方法、その他
リメディアル　50％（平常点70％　定期試験30％）
後半学習50％（平常点70％　eラーニング30％）

欠席について
３分の１以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト
般常識リメディアルテキスト（育伸社）

留意事項
リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席１回につき合格点は１点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC①/PC②/PC③/PC④		11201	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標
この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、１年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画
1（1）オリエンテーション(大学生としての姿勢)
（2）言語１
2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
3（1）言語２
（2）オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
4（1）言語３
（2）キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
5（1）言語４
（2）キャンパスライフ(相談)
6（1）社会１
（2）キャンパスライフ(課外活動について)
7（1）社会２
（2）キャンパスライフ(課外活動について)
8（1）社会３
（2）キャンパスライフ(課外活動について)
9（1）社会４
（2）スタディスキル(受講)
10（1）数学１
（2）スタディスキル(理解と表現１)
11（1）数学２
（2）スタディスキル(理解と表現２)
12（1）数学３
（2）キャンパスライフ(今後の学修について)
13（1）数学４
（2）キャンパスライフ(学生相談)
14（1）確認試験１
（2）スタディスキル(理解と表現３)
15（1）確認試験２
（2）スタディスキル確認演習

授業の方法
演習形式

準備学修
webで参照すること。

課題・評価方法、その他
リメディアル　50％（平常点70％　定期試験30％）
後半学習50％（平常点70％　eラーニング30％）

欠席について
３分の１以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト
般常識リメディアルテキスト（育伸社）
３訂　大学　学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項
リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席１回につき合格点は１点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤		11205	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標
この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、１年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画
1（1）言語１
（2）今学期の目標を設定する。
2（1）言語２
（2）共同作業:大学祭での企画立案と実施。
3（1）言語３
（2）共同作業:大学祭での企画立案と実施。
4（1）言語４
（2）共同作業:大学祭での企画立案と実施。
5（1）社会１
（2）共同作業:大学祭での企画立案と実施。
6（1）社会２
（2）レポート作成:参考文献様式の復習。
7（1）社会３
（2）レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
8（1）社会４
（2）レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
9（1）数学１
（2）レポート作成:要約をする。
10（1）数学２
（2）レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
11（1）数学３
（2）レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
12（1）数学４
（2）Kaisei English and Tourism Festival
13（1）確認試験１
（2）レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
14（1）確認試験２
（2）レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
15（1）確認試験３
（2）教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

授業の方法
演習形式

準備学修
テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

欠席について
３分の１以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト
般常識リメディアルテキスト（育伸社）

留意事項
リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席１回につき、合格点を１点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④		11205	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標
この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、１年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画
1（1）言語１
　（2）オリエンテーション
2（1）言語２
　（2）キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
3（1）言語３
　（2）キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
4（1）言語４
　（2）キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
5（1）社会１
　（2）スタディスキル(教学カルテ入力について)
6（1）社会２
　（2）キャリアデザイン(社会意識１)
7（1）社会３
　（2）キャリアデザイン(社会意識２)
8（1）社会４
　（2）キャリアデザイン(社会意識３)
9（1）数学１
　（2）キャリアデザイン(社会意識４)
10（1）数学２
　（2）スタディスキル(リサーチ１)
11（1）数学３
　（2）スタディスキル(リサーチ２)
12（1）数学４
　（2）スタディスキル(リサーチ３)
13（1）確認試験１
　（2）社会人への　歩(今後の学修について)
14（1）確認試験２
　（2）スタディスキル(リサーチ４)
15（1）確認試験３
　（2）アカデミックスキル確認演習

授業の方法
演習形式

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
リメディアル50％（平常点70％　定期試験30％）
後半学修50％（平常点60％　eラーニング30％　教学カルテ10％）

欠席について
３分の１以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト
　般常識リメディアルテキスト（育伸社）
3訂　大学　学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項
リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席１回につき、合格点を１点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先
ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	必修	1				

授業の到達目標
神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

授業の概要
KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の６つの言葉を、グループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。
それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。
授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画
1 海星学とは
2 KAISEIパーソナリティについて
3 キャリアプログラム①社会を知る
4 キャリアプログラム②「社会で働く」
5 キャリアプログラム③「職種・業界」
6 キャリアプログラム④学科の学びとキャリア
7 ポートフォリオ(学生カルテ)①とeラーニング
8 ポートフォリオ(学生カルテ)②とeラーニング
9 海星を学ぶ①　「K:思いやり」
10 海星を学ぶ②　「S:奉仕」
11 海星を学ぶ③　「I:国際性」
12 海星を学ぶ④　「A:自律」
13 海星を学ぶ⑤　「E:倫理」
14 海星を学ぶ⑥　「I:知性」
15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法
講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形体で行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40%　eラーニング30％

欠席について
出席を重視する。欠席が５回を超えると単位は修得できない。

テキスト
プリント使用

留意事項
eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp・saeki@kaiei.ac.jp・sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
海星学Ⅰ	PC①/PC②/PC③/PC④		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標
神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを確立し、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描く。

授業の概要
KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の６つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。
それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、社会で働くことや職種・業界などについて学び、自身の将来に意識を向けていく。
また海星学ⅠⅡを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。
授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画
1 ポートフォリオ(学生カルテ)
2 海星学とは
3 キャリアプログラム１「社会を知る・年金制度」
4 キャリアプログラム２「社会で働くとは」
5 キャリアプログラム３「職種・業界を学ぶ」
6 キャリアプログラム４「キャリアを考える」
7 海星の歴史と建学の精神
8 課外活動について
9 KAISEIパーソナリティについて
10 KAISEIパーソナリティについて
11 KAISEIパーソナリティについて
12 KAISEIパーソナリティについて
13 KAISEIパーソナリティについて
14 海星学の理解と自分の振り返り
15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法
講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形体で行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
②平常点40%、定期試験30%　eラーニング30％

欠席について
出席を重視する。欠席が５回を超えると単位は修得できない。

テキスト
プリント使用

留意事項
eラーニングを課題とし、実力テスト診断テストを10クリアさせること。
教学カルテを入力しておくこと。

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
海星学Ⅱ	ET①/ET②/ET③/ET④		11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	必修	1				

授業の到達目標
神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

授業の概要
KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の６つの言葉を、グループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。
それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。
授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画
1 大学祭についての準備
2 ポートフォリオ(学生カルテ)
3 海外旅行プラン①「A:自律」自らが企画する
4 海外旅行プラン②「K:思いやり」人との共感
5 海外旅行プラン③「S:奉仕」他者と自己との関係
6 卒業生によるピアサポート①
7 卒業生によるピアサポート②
8 社会で働く①(キャリアセンター)
9 社会で働く②(学科教員)
10 海外旅行プラン④「I:知性」調査し考える・「E:倫理」現代の日本社会を考える
11 旅行プラン　グループ発表①　「I:国際性」ボーダレスの世界前に踏み出す力
12 旅行プラン　グループ発表②
13 旅行プラン　グループ発表③
14 イングリッシュ＆ツーリズム　フェスティバル
15 ポートフォリオ(学生カルテ)・来年度演習ゼミについての説明

授業の方法
講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形体で行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40%　eラーニング30％

欠席について
出席を重視する。欠席が５回を超えると単位は修得できない。

テキスト
eラーニング

留意事項
eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp・saeki@kaiei.ac.jp・sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
海星学Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④		11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリィの項目についての学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを確立し、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描く。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の６つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけ、チームでプレゼンテーションを作り上げ発表する。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、自身の将来に対する意識を確立させていく。また海星学ⅠⅡを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。
授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

1 ポートフォリオ(学生カルテ)
2 KAISEIパーソナリティの研究発表についての説明
3 課外活動についてのディスカッション①
4 課外活動についてのディスカッション②
5 課外活動についてのまとめ　KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
6 卒業生によるピアサポート①
7 卒業生によるピアサポート②
8 社会で働く①(キャリアセンター)
9 社会で働く②(学科教員)
10 テーマについてのグループディスカッションと研究と報告①
11 テーマについてのグループディスカッションと研究と報告②
12 グループのプレゼンテーションの準備作業
13 グループのプレゼンテーションの発表準備
14 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなどさまざまな形体で行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
②平常点40%、定期試験30%　eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が５回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、実力テスト診断テストを10クリアさせること。
教学カルテを入力しておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
人間学１	ET/PC		11209	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾﨑 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の　つとしている。本講義は、学生が１人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で　人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この１、２年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

1 昨年の時事問題(１)
2 昨年の時事問題(２)
3 １月頃の時事問題
4 ２月頃の時事問題
5 ３月頃の時事問題
6 ４月頃の時事問題
7 ５月頃の時事問題
8 ６月頃の時事問題
9 ７月頃の時事問題
10 ８月頃の時事問題
11 ９月頃の時事問題
12 10月頃の時事問題
13 11月頃の時事問題
14 12月頃の時事問題
15 この１年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

５回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
人間学２	ET/PC		11213	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
芝山 豊	必修	2				

授業の到達目標
キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティのすべての要素をてがかりに、建学の精神を体得し、人間として、女性としての存在の主体的意味を発見する。
このクラスではKAISEIパーソナリティの全体について理解を深めるが、とりわけ、共感性に満ちた　I（知性）とIn（国際性）を養うことを目指す。

授業の概要
身近な体験を通して、「問題」と「神秘」を峻別しつつ、人間存在について多様な角度から考察する。「ビッグバン」から「欲望の資本主義」の時代まで、時の流れの中の「いのち」について、人間がどのように理解し、生きてきたのかを、通時的、共時的な文化の側面から考察し、環境、家族、地域社会、国家等とのかかわりへの理解を深めていく。さらに、「生きることとは何か」、「人間の尊厳とは何か」などを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけではなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけもとりあげていく。

授業計画
1 人間学とは何か
2 存在の神秘
3 他者とは誰か
4 人間の誕生から死まで
5 人種･民族･国民
6 正義と平和
7 宗教と科学
8 異文化理解と文化共生
9 伝統と近代化
10 環境問題と「ラウダート･シ」
11 いのちを脅かすもの
12 自助･公助･共助
13 ケアの文化とケアの倫理
14 人間の尊厳
15 海星で学ぶということ

授業の方法
講義とディスカッションを土台とし､討論に基づいた発表の時間をとる。また､グループや個人による課題研究､プレゼンテーション等を課す。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題について、　各時間に提出されるレポートに基づきグループ討論等を行い、発表を実施する。その後各レポートを評価し、全体のフィードバックを行う。
②評価方法、平常点70％、定期試験30％

欠席について
出席の評価を成績評価全体の15％とし、出席評価は欠席１回につき20％減ずるものとする。

テキスト
配布プリント及び電子ファイル、映像等を使用する。

参考図書
日本カトリック司教団「いのちへのまなざし　増補改訂版」カトリック中央協議会
柳澤桂子『癒されて生きる』岩波現代文庫
教皇フランシスコ「回勅　ラウダ　ト・シ」カトリック中央協議会
ENCYCLICAL LETTER FRATELLI TUTTI OF THE HOLY FATHER FRANCIS ON THE FRATERNITY AND SOCIAL FRIENDSHIP（http://www.vatican.va/content/vatican/en.html）
三田　郎「科学者はなぜ神を信じるのか」講談社ブルーバックス
他、参考文献、URL等　覧を配布予定。

留意事項
自己と他者に関心をもち、世界の出来事に興味をもち、現代社会を注視すること。また日本と世界の歴史について理解し、人生に対する自らの姿勢を意識すること

教員連絡先
shibayama@kaisei.ac.jp

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キャリアデザイン入門	ET①/ET②		11301	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

授業の到達目標
充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要
生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。
出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

授業計画
1 学長による講義
2 適性検査の実施
3 人との出会い①　出会いのワーク①
4 人との出会い②　出会いのワーク②
5 人との出会い③　コミュニケーション演習
6 社会との出会い①　社会に出るとは？
7 社会との出会い②　業界研究
8 社会との出会い③　業種･職種･雇用形態
9 適性検査の結果報告
10 キャリアセンター員による講義　本校のキャリア教育
11 学科教員による講義　将来のために今すべきこと
12 自分との出会い①　ライフパワーグラフ
13 自分との出会い②　現在の私は？未来の私は？
14 自分との出会い③　キャンパスライフプラン
15 まとめとテスト(作文)

授業の方法
講義（聴く）グループワーク（話す）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
評価方法・平常点70％、定期試験30％

欠席について
規定に従う

テキスト
プリント配布

参考図書
随時紹介する

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC		11301	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

授業の到達目標
充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要
生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。
出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

授業計画
1 学長による講義
2 適性検査の実施
3 人との出会い①　出会いのワーク①
4 人との出会い②　出会いのワーク②
5 人との出会い③　コミュニケーション演習
6 社会との出会い①　社会に出るとは？
7 社会との出会い②　業界研究
8 社会との出会い③　業種･職種･雇用形態
9 適性検査の結果報告
10 キャリアセンター員による講義　本校のキャリア教育
11 学科教員による講義　将来のために今すべきこと
12 自分との出会い①　ライフパワーグラフ
13 自分との出会い②　現在の私は？未来の私は？
14 自分との出会い③　キャンパスライフプラン
15 まとめとテスト(作文)

授業の方法
講義（聴く）グループワーク（話す）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
評価方法・平常点70％、定期試験30％

欠席について
規定に従う

テキスト
プリント配布

参考図書
随時紹介する

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
文学入門			11309	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を拡げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の　面にも注目する。

授業計画
1 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その１)
2 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その２)
3 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その３)
4 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その４)
5 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その１)
6 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その２)
7 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その３)
8 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その４)
9 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その１)
10 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」　(その２)
11 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
12 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
13 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
14 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
15 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その１)

授業の方法
作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。
平常点70%、定期試験30%

欠席について
規定に従う

テキスト
必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書
必要に応じて随時紹介する。

留意事項
授業中に鑑賞する映像は、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では　部のみしか鑑賞しない場合もある。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標
情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要
パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画
1 情報活用に必要な数学１～N進法
2 情報活用に必要な数学２～割合
3 情報活用に必要な数学３～統計
4 表計算のしくみ１～計算式
5 表計算のしくみ２～論理式
6 表計算のしくみ３～相対参照と絶対参照
7 情報検索の基礎１～ITに関する基礎知識
8 情報検索の基礎２～　次情報と二次情報
9 情報検索の基礎３～情報管理の方法
10 情報検索の基礎４～基礎知識のまとめ
11 ビジネスとコンピュータ１～会計
12 ビジネスとコンピュータ２～会計
13 有価証券報告書の読み方１
14 有価証券報告書の読み方２
15 有価証券報告書の読み方３

授業の方法
講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修
初回の授業が始まる前までに、配布するプリントを簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席が５回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト
プリントを配布する。

留意事項
本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理学概論			11317	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標
心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、心理学の成り立ち、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し人の心の基本的な仕組み及び働きについて基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要
ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉えるうえで、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのようなことであるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら概観する。

授業計画
1 オリエンテーション　心理学が誕生するまで
2 行動主義と学習理論１
3 行動主義と学習理論２
4 感覚･知覚(ゲシュタルト心理学)１
5 感覚･知覚(ゲシュタルト心理学)２
6 発達心理学１
7 発達心理学２
8 認知心理学１
9 動機づけ･情動
10 社会的行動理論
11 人格の形成
12 人格の評価
13 臨床心理学１
14 臨床心理学２
15 総括･期末テスト

授業の方法
講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点30点、定期試験70%

欠席について
欠席は１回で３点、遅刻は２点の減点とする。欠席５回を超えた場合は不合格とする。

テキスト
『心理学の最先端』あいり出版　2013

参考図書
授業中に適宜紹介する。

留意事項
毎回小テストを実施するので、予習復習を徹底すること。小テスト結果は平常点に加算する。

教員連絡先
nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
統計学入門			11321	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標
基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画
1 講義ガイダンス
2 度数分布表とヒストグラム
3 平均値
4 分散と標準偏差
5 度数分布表からの分散と標準偏差
6 標準偏差でデータの評価
7 相関と回帰
8 正規分布
9 正規分布を使って予言を行う
10 仮説検定の考え方
11 区間推定の考え方
12 母集団を調べる①
13 母集団を調べる②
14 母集団を調べる③
15 まとめ

授業の方法
授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

準備学修
いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席が５回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト
小島寛之著『統計学入門』（ダイヤモンド社）

留意事項
数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ジェンダー論			11325	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標
ジェンダーとは何かを説明できる。あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

授業計画
1 ジェンダーとは
2 「女らしさ」「男らしさ」と性別役割
3 教育とジェンダー
4 労働とジェンダー　1
5 労働とジェンダー 2
6 結婚・離婚とジェンダー　1
7 結婚・離婚とジェンダー　2
8 子育てとジェンダー　1
9 子育てとジェンダー　2
10 ケアとジェンダー
11 暴力とジェンダー
12 表現とジェンダー
13 政策とジェンダー
14 国際化の中の女性問題・男性問題
15 まとめ

授業の方法
講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとりいれる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について
欠席１回につき２点減点する。

テキスト
伊藤公雄ほか『女性学・男性学　ジェンダー論入門』有斐閣

参考図書
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項
様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

教員連絡先
yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
日本国憲法			11329	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅野 宜之	選択	2				

授業の到達目標
この講義を通じて、学生はニュース報道などで断片的に見聞きする「基本的人権」や「統治機構」とは憲法上いかなるものであるのか、系統的に理解できるようになる。国会が制定する法律や、政府の遂行する政策には時に憲法に違反する疑いのあるものもみられる。これらについて、批判的に検討することができるようになる。KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養うことになる。

授業の概要
この講義では、法律について専門的に学んだことがないという前提の下、日本国憲法に関する基礎的な知識をつけることを目的とする。講義では教科書のほか、パワーポイントとこれにもとづく資料プリントを使用する。まず日本国憲法の原理と制定過程について学んだ後、基本的人権について重要なものを取り上げ、解説する。続いて、統治機構についてそれぞれの組織を取り上げながらその活動の概要を学ぶ。

授業計画
1 日本の憲法の位置づけ：大日本帝国憲法と日本国憲法
2 平和主義
3 国会
4 内閣と地方自治
5 裁判所
6 人権の歴史と享有主体
7 人権の制限、二重の基準論
8 個人の尊重と幸福追求権
9 法の下の平等
10 思想、良心、信教の自由
11 表現の自由
12 生存権：健康で文化的な最低限度の生活を営む権利
13 学問の自由と教育の自由、教育を受ける権利と労働権
14 経済的自由
15 刑事手続き、適正手続の保障

授業の方法
パワーポイントと資料を使用して講義を進める。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%
講義内でのミニレポートについては次回以降の講義でフィードバックを行う。

欠席について
正当な事由あるときは、必ず連絡をすること。
（欠席過多の場合定期試験受験資格を失う）

テキスト
『憲法入門！市民講座』大久保卓治ほか編（法律文化社）

参考図書
『憲法判例百選I、II』（有斐閣）
『憲法（第七版）』芦部信喜（岩波書店）

教員連絡先
必要な場合は事務室を通じて連絡するようにしてください。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
健康科学			11333	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
柳本 有二	選択	1	国立附属小学校教官			

授業の到達目標
受講生および重要なる他者（保護者など）が，望ましい健康観や健康行動を獲得できるために，ウエルネス的健康観を主体とした基礎的知識を習得することを目指す.
さらに，現代社会において検討すべき，高齢化および少子化に伴う諸問題を解決する糸口を，ヘルスプロモーション的な実践活動と科学的理論から探る能力を養成する.
この授業では，KAISEIパーソナリティのK（思いやり）およびI（知性）を養う.

授業の概要
講義形式で行うが，適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う.
Health in All Policies（全ての政策の中に健康という視点を取り入れる）という視点から，日常生活，災害時等の緊急対応および地域活性などの中に，すべて「健康」という概念を取り入れた政策を目指すための知識を学ぶ．そして，これからの健康づくりには，どのような活動が重要かを考えていく.
なお，毎授業ごとに授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し，次授業の最初にその意見等を紹介し，学習の連続性を確保する.

授業計画
1 オリエンテーション. 授業の進め方を説明. グループで「論」と「学」の違いについて話し合いをする.
2 　日　万歩の意義, ウォーキングと健康について講義とディスカッションをする.
3 Health in All Policiesという視点から, 現在の健康を考える.
4 健康づくりとして, 骨の重要性について. 運動, 栄養および生活習慣による骨質の低下予防について.
5 発達障碍について科学的見地から, 真の関わり方について考える.
6 子供たちの健康づくり（発育発達）について最新の科学的根拠から検討する.
7 少子化や認知症など現代の諸問題についてその解決策を検討する.
8 ウエルネス的健康観から「よりよく生きる」という意味を考える.

授業の方法
毎授業ごとに授業ノートを作成し，次授業の最初にその意見等を紹介し，学習の連続性を確保する.

準備学修
日常や社会における健康づくりについて，新聞やメディアなどを通じて意識し，まとめておく.
（Webで参照すること）

課題・評価方法、その他
1）レポート：受講した授業内容から選択し，レポートを提出する
2）評価方法：定期試験：70%，授業時の感想ノート：30%

欠席について
神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる.

テキスト
使用しない。

教員連絡先
yyuji2004@yahoo.co.jp
090-4150-2682

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
健康スポーツ１	①/②		11337	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 磨也子／片岡 安美子	選択	1	医療系専門学校非常勤講師、健康運動指導士			

授業の到達目標
充実した学生生活を送りその後に社会で活躍するためにも、健康や体力増進について知識や理解を深めることは大切な基礎となる。授業中の積極的な身体活動により、日常生活においても運動が習慣化し自己管理するための方法を身につける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要
有酸素系の運動やニュースポーツ等を体験し、身体機能がバランスよく整えられるよう実践していく。
各自が体力や体調に合わせて、安全に留意しながら主体的に取り組むこと。また、楽しく運動するための工夫や方法について考える。

授業計画
1 オリエンテーション
2 簡易的体力測定と健康状態の把握をする
3 ストレッチと有酸素系の運動①
4 ストレッチと有酸素系の運動②
5 ストレッチと有酸素系の運動③
6 有酸素系の運動とコーディネーション系①
7 有酸素系の運動とコーディネーション系②
8 有酸素系の運動とコーディネーション系③
9 コーディネーション系と筋力トレーニング①
10 コーディネーション系と筋力トレーニング②
11 コーディネーション系と筋力トレーニング③
12 筋力トレーニングとリラクゼーション系①
13 筋力トレーニングとリラクゼーション系②
14 筋力トレーニングとリラクゼーション系③
15 まとめ

授業の方法
実技中心の授業である。
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

準備学修
毎日20分程度、授業で学ぶストレッチやトレーニングをして健康管理に努める。

課題・評価方法、その他
毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。
評価方法、平常点70％　定期試験30％

欠席について
規定に従う
欠席はマイナス評価の対象とする。

テキスト
プリント配布

留意事項
運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標
日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要
時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画
1 年中行事　その壱
（正月について）
2 年中行事　その弐
（節分・３月３日・５月５日・衣替え・賀茂（葵）祭）
3 年中行事　その参
（夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭）
4 年中行事　その四
（７月７日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三）
5 神々の歴史
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
6 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
7 邪馬台国・古墳時代
森鴎外『生田川』を読む
8 邪馬台国のあった頃の中国（魏）
9 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
10 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
11 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
12 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
13 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳　』を読む
14 戦国時代
遠藤周作『反逆』を読む
15 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法
講義中心の授業である。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について
規定に従う

テキスト
必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書
必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
簿記会計学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2	税理士			

授業の到達目標
この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定３級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要
簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか，また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画
1 簿記の基礎
2 仕訳①～商品売買
3 仕訳②～現金･当座預金･当座借越･小口現金
4 仕訳③～手形
5 仕訳④～貸付金･借入金他･有価証券
6 仕訳⑤～その他の債権債務
7 仕訳⑥～消耗品の処理･固定資産と減価償却
8 仕訳⑦～租税公課と資本金
9 仕訳⑧～費用･収益の繰延べと見越し
10 決算①～帳簿への記入
11 決算②～試算表の作成
12 決算③～伝票制度
13 決算④～精算表と財務諸表
14 決算⑤～帳簿の締め切り
15 まとめと確認

授業の方法
講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修
授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席が５回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト
「スッキリわかる　日商簿記３級」　　TAC出版

留意事項
電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標
家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題をとりあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画
1 家族とは
2 家族に関する基礎知識　1
3 家族に関する基礎知識　2
4 配偶者の選択
5 結婚と夫婦関係
6 離婚･再婚と家族関係
7 ライフコースと家族
8 子どもの養育と家族関係　1
9 子どもの養育と家族関係　2
10 中年期の家族関係
11 高齢期の家族関係
12 家族に関する政策と法
13 家族と社会的ネットワーク
14 家族の変化と家族関係
15 まとめ

授業の方法
講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について
欠席１回につき２点減点する。

テキスト
森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項
「子ども家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

教員連絡先
yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
社会福祉論			11369	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）社会福祉士			

授業の到達目標
高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、保育、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要
授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画
1 オリエンテーション
2 社会福祉と私たちの暮らし
3 社会福祉の理念と歴史的変遷
4 現代社会における生活問題
5 社会福祉制度と実施体系
6 社会福祉の分野　子ども家庭福祉１
7 社会福祉の分野　子ども家庭福祉２
8 社会福祉の分野　障がい児者福祉
9 社会福祉の分野　高齢者福祉
10 社会福祉の分野　公的扶助
11 社会福祉の分野　地域福祉･医療福祉
12 社会福祉における相談援助
13 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
14 社会福祉の動向と課題
15 まとめと試験

授業の方法
講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修
Webで確認すること。

課題・評価方法、その他
平常点40％、定期試験60％

欠席について
欠席が５回を超えた場合は不合格とする。

テキスト
小林育子・　瀬早百合共著「社会福祉と私たちの生活ー保育を学ぶ人のために」萌文書林　2016年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書
必要な参考図書については授業の中で提示する。

教員連絡先
nishihashi@kaisei.ac.jp

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会人権同和教育室指導主事 阪神淡路大震災避難所支援　近畿地区同和行政研究発表			

授業の到達目標
人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK（思いやり）の諸能力を生かします。

授業の概要
毎回配布するレジメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画
1 人権とは(人権感覚､考え方)
2 偏見と差別
3 人権･同和教育とは
4 人権尊重の教育
5 子どもの人権Ⅰ(虐待､体罰､子どもの安全)
6 子どもの人権Ⅱ(いじめ､不登校､権利条約)
7 学校における人権学習Ⅰ(学習権､個性)
8 学校における人権学習Ⅱ(複数指導､生活科)
9 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム､ロールプレイ)
12 阪神淡路大震災と人権
13 人権学習のコラム
14 諸外国の人権教育事情
15 人権教育の課題､まとめ

授業の方法
講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

準備学修
世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布されるレジュメやプリントをファイルし、講義メモを添えて整理保存すること。

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

欠席について
やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

テキスト

参考図書
授業の中で適宜紹介します。

留意事項
ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。毎回の授業の記録ファイルを最後に提出してもらいます。
オンライン参加学生は、必ずビデオ・オーディオをオンにして授業を受けること

教員連絡先
mhori@kaisei.ac.jp

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾﨑 秀夫	選択	2	私立中学校教員（社会）、私立高等学校（世界史）			

授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではヨーロッパ中世の開幕に関する諸説を、ピレンヌ理論を中心に紹介し、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

授業計画

1 はじめに､歴史学とは何か
2 時代区分について
3 ゲルマン民族の大移動
4 古代文化没落説
5 古代文化連続説
6 ピレンヌ理論の概要
7 民族大移動後の地中海世界
8 民族大移動後の地中海商業
9 イスラム教の成立と発展
10 地中海商業の衰退
11 地中海商業衰退の政治的影響
12 カール１世の戴冠と西欧世界の成立
13 ピレンヌ批判(デネット･ジュニア)
14 ピレンヌ批判(ボーリン)
15 まとめと試験

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

授業内容の背景を知るため、高校の世界の教科書の古代ローマ帝国から中世ヨーロッパの成立、カールの戴冠あたりを読んでおくこと。（60時間）

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が５回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

テキストは特に定めない。随時、史料のプリントを配布。

参考図書

とくに指定しない。

留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付け、実践的能力を養う。

授業計画

1 様々な家政学
2 家政学の定義･目的･対象･方法
3 家政学の発展過程と改革
4 家庭生活と生活経営
5 家庭経済･消費者問題
6 家族関係
7 食生活　1
8 食生活　2
9 衣生活　1
10 衣生活　2
11 住生活　1
12 住生活　2
13 生活情報
14 生活環境
15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席１回につき３点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
経営学入門			11385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
栗木 契	選択	2	官公庁や企業のアドバイザー、研修講師、社外取締役、等。			

授業の到達目標
このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とS（奉仕）を養うことをめざす。組織において経営にかかわる上で欠かせないコミュニケーション能力、情報活用力、社会情勢の理解、チームワーク、自然・文化への理解を養う。

授業の概要
20世紀に勃興した巨大企業は、神戸の地にも多くの足跡を残している。経営学はこの時期に、この巨大企業の誕生を受けて、アメリカをはじめとする世界の各国で発展していく。このクラスでは、マーケティング論を中心に経営学が現代の各種の企業をはじめとする事業主体において果たす役割を考える。入門のクラスとして具体的な経営に関わる事例を用いた講義を行う。

授業計画
1 オリエンテーション添付
2 経営とは何か
3 経営学とマーケティング
4 マーケティング･ミックス
5 製品政策
6 価格政策
7 チャネル政策
8 プロモーヨン政策
9 組織とリーダーシップ
10 消費者行動の分析
11 製品ライフサイクル
12 市場細分化
13 顧客関係管理（７月17日）
14 ブランド管理
15 まとめと振り返り

授業の方法
講義とクラスディスカッションを中心に授業を進める。

準備学修
各回の授業の事前学習等については、第１回目のガイダンスで説明する。それ以外の準備学習の必要はない。

課題・評価方法、その他
平常点40％、最終レポート60％で成績評価を行う。平常点については、毎回の授業で、課題レポートの提出を求めるとともに、小テストを行い、それの結果にもとづく評価を行う。

欠席について
出欠の有無は成績評価に直接は影響しない。ただし、毎回の授業時小テストへの回答を欠かすことは成績評価（平常点）に影響する。

テキスト
石井淳蔵、嶋口充輝、栗木契、余田拓郎著『ゼミナール・マーケティング入門・第２版』日本経済新聞出版、2013年

参考図書
伊丹敬之、加護野忠男著『ゼミナール経営学入門・第３版』日本経済新聞出版、2003年

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
手話コミュニケーションⅠ			11393	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
多賀 真里子／嘉田 眞典	選択	1				

授業の到達目標
・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
・手話で自己紹介が出来るようにする。
・簡単な会話が出来るようにする。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要
・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
・聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
・手話で自己紹介する。
・基本的な会話手話を習得する。
・レクリェーション

授業計画
1 オリエンテーション「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」／手話表現／指文字
2 実技(伝え合ってみよう)
3 DVD映画「ゆずり葉」鑑賞
4 実技(名前)
5 聴覚障害者の課題１
6 実技(趣味)
7 実技(仕事)
8 聴覚障害者の課題２
9 実技(家族)
10 実技(地図１)
11 聴覚障害者の課題３
12 実技(地図２)
13 実技(自己紹介しましょう)
14 実技試験
15 まとめ

授業の方法
DVDを使って進める。
視覚的ゲーム
手話実技・講義

準備学修
単語学習

課題・評価方法、その他
実技試験40％、レポート40％、授業20％

欠席について
校規に従う。

テキスト
手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう　手話で話そう（全国手話研修センター）

参考図書
日本語・手話辞典

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			11397	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
多賀 真里子／嘉田 眞典	選択	1				

授業の到達目標
・外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
・手話で会話が出来るようにする。
・講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流が出来るようにする。
・全国手話検定５級取得
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要
・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
・手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
・手話の基本的な会話を習得する。
・障害者福祉の基礎を学ぶ。
・レクリェーション

授業計画
1 春学期の復習(夏休みの報告)
2 実技(１日のこと)
3 実技(１ヶ月のこと)
4 聴覚障害者の課題４
5 実技(１年のこと)
6 実技(行事のお知らせ)
7 聴覚障害者の課題５
8 実技(会話してみましょう１)
9 実技(会話してみましょう２)
10 聴覚障害者の課題
11 実技(会話してみましょう３)
12 実技(応用編１)
13 実技(応用編２)
14 実技試験
15 まとめ

授業の方法
※

準備学修
※

課題・評価方法、その他
実技試験40％、レポート40％、授業20％

欠席について
校規に従う。

テキスト
手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう　手話で話そう（全国手話研修センター）

参考図書
日本語・手話辞典

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
日本語表現法	ET		11401	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標
敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要
言葉を公に使用するということは、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画
1 聞く力を養う。
　質問力･雑談力を高める。
2 間違いやすい「敬語」
　尊敬語と謙譲語を学ぶ
3 「敬語の種類」
4 「日常生活と言葉づかい」(１)
5 「日常生活と言葉づかい」(２)
6 「ビジネス社会における敬語(１)」
7 「ビジネス社会における敬語(２)」
8 「さまざまな文章」「文章の構成」
9 「原稿用紙の用法」
10 「評論文」の書き方。
11 「誤用文と推敲の方法」
12 　「手紙とはがき(１)」
13 「手紙とはがき(２)」
14 「ビジネス文書」「修辞法と慣用句」
15 「就職活動と書類」「さまざまな熟語」
16 まとめとテスト

授業の方法
演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について
小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト
西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書
必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項
演習が中心の授業となる。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員			

授業の到達目標
日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画
1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2 国語の力(読む・調べる・書く)
3 話し方の基本
4 挨拶と敬語
5 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6 自己紹介
7 文字の書き方と表記
8 文章の書き方①
9 文章の書き方②
10 文章の書き方③
11 文章の書き方④
12 文章の書き方⑤
13 書写①
14 書写②
15 日本語表現の振り返り

授業の方法
書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修
テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について
欠席は３点減点し、遅刻は１点減点する。

テキスト
田上貞　郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書
必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項
出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先
ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
日本語文章構成法			11405	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要
簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画
1 ＜評論文＞(1)　感想文と評論文とはどう違うのか。
2 ＜評論文＞(2)　アウトラインのたてかたを学ぶ。
3 ＜評論文＞(3)　推敲の仕方を学ぶ。
4 ＜評論文＞(4)　書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5 ＜評論文＞(5)引用の規則を学ぶ。
6 ＜新聞投稿＞　検索能力を養う。
7 ＜意見文＞　他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
8 ＜意見文・説得文＞　反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9 ＜意見文・説得文＞　結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10 ＜小説＞　語り手の位置を学ぶ。
11 ＜小説＞　テーマにそった短編小説を書く。
12 ＜エントリーシート＞　キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13 ＜エントリーシート＞　ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14 ＜エントリーシート＞　標語の作り方を学ぶ。ブレーンライティング法を学ぶ。
15〈随筆〉を書く

授業の方法
演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などをとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の　員としての自分の位置を理解していく。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について
課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト
必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書
必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項
演習が中心の授業となる。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
情報リテラシー１	ET①/ET②/ET③		11501	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	必修	2				

授業の到達目標
情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験２級の資格取得を目指す。

授業計画
1 スキルチェック／入力速度の測定､ウィンドウズの基本操作
2 コンピュータの基礎知識／文章編集／フォルダの操作
3 コンピュータの基礎知識／ワード基本操作(書式設定)
4 コンピュータの基礎知識／ワード基本操作(表作成)
5 コンピュータの基礎知識･情報モラルについて／レポート作成
6 ビジネス文書作成
7 ワード基本操作まとめ
8 日本語ワープロ技能標準試験２級対策
9 日本語ワープロ技能標準試験２級対策
10 日本語ワープロ技能標準試験２級対策
11 日本語ワープロ技能標準試験２級対策
12 日本語ワープロ技能標準試験２級対策
13 図形練習
14 プレゼンテーションソフトの基本
15 確認演習

授業の方法
知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修
Webを参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
通常欠席が５回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
情報リテラシーオリジナルテキスト（授業内で販売）
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集　　noa出版

留意事項
テキストは必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
情報リテラシー１	PC①/PC②		11501	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

授業の到達目標
情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
PCやインターネットの基本操作や注意点を確認した後、３種のオフィスアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）の基礎知識を演習を通して修得する。

授業計画
1 本科目の概要､PC操作の基本
2 インターネットの利用法と注意点
3 ワープロ(Word)①　基礎
4 ワープロ(Word)②　表
5 ワープロ(Word)③　画像と図形
6 ワープロ(Word)④　文書作成の実践
7 表計算(Excel)①　基礎
8 表計算(Excel)②　関数
9 表計算(Excel)③　グラフ
10 表計算(Excel)④　データ分析の実践
11 プレゼンテーション(PowerPoint)①　基礎
12 プレゼンテーション(PowerPoint)②　アニメーション
13 プレゼンテーション(PowerPoint)③　スライドの作成
14 プレゼンテーション(PowerPoint)④　発表の実践
15 まとめ

授業の方法
演習を中心に行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。
平常点50%　定期試験50%

欠席について
規定に従う

テキスト
30時間でマスター　Office2019　実教出版

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
情報リテラシー２	ET①/ET②/ET③		11505	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	必修	2				

授業の到達目標
現代ビジネス社会においてさまざまなデータを活用できるスキルを育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
はじめに、データ処理に必要な数学の割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータの処理のために必要な数式をたてる練習を行う。またビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ、そのご表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化が行えるように指導する。学習の動機付けとして、表計算技能標準試験２級の資格取得を目指す。

授業計画
1 計算復習(割合)
2 計算復習(割合)
3 エクセル基本操作(数式入力)
4 エクセル基本操作(関数について)
5 エクセル基本操作(書式設定)
6 エクセル基本操作(表作成)
7 エクセル基本操作まとめ
8 表計算技能標準試験３級対策
9 表計算技能標準試験３級対策
10 表計算技能標準試験３級対策
11 表計算技能標準試験２級対策
12 表計算技能標準試験２級対策
13 表計算技能標準試験２級対策
14 表計算技能標準試験２級対策
15 確認演習

授業の方法
実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

準備学修
Webを参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
通常欠席が５回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
情報リテラシーオリジナルテキスト（情報リテラシー１受講者は購入必要なし）
表計算技能標準試験過去問題集　noa出版

留意事項
テキストは必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
情報リテラシー２	PC①/PC②		11505	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

授業の到達目標
現代ビジネス社会においてさまざまなデータを活用できるスキルを育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
表計算ソフトExcelの演習を通してデータ分析、可視化、データベース操作の基本を修得する。

授業計画
1 Excel入門①　授業の概要､基本操作
2 Excel入門②　グラフ作成の基本
3 ワークシートの活用①　行･列の編集
4 ワークシートの活用②　罫線
5 ワークシートの活用③　相対参照と絶対参照
6 ワークシートの活用④　条件の判定
7 グラフ①　棒グラフ､折れ線グラフ
8 グラフ②　円グラフ､３-Dグラフ､複合グラフ
9 グラフ③　その他のグラフ
10 データベース①　データベースの作成方法
11 データベース②　検索と抽出
12 Excelの応用①
13 Excelの応用②
14 Excelの応用③
15 まとめ

授業の方法
演習を中心に行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。
平常点50%　定期試験50%

欠席について
規定に従う

テキスト
30時間でマスター　Excel2019　実教出版

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
オフィス情報処理１	①/②		11509	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標
ビジネス社会において役立つ文書作成能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
情報リテラシー１で学習したことを元にさらに応用的なビジネス文書の編集を学習する。学習の動機付けをとして、日商PC検定３級（文書作成）の取得を目指す。

授業計画
1 ワードの基本操作確認
2 日商PC検定３級知識対策／ワードの基本操作確認(書式設定)
3 日商PC検定３級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
4 日商PC検定３級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
5 日商PC検定３級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
6 図形練習
7 まとめ
8 日商PC検定３級文書作成実技対策
9 日商PC検定３級文書作成実技対策
10 日商PC検定３級文書作成実技対策
11 日商PC検定３級文書作成実技対策
12 日商PC検定３級文書作成実技対策
13 日商PC検定３級文書作成実技対策
14 日商PC検定３級文書作成実技対策
15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法
日商PC検定３級（文書作成）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
通常欠席が５回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
日商PC検定試験文書作成３級公式テキスト＆問題集（ver2019対応）　FOM出版
オフィス情報処理オリジナルテキスト（授業内で販売予定）

留意事項
テキストを必ず持参すること。

情報〈情報〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
オフィス情報処理２			11513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	選択	2				

授業の到達目標
ビジネス実務に必要とされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
情報リテラシー２で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定３級（データ活用）の取得を目指す。

授業計画
1 エクセルの基本操作確認
2 四則演算復習
3 関数練習
4 関数練習
5 集計について
6 集計について
7 まとめ
8 日商PC検定３級データ活用対策
9 日商PC検定３級データ活用対策
10 日商PC検定３級データ活用対策
11 日商PC検定３級データ活用対策
12 日商PC検定３級データ活用対策
13 日商PC検定３級データ活用対策
14 日商PC検定３級データ活用対策
15 確認演習

授業の方法
日商PC検定３級（データ活用）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

準備学修
Webを参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
通常欠席が５回を超えた場合は、不可とする。

テキスト
日商PC検定試験データ活用３級公式テキスト＆問題集（ver2019対応）　FOM出版

留意事項
情報リテラシー２を受講していること。テキストは必ず持参すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語１	a		11601	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標
将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながら、読む、書く、話す、聞く、の４技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養う。

授業の概要
テキストに沿って、様々なシーンを　回１ユニットづつ授業を進める。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしていく。

授業計画
1 Pre-unit Please Speak More Slowly
2 UNIT 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
3 UNIT 2 Where Is the Multi-purpose Room ?
4 UNIT 3 Good Morning. How Are You Today ?
5 UNIT 4 What Color Do You Like ?
6 UNIT 5 There's a Ladybug on the Leaf
7 UNIT 6 It's Time to Play Outside
8 UNIT 7 She Is Allergic to Eggs
9 UNIT 8 You Should Go to the Bathroom
10 UNIT 9 We Made Masks Today
11 UNIT 10 If It Rains, What Happens ?
12 UNIT 11 What Shall We Do Today ?
13 UNIT 12 I Feel Feverish
14 UNIT 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
15 UNIT 14 Thank You Very Much for Everything & 試験

授業の方法
テキストに沿って毎回１ユニットづづ進めていく。

準備学修
必ず指定された個所を予習、復習してくること。

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

平常点の中には授業時の模擬レッスン形式の発表なども含まれます。

欠席について
欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト
Happy English for Childcare 土屋麻衣子著　金星堂

留意事項
必要に応じて、授業中に指示を行う。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語１	b		11601	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	1				

授業の到達目標
将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながら、読む、書く、話す、聞く、の４技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養う。

授業の概要
テキストに沿って、様々なシーンを　回１ユニットづつ授業を進める。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしていく。

授業計画
1 Pre-unit Please Speak More Slowly
2 UNIT 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
3 UNIT 2 Where Is the Multi-purpose Room ?
4 UNIT 3 Good Morning. How Are You Today ?
5 UNIT 4 What Color Do You Like ?
6 UNIT 5 There's a Ladybug on the Leaf
7 UNIT 6 It's Time to Play Outside
8 UNIT 7 She Is Allergic to Eggs
9 UNIT 8 You Should Go to the Bathroom
10 UNIT 9 We Made Masks Today
11 UNIT 10 If It Rains, What Happens ?
12 UNIT 11 What Shall We Do Today ?
13 UNIT 12 I Feel Feverish
14 UNIT 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
15 UNIT 14 Thank You Very Much for Everything & 試験

授業の方法
テキストに沿って毎回１ユニットづづ進めていく。

準備学修
必ず指定された個所を予習、復習してくること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト
Happy English for Childcare 土屋麻衣子著　金星堂

留意事項
必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先
kamasu@kaisei.ac.jp

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語２	a		11605	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1	著書・訳書・大学英語教科書執筆			

授業の到達目標
保育や幼児教育の現場でよく使われる英語表現・語彙を習得するとともに、４技能（聞く、話す、読む、書く）を効果的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要
Children's Gardenという国際的な保育園を舞台に、　人の学生が保育の実習を通して成長していく体験を読み進める。さまざまなタスクを通して基礎的な文法や語法を復習しながら関連語句や表現を習得し、保育の現場で欠かせない日常の出来事や実習の心得、実習中のエピソードなど、平易な英語で書かれた英文のリスニングやリーディング、会話の内容を理解する。また手遊び唄やなぞなぞ、子守唄、詩歌を楽しみながら英語の発音、イントネーション、リズムの練習も行う。

授業計画
1 Introduction
2 Chapter 1 Children's Garden
3 Chapter 2 The First Day of the Internship
4 Chapter 3 Out We Go!
5 Chapter 4 Splish, Splash
6 Chapter 5 Pancake Day
7 Chapter 6 Read Me, Tell Me Stories
8 Review, Mid Term
9 Chapter 7 Activities with Watermelons
10 Chapter 8 Happy Birthday!
11 Chapter 9 Children at Play
12 Chapter 10 Baby News
13 Chapter 11 The Tooth Fairy
14 Chapter 12 The Green-Eyed Witch
15 Review, Final Exam

授業の方法
テキストに沿って進み、発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%
グループ/個人発表や中間試験、随時行う小テストは講義の中でフィードバックを行う。

欠席について
欠席１回につき、平常点から２点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト
Naoko Akamatsu, Children's Garden （Seibido）

参考図書
授業中、必要に応じて指示する。

留意事項
英語辞書必携、座席指定

教員連絡先
irie@kaisei.ac.jp

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語２	b		11605	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	選択	1				

授業の到達目標
世界の新聞記事や身近なニュースを英語で聴いたり読んだりすることによって、総合的な英語運用能力の向上を図るとともに、題材となるトピックの理解を通して多様なものの見方ができるようになることを目指す。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要
リスニング、スピーキングを含むReading Sectionsでは、シャドーイングや歌を通じて英語の音声・リズムに慣れ親しみ、英文を前から順次ブロックで読み下していくという母語的スタイルを学ぶ。必要に応じてGrammar Sectionsより文法項目を取り上げ、英語学習における基礎力をつける。

授業計画
1 Introduction
2 Peace, Education & Hope: Malala
3 Food Savings: OzHarvest Market
4 Safety: An Eye on Crime
5 Work: Work Balance
6 Exercise: Sport BMX and Urban Fun?
7 Happiness: Happiness
8 Entertainment: Sports and Games
9 Medical Science Health: Medical Science
10 Psychology: Resilience
11 Facts: Efforts to Flag Fake-news
12 Intelligence: Brain Development
13 Friendship: Yosegaki Hinomaru
14 Humanity: A Hero
15 Review/ Final exam

授業の方法
テキストに沿って講義を進め、議論し、taskの解答を検討する。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50％、定期試験50％
内容に応じて随時小テストを行い、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について
履修要綱に従い，欠席状況を評価に反映する。

テキスト
Nagamoto/Machida/Yagi/Ellsworth, *Dear Learners - Drop Everything and Read*, Nan'un-do

参考図書
必要に応じて指示する。

留意事項
英語辞書は必携である。初回に座席を指定する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語３			11609	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	選択	1				

授業の到達目標
英文を分かりやすく音読するスキルを身につけながら、Reading, Listening, Writing, Speaking の４技能を高めることを目標とする。
このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）、I（知性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要
英語の絵本を用いて、聞き手にわかりやすく音読をする練習、概要を自分の言葉で簡潔に伝える練習をする。また、毎週のイディオム集及び３行日記の課題を通して、役立つ英語表現・語彙を学習し、英語の全般的な運用能力を高める。

授業計画
1 Introduction
2 Story 1 - 1
3 Story 1 - 2
4 Story 1 - 3
5 Story 2 - 1
6 Story 2 - 2
7 Story 2 - 3
8 Review, Mid Term
9 Story 3 - 1
10 Story 3 - 2
11 Story 3 - 3
12 Story 4 - 1
13 Story 4 - 2
14 Story 4 - 3
15 Review, Final Exam

授業の方法
日常生活で使われるイディオム表現集を用いたウォーミングアップ及び復習Quiz、英語で書かれた物語を用いた音読練習を中心に授業を進める。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点60%、定期試験40%
小テストや発表については、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について
１）普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席１回につき、出席点より４点減点をする（遅刻も適宜減点）。２）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。

テキスト
『５分間 英語イディオム表現』（南雲堂）.
『Chat Diary 英語で３行日記』（アルク）.

参考図書
必要に応じて指示する。

留意事項
授業・課題に取り組む積極性を重視する。

教員連絡先
ishihara@kaisei.ac.jp

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語４			11613	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	選択	1				

授業の到達目標
テキストの精読および、これを題材とする実習を繰り返して、英語を「読む、書く、聴く、話す」の４技能を高めることを目標とする。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を考える。

授業の概要
図書館という身近な空間を扱った英語の絵本をテキストとして読み進めながら、音読、ブレーンストーミング、テキストのretelling（絵の情景や登場人物の気持ちを簡単な英語で説明したり、要約したりすること）、トピックに関するディスカッション等の実習（activities）を繰り返し、英語コミュニケーションへの関心を高め、英語運用能力が自然に身につくように試みる。

授業計画
1 Introduction
2 Text reading（1）- One day
3 Text reading（2）- The next day
4 Activity [1] - Brainstorming
5 Activity [2] - Comparing library rules
6 Activity [3] - Retelling English text（1）
7 Text reading（3）- One day
8 Text reading（4）- The next day
9 Midterm review
10 Activity [4] - Retelling English text（2）
11 Text reading（5）- One evening
12 Text reading（6）- The next day
13 Activity [5] - Discussion on rule-breaking
14 Activity [6] - Drafting your summary
15 Review/ Final exam

授業の方法
講読の際には、文意の理解に加えて、発音に注意しリズムよく表現豊かに音読できること、用いられた英語表現から登場人物やライオンの心情や所作のニュアンスをくみ取れるようになることを目指す。実習の際には、各自のアイデアを英語で表現できることを目指す。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
随時小テストを行い，講義の中でフィードバックを行う。
平常点50％、定期試験50％

欠席について
履修要項に沿って判定し、評価に反映する。

テキスト
Michelle Knudsen, *Library Lion*, Candlewick Press

留意事項
英語辞書は必携である。初回に座席を指定する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語５	a/b		11617	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN／Tim KERN	選択	1				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
・give advice and recommendations
・ask for and give examples
・give instructions
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include countries, nationalities, languages, family connections, and hobbies.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 People and Places
3 Unit 1 People and Places
4 Unit 2 People and Things
5 Unit 2 People and Things
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 3 Your Life
10 Unit 3 Your Life
11 Unit 4 Likes and Dislikes
12 Unit 4 Likes and Dislikes
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the content of the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語６	a/b		11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
國本 恵理香	選択	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
3 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
4 Chapter 2 Mika's Homestay in London
5 Chapter 2 Mika's Homestay in London
6 Chapter 3 It's Not Always Black and White
7 Chapter 3 It's Not Always Black and White
8 Mid Term
9 Chapter 4 Helping Others
10 Chapter 4 Helping Others
11 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
12 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
13 Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
14 Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
15 Review

授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms New Yorkers Short Stories by O Henry retold by Diane Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語７	a/b		11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN／Andy RUSHTON	選択	1				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・identify reasons and explanations
・express opinions and summarize
・ask for and give clarification
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・prepare and deliver two 3‐5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include shop and services, clothes, personality, and natural features.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 8 Fact or Fiction?
3 Unit 8 Fact or Fiction?
4 Unit 9 Buy and Sell
5 Unit 9 Buy and Sell
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 10 Look Good
10 Unit 10 Look Good
11 Unit 11 Nature
12 Unit 11 Nature
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential for success

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語８			11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 8 Can You Live Forever?
3 Chapter 8 Can You Live Forever?
4 Chapter 9 Baseball Fans Around the World
5 Chapter 9 Baseball Fans Around the World
6 Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
7 Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
8 Mid Term
9 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
10 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
11 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
12 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
13 Chapter 13 Love at First Sight
14 Chapter 13 Love at First Sight
15 Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms Anne of Green Gables by L M. Montgomery

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語１			11633	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び，コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする．全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ，簡単な自己紹介，家族や友人の紹介ができるようにする．このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 オリエンテーション. Leçon 0：Bonjour !
2 Leçon 0：Je m'appelle Daisuke.
3 Leçon 1：Je suis étudiant.
4 Leçon 1：Daisuke à l'aéroport
5 Leçon 2：J'habite au Japon.
6 Leçon 2：Daisuke à l'université
7 Leçon 1/2 総復習
8 Leçon 3：J'ai dix-neuf ans.
9 Leçon 3：La famille de Daisuke
10 Leçon 4：J'adore la cuisine française !
11 Leçon 4：Daisuke avec sa famille d'accueil
12 Graphie et son(綴り字と発音). 第１部のまとめ
13 Leçon 5：Qu'est-ce que c'est ?
14 Leçon 5：Daisuke au café
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り，歌），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
FLASH!（2020 三訂版 駿河台出版社）

参考図書
特になし，必要な場合は授業中に紹介する．

留意事項
フランス語１と２はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加すること．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声教材をよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語２			11637	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び，コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする．全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ，簡単な自己紹介，家族や友人の紹介ができるようにする．このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 オリエンテーション, Leçon 0：Bonjour!
2 Leçon 0：Je m'appelle Daisuke.
3 Leçon 1：Je suis étudiant.
4 Leçon 1：Daisuke à l'aéroport
5 Leçon 2：J'habite au Japon.
6 Leçon 2：Daisuke à l'université
7 Leçon 1/2 総復習
8 Leçon 3：J'ai dix-neuf ans.
9 Leçon 3：La famille de Daisuke
10 Leçon 4：J'adore la cuisine française !
11 Leçon 4：Daisuke avec sa famille d'accueil
12 Graphie et son(綴り字と発音), 第１部のまとめ
13 Leçon 5：Qu'est-ce que c'est ?
14 Leçon 5：Daisuke au café
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
FLASH!（2020 三訂版 駿河台出版社）

参考図書
特になし，必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語１と２はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加すること．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，CDをよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能.

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語３			11641	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び，コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする．日常生活で使用できる簡単な会話（人や物について，交通手段，天候や時刻，食習慣や値段について尋ねる，説明する，話す）ができるようにする．
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 既習事項の確認と復習, Leçon 6 : Qu'est-ce qu'ils portent ?
2 Leçon 6 : Qu'est-ce qu'ils portent ?
3 Leçon 6 : Jeanne et Daisuke
4 Leçon 7 : On y va comment ?
5 Leçon 7 : Daisuke chez Jeanne
6 Leçon 6 / 7 総復習
7 Leçon 8 : Quel temps fait-il ?
8 Leçon 8 : Daisuke voyage
9 数字, 時間等の聞き取り, 読みテスト. Civilisation. 第２部のまとめ
10 Leçon 9 : Je bois du café.
11 Leçon 9 : Daisuke au marché
12 Leçon 10: Je m'amuse !
13 フランス映画鑑賞
14 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照すること

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
FLASH!（2020 三訂版 駿河台出版社）

参考図書
特になし，必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語１及び２のどちらかを履修していなければ３及び４は履修できない（テキスト内容が継続しているため）．またフランス語３と４はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加すること．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声教材をよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能．

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語４			11645	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び，コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする．日常生活で使用できる簡単な会話（人や物について，交通手段，天候や時刻，食習慣や値段について尋ねる，説明する，話す）ができるようにする．
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 既習事項の確認と復習, Leçon 6 : Qu'est-ce qu'ils portent ?
2 Leçon 6 : Qu'est-ce qu'ils portent ?
3 Leçon 6 : Jeanne et Daisuke
4 Leçon 7 : On y va comment ?
5 Leçon 7 : Daisuke chez Jeanne
6 Leçon 6 / 7 総復習
7 Leçon 8 : Quel temps fait-il ?
8 Leçon 8 : Daisuke voyage
9 数字, 時間等の聞き取り, 読みテスト. Civilisation. 第２部のまとめ
10 Leçon 9 : Je bois du café.
11 Leçon 9 : Daisuke au marché
12 Leçon 10: Je m'amuse !
13 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
14 Leçon 11: J'ai fait les courses.
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
FLASH!（2020 三訂版　駿河台出版社）

参考図書
特になし，必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語１及び２のどちらかを履修していなければ３及び４は履修できない（テキスト内容が継続しているため）．またフランス語３と４はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加すること．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声教材をよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能．

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語５			11649	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び，コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする．複合過去，半過去，単純未来，条件法などを駆使し，日常生活で使用できる簡単な会話ができるようにする．このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 既習事項の確認と復習, Leçon 10: Je m'amuse !
2 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
3 Leçon 11: J'ai fait les courses.
4 Leçon 11: Le week-end de Daisuke
5 Leçon 12: Je suis allé à la mer !
6 Leçon 12: Voyage de Daisuke à Rouen
7 Leçon 10/11/12 総復習
8 Leçon 13: J'habitais à Nagano.
9 Leçon 13: L'enfance de Daisuke
10 Civilisation: Habitudes alimentaires / 第３部のまとめ：習慣 Habitudes
11 Leçon 14: Je dois étudier.
12 Leçon 14: Demain, Daisuke se lève tôt.
13 フランス映画鑑賞
14 Leçon 15: J'irai à la mer.
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
FLASH!（2020 第３版　駿河台出版社）

参考図書
特になし，必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語５，６を履修するには次の条件（１～４のうち２科目を履修している，または同等のフランス語力がある）が必要である．フランス語５と６はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声をダウンロードしよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能．

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語６			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び，コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする．複合過去，半過去，単純未来，条件法などを駆使し，日常生活で使用できる簡単な会話ができるようにする．このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 既習事項の確認と復習, Leçon 10: Je m'amuse !
2 Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
3 Leçon 11: J'ai fait les courses.
4 Leçon 11: Le week-end de Daisuke
5 Leçon 12: Je suis allé à la mer !
6 Leçon 12: Voyage de Daisuke à Rouen
7 Leçon 10/11/12　総復習
8 Leçon 13：J'habitais à Nagano.
9 Leçon 13: L'enfance de Daisuke
10 Civilisation: Habitudes alimentaires / 第３部のまとめ：習慣 Habitudes
11 Leçon 14: Je dois étudier.
12 Leçon 14: Demain, Daisuke se lève tôt.
13 Leçon 15: J'irai à la mer.
14 Leçon 15: Les projets de Daisuke
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
FLASH!（2010 第３版　駿河台出版社）

参考図書
特になし，必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語５，６を履修するには次の条件（１～４のうち２科目を履修している，または同等のフランス語力がある）が必要である．フランス語５と６はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声をダウンロードしよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能．

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語７			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
実社会で使用頻度の高い語彙や表現，フランスの観光名所や文化イベントについての知識を得ながら，聞く，話す，読む，書くの４技能を養い，コミュニケーション能力の育成を図る．イベントに参加する，映画館に行く，地方を訪れるなどの際に役立つ会話ができるようにする．このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 挨拶表現, 綴りと発音の関係 / Unité 1 - 1 :Bonjour, madame
2 Unité 1 - 2 : Dans le Quartier Latin
3 Unité 2 - 1 : Les deux amis au téléphone
4 Unité 2 - 2 : Un Anglais à Paris
5 Unité 3 - 1 : A la boutique du musée
6 Unité 3 - 2 : La jolie robe
7 Unité 4 - 1 : Nathalie appelle un taxi
8 Unité 4 - 2 : Dans le taxi
9 Unité 5 - 1 : Bon anniversaire !
10 Unité 5 - 2 : L'addition s'il vous plaît !
11 Unité 6 - 1 : Interview d'un jeune champion
12 Unité 6 - 2 : Le cours de tennis
13 フランス映画鑑賞(フランス語)
14 Unité 7 - 1 : A la cinémathèque
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
Amicalement plus（2018 駿河台出版社）

参考図書
必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語７，８を履修するには次の条件（フランス語１～６のうち２科目を履修している，または同等のフランス語力がある）が必要である．フランス語７と８はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声をダウンロードしよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能．

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
フランス語８			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標
実社会で使用頻度の高い語彙や表現，フランスの観光名所や文化イベントについての知識を得ながら，聞く，話す，読む，書くの４技能を養い，コミュニケーション能力の育成を図る．イベントに参加する，映画館に行く，地方を訪れるなどの際に役立つ会話ができるようにする．このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う．

授業の概要
フランス語の音，リズム，イントネーションになれ親しめるよう，使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く．取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う．会話文を通して単語や文型を習得，更に数字や時刻の読みと聞き取り，練習問題，多様なフランス語の歌は毎回の課題とし，言語や文化の　端を知る手がかりとする．

授業計画
1 挨拶表現, 綴りと発音の関係 / Unité 1 - 1 : Bonjour, madame
2 Unité 1 - 2 : Dans le Quartier Latin
3 Unité 2 - 1 : Les deux amis au téléphone
4 Unité 2 - 2 : Un Anglais à Paris
5 Unité 3 - 1 : A la boutique du musée
6 Unité 3 - 2 : La jolie robe
7 Unité 4 - 1 : Nathalie appelle un taxi
8 Unité 4 - 2 : Dans le taxi
9 Unité 5 - 1 : Bon anniversaire !
10 Unité 5 - 2 : L'addition s'il vous plaît !
11 Unité 6 - 1 : Intervieuw d'un jeune champion
12 Unité 6 - 2 : Le cours de tennis
13 Unité 7 - 1 : A la cinémathèque
14 Unité 7 - 2 : Après le film
15 まとめと試験

授業の方法
数字，時間の聞き取りと読み，フランス文の読みと意味理解などの訓練，教員や仲間との会話，必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

準備学修
webを参照のこと

課題・評価方法、その他
平常点50%，定期試験50%
平常点のうち10%は出席点（１回の欠席を-２点、遅刻を-１点とする），40%は小テスト（聞き取り，読み取り），教員への質問，発表，課題提出物等で総合的に判断する．

欠席について
外国語学習においては授業出席が必要不可欠である．殊に初めて当該言語を学ぶ学生は，　度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること．

テキスト
Amicalement plus（2018 駿河台出版社）

参考図書
特になし．必要があれば授業中に紹介する．

留意事項
フランス語７，８を履修するには次の条件（フランス語１～６のうち２科目を履修している，または同等のフランス語力がある）が必要である．フランス語７と８はタイアップしている授業であるため，同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい．やむを得ず１科目しか履修できない場合は，個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない．聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので，音声をダウンロードしよく聞いておくこと．

教員連絡先
hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能．

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語１	①/②		11665	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標
中国は世界の政治や経済に影響力を持つ大国の　つに発展してきた。そのため中国語は益々重要になり、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず発音から始まり重要な語彙を習いその使い方を説明しさらに使えるように短文の読み書きを練習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導し、各単元で習ったことを身につけるように練習する。

授業計画
1 発音､子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2 発音､音節(子音と母音､さらに声調を付け加えた発音の練習)
3 日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4 第　課 志愿者
5 第　課 志愿者
6 第二課 闲谈
7 第二課 闲谈
8 第三課 特忙
9 第三課 特忙
10 第四課 请跟我来
11 第四課 请跟我来
12 第五課 找银行
13 第五課 找银行
14 第六課 点菜
15 第六課 点菜　　試験

授業の方法
新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする。その応用と会話の練習もする。

準備学修
習った単元の単語や会話の文をしっかり覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみること。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
校則に従う。

テキスト
オリンピックへようこそ　会話編

参考図書
必要な場合、授業時に指示する。

留意事項
授業中は発音の仕方に注意を傾け声を出して練習する。私語は慎むこと。
授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、語彙や文を暗記するように。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語２	①/②		11669	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標
今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の　つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画
1 導入･発音
2 発音
3 発音
4 発音
5 第１课 你是中国人吗？
6 第１课 你是中国人吗？
7 第２课 这是什么？
8 第２课 这是什么？
9 第２课 这是什么？
10 第３课 你去哪儿？
11 第３课 你去哪儿？
12 第３课 你去哪儿？
13 第４课 这个包多少钱？
14 第４课 这个包多少钱？
15 まとめ･テスト

授業の方法
講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
規定に従う。

テキスト
竹島金吾監修　尹　景春・竹島　毅著『中国語はじめの　歩』　白水社

参考図書
授業中に指示する。

留意事項
授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語３	①/②		11673	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標
本授業は、「中国語１」において基礎を学んだ者が、さらに多くの語彙や文を学び、会話や文作りに応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の語順や表現の仕方を正しく理解し丸暗記した上で、書いたり話したりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
本授業では重要な語彙の発音をよく練習したうえ、使い方や語順を説明し実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中には友達同士や先生との会話ができるように、たくさん話す練習を行い、充実した授業にしたい。

授業計画
1 第七課　住宾馆
2 第七課　住宾馆
3 第八課　问路
4 第八課　问路
5 第九課　当翻译
6 第九課　当翻译
7 第十課　看病
8 第十課　看病
9 第十　課　看比赛
10 第十　課　看比赛
11 第十二課　再会
12 第十二課　再会
13 第十三課　欢迎下次再来
14 第十三課　欢迎下次再来
15 試験

授業の方法
新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法や語順を説明し訳する。その応用と会話の練習もする。

準備学修
習った単元の単語と会話の短文をしっかり覚えることと、これから習う新しい単元の単語を読んでみること。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
校則に従う。

テキスト
オリンピックへようこそ　会話編

参考図書
必要な場合、授業時に指示する。

留意事項
1）常にテープを聴き文を読むこと。
2）会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるよう心がけること。
3）分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
4）私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語４	①/②		11677	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標
本授業は「中国語２」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

授業計画
1 復習･第５课 你晚上有事吗？
2 第５课 你晚上有事吗？
3 第５课 你晚上有事吗？
4 第６课 你吃饭了吗？
5 第６课 你吃饭了吗？
6 第６课 你吃饭了吗？
7 第７课 你家有几口人？
8 第７课 你家有几口人？
9 第７课 你家有几口人？
10 第８课 你从几点开始打工？
11 第８课 你从几点开始打工？
12 第８课 你从几点开始打工？
13 第９课 你去过美国吗？
14 第９课 你去过美国吗？
15 まとめ･テスト

授業の方法
講義とペアやグループの活動を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
規定に従う。

テキスト
竹島金吾監修　尹　景春・竹島　毅著『中国語はじめの　歩』　白水社

参考図書
授業中に指示する。

留意事項
授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語５			11681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標
今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読め、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
授業前に予習してもらう。授業後は、習ったテーマについて自分の実際の状況で会話に使う短文を書く練習をする。添削後、その会話を発表してもらう。このようにして同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聴くことができる。会話に求められる聴く力と話す力を養う。文化や習慣、または様々な事情を教科書を通して学ぶ。

授業計画
1 第　課　　年级
2 第　課　　年级
3 第二課　主人公的家庭
4 第二課　主人公的家庭
5 第三課　就要开幕了
6 第三課　就要开幕了
7 第四課　盛大的开幕式
8 第四課　盛大的开幕式
9 第五課　想去银行
10 第五課　想去银行
11 第六課　日本料理
12 第六課　日本料理
13 第七課　要住双人房
14 第七課　要住双人房
15 試験

授業の方法
新出単語の発音を確認して、その意味と使い方を説明する。文章についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認する。最後に繰り返し会話を練習する。

準備学修
習った単元の単語と文章を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ全文を読んでみること。

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
校則に従う。

テキスト
オリンピックへようこそ　講読編

参考図書
必要な場合、授業時に指示する。

留意事項
いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語６			11685	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嫣	選択	1				

授業の到達目標
中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話能力を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

授業の概要
発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかり覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

授業計画
1 第１課:楊麗さんですか
2 第２課:荷物は多いですか
3 第２課:荷物は多いですか
4 第３課:明日はどこへ行きますか
5 第３課:明日はどこへ行きますか
6 第３課:明日はどこへ行きますか
7 第４課:ケーキを食べたいですか
8 第４課:ケーキを食べたいですか
9 第４課:ケーキを食べたいですか
10 第５課:これはいくらですか
11 第５課:これはいくらですか
12 第５課:これはいくらですか
13 第６課:電子辞書を持っていますか
14 第６課:電子辞書を持っていますか
15 授業のまとめ･テスト

授業の方法
講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50％、定期試験50％。

欠席について
大学の規定に従う。

テキスト
「１冊めの中国語（会話クラス）」　劉穎、喜多山幸子、松田かの子著　　白水社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語７			11689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嫣	選択	1				

授業の到達目標
中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話ができる。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

授業の概要
発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を丁寧に説明し、練習を重ねて単語をしっかり覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習する。中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

授業計画
1 第８課　向过路人问路(道を尋ねる)
2 第８課　向过路人问路(道を尋ねる)
3 第８課　向过路人问路(道を尋ねる)
4 第９課　给游客当翻译(旅行客の通訳になる)
5 第９課　给游客当翻译(旅行客の通訳になる)
6 第９課　给游客当翻译(旅行客の通訳になる)
7 第10課　在医院看病(病院で診察を受ける)
8 第10課　在医院看病(病院で診察を受ける)
9 第10課　在医院看病(病院で診察を受ける)
10 第11課　喜欢看的比赛　(好きな試合)
11 第11課　喜欢看的比赛　(好きな試合)
12 第11課　喜欢看的比赛　(好きな試合)
13 第12課　请再来观光　(また観光にいらっしゃい)
14 第12課　请再来观光　(また観光にいらっしゃい)
15 授業のまとめ･テスト

授業の方法
講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50％、定期試験50％。

欠席について
大学の規定に従う。

テキスト
「オリンピックへようこそ　講読編」　徐送迎　著　朝日出版社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
中国語８			11693	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嫣	選択	1				

授業の到達目標
中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話能力を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

授業の概要
発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかり覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

授業計画
1 第７課:京劇のチケットを買いました
2 第７課:京劇のチケットを買いました
3 第８課:ファーストフード店がありますか
4 第８課:ファーストフード店がありますか
5 第９課:中国の歌が歌えますか
6 第９課:中国の歌が歌えますか
7 第10課:長城に行ったことがありますか
8 第10課:長城に行ったことがありますか
9 第10課:長城に行ったことがありますか
10 第11課:お腹をこわしました
11 第11課:お腹をこわしました
12 第11課:お腹をこわしました
13 第12課:どのくらいの時間がかかりますか
14 第12課:どのくらいの時間がかかりますか
15 授業のまとめ･テスト

授業の方法
講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50％、定期試験50％。

欠席について
大学の規定に従う。

テキスト
「１冊めの中国語（会話クラス）」　劉穎、喜多山幸子、松田かの子著　　白水社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語１			11697	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標
本授業は韓国語の入門として、初めて韓国語を学習する学生を対象に、韓国語の文字であるハングルの読み書き及び基礎文法を学んだ後、平易表現を練習し、実際に基本的な韓国語会話ができることを目標とする。 また授業を通じて異文化（韓国文化）に触れる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
授業の前半は、ハングルの『文字と発音』の基礎を学習する。後半は前半で学んだ基礎をベースに『文法と表現』で多様な語彙や文型、表現を学習する。授業は演習要素を多く取り入れ、ペアまたはグループによる会話中心の反復練習を行う。更に授業では韓国文化の　端を紹介する内容を盛り込み、学習の手助けとなるようにする。

授業計画
1 韓国語の概要、文字と発音：基本母音
2 文字と発音：子音（平音）
3 文字と発音：子音（激音、濃音）
4 文字と発音：合成母音
5 文字と発音：パッチム
6 復習と練習、日本語のハングル表記
7 中間テスト、第１課：私は日本人です
8 第１課：短文作り（自己紹介）と発表
9 第２課：日本人ではありません
10 第２課：国籍や職業を尋ねる
11 第３課：それは何ですか
12 第３課：自分の周りの物を尋ねる
13 第４課：約束があります
14 第４課：短文作り（約束）と発表 、スケジュールを尋ねる
15 まとめと期末テスト

授業の方法
講義とペアやグループ活動を中心とする。（短文作りと発表、会話練習、相手の話しを聞いてメモを取るなど）更に各単元の小テストや中間テストを通じて既習内容を自己確認させる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題：小テスト、課題レポートは提出後講義中に、又は個別にフィードバックする。
②評価方法：平常点70％、定期試験30％

欠席について
平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト
できる韓国語初級Ⅰ ／ 李志暎　著　／ DEKIRU出版

参考図書
ー

留意事項
配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

教員連絡先
song@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
ー

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語２	a		11701	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標
本授業は韓国語の初級会話として、韓国語の入門学習（ハングルの読み書き）を終えた既学習者を対象に、会話中心の授業を行い、韓国語コミュニケーション力を伸ばす事を目標とする。また授業を通じて異文化（韓国文化）に触れる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
授業の前半は、ハングルの基礎（読み書き）をミニ会話文をもとに確認する。 授業の後半は、初級レベルの会話文を中心に新しい語彙と文型、表現を学び、反復練習を通じて基礎的な韓国語会話力を伸ばして行く。更に授業では韓国文化の　端を紹介する内容を盛り込み、学習の手助けとなるようにする。

授業計画
1 文字と発音１：これは何ですか
2 文字と発音２：私です
3 文字と発音３：コーヒー　つください
4 文字と発音４：とてもお腹が空いています
5 文字と発音５：これは塩です（1）
6 文字と発音５：これは塩です（2）
7 復習と練習、まとめ、中間テスト
8 第１課：お会いできてうれしいです（自己紹介）
9 第２課：私の弟です（家族の紹介）
10 復習と練習
11 第３課：図書館ではありません（場所）
12 第４課：ここに傘はありませんか（物の有無や位置）
13 復習と練習
14 第５課：映画、お好きですか（趣味）
15 まとめと期末テスト

授業の方法
講義とペアやグループ活動を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題：小テスト、課題レポートは提出後講義中に、又は個別にフィードバックする。
②評価方法：平常点70％、定期試験30％

欠席について
平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト
パランセ韓国語会話入門 ／金京子著 ／朝日出版社

参考図書
ー

留意事項
配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

教員連絡先
song@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
ー

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語２	b		11701	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標
本授業は韓国語中級として、入門レベル（韓国語１）から初級レベル（韓国語３）の既学習者を対象に中級レベルの様々な表現を学び、より幅広い韓国語能力を身につける事を目標とする。また授業を通じて異文化（韓国文化）に触れる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
各課は２回の授業で構成し、中級レベルの様々な語彙、語尾の活用や表現を用いて更に幅広く韓国語を学習し、韓国語関連検定試験の中級レベルを習得する。 更に授業では韓国文化の　端を紹介する内容を盛り込み、学習の手助けとなるようにする

授業計画
1 第１課:何年度入学ですか
2 第１課:何年度入学ですか
3 第２課:韓国語を　生懸命勉強するつもりです
4 第２課:韓国語を　生懸命勉強するつもりです
5『まとめ』､『聞いてみよう』､『韓国の民謡を歌おう』
6 第３課:あの靴､ちょっと見せてください
7 第３課:あの靴､ちょっと見せてください
8 第４課:よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください
9 第４課:よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください
10『まとめ』､『ステップアップ文法１』､『韓国の文化の　端』
11 第５課:　緒に撮った写真を添付しました
12 第５課:　緒に撮った写真を添付しました
13 第６課:発表時間に遅れてすみません
14 第６課:発表時間に遅れてすみません
15『まとめ』､期末テスト

授業の方法
講義とペアやグループ練習、発表を中心とする

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題：小テスト、課題レポートは提出後講義中に、又は個別にフィードバックする。
②評価方法：平常点70％、定期試験30％

欠席について
平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト
改訂版・韓国語の世界へ初中級編 ／ 李　潤玉　他４名著 ／ 朝日出版社

参考図書
ー

留意事項
韓国語初級レベルを習得していること。

教員連絡先
song@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
ー

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語３			11705	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標
韓国語３は韓国語の初級として、韓国語１（入門）で学習した内容を踏まえた上で、さらに多様な韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高めることを授業の目標とする。 また授業を通じて異文化（韓国文化）に触れる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
韓国語１で学んだ基礎をベースに、より多様な語彙や表現を４要素（読む、書く、聞く、話す）について学習する。演習要素を多く取り入れ、ペアまたはグループによる会話中心の反復練習を行い、韓国語関連検定試験の初級レベルへ到達することを目指す。更に授業では韓国文化の　端を紹介する内容を盛り込み、学習の手助けとなるようにする。

授業計画
1 韓国語１のおさらい､第５課:会社はどこにありますか
2 第５課:位置や場所を尋ねる
3 第６課:週末は何をしますか
4 第６課:丁寧な～です･ます型(１)
5 復習と練習、短文作り(私の週末)と発表
6 第７課:そんなに遠くありません
7 第７課:用言の否定形とその応用練習
8 第８課:いつ行きますか
9 第８課:買い物をする､短文作り(今月のスケジュール)と発表
10 復習と練習､中間テスト
11 第９課:釜山までどうやって行きますか
12 第９課:丁寧な～です･ます型(２)、場所を尋ねる
13 第10課:何時からですか
14 第10課:短文作り(私の１日)と発表
15 まとめと期末テスト

授業の方法
講義とペアやグループ活動を中心とする（短文作りと発表、実践会話、相手の話しを聞いてメモを取るなど）更に各単元の小テストや中間テストを通じて既習内容を自己確認させる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題：小テスト、課題レポートは提出後講義中に、又は個別にフィードバックする。
②評価方法：平常点70％、定期試験30％

欠席について
平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト
できる韓国語初級Ⅰ ／ 李志暎 著 ／ DEKIRU出版

参考図書
ー

留意事項
韓国語１の学習内容を十分に習得しておくこと。
配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

教員連絡先
song@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
ー

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語４	a		11709	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標
本授業は韓国語初級会話の続編として、韓国語２a（初級会話）での学習内容をベースに、初級会話中心の授業を更に進め、韓国語コミュニケーション力を伸ばす事を目標とする。また授業を通じて異文化（韓国文化）に触れる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
授業は韓国語２aの続編として初級レベルの会話文を中心により新しい語彙と文型、表現を学び、反復練習を通じて基礎的な韓国語会話力を伸ばして行く。更に授業では韓国文化の　端を紹介する内容を盛り込み、学習の手助けとなるようにする

授業計画
1 韓国語２aのおさらい､第６課:小説家になりたいです(職業･夢)
2 第６課:小説家になりたいです(職業･夢)
3 復習と練習
4 第７課:それよりこれがいいです(買い物､漢数詞､固有数詞)
5 第７課:それよりこれがいいです(買い物､漢数詞､固有数詞)
6 第８課:僕はアメリカンコーヒー！(注文)
7 第８課:僕はアメリカンコーヒー！(注文)
8 復習と練習
9 第９課:誕生日はいつですか(年月日)
10 第９課:誕生日はいつですか(年月日)
11 第10課:時間ありますか(日程､予定)
12 第10課:時間ありますか(日程､予定)
13 復習と練習､第11課:バスで40分かかります(交通･道案内)
14 第11課:バスで40分かかります(交通･道案内)
15 まとめと期末テスト

授業の方法
講義とペアやグループ活動を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題：小テスト、課題レポートは提出後講義中に、又は個別にフィードバックする。
②評価方法：平常点70％、定期試験30％

欠席について
平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト
パランセ韓国語会話入門 ／金京子著 ／朝日出版社

参考図書
ー

留意事項
韓国語２aの学習内容を十分に習得しておくこと。
配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること。

教員連絡先
song@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
ー

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語４	b		11709	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

授業の到達目標
本授業は韓国語中級（韓国語２bの続編）として、入門レベル（韓国語１）から初級レベル（韓国語３）の既学習者を対象に中級レベルの様々な表現を学び、より幅広い韓国語能力を身につける事を目標とする。また授業を通じて異文化（韓国文化）に触れる。この授業では“KAISEIパーソナリティ”のA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
各課は２回の授業で構成し、中級レベルの様々な語彙、語尾の活用や表現を用いて更に幅広く韓国語を学習し、韓国語関連検定試験の中級レベルを習得する。 更に授業では韓国文化の　端を紹介する内容を盛り込み、学習の手助けとなるようにする。

授業計画
1 第７課:暑い夏にサムゲタンを食べます､『聞いてみよう２』､『韓国文化の　端』
2 第７課:暑い夏にサムゲタンを食べます
3 第８課:重くないので　人でしますよ
4 第８課:重くないので　人でしますよ
5 『まとめ』､『ステップアップ文法２』､『韓国の文化の　端』
6 第９課:パソコンちょっと借りてもいいですか
7 第９課:パソコンちょっと借りてもいいですか
8 第10課:リムジンバスの方がいいでしょうね
9 第10課:リムジンバスの方がいいでしょうね
10 『まとめ』､『聞いてみよう３』､『韓国文化の　端』
11 第11課:陶磁器も作ってみましたか
12 第11課:陶磁器も作ってみましたか
13 第12課:韓国の会社に就職しようと思っています
14 第12課:韓国の会社に就職しようと思っています､『ステップアップ文法３』
15 『韓国の文化の　端』､『まとめ』､期末テスト

授業の方法
講義とペアやグループ練習、発表を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題：小テスト、課題レポートは提出後講義中に、又は個別にフィードバックする。
②評価方法：平常点70％、定期試験30％

欠席について
平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

テキスト
改訂版・韓国語の世界へ初中級編 ／ 李　潤玉　他４名著 ／ 朝日出版社

参考図書
ー

留意事項
韓国語２bの学習内容を十分に習得しておくこと。

教員連絡先
song@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
ー

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語５			11713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
金 宝英	選択	1				

授業の到達目標

1　韓国語の文字であるハングルの学習
　1）ハングルの成り立ちの背景を知る。
　2）文字の基本要素である子音と母音の形と発音を覚える。
　3）文字の組み合わせを知り、ハングルが読めるようにする。
2　基本的日常会話の学習
　1）文章の構造を理解し、短文構成ができる。
　2）旅行などで使える実践的基礎会話を覚える。
　3）自己紹介を含め、初対面の人とのコミュニケーション能力を高める

このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

韓国語に興味のある受講者を対象に、韓国語の世界に親しめるように以下の内容の授業を構成する。
・韓国語の文字ハングルの学習から基礎的な日常会話まで幅広い授業内容とする。
・K-POP歌詞、駅名を読む練習を通して身近なものから読み書きを身につける。
・日本語との韓国語の類似性から文の構成を学び、韓国語の特徴を学ぶ。
・基本的な文型を理解し、実践的に使える会話文を覚える。
・共通の漢字言葉も多いので理解しやすく単語学習を行う。
・韓国映画やドラマを通じて韓国文化を学ぶ。
・言語学習を通して、韓国文化の理解を高める。

授業計画

1 韓国語の世界１(ハングルの文字)
2 韓国語の世界２(ハングルの構造､母音と子音)
3 韓国語の世界３(平音､激音､濃音､合成母音)
4 韓国語の世界４(ハングル構造､パッチム(終声))
5 韓国語の世界４(ハングル構造､発音の法則)
6 韓国語を楽しむ１(挨拶と自己紹介)
7 韓国語を楽しむ２(歌で学べる韓国語)
8 韓国語を楽しむ２(ドラマで学べる韓国語)
9 かしこまった｢です･ます｣体の作り方
10 数字に親しもう(漢数詞)
11 数字に親しもう(固有数詞)
12 職業､趣味について話そう。
13 尊敬語の作り方を覚えよう。
14 助詞と副詞のまとめ。
15 まとめ及び定期試験

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験　50%

欠席について

80%以上の出席で成績評価をする。

テキスト

プリント配布

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語６			11717	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
金 宝英	選択	1				

授業の到達目標

1．隣国である韓国の文化を学び理解する。
　1）ハングル文字について理解を深める。
　2）韓国の食文化について理解を深める。
2．基礎的会話表現を覚える。
　1）自己紹介ができるようにし、コミュニケーション能力を高める。
　2）旅行や買い物の場面で使える表現を覚える。

このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

韓国の文化や韓国語に興味のある受講者を対象に以下の内容の授業を構成する。
・韓国の文化やK-POP、映画、ドラマを通じて韓国文化に親しんでもらう。
・テーマに沿って会話に必要な文法を学ぶ。
・学んだ文法を活用し、自然な会話表現を身につける。
・「書く」「読む」「聴く」「話す」の４つの機能を総合的に学習する。

授業計画

1 韓国の歴史
2 韓国の映画を楽しもう！
3 韓国の文字[ハングル]について１
4 韓国の文字[ハングル]について２
5 韓国の文字[ハングル]について３
6 会話を楽しもう！１(自己紹介)
7 会話を楽しもう！２(約束をする)
8 会話を楽しもう！３(道案内をする)
9 会話を楽しもう！４(買い物をする)
10 会話を楽しもう！５(感想を言う)
11 韓国人の情緒
12 韓国の食文化１
13 韓国の食文化２
14 韓国の食文化３
15 まとめ及び定期試験

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験　50%

欠席について

80%以上の出席で成績評価をする。

テキスト

プリント配布

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語７			11721	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
金 宝英	選択	1				

授業の到達目標

1）より高度な会話や文章の理解・読解が可能になることを目指す。
2）連体形、変則用言などの中級レベルの文法学習を通じて中級レベルを目指す。
3）韓国人との基本的なコミュニケーション能力を高める。

このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

韓国語に興味のある受講者を対象に、韓国語の世界に親しめるように以下の内容の授業を構成する。
・韓国語の中級レベルの学習を行う。
・表現・文法の習得を中心とする。
・K-POPやドラマを通じて日常的コミュニケーション能力を高める。
・ドラマや映画を通じて韓国の文化に触れる。

授業計画

1 うちとけた「です･ます」体の作り方１
2 うちとけた「です･ます」体の作り方２
3 変則用言１
4 変則用言２
5 変則用言３
6 過去形の作り方１
7 過去形の作り方２
8 買い物をしてみよう１
9 買い物をしてみよう２
10 形容詞を覚えよう１
11 形容詞を覚えよう２
12 会話を楽しもう！１(明日何をするつもりですか？)
13 会話を楽しもう！２(スープが冷たくておいしいです)
14 会話を楽しもう！３(　度遊びに来てください)
15 まとめ及び定期試験

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験　50%

欠席について

80%以上の出席で成績評価をする。

テキスト

プリント配布

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
韓国語８			11725	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
金 宝英	選択	1				

授業の到達目標

1．韓国の文化の学習
1）韓国人の日常的生活を理解する。
2）韓国の伝統、現代音楽を理解する。
3）韓国人の情緒について理解する。
2．韓国語の会話の学習
1）日常的表現を覚える。
2）人との意思疎通に必要な会話表現を身につける。

このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

韓国の文化や韓国語に興味のある受講者を対象に以下の内容の授業を構成する。
・韓国の文化について学び、意見交換をする。
・K-POPや映画、ドラマを通じて韓国文化を理解する。
・テーマに沿って基本的な文型を理解し、実践的に使える会話文を覚える。
・「書く」「読む」「聴く」「話す」の４つの機能を総合的に学習する。

授業計画

1 韓国人の日常生活１
2 韓国人の日常生活２
3 会話を楽しもう！１(インタビューをする)
4 会話を楽しもう！２(プレゼントする)
5 会話を楽しもう！３(体の具合を言う)
6 韓流について
7 会話を楽しもう！４(勉強のしかたを話す)
8 会話を楽しもう！５(間接話法)
9 会話を楽しもう！６(間接話法の縮約)
10 会話を楽しもう！７(間接話法の活用)
11 韓国の伝統音楽
12 韓国の現代音楽
13 韓国人の情緒１
14 韓国人の情緒２
15 まとめ及び定期試験

授業の方法

講義とペアワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験　50%

欠席について

80%以上の出席で成績評価をする。

テキスト

プリント配布

現代人間学部　英語観光学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標
演習のテーマは、「ツーリズム＆ホスピタリティ産業におけるマネジメント」である。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような事業戦略が必要かを考察する。ツーリズム＆ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導きだす手法を身につけるのが目標である。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。PBLで考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要
ツーリズム＆ホスピタリティ産業でのホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。特に古民家再生による宿泊業に焦点を当てホスピタリティの価値、労働生産性向上を踏まえ地域活性化の現状を理解する。演習では、ツーリズム＆ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から課題解決にむけて考察する。

授業計画
1 演習の概要説明
2 地域振興と古民家再生を考える（1）
3 地域振興と古民家再生を考える（2）
4 地域と観光の市場環境(マクロ環境)
5 ビジネスフレームワーク（5 foucsの理解）
6 ビジネスフレームワーク(SegmentationとTargettingの理解)
7 従業員エンゲージメントと労働生産性
8 組織論(多元型と進化型)
9 フィールドワーク準備
10 フィールドワーク準備
11 フィールドワーク準備
12 フィールドワーク実施
13 フィールドワークのまとめ
14 フィールドワークのまとめ
15 フィールドワークのまとめ

授業の方法
PBL（Project Based Learning）によるフィールドワークの実践。座学と古民家再生の宿泊事業案件を調査する。レポートにまとめパワーポイントをまとめる。

準備学修
観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法、その他
事前学習課題50%
発表50％

欠席について
大学の規定通り。

テキスト
下記のいずれかを購入すること
浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社
＊このテキストは演習Ⅲ・Ⅳでも使用する。

参考図書
内藤耕『サービス産業　労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業　生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項
演習は　人　人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習Ⅰの受講と合わせて観光マーケティング論、ホスピタリティマネジメントを受講すること。

教員連絡先
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標
観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要
日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画
1 ガイダンス
2 個人課題の研究発表・討論・講評
3 個人課題の研究発表・討論・講評
4 個人課題の研究発表・討論・講評
5 個人課題の研究発表・討論・講評
6 個人課題の研究発表・討論・講評
7 個人課題の研究発表・討論・講評
8 個人課題の研究発表・討論・講評
9 個人課題の研究発表・討論・講評
10 個人課題の研究発表・討論・講評
11 個人課題の研究発表・討論・講評
12 個人課題の研究発表・討論・講評
13 個人課題の研究発表・討論・講評
14 個人課題の研究発表・討論・講評
15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法
各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について
規定に従う

テキスト
必要に応じて配布する

参考図書
必要に応じて紹介する

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標
英米児童文学の原書を読解することにより英語力の向上を図るとともに、文学作品の鑑賞眼を養う。また、演習で学んだことより、自分の考えをまとめ発表する力を身に着ける。。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要
英米児童文学の代表的な作品を読解する。まず比較的読みやすい"The Wonderful Wizard of Oz" を読解後、それぞれの考えをまとめて発表する。アダプテーション作品についても考察する。

授業計画
1 イントロダクション
2 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 1 ～ Chapter 2
3 "The Wonderful Wizard of Oz "Chapter 3 ～ Chapter 4
4 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 5 ～ Chapter 6
5 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 7 ～ Chapter 8
6 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 9 ～ Chapter 10
7 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 11 ～ Chapter 12
8 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 12 までの復習　小テスト
9 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 13 ～ Chapter 14
10 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 15 ～ Chapter 16
11 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 17 ～ Chapter 18
12 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 19 ～ Chapter 20
13 "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 21 ～ Chapter 23
14 "The Wonderful Wizard of Oz" の総復習
15 "The Wonderful Wizard of Oz" の総復習とアダプテーション作品

授業の方法
講義後、各自が内容について調べて、グループディスカッションの後に発表をする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点（発表含む）40%、小テスト 20%、レポート 40%
課題、小テスト、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について
規定に従う。

テキスト
L. Frank Baum. "The Wonderful Wizard of Oz"　Dover Children's Evergreen Classics
ハンドアウトを使用する。

参考図書
必要に応じて指示する。

留意事項
授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

教員連絡先
miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	d		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標
ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要
社会言語学の演習である。社会言語学の領域、二言語使用・多言語使用、地域方言、社会方言について学ぶ。
毎回その日のテーマについて各々がまとめてきたことを発表し、その後、全員でディスカッションを行う。また、レポート・論文の書き方の指導も行う。そして、演習Iの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画
1 言語と社会、言語の変種
2 方言と標準語：日英米の方言、標準語と共通語、日英米の標準語／共通語
3 言語接触の研究
4 二言語使用と不完全言語使用
5 ダイグロシア
6 コード切り替えとコード混合
7 二言語使用教育、エポニックス論争
8 フィールドワーク、等語線と波動説
9 レポート・論文の書き方
10 社会階級と言語、ニューヨーク市の階層化
11 世代によることばの違い、性別とことばの問題
12 民族グループによることばの違い
13 コックニー英語の特徴
14 アフリカ系米国人の英語の特徴
15 個人研究発表

授業の方法
発表とディスカッションを中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について
出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は１回につき20点減点、遅刻・早退は１回につき６点減点する。

テキスト
田中春美・田中幸子（編著）『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房）

参考図書
東昭二『社会言語学入門（改訂版）　生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

留意事項
・平常点には、発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
・定期試験は、個人研究レポートの提出とする。
・毎授業に出席するだけではなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先
onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化につての事例研究を行う。近畿圏内の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

1 ガイダンス
2 観光よる地方創生①
3 観光による地方創生②
4 観光による地方創生③
5 観光による地方創生④
6 観光地と地方創生⑤
7 観光地のブランド化①
8 観光地のブランド化②
9 観光地のブランド化③
10 フィールドワーク準備①
11 フィールドワーク準備②
12 フィールドワーク準備③
13 フィールドワーク準備④
14 フィールドワーク準備⑤
15 まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％、課題30％、プレゼンテーション20％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』　高橋　夫著　学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』　日本政策投資銀行　地域企画部著　ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』　岩崎邦彦著　日本経済新聞出版
『地域が稼ぐ観光』　大羽昭仁著　宣伝会議

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。
フィールドワークへの参加は必須である。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	f		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標

研究テーマは「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要

交通機関、観光スポット、市内施設などの「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」についての取組と課題解決策についてフィールドワークなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進めます。

授業計画

1 ガイダンス
2 移動困難者の特性
3 擬似体験Ⅰ
4 擬似体験Ⅱ
5 鉄道のユニバーサルデザインⅠ
6 鉄道のユニバーサルデザインⅡ
7 バス・タクシーのユニバーサルデザインⅠ
8 バス・タクシーのユニバーサルデザインⅡ
9 船舶のユニバーサルデザインⅠ
10 船舶のユニバーサルデザインⅡ
11 航空のユニバーサルデザインⅠ
12 航空のユニバーサルデザインⅡ
13 市内施設のユニバーサルデザインⅠ
14 市内施設のユニバーサルデザインⅡ
15 まとめ

授業の方法

課題について、調査とプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

授業中に課題を出す。

課題・評価方法、その他

平常点50％、プレゼンテーション50％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

留意事項

自主性、積極性が求められる。
フィールドワークも行う。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	g		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標
英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画
1 イントロダクション
2 New Yorkers
3 New Yorkers
4 New Yorkers
5 New Yorkers
6 New Yorkers
7 New Yorkers: presentation
8 Hamlet
9 Hamlet
10 Hamlet
11 Hamlet
12 Hamlet
13 Hamlet: interpretation
14 Hamlet: interpretation
15 Hamlet: presentation

授業の方法
当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について
規定に従う。

テキスト
適時指示をする。

教員連絡先
yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標
ツーリズム＆ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム＆ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。PBLを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要
1、ツーリズム＆ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を維持し、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習Ⅱでは、演習Ⅰでツーリズム＆ホスピタリティ産業の現場を訪問した結果をレポートやPowerPointにまとめプレゼンテーションをおこなう。
2、各種観光関連企画コンテスト、例えば関空発「学生と旅行社が作る海外旅行」企画への応募にチャレンジする。

授業計画
1 演習の概要説明
2 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
3 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
4 ビジネスフレームワーク復習
5 ビジネスフレームワーク復習
6 ビジネスフレームワーク復習
7 海外旅行プランの立案
市場環境とターゲティング
8 海外旅行プラン
セグメントとプランニング
9 海外旅行プランPowerPointでの発表①
10 海外旅行プランPowerPointでの発表②
11 海外旅行プランのPowerPointでの発表③
12 研究課題(先行研究の発表)①
13 研究課題(先行研究の発表)②
14 研究課題(先行研究の発表)③
15 まとめ

授業の方法
演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

準備学修
観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム＆ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法、その他
課題50%、発表50%

欠席について
大学の規定通り。

テキスト
演習Ⅰと同じ

参考図書
内藤耕（2015）『サービス産業　労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ＆ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項
イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めない。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、観光マーケティング論・ホスピタリティマネジメントを履修すること。

教員連絡先
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1 個人課題の研究発表・討論・講評
2 個人課題の研究発表・討論・講評
3 個人課題の研究発表・討論・講評
4 個人課題の研究発表・討論・講評
5 個人課題の研究発表・討論・講評
6 個人課題の研究発表・討論・講評
7 個人課題の研究発表・討論・講評
8 個人課題の研究発表・討論・講評
9 個人課題の研究発表・討論・講評
10 個人課題の研究発表・討論・講評
11 個人課題の研究発表・討論・講評
12 個人課題の研究発表・討論・講評
13 個人課題の研究発表・討論・講評
14 個人課題の研究発表・討論・講評
15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

英国のドラマのスクリプトを読解後、そのアダプテーション作品を鑑賞し、その映像化における視点やテーマなどを分析、さらに考察する。それぞれの関心のあるテーマに関して、分析や調査したことをまとめて発表する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

前期に学んだ作品と後期の双方の作品についてのアダプテーション作品を鑑賞し、それらの脚色法等について分析する。さらに、読解した２作品以外にも、学生が関心のある作品を取り上げ、それらのアダプテーション作品について、読解、調査、考察し、さらに発表とディスカッションを行う。

授業計画

1 イントロダクション
2 "The Importance of Being Earnest" ACT 1
3 "The Importance of Being Earnest" ACT 2
4 "The Importance of Being Earnest" ACT 3
5 "The Importance of Being Earnest" の総復習　小テスト
6 "The Importance of Being Earnest" のアダプテーション作品を鑑賞する。
7 "The Importance of Being Earnest" のアダプテーション作品について分析する。
8 "The Importance of Being Earnest" のアダプテーション作品についてのレポートの発表
9 興味のある英米の文学作品のアダプテーション作品を考察する。
10 興味のある英米の文学作品のアダプテーション作品を考察する。
11 興味のある英米の文学作品のアダプテーション作品を考察する。
12 興味のある英米の文学作品のアダプテーション作品を考察する。
13 興味のある英米の文学作品のアダプテーション作品を考察する。
14 興味のある英米の文学作品のアダプテーション作品についての発表をする。
15 興味のある英米の文学作品とそのアダプテーション作品についてレポートを作成する。

授業の方法

講義後、各自が原書講読をし、授業取り上げた作品について調べて考察後、まとめて発表する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発表含む）40%、小テスト 20%、レポート 40%
課題、小テスト、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

規定に従う。

テキスト

Oscar Wilde. "The Importance of Being Earnest" Oxford Bookworms　Stage 2
その他は授業中に指示する。
ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標
ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それを使う人々に対する正しい態度を養う。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びIn（国際性）を養う。

授業の概要
言語変異と言語変化、言語使用域と文体、ピジンとクレオール、世界各地の英語について学ぶ。
毎回その日のテーマについて各々がまとめてきたことを発表した後、全員でディスカッションを行う。また、演習IIの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画
1 Introduction､レポートの書き方の復習
2 言語変異論と言語変化
3 実時間と見なし時間
4 顕在的および潜在的威信､身分と連帯意識
5 言語変異論の限界
6 言語使用域(レジスター)､話題による偏り　職業語
7 話者と聴者の役割関係､形式的文体とくだけた文体
8 話しことばと書きことば
9 ピジンの成り立ち､ピジン化の特徴
10 クレオールへの移行､国語となったトクピシン
11 脱クレオール化の特徴
12 ３つの英語圏　カチリューの分類､母語話者英語の多様性I
13 母語話者英語の多様性II､第２言語･公用語としての英語
14 外国語･共通語としての英語､World Englishesの研究
15 個人研究発表

授業の方法
発表とディスカッションを中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点70％、定期試験30％

欠席について
出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は１回につき20点減点、遅刻・早退は１回につき６点減点する。

テキスト
田中春美・田中幸子（編著）『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房）

参考図書
東照二『社会言語学入門（改訂版）　生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

留意事項
・平常点には、発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
・定期試験は、個人研究レポートの提出とする。
・毎授業に出席するだけではなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

教員連絡先
onoreiko@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	e		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標
研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
観光による地域活性化につての事例研究を行う。近畿圏内の観光資源調査（フィールドワーク）を実施し、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティング＆マネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画
1 ガイダンス
2 フィールドワーク調査確認
3 フィールドワーク①
4 フィールドワーク②
5 フィールドワークの調査結果のまとめ①
6 フィールドワークの調査結果まとめ②
7 フィールドワーク調査結果まとめ③
8 フィールドワークの報告書作成①
9 フィールドワークの報告書作成②
10 フィールドワーク報告会
11 フィールドワークのまとめ
12 個人課題の研究発表と討論
13 個人課題の研究発表と討論
14 個人課題の研究発表と討論
15 まとめ

授業の方法
フィールドワークの調査及び報告書の作成とプレゼンテーションを行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50％、課題30％、発表20％

欠席について
大学規定通り。

テキスト
随時プリントを配布する。

参考図書
『DMO観光地経営のイノベーション』　高橋　夫著　学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』　日本政策投資銀行　地域企画部著　ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』　岩崎邦彦著　日本経済新聞出版
『地域が稼ぐ観光』　大羽昭仁著　宣伝会議

留意事項
演習には自主性及び積極性が求められる。
フィールドワークの参加は必須である。

教員連絡先
sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	f		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標
研究テーマは「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」の交通機関や施設などの取組について調査し、課題解決について自らの考えを持ち、プレゼンテーション力を養う。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）、E（倫理）、In（国際性）を学ぶ。

授業の概要
交通機関、観光スポット、市内施設などの「ユニバーサルデザイン」と「心のバリアフリー」についての取組と課題解決策についてフィールドワークなどを通して学び、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。

授業計画
1 観光スポットのユニバーサルデザインⅠ
2 観光スポットのユニバーサルデザインⅡ
3 個人課題の研究発表調査
4 個人課題の研究発表調査
5 個人課題の研究発表調査
6 個人課題の研究発表調査
7 個人課題の研究発表調査
8 個人課題の研究発表調査
9 個人課題の研究発表調査
10 企画書を作成する。
11 企画書を作成する。
12 企画書作成
13 企画書発表
14 企画書発表
15 企画書発表とまとめ

授業の方法
発表とディスカッション形式で行う。

準備学修
課題については授業中に出す。

課題・評価方法、その他
平常点50％、発表50％

欠席について
大学規定通り。

テキスト
随時プリントを配布する。

留意事項
自主性及び積極性が求められる。

教員連絡先
shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	g		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標
英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画
1 イントロダクション､卒業研究構想発表
2 A Midsummer Night' s Dream
3 A Midsummer Night' s Dream
4 A Midsummer Night' s Dream
5 A Midsummer Night' s Dream
6 A Midsummer Night' s Dream: Interpretation
7 A Midsummer Night' s Dream: Presentation
8 卒業研究第　章構想発表
9 Frankenstein
10 Frankenstein
11 Frankenstein
12 Frankenstein
13 Frankenstein: interpretation
14 Frankenstein: presentation
15 卒業研究の第二章構想発表

授業の方法
当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点（発言）70％、レポート20％。

欠席について
規定に従う。

テキスト
適時指示をする。

教員連絡先
yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめ。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に課題設定することを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1 研究の進め方
2 研究テーマについて発表
3 卒業研究の書き方(研究計画について)
4 卒業研究の書き方(参考文献･引用文献)
5 個人発表と質疑応答
6 個人発表と質疑応答
7 個人発表と質疑応答
8 個人発表と質疑応答
9 個人発表と質疑応答
10 個人発表と質疑応答
11 個人発表と質疑応答
12 個人発表と質疑応答
13 研究計画書の発表
14 研究計画書の発表
15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは３年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業　労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組みます。積極的に研究課題に取り組むこと。

教員連絡先

ichio@kaisei/ac/jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語の音声・日本語の音声の特徴について理論的に理解する／各自の卒業研究のテーマを絞り込み調査を進める／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析し、考察をする。またテキスト、文献等から得られた情報とを基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込み、発表・ディスカッションを通して研究を進める。

授業計画

1 卒業研究の進め方
　日本語話者が話す英語の音声分析①
2 日本語話者が話す英語の音声分析②
3 日本語話者が話す英語の音声分析③
4 日本語話者が話す英語の音声分析④
5 日本語話者が話す英語の音声分析⑤
6 発表とディスカッション１　1
7 発表とディスカッション１　2
8 文献調査と分析①
9 文献調査と分析②
10 文献調査と分析③
11 文献調査と分析④
12 文献調査と分析⑤
13 発表とディスカッション２　1
14 発表とディスカッション２　2
15 まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

平常点60%、定期試験40%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

１）欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること（ishihara@kaisei.ac.jp）。２）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。３）欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

適宜指示をする。
TEX加藤,『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』（朝日新聞出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標
観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要
日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画
1 個人課題の研究発表・討論・講評
2 個人課題の研究発表・討論・講評
3 個人課題の研究発表・討論・講評
4 個人課題の研究発表・討論・講評
5 個人課題の研究発表・討論・講評
6 個人課題の研究発表・討論・講評
7 個人課題の研究発表・討論・講評
8 個人課題の研究発表・討論・講評
9 個人課題の研究発表・討論・講評
10 個人課題の研究発表・討論・講評
11 個人課題の研究発表・討論・講評
12 個人課題の研究発表・討論・講評
13 個人課題の研究発表・討論・講評
14 個人課題の研究発表・討論・講評
15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法
各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について
規定に従う

テキスト
必要に応じて配布する

参考図書
必要に応じて紹介する

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標
英米の文学や戯曲の原書や多読図書を読解することにより、英語力の向上を図り、文学作品の鑑賞眼を養うとともに、分析をする。また、それらのアダプテーション作品についても考察する。演習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容より、各自が定めたテーマについて調査をし、裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、クラスにおいて発表する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要
授業では、まず、戯曲と映画(および､ミュージカル)を基に小説化された作品を多読図書で読んだ後、それらのアダプテーション作品を分析する。また、演習で学んだ内容より、各自がテーマを決定し、研究のための資料、データ、先行論文等を用意して、ディスカッションと発表を行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画
1 イントロダクション
　卒業研究について
2 個人研究の発表とディスカッション
　"Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 10 ～ Chapter 11
3 個人研究の発表とディスカッション
　"Alice's Adventures in Wonderland" Chapter 12
　作品全体について分析する。
4 個人研究の発表とディスカッション
　"Alice's Adventures in Wonderland" の分析
5 個人研究の発表とディスカッション
　"The Importance of Being Earnest" ACT 1
6 個人研究の発表とディスカッション
　"The Importance of Being Earnest" ACT 2
7 個人研究の発表とディスカッション
　"The Importance of Being Earnest" ACT 3
8 個人研究の発表とディスカッション
　"The Importance of Being Earnest" の総復習　小テスト
9 個人研究の発表とディスカッション
　"The Importance of Being Earnest" のアダプテーション作品を鑑賞する。
10 個人研究の発表とディスカッション
　学生が関心をもつ英米の作品を読解する。
11 個人研究の発表とディスカッション
　学生が関心をもつ英米の作品を読解する。
12 個人研究の発表とディスカッション
13 個人研究の発表とディスカッション
14 個人研究の発表とディスカッション
15 研究成果の発表
　まとめ

授業の方法
多読図書を読解し、それらのアダプテーション作品を考察する。
個人研究の発表とディスカッションを中心にすすめてゆく。

準備学修
Webを参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点（発表含む）20%、発表 40%、レポート 40%
課題、発表のフィードバックは授業中に行う。レポートは個別にフィードバックする。

欠席について
規定に従う。

テキスト
Oscar Wilde. "The Importance of Being Earnest" Oxford Bookworms　Stage 2
ハンドアウトを使用する。

参考図書
必要に応じて指示する。

留意事項
授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

教員連絡先
miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標
観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画
1 ガイダンスと個人研究の進め方
2 個人研究テーマの発表
3 個人研究発表とディスカッション
4 個人研究発表とディスカッション
5 個人研究発表とディスカッション
6 個人研究発表とディスカッション
7 個人研究発表とディスカッション
8 個人研究発表とディスカッション
9 個人研究発表とディスカッション
10 個人研究発表とディスカッション
11 個人研究発表とディスカッション
12 個人研究発表とディスカッション
13 個人研究発表とディスカッション
14 個人研究発表とディスカッション
15 まとめ

授業の方法
各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修
Webで参照すること

課題・評価方法、その他
授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について
大学の規定通り。

テキスト
必要に応じて配布する。

参考図書
適宜紹介する。

留意事項
発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先
sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	f		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標
英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画
1 イントロダクション､卒業研究第　章発表
2 Tales of Mystery and Imagination: “The Fall of the House of Usher”
3 Tales of Mystery and Imagination: “The Fall of the House of Usher”
4 第1章の原稿発表。
5 Tales of Mystery and Imagination: “The Black Cat”
6 Tales of Mystery and Imagination: “The Black Cat”
7 第二章の構想発表。
8 Tales of Mystery and Imagination: “The Mask of Red Death”
9 Tales of Mystery and Imagination: “The Mask of Red Death”
10 第二章原稿発表。
11 Tales of Mystery and Imagination: “William Wilson”
12 Tales of Mystery and Imagination: “William Wilson”
13 Tales of Mystery and Imagination: “The Tell-Tale Heart”
14 Tales of Mystery and Imagination: “The Tell-Tale Heart”
15 第三章構想発表。

授業の方法
当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について
規定に従う。

テキスト
適時指示をする。

教員連絡先
yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめ。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的に研究をまとめる。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1 ガイダンスとスケジュールの決定
2 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
3 研究計画書の作成
4 研究計画書の発表
5 個人研究発表
6 個人研究発表
7 個人研究発表
8 個人研究発表
9 個人研究発表
10 個人研究発表
11 個人研究発表
12 個人研究発表
（研究成果の提出）
13 個人研究発表
14 個人研究発表
15 口頭試問

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕（2015）『サービス産業　労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

音声の他、ことばの魅力について調査・分析・考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進め、まとめる／このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う

授業の概要

英語音声・日本語音声の他、卒業研究のテーマと関連する文献等を調査し、要約をしたり考察をしたりする練習を積む。さらに各自の研究テーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、さらに研究を進める。

授業計画

1 イントロダクション
卒業研究について
2 文献調査と分析
3 文献調査と分析
4 個人研究発表とディスカッション
5 個人研究発表とディスカッション
6 個人研究発表とディスカッション
7 文献調査と分析･考察
8 文献調査と分析･考察
9 文献調査と分析･考察
10 文献調査と分析･考察
11 個人研究発表とディスカッション
12 個人研究発表とディスカッション
13 個人研究発表とディスカッション
14 まとめ
15 卒業研究口頭試問

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

平常点60%、定期試験40%
課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1）欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること（ishihara@kaisei.ac.jp）。2）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3）欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

TEX加藤,『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』（朝日新聞出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれてる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1 個人課題の研究発表・討論・講評
2 個人課題の研究発表・討論・講評
3 個人課題の研究発表・討論・講評
4 個人課題の研究発表・討論・講評
5 個人課題の研究発表・討論・講評
6 個人課題の研究発表・討論・講評
7 個人課題の研究発表・討論・講評
8 個人課題の研究発表・討論・講評
9 個人課題の研究発表・討論・講評
10 個人課題の研究発表・討論・講評
11 個人課題の研究発表・討論・講評
12 個人課題の研究発表・討論・講評
13 個人課題の研究発表・討論・講評
14 個人課題の研究発表・討論・講評
15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

英米の文学の原書や多読図書を読解することにより、文学作品の鑑賞眼を養うとともに、分析をする。また、それらのアダプテーション作品についても考察する。各自が定めたテーマについて調査をし、裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、発表する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を基礎として、各自のテーマを決定し、調査、研究を行う。授業では、研究のための資料、データ、先行論文等を用意して、ディスカッションと発表を行うので、授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

1 イントロダクション
　卒業研究について
2 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
3 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
4 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
5 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
6 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
7 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
8 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
9 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
10 個人の卒業研究の発表
　クラスでの質疑応答とディスカッション
11 個人の卒業研究のまとめ
　クラスでの質疑応答とディスカッション
12 個人の卒業研究の完成
　クラスでの質疑応答とディスカッション
13 完成した個人の卒業研究のクラス内での発表
　クラス内での質疑応答とディスカッション
14 まとめ
　口頭試問について
15 卒業研究の口頭試問

授業の方法

各自が選んだテーマについて、読書と調査をおこない発表する。その後、クラスにおいて質疑応答書とディスカッションを行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 20%、発表 40%、レポート 40%

欠席について

規定に従う。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	e		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

1 ガイダンスと卒業研究進行状況報告
2 個人研究発表とディスカッション
3 個人研究発表とディスカッション
4 個人研究発表とディスカッション
5 個人研究発表とディスカッション
6 個人研究発表とディスカッション
7 個人研究発表とディスカッション
8 個人研究発表とディスカッション
9 個人研究発表とディスカッション
10 個人研究発表とディスカッション
11 個人研究発表とディスカッション
12 個人研究発表とディスカッション
13 個人研究発表とディスカッション
14 個人研究発表とディスカッション
15 まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	f		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

1 イントロダクション
2 第三章原稿発表。
3 The Unquiet Graves: The Picture
4 教員からの添削をもとに 1 章を完成する。
5 The Unquiet Graves: Rats
6 The Unquiet Graves: The Casting Runes
7 教員からの添削をもとに 2 章を完成する。
8 The Unquiet Graves: The Experiment
9 The Unquiet Graves: “Oh, Whistle, Come to You, My Boy”
10 教員からの添削をもとに 3 章を完成する。
11 教員からの添削をもとに序章を完成する。
12 教員からの添削をもとに結論を完成する。
13 教員からの添削をもとに全体の推敲を確認する。
14 I, Robot: Catch That Rabbit
15 I, Robot: The Liar

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 100	100-2/100-3/100-4		13901	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN／Cory M c KENZIE	必修	1				

授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 Nice to Meet You
3 Unit 1 Nice to Meet You
4 Unit 2 Around the World
5 Unit 2 Around the World
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 3 Going Places
10 Unit 3 Going Places
11 Unit 4 Around Town
12 Unit 4 Around Town
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be Familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 100	100-5		13901	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Angus HALL	必修	1				

授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 Nice to Meet You
3 Unit 1 Nice to Meet You
4 Unit 1 Nice to Meet You
5 Unit 1 Nice to Meet You
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 2 Around the World
10 Unit 2 Around the World
11 Unit 2 Around the World
12 Unit 2 Around the World
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be Familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 101	101-2		13903	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 Finding the Ideal Job: Reading One, Finding Your Ideal Job
3 Unit 1 Finding the Ideal Job: Reading Two, The Ideal Job
4 Unit 1 Finding the Ideal Job: Focus on Writing 1
5 Unit 1 Finding the Ideal Job: Focus on Writing 2
6 Mid Term
7 Unit 2 Creative Thinking: Reading One, Can We Teach Creative Thinking in Schools?
8 Unit 2 Creative Thinking: Reading Two, Tips for Success in College
9 Unit 2 Creative Thinking: Focus on Writing 1
10 Unit 2 Creative Thinking: Focus on Writing 2
11 Unit 3 Making Money: Reading One, Making Money
12 Unit 3 Making Money: Reading Two, I Made It Myself
13 Unit 3 Making Money: Focus on Writing 1
14 Unit 3 Making Money: Focus on Writing 2
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

NorthStar 2：Reading & Writing, 5th edition. Natasha Haugnes and Beth Maher

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 101	101-3/101-4		13903	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子／和泉 有香	必修	1				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 Finding the Ideal Job: Reading One, Finding Your Ideal Job
3 Unit 1 Finding the Ideal Job: Reading One and Two, The Ideal Job
4 Unit 1 Finding the Ideal Job: Reading Two, The Ideal Job
5 Unit 1 Finding the Ideal Job: Focus on Writing 1
6 Unit 1 Finding the Ideal Job: Focus on Writing 2
7 Mid Term
8 Unit 2 Creative Thinking: Reading One, Can We Teach Creative Thinking in Schools?
9 Unit 2 Creative Thinking: Reading One and Two, Tips for Success in College
10 Unit 2 Creative Thinking: Reading Two, Tips for Success in College
11 Unit 2 Creative Thinking: Focus on Writing 1
12 Unit 2 Creative Thinking: Focus on Writing 2
13 Unit 3 Making Money: Reading One, Making Money（1）
14 Unit 3 Making Money: Reading One, Making Money（2）
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

NorthStar 2：Reading & Writing, 5th edition. Natasha Haugnes and Beth Maher

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 101	101-5		13903	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	1				

授業の到達目標
Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要
The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect through extensive reading.

授業計画
1 Introduction
2 Quick Book Report
Chapter 1 Popular Sports
3 Shared Dictation
Chapter 1 Popular Sports
4 Picture It(1)
Chapter 1 Popular Sports
5 Picture It(2)
Chapter 2 Healthy Eater
6 Interactive Reading Community(1)
Chapter 2 Healthy Eater
7 Interactive Reading Community(2)
Chapter 2 Healthy Eater
8 Gifts(1)
Chapter 3 Dream Homes
9 Gifts(2)
Chapter 3 Dream Homes
10 Sentence Detective(1)
Chapter 3 Dream Homes
11 Sentence Detective(2)
Chapter 4 Greetings
12 Favorite Quotation(1)
Chapter 4 Greetings
13 Favorite Quotation(2)
Chapter 5 A City Without Oil
14 My Own Story
Chapter 5 A City Without Oil
15 Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修
Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他
Your final grade will be determined using the following scale:
Book Report 30%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 30%
Homework 10%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Books for extensive reading of the college library.
Oxford Select Readings Elementary, 2nd edition. Linda Lee

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

教員連絡先
miyazoe@kaisei.ac.jp
yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 102	102-2/102-3/102-4		13905	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／James C. JENSEN	必修	1				

授業の到達目標
In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要
Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画
1 Introduction
2 Unit 1 Who am I?
3 Unit 1 Who am I?
4 Unit 2 An Important place
5 Unit 2 An Important place
6 Unit 3 An ideal partner
7 Unit 3 An ideal partner
8 Mid Term
9 Unit 4 My favorite photo
10 Unit 4 My favorite photo
11 Unit 5 My seal
12 Unit 5 My seal
13 Unit 6 Party time
14 Unit 6 Party time
15 Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修
Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他
Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 102	102-5		13905	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1 Instant Book Report
2 The 4/3/2 Technique
3 Minidramas(1)
4 Minidramas(2)
5 Guess Who?(1)
6 Guess Who?(2)
7 Favourite Books(1)
8 Favourite Books(2)
9 Describe and Present(1)
10 Describe and Present(2)
11 Mind's Eye(1)
12 Mind's Eye(2)
13 Poster Presentations(1)
14 Poster Presentations(2)
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Book Report 30%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 30%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Books for extensive reading of the college library.

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp
yoshino@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 103	103-2/103-3/103-4		13907	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子／和泉 有香	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: simple present and present progressive, simple past and past progressive

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 1 The Simple Tenses
3 Chapter 1 The Progressive Tenses, Spelling of –ing and –ed Form
4 Chapter 1 Simple Present
5 Chapter 1 Simple Present
6 Chapter 1 Simple Present
7 Chapter 1 Present Progressive
8 Chapter 1 Present Progressive
9 Mid Term
10 Chapter 1 Simple Past
11 Chapter 1 Simple Past
12 Chapter 1 Simple Past
13 Chapter 1 Past Progressive
14 Chapter 1 Past Progressive
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5 th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 103	103-5		13907	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: be and have, simple present, and present progressive.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 1 Using Be
3 Chapter 1 Using Be
4 Chapter 1 Using Be
5 Chapter 2 Using Be and Have
6 Chapter 2 Using Be and Have
7 Chapter 2 Using Be and Have
8 Chapter 2 Using Be and Have
9 Review
10 Mid Term
11 Chapter 3 Using the Simple Present
12 Chapter 3 Using the Simple Present
13 Chapter 3 Using the Simple Present
14 Chapter 3 Using the Simple Present
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Basic English Grammar, 4th Edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Pronunciation 104	①/②		13908	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い英語の音素の特徴を理解し、実践できるようにする。また教職課程履修者が、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につけることも目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、聞き手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦労しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、　人ひとりの苦手な部分を確認しながら、場面・状況等に応じて分かりやすい英語で発話できるようにする。

授業計画

1 導入(英語学習における発音学習の位置づけ､事前診断テスト)
2 事前診断テスト解答解説と練習
3 音節(音節とリズム､カタカナ語と英語の音節数の違い)
4 音節(語の音節数､現在形と過去形の音節数の違い)
5 母音(アルファベット読みとフォニックス読み)
6 英語特有の子音(アルファベット読みとフォニックス読み)
7 語強勢(強勢と母音の長さ)
8 語強勢(強勢と母音の音色､押韻)
9 語強勢(語強勢の法則)
10 文強勢(内容語と機能語､品詞)
11 文強勢(文の内容に即した強勢)
12 文強勢(強勢の付く機能語)
13 その他の子音(日本語との違い)
14 文章の音読
15 練習､復習､まとめ

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

欠席について

1）普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席１回につき、出席点より４点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3）欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

Judy B. Gilbert, Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension, 4th ed. CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 200	200-1春/200-2/200-3/200-4		13909	Ⅰ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／James C. JENSEN	必修	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 7 Your Time
3 Unit 7 Your Time
4 Unit 8 You Can Do It!
5 Unit 8 You Can Do It!
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 9 Now and Then
10 Unit 9 Now and Then
11 Unit 10 Famous Lives
12 Unit 10 Famous Lives
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 200	200-5		13909	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Angus HALL	必修	1				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 3 Going Places
3 Unit 3 Going Places
4 Unit 3 Going Places
5 Unit 3 Going Places
6 Review
7 Presentations
8 Mid Terms
9 Unit 4 Around Town
10 Unit 4 Around Town
11 Unit 4 Around Town
12 Unit 4 Around Town
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 201	201-1春		13911	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
惣谷 美智子	必修	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
3 Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
4 Chapter 9 A Passion for Cooking
5 Chapter 9 A Passion for Cooking
6 Chapter 10 Travel More, Spend Less
7 Chapter 10 Travel More, Spend Less
8 Mid Term
9 Chapter 11 A Very Able Man
10 Chapter 11 A Very Able Man
11 Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
12 Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
13 Chapter 13 Emergency in the Air
14 Chapter 13 Emergency in the Air
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Elementary, 2nd edition. Linda Lee
Oxford Bookworms A Little Princess by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 201	201-2		13911	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	1				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 4 Subway Etiquette: Reading One, A Civilized Suggestion
3 Unit 4 Subway Etiquette: Reading Two, Riding the Subway in Japan
4 Unit 4 Subway Etiquette: Focus on Writing 1
5 Unit 4 Subway Etiquette: Focus on Writing 2
6 Mid Term
7 Unit 5 Perception: Reading One, Is Blue Always Blue?
8 Unit 5 Perception: Reading Two, The Dress That Almost Broke the Internet
9 Unit 5 Perception: Focus on Writing 1
10 Unit 5 Perception: Focus on Writing 2
11 Unit 6 The Heart of a Hero: Reading One, What Is a Hero?
12 Unit 6 The Heart of a Hero: Reading Two, Harry Potter And the Sorcerer's Stone
13 Unit 6 The Heart of a Hero: Focus on Writing 1
14 Unit 6 The Heart of a Hero: Focus on Writing 2
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

NorthStar 2: Reading & Writing, 5th edition. Natasha Haugnes and Beth Maher

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 201	201-3/201-4		13911	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子／小野 礼子	必修	1				

授業の到達目標
This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要
The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

授業計画
1 Introduction
2 Unit 3 Making Money: Reading Two, I Made It Myself
3 Unit 3 Making Money: Focus on Writing 1
4 Unit 3 Making Money: Focus on Writing 2
5 Mid Term
6 Unit 4 Subway Etiquette: Reading One, A Civilized Suggestion
7 Unit 4 Subway Etiquette: Reading One and Two, Riding the Subway in Japan
8 Unit 4 Subway Etiquette: Reading Two, Riding the Subway in Japan
9 Unit 4 Subway Etiquette: Focus on Writing 1
10 Unit 4 Subway Etiquette: Focus on Writing 2
11 Unit 5 Perception: Reading One, Is Blue Always Blue?
12 Unit 5 Perception: Reading One and Two, The Dress That Almost Broke the Internet
13 Unit 5 Perception: Reading Two, The Dress That Almost Broke the Internet
14 Unit 5 Perception: Focus on Writing
15 Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修
Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他
Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
NorthStar 2: Reading & Writing, 5th edition. Natasha Haugnes and Beth Maher

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 201	201-5		13911	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	1				

授業の到達目標
Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要
The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect through extensive reading.

授業計画
1 Introduction
Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
2 Shared Dictation
Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
3 Reading the Same Book with the Class(1)
Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
4 Reading the Same Book with the Class(2)
Chapter 9 A Passion for Cooking
5 The Movie Version(1)
Chapter 9 A Passion for Cooking
6 The Movie Version(2)
Chapter 9 A Passion for Cooking
7 The Best of Books, the Worst of Books(1)
Chapter 10 Travel More, Spend Less
8 The Best of Books, the Worst of Books(2)
Chapter 10 Travel More, Spend Less
9 One-Sentence Summaries(1)
Chapter 10 Travel More, Spend Less
10 One-Sentence Summaries(2)
Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
11 Reading the Same Book with the Class(1)
Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
12 Reading the Same Book with the Class(2)
Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
13 Once Upon a Time(1)
Chapter 13 Emergency in the Air
14 Once Upon a Time(2)
Chapter 13 Emergency in the Air
15 Review

授業の方法
Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修
Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他
Your final grade will be determined using the following scale:
Book Report 30%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 30%
Homework 10%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Books for extensive reading of the college library.
Oxford Select Readings Elementary, 2nd edition. Linda Lee

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

教員連絡先
miyazoe@kaisei.ac.jp
yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 202	202-1春/202-2/202-3/202-4		13913	Ⅰ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Tim KERN／Andy RUSHTON／James C. JENSEN	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 7 Thank you note
3 Unit 7 Thank you note
4 Unit 8 Movie review
5 Unit 8 Movie review
6 Unit 9 Friendship
7 Unit 9 Friendship
8 Mid Term
9 Unit 10 Superhero powers
10 Unit 10 Superhero powers
11 Unit 11 Advertisements
12 Unit 11 Advertisements
13 Unit 12 Lessons learned
14 Unit 12 Lessons learned
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 202	202-5		13913	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1 Instant Book Report
2 Book Review Round Robin（1）
3 Book Review Round Robin（2）
4 The Story and Me（1）
5 The Story and Me（2）
6 Favourite Books（1）
7 Favourite Books（2）
8 Draw a Picture（1）
9 Draw a Picture（2）
10 Too Many Questions（1）
11 Too Many Questions（2）
12 Musical Chairs（1）
13 Musical Chairs（2）
14 My Favourite Book
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the contents of the textbooks

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Book Report 30%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 30%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Books for extensive reading of the college library.

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp
yoshino@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 203	203-1春/203-2/203-3/203-4		13915	I	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子／國本 恵理香	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present perfect and present perfect progressive, past perfect and past perfect progressive, all future tenses, including "going to" future, simple future, future progressive, and future perfect.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 3 Future
3 Chapter 3 Future Progressive
4 Chapter 3 Future in Time Clauses
5 Chapter 2 Present Perfect
6 Chapter 2 Present Perfect
7 Chapter 2 Present Perfect Progressive
8 Mid Term
9 Chapter 2 Past Perfect
10 Chapter 2 Past Perfect
11 Chapter 2 Past Perfect Progressive
12 Chapter 3 Future Perfect
13 Chapter 3 Future Perfect Progressive
14 Chapter 4 Review of Verb Tenses
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 203	203-5		13915	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	必修	1				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present progressive and past tense

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 4 Using Present Progressive
3 Chapter 4 Using Present Progressive
4 Chapter 4 Using Present Progressive
5 Chapter 4 Using Present Progressive
6 Chapter 4 Using Present Progressive
7 Review
8 Mid Term
9 Chapter 8 Past Time
10 Chapter 8 Past Time
11 Chapter 8 Past Time
12 Chapter 8 Past Time
13 Chapter 8 Past Time
14 Chapter 8 Past Time
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Basic English Grammar, 4th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Pronunciation 204	204		13916	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	専門学校講師			

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行い、「伝わる」英語発音を目指す。

授業計画

1 ガイダンス、U１「口の中を意識する」、U２「英語らしい音」
2 U４「thankのth」、U５「thisのth」
3 U６「feelのf」、U17「appleのa」
4 U７「visitのv」、U18「upのu」
5 U８「rightのr」、U９「liveのl」
6 U19「birdのir」
7 U10「practiceのpr」、U20「carのar」
8 U11「playのpl」、中間考査
9 U12「rとl(応用編)」
10 U21「あいまいな母音」
11 U13「woodのw」、U22「lowのowとlawのaw」
12 U14「inのn」、U23「itのiとeatのea」
13 U15「singerのng」、U24「footのooとfoodのoo」
14 U16「まぎらわしい子音s,z,t」、Part ３の復習
15 Part ２の復習、期末考査

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

欠席について

ふだんの練習の積み重ねを重視するため、欠席１回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より２点減点する。

テキスト

靜哲人著『発音入門 音トレーニングドリル』（アルク）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 300	300-1秋/300-2/300-3/300-4		13917	Ⅰ/Ⅱ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Tim KERN	必修	2				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
・give advice and recommendations
・ask for and give examples
・give instructions
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・prepare and deliver two ３-５ minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include countries, nationalities, languages, family connections, and hobbies.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 People and Places
3 Unit 1 People and Places
4 Unit 2 People and Things
5 Unit 2 People and Things
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 3 Your Life
10 Unit 3 Your Life
11 Unit 4 Likes and Dislikes
12 Unit 4 Likes and Dislikes
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the content of the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 300	300-5		13917	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON	必修	2				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 7 Your Time
3 Unit 7 Your Time
4 Unit 7 Your Time
5 Unit 7 Your Time
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 8 You Can Do It!
10 Unit 8 You Can Do It!
11 Unit 8 You Can Do It!
12 Unit 8 You Can Do It!
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 301	301-1秋/301-2/301-3/301-4		13919	Ⅰ/Ⅱ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子／國本 恵理香／後藤 江里	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
3 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
4 Chapter 2 Mika's Homestay in London
5 Chapter 2 Mika's Homestay in London
6 Chapter 3 It's Not Always Black and White
7 Chapter 3 It's Not Always Black and White
8 Mid Term
9 Chapter 4 Helping Others
10 Chapter 4 Helping Others
11 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
12 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
13 Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
14 Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
15 Review

授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms New Yorkers Short Stories by O Henry retold by Diane Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 301	301-5		13919	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1 Introduction
2 Instant Book Report
3 The 4/3/2 Technique
4 Shared Dictation
5 Reading the Same Book with the Class(1)
6 Reading the Same Book with the Class(2)
7 Favourite Books(1)
8 Favourite Books(2)
9 Getting Personal(1)
10 Getting Personal(2)
11 Reading the Same Book with the Class(1)
12 Reading the Same Book with the Class(2)
13 Different Ending(1)
14 Different Ending(2)
15 Review

授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Book Report 30%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 30%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Books for extensive reading of the college library.

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 302	302-1秋/302-2/302-3/302-4		13921	Ⅰ/Ⅱ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN／Andy RUSHTON／Cory McKENZIE	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 About me
3 Unit 1 About me
4 Unit 2 Career consultant
5 Unit 2 Career consultant
6 Unit 3 A dream come true
7 Unit 3 A dream come true
8 Mid Term
9 Unit 4 Invent
10 Unit 4 Invent
11 Unit 5 It changed my life!
12 Unit 5 It changed my life!
13 Unit 6 Exciting destinations
14 Unit 6 Exciting destinations
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 302	302-5		13921	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Angus HALL	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 7 Thank you note
3 Unit 7 Thank you note
4 Unit 7 Thank you note
5 Unit 7 Thank you note
6 Unit 8 Movie review
7 Unit 8 Movie review
8 Unit 8 Movie review
9 Unit 8 Movie review
10 Mid Term
11 Unit 9 Friendship
12 Unit 9 Friendship
13 Unit 9 Friendship
14 Unit 9 Friendship
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1. 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assign as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 303	303-1秋/303-2/303-3/303-4		13923	Ⅰ/Ⅱ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子／木下 奈美／和泉 有香／後藤 江里	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use modals of certainty, necessity, polite requests, expectations and suggestions, and advisability.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 9 (Modals, Part 1) Basic Modal introduction
3 Chapter 9 Expressing Necessity
4 Chapter 9 Advisability
5 Chapter 9 Suggestions, Expectation
6 Chapter 9 Ability
7 Chapter 9 Possibility
8 Mid Term
9 Chapter 9 Requests and Responses with Modals, Polite Request
10 Chapter 9 Making Suggetions
11 Chapter 10 (Modals, Part 2) Expressing the Past
12 Chapter 10 Modals of Certainty: Present Time
13 Chapter 10 Modals of Certainty: Past and Future
14 Chapter 10 Expressing Preference
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 303	303-5		13923	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	必修	2				

授業の到達目標
In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要
Upon completion, learners will be able to comprehend and use past progressive, comparatives, and superlatives

授業計画
1 Introduction
2 Chapter 8 Past Time, Part 1
3 Chapter 8 Past Time, Part 1
4 Chapter 9 Past Time, Part 2
5 Chapter 9 Past Time, Part 2
6 Chapter 9 Past Time, Part 2
7 Review
8 Mid Term
9 Chapter 15 Comparatives and Superlatives
10 Chapter 15 Comparatives and Superlatives
11 Chapter 15 Comparatives and Superlatives
12 Chapter 15 Comparatives and Superlatives
13 Chapter 15 Comparatives and Superlatives
14 Chapter 15 Comparatives and Superlatives
15 Review

授業の方法
Students will work in groups and individually

準備学修
Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他
Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
Pearson, Basic English Grammar, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書
Will be assigned as needed

留意事項
Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Pronunciation 304	304		13924	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	専門学校講師			

授業の到達目標
日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、正しいリズムと強勢を伴って相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。また正しい発音を身につけることによってリスニング力を向上させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要
英語音声に関する実践的訓練を行い、「伝わる」英語発音を目指す。

授業計画
1 ガイダンス、Lesson 1：The Internet
2 Lesson 2：The Development of Computers
3 Lesson 3：A Blend of Cultures
4 Lesson 4：A Famous Old Town
5 Lesson 5：A Pajama Party
6 Lesson 6：Making a Speech
7 復習、中間考査
8 Lesson 7：Mika's Speech
9 Lesson 8：Let's Have a Debate!
10 Lesson 9：Ha, ha, ha...
11 Lesson 10：On the Top of the World
12 Lesson 11：Protect Our World
13 Lesson 12：I have a Dream
14 Lesson 1～6 総復習
15 Lesson 7～12 総復習、期末考査

授業の方法
リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修
Webで参照すること

課題・評価方法、その他
平常点50％、定期試験50％

欠席について
ふだんの練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より2点減点する。

テキスト
國弘正雄著「英会話ぜったい音読 標準編」（講談社インターナショナル）

参考図書
授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項
付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

教員連絡先
izumi@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 400	400-1春/400-2/400-3/400-4		13925	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／James C. JENSEN	必修	2				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・identify reasons and explanations
・express opinions and summarize
・ask for and give clarification
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・prepare and deliver two 3‐5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include shop and services, clothes, personality, and natural features.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 8 Fact or Fiction?
3 Unit 8 Fact or Fiction?
4 Unit 9 Buy and Sell
5 Unit 9 Buy and Sell
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 10 Look Good
10 Unit 10 Look Good
11 Unit 11 Nature
12 Unit 11 Nature
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential for success

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 400	400-5		13925	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	必修	2				

授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 9 Now and Then
3 Unit 9 Now and Then
4 Unit 9 Now and Then
5 Unit 9 Now and Then
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 10 Famous Lives
10 Unit 10 Famous Lives
11 Unit 10 Famous Lives
12 Unit 10 Famous Lives
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 401	401-1春/401-2/401-3/401-4		13927	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美／國本 恵理香／後藤 江里	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 8 Can You Live Forever?
3 Chapter 8 Can You Live Forever?
4 Chapter 9 Baseball Fans Around the World
5 Chapter 9 Baseball Fans Around the World
6 Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
7 Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
8 Mid Term
9 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
10 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
11 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
12 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
13 Chapter 13 Love at First Sight
14 Chapter 13 Love at First Sight
15 Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms Anne of Green Gables by L M. Montgomery

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 401	401-5		13927	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

授業計画

1 Introduction
2 Instant Book Report
3 Dramatic Conversations（1）
4 Dramatic Conversations（2）
5 Reading the Same Book with the Class（1）
6 Reading the Same Book with the Class（2）
7 Read the Book! See the Movie!（1）
8 Read the Book! See the Movie!（2）
9 Favourite Books（1）
10 Favourite Books（2）
11 E-Critic’s Corner（1）
12 E-Critic’s Corner（2）
13 Reading the Same Book with the Class（1）
14 Reading the Same Book with the Class（2）
15 Review

授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Book Report 30%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 30%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Books for extensive reading of the college library.

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 402	402-1春/402-2/402-3/402-4		13929	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Angus HALL	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 7 Classifying classmates
3 Unit 7 Classifying classmates
4 Unit 8 The job interview
5 Unit 8 The job interview
6 Unit 9 Personal goals
7 Unit 9 Personal goals
8 Mid Term
9 Unit 10 Architect
10 Unit 10 Architect
11 Unit 11 My role models
12 Unit 11 My role models
13 Unit 12 Be a reporter
14 Unit 12 Be a reporter
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 402	402-5		13929	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 10 Superhero powers
3 Unit 10 Superhero powers
4 Unit 10 Superhero powers
5 Unit 10 Superhero powers
6 Unit 11 Advertisements
7 Unit 11 Advertisements
8 Unit 11 Advertisements
9 Unit 11 Advertisements
10 Mid Term
11 Unit 12 Lessons learned
12 Unit 12 Lessons learned
13 Unit 12 Lessons learned
14 Unit 12 Lessons learned
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1. 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

参考図書

Will be assign as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 403	403-1春/403-2/403-3/403-4		13931	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子／後藤 江里／佐伯 瑠璃子／和泉 有香	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: the passive, noun clauses, and adjective clauses

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 11 (THE PASSIVE): Active vs. passive
3 Chapter 11 Tense form of the passive, Using the passive
4 Chapter 11 The passive form of modals and phrasal modals
5 Chapter 12 (NOUN CLAUSES): Noun clauses with question words
6 Chapter 12 Question words followed by infinitive
7 Chapter 12 Noun clauses with that
8 Mid Term
9 Chapter 12 Quoted speech, Reported speech
10 Chapter 12 The subjunctive in noun clauses
11 Chapter 13 (ADJECTIVE CLAUSES): Used as the subject
12 Chapter 13 Used as the object of a verb
13 Chapter 13 Using whose/where/when
14 Chapter 13 Using whose/where/when
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 403	403-5		13931	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	必修	2				

授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: count and non count nouns, the future tense,

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 10 Future Time, Part 1
3 Chapter 10 Future Time, Part 1
4 Chapter 10 Future Time, Part 1
5 Chapter 10 Future Time, Part 1
6 Chapter 11 Future Time, Part 2
7 Chapter 11 Future Time, Part 2
8 Review
9 Mid Term
10 Chapter 7 Count and Non-count Nouns
11 Chapter 7 Count and Non-count Nouns
12 Chapter 7 Count and Non-count Nouns
13 Chapter 7 Count and Non-count Nouns
14 Chapter 7 Count and Non-count Nouns
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson, Basic English Grammar, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	必修	2				

授業の到達目標
ホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができるるためのKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を身に付ける。

授業の概要
ホスピタリティについて、障害者・高齢者・外国人などの特性を理解しながら学ぶ。

授業計画
1 講義概要､評価方法､シラバス(講義計画)
2 ホスピタリティとは？
3 交通機関･宿泊施設利用困難者
4 肢体不自由者
5 視覚障碍者
6 聴覚障害者
7 精神障害者
8 発達障害者
9 高齢者
10 外国人
11 その他利用困難者
12 航空会社のサービス
13 国際観光とホスピタリティ
14 まとめⅠ
15 まとめⅡ
16 定期試験

授業の方法
授業中に小グループで話し合うなど、ディスカッションも取り入れながら進める。

準備学修
新聞記事やニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心掛ける

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
教室での学習に50%の評価をしているので、欠席は減点の対象となる。

テキスト
各回授業中にプリントを配布する。

参考図書
服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」「ホスピタリティ・マネジメント学原論」（丸善株式会社）
塹江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣）
福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版）
山上徹「ホスピタリティ精神の深化」（法律文化社）
高野　登「ホスピタリティノート」（かんき出版）

教員連絡先
shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合には、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
異文化理解			13409	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標
世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。また、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化についての理解を深める。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
多様な文化的背景を持つ複数のゲストスピーカーを講師に招き、習慣や行動、その背景にある価値観などを学ぶ。また、グループで様々な国・地域の歴史・社会・文化の特徴について発表し、全体で討議することを通して、国際理解を深める。

授業計画
1 受講のガイダンス
2 世界史の中の英語と文化①(ヨーロッパ/北アメリカ/オセアニア地域を中心に)
3 グループ課題の発表と討議
4 世界史の中の英語と文化②
5 世界史の中の英語と文化③
6 文化とは何か
7 異文化の認識
8 振り返り
9 価値観
10 差別を考える①
11 差別を考える②
12 異文化コミュニケーション
13 異文化摩擦/カルチャーショック
14 全体のまとめ
15 試験

授業の方法
講義を中心とし、グループ発表とディスカッションを取り入れる。また、各項目ごとに自身の意見や考えを復習として提出し、それらを共有することで学びを深める。

準備学修
WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点（70%）、定期試験（30%）

欠席について
学則に従い、欠席は減点とする。

テキスト
『異文化理解のストラテジー』（最新版）　佐野正之・水落　朗・鈴木龍　著　大修館書店

参考図書
必要に応じて授業前、または授業中に適宜紹介する。

教員連絡先
saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英米文学入門			13413	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標
長い歴史と伝統を持つイギリスと近代になってから成立したアメリカそれぞれの文学の世界に対する理解を深め、人間の生きる世界の多様性を学ぶとともに異文化理解の複合的視点を養うことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
イギリス文学とアメリカ文学を中心に英語文学の歴史的、文化的、社会的背景を概観し、それぞれの時代と文化が反映された主要な文学作品を鑑賞する。同時に、詩や演劇、小説、随筆など多様な作品を鑑賞することにより、豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の持つ面白さを味わう。

授業計画
1 オリエンテーション
2 イギリス:　古英語･中英語の文学､ルネサンスの散文と詩
3 ルネサンスの演劇､シェイクスピア(創作第　期から第二期)
4 シェイクスピア(創作第三期)､王政復古後の文学
5 小説の誕生､ロマン主義時代の詩
6 ヴィクトリア朝の小説(大都市が舞台)
7 ヴィクトリア朝の小説(大都市､地方都市が舞台)
8 ヴィクトリア朝の小説(地方都市が舞台)と詩
9 20世紀以降の詩と小説
10 アメリカ: ロマンティシズム時代の文学(独立革命前後)
11 ロマンティシズム時代の文学(アメリカン･ルネッサンス)
12 リアリズム時代の文学(辺境消滅から第　次大戦まで)
13 リアリズム時代の文学(第　次大戦から第二次大戦まで)
14 リアリズム時代の文学(第二次大戦以降)
15 現代アメリカ文学､その他の英語文学

授業の方法
講義を中心に、レポート提出や発表を多く取り入れる。

準備学修
初回講義時に配布するスケジュール表・作品リストに沿って作品を読み、期日までにレポートを二回提出すること。講義の中でフィードバックを行う。課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。また教科書は指示された範囲を必ず読んでおくこと。

課題・評価方法、その他
平常点30%、レポート40%、定期試験30%

欠席について
出席点は平常点の10％とし、欠席は１回につき２点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト
川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社、1986。他にハンドアウトを配布する。

参考図書
大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』研究社他、毎回のハンドアウトで紹介する。

留意事項
授業が始まるまでに下記の何れかに目を通しておくこと。河野哲也著『レポート・論文の書き方入門　第３版』慶応義塾大学出版会、2010年。小笠原喜康著『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。澤田昭夫著『論文の書き方』講談社学術文庫、1991年。

教員連絡先
yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ことばと社会			13405	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標
ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
社会は多様なものであり、その多様な社会と接触する言語にはいったいどのようなものがあり、その言語社会に暮らす人々は、どのようにしてそれらの言語を使い分けるのか。共通の言語をもたない人同士、異なる地域・社会階級・性・年齢に属する人々は、どのようにコミュニケーションをし、影響し合っているのかを学ぶ。言語を中心に、身の回りの社会から世界まで、大きな視野を持つことを目指す。

授業計画
1 社会言語学とは何か
2 言語の選択(1):多言語社会､ダイグロッシア
3 言語の選択(2):ドメイン
4 言語の選択(3):二言語話者とコードスイッチング
5 言語の選択(4):ピジンとクレオール
6 言語のバリエーション(1):ウィリアム･ラボフの古典的研究
7 言語のバリエーション(2):方言
8 言語のバリエーション(3):地域方言とはなにか
9 言語のバリエーション(4):社会方言とはなにか
10 振り返り
11 言語のバリエーション(5):黒人英語
12 言語のバリエーション(6):国家と言語
13 言語のバリエーション(7):ジェンダーと言語
14 言語のバリエーション(8):年齢と言語
15 まとめ

授業の方法
講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修
授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
欠席１回につき出席点より４点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト
東照二『社会言語学入門（改訂版）　生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）
適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書
授業中に随時紹介する。

留意事項
クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先
saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）とを養う。

授業の概要
芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画
1 落語　その壱　「寿限無」「芝浜」
2 落語　その弐　英語落語の可能性・「鷺取り」
3 落語　その参　創作落語:グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
4 落語　その四　女性落語家の活躍　落語「花嫁修業」
5 着物の基礎知識　その壱　浴衣の着付け
6 着物の基礎知識　その弐　帯結び
7 歌舞伎　その壱　現代歌舞伎:シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
8 歌舞伎　その弐　海外で最も人気の演目「連獅子」・「勧進帳」
9 歌舞伎　その参 日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出　故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
10 歌舞伎　その四　海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
11 狂言　「附子」大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言
12 能　その壱　能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
13 能　その弐　能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
14 文楽　その壱　「曽根崎心中」
15 文楽　その弐　三谷幸喜による「其成礼心中」

授業の方法
講義が中心となるが、その他に実際に古典芸能を鑑賞する。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について
毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト
随時紹介する

参考図書
随時紹介する

留意事項
実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標
ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのⅠ（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの　端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画
1 イントロダクション
2 文化について
3 言語とは何か
4 コミュニケーションの性質と要素
5 言語コミュニケーション
6 非言語コミュニケーション
7 振り返り
8 グローバル化とメディア①
9 グローバル化とメディア②
10 異文化交流の意味
11 差異とアイデンティティ
12 多文化共生①
13 多文化共生②
14 振り返り
15 試験

授業の方法
講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修
事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、テキストや配布資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
欠席１回につき出席点より４点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト
池田理知子　他『グローバル社会における異文化コミュニケーション　身近な「異」から考える』（三修社）

参考図書
授業内で適宜紹介する

留意事項
クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先
saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香／樫本 雄三	選択	2	樫本：テクニカルライタ　、実務翻訳者 和泉：劇団通訳、全国通訳案内士（英語）			

授業の到達目標

樫本：翻訳文作成技術と背景知識調査手法を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。
　和泉：英語と日本語という構造の全く異なった２言語の中に共通点を見出し、特に英語知識の深化を図ることにより、文字と音声において２言語を自由に行き来する能力を身につける。また日本と日本文化への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）の涵養を目指す。

授業の概要

樫本：従来の英文解釈と翻訳との違い、翻訳に必要な発想の転換を学ぶ。　和泉：単なる「英文和訳」・「和文英訳」ではない通訳技術の基本を身につける。

授業計画

1 樫本･和泉:ガイダンス､樫本:授業の概要
2 SDGs(持続可能な開発目標)
3 自由貿易/RCEP
4 脱炭素社会
5 地域観光振興
6 デジタルトランスフォーメーション(DX)
7 宇宙ビジネス
8 人工知能を使った自動翻訳の現状
9 大学生活
10 趣味(スポーツ､音楽､読書)
11 海外文化
12 国際交流（１）実践演習１
13 国際交流（２）実践演習２
14 日本の文化(和食､温泉､回転寿司)
15 総復習､期末考査

授業の方法

樫本（前半担当）：事前課題を課し、訳文作成と翻訳内容の検討を行う。　和泉（後半担当）：大量の演習と暗唱が中心となる。なお授業計画については柔軟に対応する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

樫本：定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。　和泉：平常点50%、定期試験50%

欠席について

樫本：欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。　和泉：欠席１回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から２点減点する。

テキスト

樫本：特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌などの記事を教材にする。　和泉：オリジナルプリント

参考図書

樫本：翻訳スキルハンドブック、駒宮俊友、アルク　和泉：授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

樫本：授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。　和泉：英和辞書（紙版、電子版いずれでも可）を必ず持参すること。

教員連絡先

kashimoto@kaisei.ac.jp　/ izumi@kaisei.ac.jp

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

本講義は英語の成り立ちや英語の仕組みを幅広く理解することを目的とし、英語を科学的にひもといていく。KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養うと同時に、より理解を深めるためのグループワークを通してK（思いやり）を学ぶ。

授業の概要

英語学の分野で取り扱われている研究領域全体を次の授業計画に従って概観する。英語が人と歩んできた歴史とその今、語や文の構造や仕組み、英語が伝える意味について講義をする。基本的に講義形式をとるが、より深い理解のため、様々な理論を踏まえながらグループワークやディスカッションを通して考える。

授業計画

1 オリエンテーション　授業の進め方や履修条件､言語学研究の概説を行います。
2 英語史（1）　英語の成り立ちから現在までの歴史を概観､古期英語
3 英語史（2）　中期英語･近代英語
4 世界の中の英語　世界で使用される英語､現在の国際共通語として使用されている英語
5 音韻論（1）　発音する際の身体の器官､英語の音の構造
6 音韻論（2）　英語の音の構造
7 形態論（1）　分野の概観
8 形態論（2）　語の内部構造､語形成のパターン
9 統語論（1）　分野の概観
10 統語論（2）　文構造とそのパターン
11 意味論（1）　分野の概観
12 意味論（2）　語の意味と文の意味の関連
13 語用論（1）　分野の概観
14 語用論（2）　言葉の意味と話し手の意図
15 振り返り

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき出席点より４点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

稲木昭子、堀田知子、沖田知子『新・えいご・エイゴ・英語学』（松柏社）
その他適宜プリントを配布

参考図書

影山太郎、日比谷潤子、ブレント　デ・シェン　著『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第　歩』（くろしお出版）

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）（箕野） 私立中学高等学校教員（科目「英語」）（宮副）			

授業の到達目標

初等国語の　貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）
すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）
児童童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの１作品を鑑賞する。（宮副）

授業計画

1 巌谷小波「日本昔噺其　桃太郎」
2 浜田広介「泣いた赤鬼」
3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
4 坪田譲治「河童のはなし」
5 有島武郎「　房の葡萄」
6 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
7 松谷みよ子「貝になった子供の話」
8 英米の児童文学の歴史
9 ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』
10 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
11 R.L.スティーブンソン『宝島』
12 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
13 L.M.オルコット『若草物語』
14 ベアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本
15 アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。（箕野）
演習形式の授業である。学生の担当を決めて発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。（宮副）

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。（箕野）
平常点15%、小テスト15%、発表、および提出物 30%、レポート40%（宮副）

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）
『たのしく読める英米児童文学』本多英明/桂宥子/小峰和子編著　ミネルヴァ書房（宮副）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasiei.ac.jp
miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
インターンシップ（海外）			13967	Ⅱ	集中	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、In（国際性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

興味のある学生は各担当教員に問い合わせてください。
【アシスタント・ティーチャープログラム】
カリフォルニア州トーランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。
・対象学科・学年：ET学科、PC学科２年次生以上
・期間：春季休暇中10日間以上
・委託機関：ライトハウス
・担当：酒井
【イベントコース：まつりインハワイ】
「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。
・対象学科・学年：ET学科２年次生以上
・期間：６月中旬の１週間と国内における３回の事前研修
・委託機関：近畿日本ツーリスト
・担当：石原
【観光ビジネスコース】
ハワイ州の観光業、ウェディング業、教育業などで、インターンシップを体験する。
・対象学科・学年：ET学科２年次生以上
・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用して３～４週間
・委託機関：　般社団法人日本国際人材育成協会、他米国NPO法人
・担当：佐伯

授業計画

1 事前学習
2 事前学習
3 現地実習
4 現地実習
5 現地実習
6 現地実習
7 現地実習
8 現地実習
9 現地実習
10 現地実習
11 現地実習
12 現地実習
13 現地実習
14 現地実習
15 ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。
各々のインターンシップは以下のプログラムによって構成される。
①２～３回の事前学習（英語研修や実習準備など）
②現地実習
③ポートフォリオの提出（日報、レポートなど）と発表

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光概論			13426	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で講義される。

授業計画

1 ガイダンス
　観光の現状を理解する。
2 観光学と観光の歴史
　（観光の語源と定義･日本観光史他）
3 世界の観光史
4 観光と地域文化
　（観光と環境）
5 新時代の観光文化
　（観光資源とコンテンツツーリズ）
6 観光と多文化理解
7 観光心理
8 観光とマーケティング
9 観光の諸政策
　（観光政策と仕組み）
10 主要な観光事業･鉄道事業
11 主要な観光事業･航空運送業
12 主要な観光事業･宿泊業
13 主要な観光事業･旅行業
14 主要な観光事業･遊園地とテーマパーク
15 観光学まとめ
　総括試験

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30％　統括試験70％

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版　2019

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
国際観光交流論			13427	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	旅行会社、航空会社、ホテル、海外添乗、海外駐在、通訳ガイド			

授業の到達目標

観光庁のHPや観光白書などを通じて観光に関する専門用語を始め基本的な知識と考え方を習得する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。
その上で国際観光の重要性と我が国の現状を認識し、今後の国際交流のあり方や課題等について考察できるとともに様々な対応方策について自らの考えをまとめ、発表することができる。

授業の概要

世界観光機構（UNWTO）、OECD、日本の観光庁・JNTOなどのデータを基に、日本と諸外国の観光政策、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1 講義概要､評価方法､シラバス(講義計画)
2 観光の魅力
3 都市コード･空港コード･航空会社コード
4 日本の観光政策と受入体制Ⅰ
5 日本の観光政策と受入体制Ⅱ
6 日本の観光動向Ⅰ
7 日本の都市の観光動向Ⅱ
8 訪日外国人消費行動
9 世界の観光政策と受入体制Ⅰ
10 世界の観光政策と受入体制Ⅱ
11 世界のMICE動向
12 世界の観光動向Ⅰ
13 世界の観光動向Ⅱ
14 日本の問題点
15 総まとめの後定期試験60分

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についての各自からの発表やグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

ニュースなどを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集する。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象となる。

テキスト

各回授業中にプリントを配布する。

参考図書

「観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原　祥隆著

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光文化地理論			13838	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光・歴史・宗教・文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、中東、アフリカ等に分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時に地図、写真、動画などのビジュアル資料から現地情報を学習する。

授業計画

1 「アジア」韓国・台湾・中国
2 「アジア」香港・マカオ・モンゴル・フィリピン
3 「アジア」ベトナム・ミャンマー・カンボジア・タイ
4 「アジア」マレーシア・シンガポール・インドネシア・インド・ネパール
5 「アジア」スリランカ・モルディブ・パキスタンアフガニスタン・カザフスタン・ウズベキスタン・その他の国々
6 「ヨーロッパ」英国・アイルランド・ベルギー・オランダ
7 ヨーロッパ」アイスランド・ノルウェー・スウェーデン・フィンランド・デンマーク・ドイツ
8 「ヨーロッパ」スイス・オーストリア・リヒテンシュタイン・フランス・モナコ
9 「ヨーロッパ」イタリア・バチカン市国・マルタ・スペイン・ポルトガル・ギリシャ
10 「ヨーロッパ」ポーランド・チェコ・ハンガリー・ブルガリア・ルーマニア・ロシア・その他の国々
11 「南北アメリカ」米国・カナダ
12 「南北アメリカ」メキシコ・キューバ・ペルー・ブラジル・アルゼンチン・その他の国々
13 「オセアニア」オーストラリア・ニュージーランド・グアム・フィジー・その他の国々
14 「中東・アフリカ」トルコ・イスラエル・アラブ首長国連邦・エジプト・南アフリカ・その他の国々
15 「総括」と試験

授業の方法

学習内容とリンクして、問題集や地図・写真・動画などのビジュアル資料を通して現地情報を学習する。

準備学修

事前に指示された個所を予習、復習してくること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

『海外旅行実務　海外観光資源』JTB総合研究所
『海外観光地理　サブノート』JTB総合研究所

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

kamasu@kaisei.ac.jp

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ハワイ文化研究			13965	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ハワイの文化を研究する上で、文化を育んだハワイの歴史とその背景を学び、文化が伝わるプロセスと様々なハワイ特有の文化を学び理解をより深める。またハワイの精神である「アロハスピリット」を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

授業のテーマに関連した講義の他に、ビジュアルやビデオなどを用いてハワイ文化を視覚的に学習する。また小テストや問題集などを取り入れて、ポイントとなる箇所を復習する。

授業計画

1 ハワイの歴史（1）ポリネシア文化圏とハワイ諸島の誕生
2 ハワイの歴史（2）ハワイの信仰と神話
3 ハワイの歴史（3）ハワイ王国の歴史
4 ハワイの歴史（4）ハワイのフラの歴史　古典フラと現代フラ
5 ハワイの歴史（5）日本人移民の歴史
6 ハワイの歴史（6）戦時下の日系人
7 ハワイの歴史（7）戦後のハワイと観光王国ハワイ
8 ハワイの言語（1）ハワイ語の基礎知識
9 ハワイの言語（2）ハワイ語の会話
10 ハワイの言語（3）ハワイアンソングに使われる単語
11 ハワイの文化（1）ハワイの食文化と暮らしの習慣
12 ハワイの文化（2）ハワイの伝統工芸
13 ハワイの文化（3）ハワイのミュージックとフェスティバル
14 ハワイの文化（4）ハワイの伝統文化継承と自然保護
15 総括　＆　試験

授業の方法

講義とビジュアルプレゼンテーションや小テストを中心とする。

準備学修

事前に指示されたテーマについて、予習、復習してくること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

kamasu@kaisei.ac.jp

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関わる課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG'S）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、この目標は観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人を超え、多くの人々が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を持続的に発展させていくのかを学ぶ。講義では主に「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みについて事例を通して理解を深める。

授業計画

1 オリエンテーション
2 SDG'sと「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」について
3 サステイナブルツーリズムと国際認証について
4 サステイナブルツーリズムの事例と課題
5 エコツーリズムについて(エコツーリズム推進法)
6 エコツーリズムの事例と課題①(国内)
7 エコツーリズムの事例と課題②(海外)
8 グリーンツーリズムについて
9 グリーンツーリズムの事例と課題①(国内)
10 グリーンツーリズムの事例と課題②(海外)
11 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
12 ジオツーリズム
13 観光におけるシェアリングエコノミーについて
14 オーバーツーリズムについて
15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価は平常点30％、課題レポート20％、定期試験50％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『サステナブルツーリズム』　藤稿亜矢子著　晃洋書房
『SDG'sの実践』自治体・地域活性化編　村上周三他著　宣伝会議
『外国人が熱狂するクールな田舎の作り方』　山田拓　新潮新書
『楽しもう！エコツーリズム』　風見信昭著　秀明出版会
『MaaS　モビリティ改革の先にある全産業のゲームチェンジ』日高洋祐編著　日経BP社

留意事項

アクティブラーニングを中心とするので積極的な講義への取組みを求める。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光事業総論			13431	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務／企業経営			

授業の到達目標

観光は、観光行政（官）と観光産業（民）で構成される。これらを合わせて観光事業という。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解し、課題を見つけることが目標である。また、産業としての観光事業を各業界別に理解し、未来を展望する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策に重点を置き、観光産業との２分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道・運輸業等の役割と戦略に発展させ、グローバル社会での観光の課題を考察する。

授業計画

1 ガイダンス
2 観光と観光事業
3 観光立国と観光政策
4 国内観光振興事業
5 国際観光事業
6 イベントコンベンション事業
7 イベントコンベンション事業
8 テーマパーク事業
9 旅行事業
10 ホテル･旅館事業
11 航空輸送事業
12 鉄道事業
13 地域観光：地域と観光
14 地域観光：地域と観光
15 まとめと総括試験

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に対し意見交換し、まとめをプレゼンテーションをする。

準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介する。受講生は事前学習として読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30%、統括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

北川宗忠（2009）『現代の観光事業』ミネルヴァ書房

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光概論を発展した内容である。
＊注（重要）観光領域を学ぶ学生（観光領域ゼミ）は必ず履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

授業計画

1 オリエンテーション
2 世界遺産条約と登録制度
3 文化的景観について
4 日本の文化遺産①
5 日本の文化遺産②
6 日本の文化遺産③
7 海外の文化遺産①
8 海外の文化遺産②
9 海外の文化遺産③
10 自然遺産の分類と特徴
11 自然遺産①(国内)
12 自然遺産②(海外)
13 危機遺産･負の遺産
14 トランスバウンダリー･サイトとシリアル･ノミネーションについて
15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価は平常点30％、レポート20％、定期試験50％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著　マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著　東京大学出版会
『世界遺産ビジネス』　木曽功著　小学館新書

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,300万人を超えた訪日外国人観光旅行（インバウンド）ビジネスや2021年東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空（交通）についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス（訪日外国人旅行）について、地域との連携や課題について学ぶ。また、東京オリンピック、ワールドマスターズゲームなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

1 オリエンテーション
2 観光ビジネスの変遷について(マスツーリズムからの脱却)
3 旅行業ビジネス①
4 旅行業ビジネス②
5 旅行業法･約款､景品表示法等
6 宿泊業ビジネス
7 航空業ビジネス
8 交通事業ビジネス
9 MICEビジネス①
10 MICEビジネス②
11 スポーツツーリズム
12 インバウンドビジネス①
13 インバウンドビジネス②
14 地域創生と観光ビジネス
15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価は平常点30％、レポート20％、定期試験50％

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

『世界　訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著　東洋経済新報社
『CSV観光ビジネス』　藤野公孝編著　学芸出版社
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著　大修館書店

留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の　つである。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	集中	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標
海外ツーリズム研修では以下の４点を現地体験することを目標とする。
１．訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
２．JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
３．グループワーク課題を実践する。
４．実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。（総合旅程管理主任者資格の取得）
このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

授業の概要
春休みの１週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。合わせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを実地体験する。

授業計画
1 オリエンテーション・事前準備の確認
2 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4 事前研修・グループワークの課題準備　その１
5 事前研修・グループワークの課題準備　その２
6 実地研修１日目：関空出発　目的地
7 実地研修２日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
8 実地研修３日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9 実地研修４日目：研修地の移動
10 実地研修５日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
11 実地研修６日目：日系企業訪問
12 実地研修７日目：帰路の空港見学・帰国
13 現地でのグループワークの事後発表の準備
14 現地でのグループワークの事後発表
15 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法
研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの実地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修
事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法、その他
事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について
事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り欠席はできない。

テキスト
総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

参考図書
事前研修時に適宜指示する。

留意事項
受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員（10名）の規定が適用される。

教員連絡先
sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	1	旅行会社勤務			

授業の到達目標
観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。また大型イベント（東京オリンピック・パラリンピック、大阪万博など）を控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第　線で活躍しているビジネスパーソンの講師から事業現場の話を聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

授業の概要
本講義は、観光分野のプロフェショナルの外部講師による講演を中心に行う。各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、観光局（DMO）などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。

授業計画
1 オリエンテーション
2 講義①
3 講義②
4 講義③
5 講義④
6 講義⑤
7 講義⑥
8 まとめと試験

授業の方法
外部講師による講義を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
課題はレポートの提出を求める。
評価は平常点70％・定期試験30％

欠席について
学則の通り。

テキスト
随時プリントを配布する。

参考図書
必要に応じて指示する。

留意事項
外部講師による講義の為、講義中の態度・服装には留意すること。

教員連絡先
sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Business English			13935	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2				

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ。CDを聴きネイティヴスピーカーの英語に慣れるようにする。ビジネスで実際に使われる慣用的な表現を学ぶ。TOEIC受検対策を兼ねている。また就活の社会常識として、実社会の現状について具体的に解説する。

授業の概要

仕事の仕組みや、標準的なビジネス・コミュニケーションを学ぶ。e-mailなどのオフィスワークの常識的な事務についても学ぶ。

授業計画

1 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画、Unit 8 Tepehoning（1）-Answering
2 Unit 9 Telephoning（2）-Taking a Message
3 Unit 10 Telephoning（2）-Making an Appointment
4 Unit 11 Visiting a Client
5 Unit 12 Receiving a Visitor（1）-Preparation
6 Unit 13 Receiving a Visitor（2）-Meeting at Narita Airport
7 Unit 14 Receiving a Visitor（3）-A Business Lunch
8 Unit 15 Receiving a Visitor（4）-Visiting a Factory
9 Unit 16 Receiving a Visitor（5）-Sightseeing in Kyoto
10 Unit 17 Working for an International Exhibition
11 Unit 18 Preparing for the First Overseas Business Trip
12 Unit 19 The First Oversreas Buysiness Trip（1）
13 Unit 20 The First Oversreas Buysiness Trip（2）
14 Unit 21 The First Oversreas Buysiness Trip（3）
15 総括　＆　試験

授業の方法

シラバス通りに進むので予習、復習を励行すること。

準備学修

予習、復習の励行

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50％の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト

[BUSINESS TALK やさしいオフィス英語]　城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著　成美社

留意事項

毎回予習、復習を励行すること。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合には、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
English for Tourism			13937	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2				

授業の到達目標

観光産業で必要な基本的英語を修得する。
観光英検３，２級レベル
KAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ

授業の概要

駅、空港、ホテル、レストランなど各場面での必要な基本的な英語を学ぶ

授業計画

1 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画）、Lesson 1 :Tokyo Station
2 Lesson 1 : Tokyo Station
3 Lesson 2 : Exploring Metropolitan Tokyo
4 Lesson 3 : Restaurant at Ginza
5 Lesson 4 : Kakunodate, a town of Samurai and Cherry blossoms
6 Lesson 5 : Old Private Houses in Takayama
7 Lesson 6 : Hatcho Miso in Okazaki
8 Lesson 7 : Toyota Automobile Museum
9 Lesson 8 : Cormorant Fishing
10 Lesson 9 : Uji　Byodoin
11 Lesson 10: Kyoto Studio Park
12 Lesson 11: International Phone Calls
13 Lesson 12: Bakery Shops in Kobe
14 Lesson 13: White Heron Castle
15 総括　＆　試験（60分）
16

授業の方法

教科書付属のCDを活用して授業を行う。

準備学修

教科書及び付属のCDを活用して予習・復習をすること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

テキスト

DISCOVERING JAPAN through Tourism English[観光英語で日本発見！]
著者：河原俊昭、榎木薗鉄也、岡戸浩子、小宮富子、吉川　寛、石川有香、徳地慎二、ジェイムス・ドレイトン　英宝社

参考図書

観光英語検定試験全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験２級、３級問題集

留意事項

予習・復習の励行。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 500	秋/a/ｂ		13939	Ⅱ/Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Cory McKENZIE	選択	2				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
・make inferences and give advice
・ask for and give reasons and supporting opinions
・identify facts and opinions
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include leisure activities, jobs, daily routines, and special days.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 Leisure and Sport
3 Unit 1 Leisure and Sport
4 Unit 2 Firsts and Lasts
5 Unit 2 Firsts and Lasts
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 3 Work and Rest
10 Unit 3 Work and Rest
11 Unit 4 Special Days
12 Unit 4 Special Days
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Pre-Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 501	秋/春		13941	Ⅱ/Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
國本 恵理香／宮副 紀子	選択	2				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
3 Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
4 Chapter 2 Young Women Changing the World
5 Chapter 2 Young Women Changing the World
6 Chapter 3 Student Learning Teams
7 Chapter 3 Student Learning Teams
8 Mid Term
9 Chapter 4 Learning to Speak
10 Chapter 4 Learning to Speak
11 Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
12 Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
13 Chapter 6 Culture Shock
14 Chapter 6 Culture Shock
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Intermediate, 2nd.edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms A Tale of Two Cities by Charles Dickens retold by Ralph Mowat

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 502	秋/春		13943	Ⅱ/Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON／Cory McKENZIE	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance

授業計画

1 Introduction
2 Unit 4 Descriptive Paragraph
3 Unit 4 Descriptive Paragraph
4 Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
5 Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
6 Unit 6 Process Paragraph
7 Unit 6 Process Paragraph
8 Mid Term
9 Unit 7 Narrative Paragraph
10 Unit 7 Narrative Paragraph
11 Unit 8 Summary Paragraph
12 Unit 8 Summary Paragraph
13 Unit 9 Analysis Paragraph
14 Unit 9 Analysis Paragraph
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Grammar 503	秋		13944	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: the gerunds, infinitives, and coordinating conjunctions.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 14 Gerunds and Infinitives, Part 1
3 Chapter 14 Gerunds and Infinitives, Part 1
4 Chapter 14 Gerunds and Infinitives, Part 1
5 Chapter 14 Gerunds and Infinitives, Part 1
6 Chapter 14 Gerunds and Infinitives, Part 1
7 Chapter 14 Gerunds and Infinitives, Part 1
8 Mid Term
9 Chapter 15 Gerunds and Infinitives, Part 2
10 Chapter 15 Gerunds and Infinitives, Part 2
11 Chapter 15 Gerunds and Infinitives, Part 2
12 Chapter 15 Gerunds and Infinitives, Part 2
13 Chapter 16 Coordinating Conjunctions
14 Chapter 16 Coordinating Conjunctions
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale：
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

参考図書

Will be assigned as required

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Pronunciation 504	春		13945	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	選択	2				

授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い英語の音素の特徴を理解し、実践できるようにする。また教職課程履修者が、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につけることも目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、聞き手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦労しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、　人ひとりの苦手な部分を確認しながら、場面・状況等に応じて分かりやすい英語で発話できるようにする。

授業計画

1 導入(英語学習における発音学習の位置づけ、事前診断テスト)
2 事前診断テスト解答解説と練習
3 音節(音節とリズム、カタカナ語と英語の音節数の違い)
4 音節(語の音節数、現在形と過去形の音節数の違い)
5 母音(アルファベット読みとフォニックス読み)
6 英語特有の子音(アルファベット読みとフォニックス読み)
7 語強勢(強勢と母音の長さ)
8 語強勢(強勢と母音の音色、押韻)
9 語強勢(語強勢の法則)
10 文強勢(内容語と機能語、品詞)
11 文強勢(文の内容に即した強勢)
12 文強勢(強勢の付く機能語)
13 その他の子音(日本語との違い)
14 文章の音読
15 練習、復習、まとめ

授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

欠席について

1）普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席１回につき、出席点より４点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2）欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3）欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

Judy B. Gilbert, Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension, 4th ed. CUP.

留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 600	a/b		13947	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE／Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・lead a group discussions
・agree and disagree with opinions
・ask for and give clarification
・use a variety of internation and word stress for key words
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include city life, equipment, accidents and injuries, and survival items.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 8 Places to Live
3 Unit 8 Places to Live
4 Unit 9 Old and New
5 Unit 9 Old and New
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 10 Take Care
10 Unit 10 Take Care
11 Unit 11 The Best Things
12 Unit 11 The Best Things
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Longman Cutting Edge Pre-Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Reading 601	a/b		13949	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里／宮副 紀子	選択	2				

授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

授業計画

1 Introduction
2 Chapter 8 A Young Blind Whiz
3 Chapter 8 A Young Blind Whiz
4 Chapter 9 How to Make a Speech
5 Chapter 9 How to Make a Speech
6 Chapter 10 Conversational Ball Games
7 Chapter 10 Conversational Ball Games
8 Mid Term
9 Chapter 11 Letters of Application
10 Chapter 11 Letters of Application
11 Chapter 12 Out to Lunch
12 Chapter 12 Out to Lunch
13 Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
14 Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
15 Review

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 40%
Tests and Quizzes 30%
Class Participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford Select Readings Intermediate, 2nd.edition. Linda Lee & Erik Gundersen
Oxford Bookworms Treasure Island by Louis Stevenson retold by John Escott

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Writing 602	秋		13951	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 10 Cause and Effect Paragraph
3 Unit 10 Cause and Effect Paragraph
4 Unit 11 Persuasive Paragraph
5 Unit 11 Persuasive Paragraph
6 Unit 12 Problem-Solution Paragraph
7 Unit 12 Problem-Solution Paragraph
8 Mid Term
9 Unit 13 About the Essay
10 Unit 13 About the Essay
11 Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
12 Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
13 Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
14 Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
15 Review

授業の方法

Students will work in groups and individually

準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Report 20%
Tests and Quizzes 10%
Class Participation 20%
Homework 50%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

参考図書

Will be assigned as needed

留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Pronunciation 604	秋		13953	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	専門学校講師			

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、正しいリズムと強勢を伴って相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。また正しい発音を身につけることによってリスニング力を向上させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行うことによって、「伝わる」英語発音とリスニング力向上を目指す。

授業計画

1 ガイダンス、Level 3 Lesson 1 Do dogs love us more than cats? - 1
2 Lesson 1 Do dogs love us more than cats? - 2
3 Lesson 2 What is it? - 1
4 Lesson 2 What is it? - 2
5 Lesson 3 Drones - 1
6 Lesson 3 Drones - 2
7 復習、中間考査
8 Lesson 4 Smart Phones Etiquette - 1
9 Lesson 4 Smart Phones Etiquette - 2
10 Lesson 5 The Accident - 1
11 Lesson 5 The Accident - 2
12 Lesson 6 Card Counting - 1
13 Lesson 6 Card Counting - 2
14 Lesson 7 The Text Message - 1
15 Lesson 7 The Text Message - 2、期末考査

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個人的に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

欠席について

ふだんの練習の積み重ねを重視するため、欠席１回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より２点減点する。

テキスト

安河内哲也著「ゼロからスタート 正しい音読学習」（Jリサーチ出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 700			13955	Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	選択	2				

授業の到達目標

The aim of this course is for students to gain confidence with longer, more challenging conversation topics. Students will develop autonomy and a sense of internationality.

授業の概要

Through dialogues, lectures, and presentations, students will hone their speaking and listening skills. They will gain confidence with visual aids such as PowerPoint.

Students will listen to and discuss English-language media. In class debates, students will learn to clearly and concisely express their opinions... and to think on their feet!

Topics will include current events, philosophical problems, and topics of interest to the students.

授業計画

1 Introduction
2 Talking about the News ①
3 Talking about Big Ideas ①
4 Talking about Big Ideas ②
5 Debate Preparation ①
6 First Debate
7 Making Presentation Materials
8 Midterm Presentation
9 Talking about the News ②
10 Talking about Big Ideas ③
11 Talking about Big Ideas ④
12 Debate Preparation ②
13 Second Debate
14 Final Presentations ①
15 Final Presentations ②

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups. We will follow the syllabus closely.

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

We will follow the syllabus closely.

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, she should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

None. The instructor will create materials for this class.

留意事項

The best way to improve your English level is to use English. Don’t worry about making
mistakes. Welcome every mistake as a learning opportunity. Only by making a mistake can you
become aware of it!

教員連絡先

mckenzie@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
English for Academic Purposes 701			13957	Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	選択	2				

授業の到達目標

学部生・大学院のレベルで留学し、自信を持ち授業を受ける能力の獲得を目指す。英文資料の読解、
講義と演習の戦略、論文と脚注の書き方を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）と
In（国際性）を養う。

授業の概要

In this course, students will gain experience with authentic English academic texts,
lectures, and essays. In class, we will practice seminar and group discussions; preparing
simple presentations; improving study skills such as note-taking, critical thinking, and
working independently; and, recognizing and using academic grammar and vocabulary.

授業計画

1 Introduction
2 Reading Comprehension ①
3 Listening to Lectures ① (Note Taking)
4 Listening to Lectures ② (Asking questions)
5 Writing Reports ① (Citations and Five-Paragraph Essays)
6 Writing Reports ② (Academic Vocabulary)
7 Making Presentation Materials
8 Midterm Presentation
9 Reading Comprehension ②
10 Listening to Lectures ③ (Follow-up Questions)
11 Listening to Lectures ④ (Debate)
12 Writing Reports ③ (Developing a thesis and conclusion)
13 Writing Reports ④ (Sentence Openers and Transitions)
14 Final Presentations ①
15 Final Presentations ②

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups. We will follow the syllabus closely.

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

We will follow the syllabus closely.

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class, she should submit a "Notification of Exceptional Absence" to the instructor. Unexcused absences will result in a lower grade or failure of the class.

テキスト

None. The instructor will create materials for this class.

留意事項

The best way to improve your English level is to use English. Don’t worry about making
mistakes. Welcome every mistake as a learning opportunity. Only by making a mistake can you
become aware of it!

教員連絡先

mckenzie@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Pronunciation 704			13959	Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	専門学校講師			

授業の到達目標

日本語と特に違いの大きい子音と母音の発音に習熟し、正しいリズムと強勢を伴って相手に伝わりやすい発話ができることを目標とする。また正しい発音を身につけることによってリスニング力を向上させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を涵養する。

授業の概要

英語音声に関する実践的訓練を行うことによって、「伝わる」英語発音とリスニング力向上を目指す。

授業計画

1 ガイダンス、Level 1 Lesson 1 Can you "see" music? - 1
2 Lesson 1 Can you "see" music? - 2
3 Lesson 2 Mary's Father - 1
4 Lesson 2 Mary's Father - 2
5 Lesson 3 Recipe: Fried Peanut Butter and Banana Sandwich - 1
6 Lesson 3 Recipe: Fried Peanut Butter and Banana Sandwich - 2
7 復習、中間考査
8 Lesson 4 Falling - 1
9 Lesson 4 Falling - 2
10 Lesson 5 The Scary Strange Future! - 1
11 Lesson 5 The Scary Strange Future! - 2
12 Lesson 6 Margaret's Bee - 1
13 Lesson 6 Margaret's Bee - 2
14 Lesson 7 The Visitors to the Museum - 1
15 Lesson 7 The Visitors to the Museum - 2、期末考査

授業の方法

リズムと強勢を意識し、多くの演習と音読練習を行う。また練習と復習の成果をチェックするため毎回個別に発音チェックを行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50％、定期試験50％

欠席について

ふだんの練習の積み重ねを重視するため、欠席１回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点より２点減点する。

テキスト

安河内哲也著「ゼロからスタート 正しい音読学習」（Jリサーチ出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

付属CD教材を用いて確実に復習すること。毎回、発音記号が記載されている英和辞書（紙版、電子版など）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
Oral Communication 800	.		13961	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON	選択	2				

授業の到達目標

Upon comletion of this course, students will be able to：
・participate in group discussions and interviews
・identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
・change topics in a conversation and express interest in topics
・use questions to maintain listener interest and add another speaker's comments to a topic
・listen for contrasting ideas
・demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
・participate in debates during class time

授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include entertainment, social behaviour, gadget, and predictions.

授業計画

1 Introduction
2 Unit 7 Must See!
3 Unit 7 Must See!
4 Unit 8 Social Life
5 Unit 8 Social Life
6 Review
7 Presentations
8 Mid Term
9 Unit 9 Stuff!
10 Unit 9 Stuff!
11 Unit 10 Society and Change
12 Unit 10 Society and Change
13 Review
14 Presentations
15 Presentations

授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

準備学修

See webpage for further details

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Final Exam 20%
Tests and Quizzes 10%
Presentations 40%
Class participation 20%
Homework 10%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class then a "Notification of Exceptional Absence" must be submitted. More than a third absence without the above notification will result in no credit being given.

テキスト

Longman Cutting Edge, Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Peter Moor, and Jonathan Bygrave

参考図書

Additional materials will be assigned as needed

留意事項

Active and full participation is essential and expected

教員連絡先

rushton@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

Student queries answered in teacher's office hour （check board in front of Academic Affairs office）

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
English for Academic Purposes 801			13963	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Tim KERN	選択	2				

授業の到達目標

The course will develop the ability to study effectively in English on an undergraduate or postgraduate program abroad.

授業の概要

The course aims to develop skills for university study abroad in the following areas: reading authentic academic texts; listening to lectures and presentations; writing paragraphs, and different essay types; seminar and group discussions; preparing and giving simple presentations; improving study skills, such as note-taking, critical thinking and working independently; and, recognizing and using academic grammar and vocabulary.

授業計画

1 Introduction / Unit 4 a Lectures（2）
2 Unit 4 b Textbooks（4）
3 Unit 4 c Writing (connected sentences)
4 Unit 4 d Vocabulary (prepositions)
5 Unit 4 e Academic Language check
6 Unit 5 a Lectures（3）
7 Unit 5 b Journals
8 Unit 5 c Writing (expressing stance)
9 Unit 5 d Vocabulary (noun suffixes)
10 Unit 5 e Academic Language check
11 Unit 6 a Lectures（4）
12 Unit 6 b Textbooks（5）
13 Unit 6 c Writing (Topic sentences)
14 Unit 5 d Vocabulary Adjectives, Adverbs and multi-part verbs.
15 Unit 5 e Academic Language check

授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

準備学修

See webpage for further details.

課題・評価方法、その他

Your final grade will be determined using the following scale:
Class Participation 40%
Tests 30%
Homework 30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Oxford EAP. Pre-intermediate. Paul Dummett and John Hird.

参考図書

Additional materials will be assigned as needed.

留意事項

Active and full participation is essential and expected.

教員連絡先

To contact the instructor, please ask for ask for help to do so at the Kyomuka office.

オフィスアワー

No office hours are set. Please, talk to the instructor in class or arrange an appointment with him.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
樫本 雄三	選択	2	テクニカルライター、実務翻訳者			

授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

授業の概要

和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。毎回授業内容に基づいた宿題を課し、翌週の授業でその説明を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

授業計画

1 実務翻訳の特徴/自動翻訳時代の翻訳者の仕事
2 英文和訳の基本技術/自然な文章表現/適語を探す
3 品詞の転換/無生物主語の処理
4 訳出の順序/不定冠詞の条件的意味
5 分詞構文､関係詞構文､挿入構文
6 長文の攻略
7 和文英訳の基本技術/ライティングの３C
8 可算名詞､不可算名詞/定冠詞､不定冠詞/前置詞
9 主語の選択/強い動詞
10 冗長な英文､簡潔な英文
11 無生物主語/分詞構文
12 長い修飾語の処理/コロケーション
13 英文マニュアルの表現/制限言語
14 翻訳支援ツール(翻訳メモリなど)
15 ニューラル機械翻訳とポストエディット

授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。翻訳に必要な背景知識の説明も行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌、インターネットニュースなどの記事や各種パンフレットなどを教材にする。

参考図書

翻訳スキルハンドブック、駒宮俊友、アルク
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社
技術系英文ライティング教本、中山裕木子、日本工業英語協会

留意事項

ほぼ毎回課題を宿題として出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

教員連絡先

kashimoto@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

英語文学を通して英語のさまざまな表現法を学び、また日本文化と比較しながら多文化を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）、In（国際性）とE（倫理）を考える。

授業の概要

授業では文学を通して古くて新しいテーマである人生について、そして、自己に誠実に真摯に生きるとはどういうことなのか等についても考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDといった視聴覚教材も用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の４分野のスキルを養成する。

授業計画

1 Introduction
2 The Language of Jane Austen's time
3 18-19世紀のイギリスの時代的･文化的背景
4 18-19世紀のイギリス女性の社会的地位と人生
5 "Pride and Prejudice"を読む　Ch.1-３/研究発表
6 "Pride and Prejudice"を読む　Ch.4-６/研究発表
7 "Pride and Prejudice"を読む　Ch.7-10/研究発表
8 Discussion
9 "Pride and Prejudice"を読む　Ch.11-14/研究発表
10 "Pride and Prejudice"を読む　Ch.15-18/研究発表
11 "Pride and Prejudice"を読む　Ch.19-20/研究発表
12 Fact Files "Socializing in Regency England"
13 Presentation/レポート提出
14 Discussion
15 Conclusion

授業の方法

講義のほかに、文学、あるいはそこに内在する文化の諸要素について学生同士でも自由に発言し、問題提起や議論の発展が可能なように、教師･学生の双方向性の授業形態を予定している。

準備学修

講義前に、テキストの各章を各自で予め読み、英語表現のみならず異文化を理解し、また作家のメッセージ等も考えて授業中の自由闊達な議論に備える。（毎回30-60分）
講義後は、興味ある課題に各自で取り組み、課題のレポート作成の準備をする。（毎回30-60分）

課題・評価方法、その他

課題：発表、質疑応答、ディスカッション、レポート作成（随時レポート作成を課し、授業中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。）
評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な意見交換を高く評価する。

欠席について

出席重視。　貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen,"Pride and Prejudice"CD付.London:Mary Glasgow Magazines （Scholastic Ltd.）

参考図書

翻訳書："Pride and Prejudice"（『高慢と偏見』あるいは『自負と偏見』）の翻訳書は､岩波､新潮､ちくま各文庫本でも入手可能である。
参考図書：授業で随時、指示する。
参考資料：配布。

留意事項

授業で取り上げる『高慢と偏見』は多数の翻訳書があるので、可能なかぎり予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

1 身近にある異文化理解　その１
＜人魚＞をテーマに､アンデルセン(ヨーロッパ)･ディズニー（アメリカ)･小川未明(日本)の表現の違いを考察する。
2 身近にある異文化理解　その２
＜MANGA＞をテーマに､日本の漫画の発展と世界進出について考察する。
3 身近にある異文化理解　その３
＜宝塚歌劇＞をテーマに､宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する。
4 身近にある異文化理解　その４
＜人形＞を題材に､日本､台湾､インドネシアなど､各国の人形文化がどのように発展していったかを考察する。
5 プレゼンテーション(１)｢身近にある異文化理解｣
6 プレゼンテーション(２)｢身近にある異文化理解｣
7 プレゼンテーション(３)｢身近にある異文化理解｣
8 歴史的･風土的･地政学的比較文化　その１
ブラジル移民｡政府の政策と神戸港の対応。
9 歴史的･風土的･地政学的比較文化　その２
ベラルーシ｡原子力発電所事故影響からの立ち直り｡日本との繋がり。
10 歴史的･風土的･地政学的比較文化　その３
パラオ｡南洋諸島と戦前の日本委任統治
11 歴史的･風土的･地政学的比較文化　その４
小泉八雲(ラフカディオ･ハーン)がみた日本･神戸
12 プレゼンテーション(４)｢歴史的･風土的･地政学的比較文化｣
13 プレゼンテーション(５)｢歴史的･風土的･地政学的比較文化｣
14 プレゼンテーション(６)｢歴史的･風土的･地政学的比較文化｣
15 まとめと質疑応答

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況（30％）、ノート評価（30％）、発表（20％）、レポート（20％）により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
女性と社会			13525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができる。国内外の社会事象とその中に生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

授業計画

1 文化と歴史の中の女性
2 女性のライフコース
3 女性と教育
4 女性と労働･女性のキャリア形成
5 女性と結婚･離婚
6 女性と出産･子育て
7 ワークライフバランス
8 女性と暴力
9 女性とメディア･表現
10 女性と階層
11 女性と加齢
12 女性と病
13 女性とケア
14 女性と社会参画･社会政策
15 女性と国際社会

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席１回につき２点減点する。

テキスト

参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
インターンシップ（国内）			13969	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎／白井 昭彦	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標
将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要
インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターシップ期間は受け入れ先により５日～１週間となる。尚、体験発表は９月中旬（夏休み期間）に実施する。

授業計画
1 オリエンテーション
2 インターンシップとは
3 企業コンプライアンスについて
4 業界研究①
5 業界研究②
6 エントリーシート作成①(自己PR)
7 エントリーシート作成②(志望動機など)
8 インターンシップ受け入れ企業研究
9 インターンシップの目標設定
10 就業体験①
11 就業体験②
12 就業体験③
13 就業体験④
14 就業体験⑤
15 就業体験発表

授業の方法
講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30％、就業体験50％、プレゼンテーション20％
就業体験は５日間で35時間とする。

欠席について
事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト
随時プリントを配布する。

留意事項
インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。
学生自身が修業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。（５日間の就業体験が必要）
履修者が多い場合は選考を行う場合がある。
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。

教員連絡先
sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅱ/Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標
企業環境を取り巻く環境は厳しい。特にホスピタリティ産業は製品・サービスが製造業などに比べ差別化が難しい。顧客に真の価値を理解してもらうためには組織が重要になる。サービス提供者と財（製品・サービス）が　体となる必要がある。本講座は、ホスピタリティ産業におけるマネジメントをテーマに、組織管理と従業員のモチベーション向上に何が必要かを理解し学修する。企業経営の中心に必要な戦略を理解し学修する。ホスピタリティ産業の基礎的なマネジメント能力を身に付けることが目標である。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要
講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は何を意味するのか。製品の差別化とはどうあるべきか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事を取り上げ、その本質を理解する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場におけるマクロ環境を理解しながら競争力について学ぶ。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）を考察する。

授業計画
1 ガイダンス
2 ホスピタリティの歴史と文化
3 ホスピタリティ･サービスの語源
4 ホスピタリティ産業の製品特性
5 マーケティング戦略･マーケティングミックス
6 マーケティング戦略･インターナルマーケティング
7 マーケティング戦略･労働生産性
8 旅行業のプロが選ぶホテル･旅館NO１の戦略
9 事業の破綻と再生から学ぶ
10 高級ホテルのサービス手法を探る(ワオとは何か)
11 ニッチ市場を狙う旅行代理店(高額所得者を顧客に持つ旅行代理店のマネジメント)
12 企業理念と共感の企業戦略･大阪のビジネスホテルの事例から
13 テーマパークの戦略･USJの事例から
14 ホスピタリティ産業の戦略のまとめ
15 まとめと総括試験

授業の方法
パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修
ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法、その他
課題30%
総括試験70％

欠席について
大学の規定通りとする。

テキスト
特に予定していない。

参考図書
服部勝人（2004）『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney（岡田正大訳）(2011)『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker（上田惇生訳）『マネジメント』
Kotler （平井祥訳）（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項
講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

教員連絡先
ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光はディスティネーションと輸送機関、そして宿泊業の連携が重要である。特定の企業だけが独り勝ちすることはない。マクロ環境や地域性の影響を受ける産業である。観光マーケティング論ではマクロ環境を理解し、顧客が求める製品・サービスは何か明確にすることが目標である。その上で、顧客価値を高めるにはどのようにすればよいかを考察する。ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。観光マーケティングは観光産業全般に関する製品・サービスとリレーションを学修し、マーケティング全般の理解を深める。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS（奉仕）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

講義はコトラーの提唱するホスピタリティ＆ツーリズムマーケティングを中心に構成されている。マーケティングの基礎的内容から産業の特性やマーケティング戦略、ブランディング・ポジショニングなど基本的なフレームワークを用いて学修する。講義においてはマーケティング理論を理解するために事例を使い解説される。事例として、観光地・ホテル業・旅行業・レストラン業・ファストフード業・航空業などを取り上げる。

授業計画

1 ガイダンス:観光マーケティング論概要
2 観光とマーケティング
3 ホスピテリティ＆ツーリズムマーケティングの商品特性
4 戦略計画におけるマーケティングの役割
5 マーケティング環境
6 マーケティング情報システム
7 消費者の心理と購買行動
8 競争市場の原理
9 市場細分化における戦略
10 マーケティングミックス(製品)
11 マーケティングミックス(価格)
12 マーケティングミックス(流通)
13 マーケティングミックス(プロモーション)
14 ホスピタリティ産業における事業再生マネジメント手法
15 まとめ

総括テスト

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのデスカッションから構成される。テキストがないのでノートを取ること。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法、その他

課題30％総括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布する。

参考図書

Kotler（2003）『ホスピタリティ＆ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』上・中・下ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目（観光概論、観光事業論）の発展科目である。観光領域を学ぶ学生は履修する事。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社・旅行会社			

授業の到達目標

航空機はどのようにして飛んでいるのか、アライアンスの必要性は何か、ユニバーサルサービスの重要性など、エアラインビジネスの概要をさまざまな角度から多面的に学習して理解する。また民間航空の発展や航空政策の規制緩和などについて、その概要や歴史的な流れ、社会・経済への影響などを理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、経営特性、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについてできるだけ幅広く、分かりやすく解説する。

授業計画

1 講義概要、評価方法、シラバス(講義計画)乗員・CA・整備、グランドスタッフ等エアラインの仕事の概要
2 航空機と航空管制の概要(航空機の概要、航空管制の概要)
3 民間航空の歴史(現在までの世界と日本の民間航空の発展の歴史と現在の状況
4 航空自由化への流れ(当初は保護政策から始まった航空政策の世界的な規制緩和への流れについて)
5 空港政策　(日本の空港の概要、空港民営化の概要、世界の主要空港の民営化の流れ)
6 エアラインビジネスの特性　(エアラインビジネスの経営面の特性、経済的な特性)
7 ネットワークとアライアンス(航空路線ネットワークの考え方や効果、アライアンスの歴史と概要、赤字路線維持策など)
8 運賃とレベニューマネジメント　(航空運賃の制度、仕組みと収入最大化を目指すレベニューマネジメントの概要)
9 FFPとブランド、CS(優良旅客囲い込みのためのFFP(フリーケントフライヤープログラム)の概要、ブランドロイヤリティマーケティングの考え方、CS(消費者満足)の考え方)
10 LCC(低コストエアライン)の台頭(LCCの歴史と経営面での特徴など)
11 航空とホスピタリティ、ユニバーサルデザインの重要性
12 航空貨物ビジネス　(航空旅客ビジネスとの違い、航空貨物輸送の概要など)
13 航空と観光(航空が観光・地域活性化に果たす役割
14 航空業界の最近の動向　(航空業界の最近の動向について、未来の航空)
15 まとめ、定期試験

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

関連事項をWEB等で参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 50%、定期試験 50%

欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象となる。

テキスト

講義においては、毎回講義資料を配布して、パワーポイントを使用して説明する。

参考図書

『航空産業入門　第２版』（株）ANA総合研究所
国土交通省WEBページ

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

1 ガイダンス
2 ホテル産業史Ⅰ
3 ホテル産業史Ⅱ
4 ホテル産業史Ⅲ
5 宿泊産業の市場特性
6 ホテルの組織と役割
7 客室事業･基本業務
8 客室事業･組織とサービス
9 客室事業･価格戦略
10 料飲事業
11 バンケット事業
12 ブライダル事業
13 ケータリング事業
14 購買とFBCC
15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを　読すること。

課題・評価方法、その他

課題30％、総括試験70％

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺　郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
WEBトラベルプレゼンテーション			13839	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国内外のトラベルやサービス業関連のWEBページの分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を習得する。また実習では理想的なWEBプレゼンテーションと役に立つプレゼンテーションのテクニックを養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件と専門知識を学び、実習でテーマに基いた企画書、日程表、パンフレットなどの作成作業や発表等のプレゼンテーションを通して、効果的な作成方法や発表のテクニックを学ぶ。

授業計画

1 WEBトラベル･プレゼンテーション概要(テーマの説明と内容の紹介)
2 トラベルやサービス業関連のWEBページの分析
3 WEBプレゼンテーションの基本条件(テーマ･イメージ･キーワード)
4 WEBプレゼンテーションの基本条件(ページレイアウトとデザインの制作フロー)
5 プレゼン資料の作成方法と発表のポイント
6 WEBプレゼンテーション実習(1)
7 WEBプレゼンテーション実習(2)
8 WEBプレゼンテーション実習(3)
9 WEBプレゼンテーション実習(4)
10 WEBプレゼンテーション実習(5)
11 WEBプレゼンテーション実習(6)
12 WEBプレゼンテーション実習(7)
13 WEBプレゼンテーション実習(8)
14 WEBプレゼンテーション実習の(9)
15 総括＆試験

授業の方法

講義と小テスト、プレゼンテーションの資料作成と発表等の実習を中心とする。

準備学修

事前に指示された個所を予習、復習してくること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

kamasu@kaisei.ac.jp

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標
地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画
1 神戸海岸通りと旧居留地
陳舜臣「枯草の根」を読み、神戸居留地の歴史を振り返る。
2 神戸の海岸線
村上春樹「ノルウェイの森」・「５月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
3 雑居地文化と異人館通り
宮本輝「花の降る午後」を読む。雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。神戸のスイーツやパン、洋食文化にも触れる。
4 神戸モダニズム
稲垣足穂「星を造る人」を読み、トーアロード周辺から発信された、神戸モダニズムについて考察する。
5 他地域からの視点
堀辰雄「旅の絵」を読み、東京からのお客様である堀辰雄を案内した竹中郁のエッセイにも触れる。外から見た神戸文化について考察する
6 ミステリー発祥の地としての神戸
横溝正史「虹のある風景」を読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
7 川崎造船所と神戸の町
久坂葉子「ドミノのお告げ」を読む。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れ、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。
8 鈴木商店を支えた女性
玉岡かおる「お家さん」を読む。かつて世界を掴んだ神戸の個人商店鈴木商店。その歩みと、鈴木商店を支えた神戸の女性の生き方を考察する。
9 プレゼンテーション発表
10 プレゼンテーション発表
11 プレゼンテーション発表
12 プレゼンテーション発表
13 映画に登場する神戸の風景
有川浩「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
14 神戸モダニズムの転換期
昭和40年代の神戸と阪神間文化について考察する。かつてモダンと呼ばれた文化がレトロと呼ばれるようになった時、神戸では何が起こったのか。文学作品を参考資料として考察していく。
15 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある。それらを、考察していくことでまとめとする。

授業の方法
前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修
Web参照すること。

課題・評価方法、その他
毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況（30％）、ノート評価（30％）、発表（20％）、レポート（20％）

欠席について
規定に従う

テキスト
必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書
必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先
mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嫣	選択	2				

授業の到達目標
中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。この授業では、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

授業の概要
中国語学習の中に　番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろんな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も　曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画
1 第１課、あいさつする
2 第２課、名前を尋ねる
3 第３課、食べたいものを尋ねる
4 第３課、食べたいものを尋ねる
5 第４課、近況を尋ねる
6 第４課、近況を尋ねる
7 第５課、予定を尋ねる
8 第５課、予定を尋ねる
9 第６課、場所を尋ねる
10 第６課、場所を尋ねる
11 第７課、注文する
12 第７課、注文する
13 第８課、値段の交渉をする
14 「自己紹介」を練習する
15 授業のまとめ・テスト

授業の方法
講義とグループディスカッションを中心とする。
毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と会話練習を行う。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
大学の規定に従う。

テキスト
「できる・つたわる　コミュニケーション中国語」　岩井伸子、胡興智著　　白水社

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

＜観光客としてフランスを旅行する＞また＜日本を訪れたフランス語話者とコミュニケーションをとる＞ために最低限必要な知識と会話を学ぶ. このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養う.

授業の概要

フランス（首都，地方）, 衣食住を含むフランス人の日常生活，社会の動向，文化などフランス諸事情全般について，関連項目の映像資料を参考にしながらテキストを講読し，フランスに関する理解を深める.

授業計画

1 Orientation, "La France"
2 "La France" "Pairs"
3 "Paris"
4 "Les cafés"
5 "La vie des étudiants"
6 "Le pain, le vin et le fromage"
7 "La Bretagne"
8 "La Bretagne"
9 "La Provence"
10 "La Provence"
11 "L'Alsace"
12 "L'Alsace", 映画鑑賞(フランス語)
13 "Trois grands personnages de l'histoire française"
14 "Le français dans le monde"
15 まとめと試験

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表（テーマについて観察，調査、考察をしたもの）による.

準備学修

web参照のこと

課題・評価方法、その他

出席点10%, 平常点20%, 研究発表30%, 学期末試験40%

欠席について

授業出席は必要不可欠．やむを得ない場合，授業で進んだところまでの内容について自らの補習が必要である.

テキスト

Amicalement plus（2018 駿河台出版社）
テキスト講読に関しては予めプリントを準備する.

参考図書

必要があれば授業で紹介する．その他，観光案内資料や映像資料を準備する.

教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

予め直接に，またはメールで予約すれば時間調整は可能.

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
児童英語教育概論			13701	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コ　スにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第２言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「３つの資質・能力」を踏まえた「５つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。各回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

1 小学校英語教育の目的(１)小学校学習指導要領の理解
2 小学校英語教育の目的(２)世界の言語政策事情
3 小学校英語教育の目的(３)異文化理解
4 小学校英語教育の目的(４)児童文学
5 第２言語習得研究(１)年齢と言語習得
6 第２言語習得研究(２)学習と環境
7 第２言語習得研究(３)学習者要因､指導者要因
8 第２言語習得研究(４)児童期の第２言語習得における語彙習得
9 第２言語習得研究(５)児童期の第２言語習得における文法習得
10 第２言語習得研究(６)児童期の第２言語習得における音声習得
11 技能の育成(１)リスニング
12 技能の育成(２)スピーキング
13 技能の育成(３)リーディング
14 技能の育成(４)ライティング
15 まとめ､小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、プレゼンテーション50％、レポート20％

欠席について

３分の２以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

[参考文献]
『小学校英語内容論入門』樋口忠彦編著　研究者　2019
『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説　外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語科教育法Ⅰ			13705	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に付ける。
英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

授業の概要：学習指導要領における「３つの資質・能力」を踏まえた「５つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。
教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができなければならない。それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が　方的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1 英語教育の目的(１)小･中･高等学校学習指導要領の理解
2 英語教育の目的(２)小･中･高等学校を通した英語教育の在り方
3 第２言語習得研究(１)学習者の特質:認知的要因
4 第２言語習得研究(２)学習者の特質:情意的要因
5 第２言語習得研究(３)学習者の特質:動機付け
6 英語教材研究(１)音声とつづり字
7 英語教材研究(２)語彙と表現
8 英語教材研究(３)文法と情報構造
9 英語教材研究(４)Eラーニング､ICT教育
10 音声言語指導　リスニング･スピーキング(やり取り･発音)の指導
11 音声言語指導　リスニング･スピーキングの授業展開､ティームティーチング
12 書記言語指導　リーディング･ライティングの指導
13 言語能力の測定と評価(１)パフォーマンス評価等評価方法と評価基準
14 言語能力の測定と評価(２)テストの意義と作成上の留意点
15 総括　英語教師の資質と能力

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法、その他

平常点40％、発表点40％、定期試験20％

欠席について

欠席・遅刻については　定の比率で減点する。

テキスト

新・グローバル時代の英語教育　　新学習指導要領に対応した英語科教育法　岡秀夫　編著　成美堂

参考図書

『外国語学習の科学』白井恭弘（岩波書店）
『中学校学習指導要領解説　外国語編［最新版]』（文部科学省）
『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編［最新版]』（文部科学省）
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「英語」）			

授業の到達目標

中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導の基礎及び異文化理解を、次に続く英語科教育法Ⅲ・Ⅳの授業との連携も視野に入れて徹底する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

学習指導要領における「３つの資質・能力」の養成を重要な柱と位置づけ、以下（授業計画）の具体的項目に関して教育法の鳥瞰図的全体像を示し、学生の自覚・理解を促す。

授業計画

1 はじめに:授業の概要について
2 学習指導要領の理解
3 英語の指導目標と内容
4 学習者の要因
5 言語習得の理論と諸問題
6 発音の指導
7 文字と綴りの指導
8 語彙表現､文法の指導
9 リスニングの指導
10 スピーキングの指導
11 リーディングの指導
12 ライティングの指導
13 言語技術を統合した指導
14 異文化理解
15 総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)
16 定期試験

授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。
評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

欠席について

欠席・遅刻については　定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『最新英語科教育法入門』研究社

参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学　第二言語習得論とは何か』（岩波書店）
中学校学習指導要領解説　外国語編　［最新版］　（文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編　［最新版］　（文部科学省）
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。

教員連絡先

miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コ　スにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「５つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

1 小学校外国語教育の目標･内容（1）年間指導計画と小中高連携
2 小学校外国語教育の目標･内容（2）教材研究と学習指導案作成法
3 小学校外国語教育の目標･内容（3）ICTの効果的な活用法
4 コミュニケーション能力を育成する指導法　ティームティーチング
5 コミュニケーション能力を育成する指導法　発話を促す活動
6 小学校英語教材研究（1）音声習得中心の活動
7 小学校英語指導法(ワークショップ)（1）音声習得中心の活動
8 小学校英語教材研究（2）文字習得中心の活動
9 小学校英語指導法(ワークショップ)（2）文字習得中心の活動
10 小学校英語教材研究（3）表現形式に焦点を当てた活動
11 小学校英語指導法(ワークショップ)（3）表現形式に焦点を当てた活動
12 小学校英語教材研究（4）言語使用の場面･背景(物語)に焦点を当てた活動
13 小学校英語指導法(ワークショップ)（4）物語の場面･背景に焦点を当てた活動
14 小学校英語　模擬授業
15 Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価､模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、プレゼンテーション50％、レポート20％

欠席について

３分の２以上の出席が必要。

テキスト

『新編　小学校英語教育法入門』樋口忠彦他（編著）研究社
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説　外国語活動・外国語編』,文部科学省、平成30年
『Let ｓ Try! 1』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	ET		13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1 児童の発達段階にあった英語活動を創る（1）
「活動案作成のポイント」
2 児童の発達段階にあった英語活動を創る（2）
「絵カード･教具･ワークシート作成法」
3 児童の発達段階にあった英語活動を創る（3）
「活動案草案発表」
4 実習授業活動案作成（1）『教材研究』
5 実習授業活動案作成（2）『教具作成』
6 実習授業活動案作成（3）『評価の観点と振り返りカード作成』
7 実習授業活動案発表と模擬授業
8 第１回　小学校英語活動　実習授業
9 実習リフレクション
10 実習授業活動案作成（4）『教材研究･教案発表』
11 実習授業活動案作成（5）『教具作成』
12 実習授業活動案作成（6）『評価の観点と振り返りカード作成』
13 実習授業活動案発表と模擬授業
14 第２回小学校英語活動　実習体験
15 まとめ　授業評価､ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し､模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強　　成美堂
「小学校英語の教育法 理論と実践.」アレン玉井光江　大修館書店

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語科教育法Ⅲ			13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語教育の第　目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第１・第２言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

授業計画

1 英語教育の目標と学習指導要領
2 第１言語習得と第２言語習得
3 主な外国語教授法の流れ（１）文法･翻訳法~ダイレクト･メソッド
4 主な外国語教授法の流れ（２）オーディオ･リンガル･メソッド
5 コミュニカティブ･ランゲージ･ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Dell Hymes)
6 コミュニカティブ･ランゲージ･ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Canale and Swaine, Henry Widdowson)
7 コミュニカティブ･ランゲージ･ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Keith Johnson)
8 授業の準備､学習指導案の作成
9 授業の工夫（１）: Warm-upとreview､文法･文型の導入
10 授業の工夫（２）: 文法･文型の練習と発展活動
11 授業の工夫（３）: 語彙の導入と指導､本文の読解指導
12 模擬授業(Grammarを中心に)
13 模擬授業(Readingを中心に)
14 模擬授業(Communicationを中心に)
15 まとめ

授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

準備学修

・次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。・Grammar I~IIIを徹底的に復習するなどして、常に文法力の向上に努めること。・中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、レポート30%、模擬授業40%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は１回につき20点減点、遅刻・早退は１回につき６点減点する。

テキスト

米山朝ニ・杉山敏・多田茂『[新版]英語科教育実習ハンドブック』(大修館)
土屋澄男（編著）他 『新編 英語科教育法入門』（研究社)
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英語科教育法Ⅳ			13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英語科教育法I~IIIで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価と及び評価方法の　つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1 学習指導要領における各科目の目標と内容
2 模擬授業の準備（１）: １時間の授業の流れ(中学校)
3 模擬授業の準備（２）: １時間の授業の流れ(高等学校)
4 模擬授業の準備（３）:教科書全体の構成､扱う単元の教材研究
5 模擬授業の準備（４）:授業の構成と学習指導案の作成
6 模擬授業の準備（５）:ALT等とのティーム･ティーチング
7 模擬授業の準備（６）:英語でのインタラクション
8 模擬授業の準備（７）:授業における各活動の目的と工夫１
9 模擬授業の準備（８）:授業における各活動の目的と工夫２
10 評価とテスト(Evaluation and Testing)
11 模擬授業と授業観察(Grammarを中心に)
12 模擬授業と授業観察(Readingを中心に)
13 模擬授業と授業観察(Communicationを中心に)
14 模擬授業と授業観察(Writingを中心に)
15 模擬授業の総括､教育実習に向けて

授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

準備学修

１単元の学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業（各自２回程度）を行うための準備（教材研究、教具の作成、授業の練習等）をすること。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（模擬授業観察を含む）30%、模擬授業 70%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15％とし、欠席は１回につき20点減点、遅刻・早退は１回につき６点減点する。

テキスト

米山朝ニ・杉山敏・多田茂 『［新版］英語科教育実習ハンドブック』（大修館)
土屋澄男（編著）他 『新編 英語科教育法入門』（研究社)
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂)
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を基準にして行う。
・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）			13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化された。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業で練習した後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した小学校英語教育を、幼稚園・小学校現場で出前授業の形で授業体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語学とは何かを体系的に考える。実習計画①実習する授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。②作成した授業案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1 小学校英語教育実習授業
2 第１回　小学校英語教育実習授業
3 第１回　小学校英語教育実習授業
4 第１回　小学校英語教育実習授業
5 第１回　小学校英語教育実習授業体験
6 第２回　小学校英語教育実習授業
7 第２回　小学校英語教育実習授業
8 第２回　小学校英語教育実習授業体験
9 第３回　小学校英語教育実習授業
10 第３回　小学校英語教育実習授業
11 第３回　小学校英語教育実習授業体験
12 第４回　小学校英語教育実習授業
13 第４回　小学校英語教育実習授業
14 第４回　小学校英語教育実習授業体験
15 総括
「指導目標･授業､･評価の　体化」

授業の方法

理論､ワークショップでの授業法体験を活かし､自らが活動案を作成､実際小学校現場での英語活動を支援する。

準備学修

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強　　成美堂
「小学校英語の教育法 理論と実践.」アレン玉井光江　大修館書店

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標

本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の連携が図れる「外国語教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使えない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か?　本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実際を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

授業計画

1 小学校英語教育
2 言語習得理論
3 教授法の理論的背景（1）
4 教授法の理論的背景（2）
5 発表（1）All in Englishでの授業
6 教授法の理論的背景（3）
7 教授法の理論的背景（4）
8 ４技能（1）
9 ４技能（2）
10 発表（2）　リスニングとスピーキングの授業
11 ４技能（3）
12 ４技能（4）
13 発表（3）　リーデングとライティング
14 評価
15 これからの小学校英語　中学･高校との連携

授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

準備学修

項目・内容について下調べをしておくこと。テキストの該当章を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、プレゼンテーションを行う。評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

小学校英語の教育法　　理論と実践　アレン玉井光江　大修館書店

参考図書

現代英語教授法総覧　　田崎清忠編集責任者　大修館書店

留意事項

参考図書、参考文献をあらかじめ読んでおくこと

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教職概論（中高）			13809	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭　中学校教頭　小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に着けることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2 教員の服務と義務
3 学校制度の変遷と教員養成
4 公教育の目的と教員の役割
5 学校の組織と運営における教員の役割
6 教員の研修の意義と制度
7 教員に求められる資質能力
8 教科と教科外の指導
9 教師力と教員の評価
10 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11 地域社会との連携における教員の役割
12 教員の人権感覚
13 チーム学校の在り方と危機管理
14 教職とボランティア活動の関係
15 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、教育関連の情報を積極的に収集すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回、授業のレジメや資料を整理保存し、最後に講義メモを添えて提出してもらいます。

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教職概論（キッズ）			13809	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員に求められる資質能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育や就学前教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員・保育士・指導員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師・保育者・指導員像を明確にもつようにする。

授業計画

1 「教職概論」科目の特性と概要
2 教職の意義
3 幼稚園教育と小学校教育
4 教員の歴史､女性と教職
5 学校の組織と運営
6 教員の職務内容
7 教員に課せられる服務上･身分上の義務と身分保障
8 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9 国際化･情報化と教員の役割
10 学校における社会体験とキャリア教育
11 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12 特別な支援を要する幼児･児童への対応
13 学校(園)･地域･家庭の連携と役割
14 チーム学校の意義と実際について
15 今後の教員に求められる資質･能力(専門職としての教員)まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①リフレクションシートや課題レポートの提出を２回求め、講義中にフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点の減点とする。

テキスト

古橋和夫（編）『新訂　教職入門　未来の教師に向けて』2018年（株）萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著　『新しい時代の教職入門』改訂版　有斐閣アルマ　文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員・保育士・指導員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育・学校心理学	ET		13815	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

1 幼児､児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2 幼児､児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3 幼児､児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4 幼児期から青年期において､社会性の発達
5 幼児期から青年期における現代の発達課題
6 認知発達､認知機構の変遷
7 主体的な学びの開発と体系化
8 主体的､対話的で深い学びの実践例
9 学習内容､発達に応じた適切な学習形態
10 動機づけ､意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12 学習成果の可視化
13 主体的な学習､思考力を育む学習集団
14 発達障害の理解と支援
15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濵田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』　株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）			13854	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純／堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事			

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。そして、教育課程における「総合的な学習の時間」の模擬編成に取り組む。

授業計画

1 はじめに､教育課程とは
2 教育課程に関する法律
3 教育課程の歴史(学習指導要領の変遷)
4 総合的な学習の時間について
5 総合的な学習の時間の実践事例Ⅰ
6 総合的な学習の時間の実践事例Ⅱ
7 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント
8 地域社会との連携と総合的な学習の時間のあり方
9 各学校種における教育課程(幼稚園､小学校)
10 各学校種間における教育課程(中学校､高等学校､特別支援学校)
11 教育課程の編成と評価
12 学校種間の連携･部活動と教育課程
13 今日的な課題と教育課程
14 諸外国の教育課程(欧米･中･韓)
15 教育課程の模擬編成演習とプレゼンテーション､まとめ

授業の方法

毎回レジメを配布し、授業を行う。

準備学修

図書館等で、日本や諸外国の教育制度等の参考文献を調べておく

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％

欠席について

事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総則編）最新版
中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編　教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編　教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編　教育出版

留意事項

配布したレジメや資料をファイルしてくこと

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp
toga@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育方法論	ET		13851	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事 文科省中央教育研修会参加、文科省海外派遣教員			

授業の到達目標
子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、情報機器や教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要
学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

授業計画
1 教育方法学の歴史
2 カリキュラム論
3 学習指導要領について
4 教育課程と教科外(総合的な学習の時間､特別活動)の授業の役割
5 教科書と学校教育の関係
6 授業の構造論
7 学校における集団学習の意義と方法(組織､計画､指導体制)
8 教育技術論
9 情報教育の内容と構成について
10 授業の方法と実践について
11 学力と教育評価について
12 特別支援教育･人権教育
13 模擬授業実践と考察(特別の教科･道徳)
14 模擬授業実践と考察(特別活動)
15 模擬授業による実践と考察･まとめ

授業の方法
毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

準備学修
中学校学習指導要領（総則編）を読んでおくこと

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

欠席について
やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

テキスト
文部科学省編　「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

留意事項
授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

教員連絡先
mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育経営論（中高）			13853	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	中学校教育研究会研究部会長　中学校長 神戸市教育委員会指導主事　神戸市公開異人館副館長			

授業の到達目標
社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みかの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

授業計画
1 学校教育と公教育について
2 教育行政の仕組みについて
3 教育改革の歴史概要
4 学校教育における法制度について
5 学校の組織と運営について
6 学校における教員の在り方について
7 学校経営と教師力
8 学校と地域の連携について
9 学校教育の評価について
10 変容する子どもの生活と教育的な課題
11 安全教育･安全管理の取り組み
12 学級経営の効果的な指導法について
13 災害時に学校が果たす役割について
14 学校における危機管理のあり方
15 開かれた学校づくりについて･まとめ

授業の方法
毎回配布したレジメを中心に授業を進める。
レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修
世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

欠席について
やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト
授業中に配布するレジメや資料をファイルしておくこと

参考図書
必要に応じて、随時紹介する。

留意事項
出席と授業態度、レポートを重視する。

教員連絡先
mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるきるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

授業計画

1 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4 カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7 カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
14 不登校などの問題を　人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。
講義後に試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等		13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭　中学校教頭　小学校校長			

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養う。

授業の概要

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して模擬授業を行う。さらに、今後の道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

授業計画

1 はじめに・道徳教育の基礎理論
2 道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
3 道徳教育の歴史(戦後～現代)
なぜ「特別の教科」なのか
4 「特別の教科」道徳の目標について
5 道徳教育と教育課程の関連について
6 生徒の心理と道徳教育の関わり
7 学校における道徳教育指導体制
8 道徳教育の指導計画について
9 道徳教育指導法(内容項目の詳細)
10 道徳教指導法(指導案の書き方)
11 道徳教育指導法(ロールプレイ)
12 保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
13 中学校・高等学校における道徳教育
14 諸外国の道徳教育事情
15 道徳教育の今日的な課題、まとめ

授業の方法

レジメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

準備学修

過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

テキスト

文部科学省編「中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）」最新版

参考図書

神戸市立中学校の道徳の教科書「中学道徳 あすを生きる」１・２・３・年用（日本文教出版）

留意事項

授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	a		13806	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	1	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC（R） Listening & Reading Testスコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語と読解力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1 Unit 01 人物の動作と状態／表・用紙
2 Unit 02 疑問詞を使った疑問文／広告、単語テスト１
3 Unit 03 日常場面での会話／品詞、単語テスト２
4 Unit 04 アナウンス・ツアー／動詞、単語テスト３
5 Unit 05 物の状態と位置／チャット、単語テスト４
6 Unit 06 基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール、単語テスト５
7 Unit 07 電話での会話／代名詞・関係代名詞、単語テスト６
8 Unit 08 ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞、単語テスト７
9 Unit 09 Yes/No疑問文／ダブルパッセージ（２つの文書）、単語テスト８
10 Unit 10 オフィスでの会話１／Part ５の復習、単語テスト９
11 Unit 11 留守番電話／トリプルパッセージ（３つの文書）、単語テスト10
12 Unit 12 オフィスでの会話２／Part ７の復習、単語テスト11
13 Unit 13 Part １とPart ２の復習／時制・代名詞・語彙問題、単語テスト12
14 Unit 14 トーク・スピーチ・会議の　部／つなぎ言葉・文の挿入、単語テスト13
15 復習、期末試験

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から２点減点する。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC L&R Test（桐原書店）、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。毎回、英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	b		13806	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1	著書・訳書・大学英語教科書執筆			

授業の到達目標

TOEIC（R） Listening & Reading Testにおいて、スコア470点を取ることを目標とする。そのために語彙力、リスニング力、文法力、読解力を向上させるとともに、英文を「聞く、読む、解答する」量と速さに慣れて実践力を養う。またTOEFL受験の基礎英語力強化も目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

授業の概要

映画のストーリーを楽しみながら、英語力をさまざまな角度から身につけていく。各ユニットにおいて音声変化の現象を段階的に学んで理解していくとともに、Dictationコーナーで正しく聞き取れなかった理由を把握してリスニング能力のアップにつなげる。またテーマとなる基本的重要語句を習得して語彙力を鍛え、文法の基本的事項を網羅的に確認して理解の定着を図る。さらにPart ６ やPart ７においては原作と映画の違いを考察したり、映画が制作された時代背景や映画に関するエッセイを読んで読解力を向上させ、この映画に対する理解を深めていく。

授業計画

1 Introduction
2 Act 1 On the Kansas Prairies
3 Act 2 Running Away
4 Act 3 Over the Rainbow
5 Act 4 Start at the Beginning
6 Act 5 If I Had a Brain
7 Act 6 If I Had a Heart
8 Review, Mid Term
9 Act 7 If I Had a Nerve
10 Act 8 Knock, and It Shall Be ...
11 Act 9 You Must Prove Yourselves
12 Act 10 The Witch's Castle
13 Act 11 Go in There for Dorothy
14 Act 12 Lost and Found
15 Review, Final Exam

授業の方法

リスニングとリーディングの問題演習や、音読・ディクテーションなどの作業が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
Quizや試験のフィードバックを講義中に行う。

欠席について

欠席１回につき、平常点から２点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

Kay Nakago et al.「名作映画でTOEIC （４）めざせ！470」『オズの魔法使』［Boost your skills for the TOEIC Test with The Wizard of Oz］EIHOSHA

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

授業には辞書（紙版/電子辞書）を必ず持参すること

教員連絡先

irie@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2	a		13807	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1	企業英語研修講師			

授業の到達目標

TOEIC（R） Listening & Reading Test スコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の　助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1 ガイダンス、【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
2 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト1
3 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト2
4 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト3
5 Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト4
6 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト5
7 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト6
8 【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト7
9 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト8
10 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト9
11 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト10
12 Part 3 対策、Part 7（2つの文書）対策／単語テスト11
13 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト12
14 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト13
15 Part 7（2つの文書）対策／単語テスト14、期末試験

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については　定の比率で減点する。

テキスト

公式TOEIC（R） Listening & Reading問題集３（IIBC）
TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・ダウンロード音声、テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 2	b		13807	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1	企業英語研修講師			

授業の到達目標

TOEIC（R） Listening & Reading Testスコア460点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語と読解力）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1 Unit 01 人物の動作と状態／表・用紙
2 Unit 02 疑問詞を使った疑問文／広告
3 Unit 03 日常場面での会話／品詞
4 Unit 04 アナウンス・ツアー／動詞
5 Unit 05 物の状態と位置／チャット
6 Unit 06 基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール
7 Unit 07 電話での会話／代名詞・関係代名詞
8 Unit 08 ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞
9 Unit 09 Yes/NO疑問文／ダブルパッセージ（2つの文書）
10 Unit 10 オフィスでの会話１／Part 5 の復習
11 Unit 11 留守番電話／トリプルパッセージ（3つの文書）
12 Unit 12 オフィスでの会話２／Part 7 の復習
13 Unit 13 Part 1 とPart 2 の復習／時制・代名詞・語彙問題
14 Unit 14 トーク・スピーチ・会議の　部／つなぎ言葉・文の挿入
15 復習、期末試験

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については　定の比率で減点する。

テキスト

Mastery Drills for the TOEIC L&R Test（桐原書店）
TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ（朝日新聞出版）

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。毎回、英和辞書（紙版、電子辞書）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
TOEIC/TOEFL 1	ET		13822	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

授業の到達目標

TOEIC（R） Listening & Reading Test スコア600点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の　助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

授業計画

1 ガイダンス、【TEST 1 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策
2 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト1
3 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト2
4 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト3
5 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト4
6 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト5
7 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト6
8 【TEST 2 使用】Part 1 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト7
9 Part 2 対策、Part 7（1つの文書）対策／単語テスト8
10 Part 2 対策、Part 5 対策／単語テスト9
11 Part 3 対策、Part 5 対策／単語テスト10
12 Part 3 対策、Part 7（複数文書）対策／単語テスト11
13 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト12
14 Part 4 対策、Part 6 対策／単語テスト13
15 Part 7（複数文書）対策、期末試験

授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

公式TOEIC（R） Listening & Reading問題集6（IIBC）、TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ（朝日新聞出版）以上2冊の購入については初回授業で案内する。

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
英検2級			13848	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	1	著書執筆、専門学校講師			

授業の到達目標

英検2級合格を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

英検2級過去問を授業内で解きながら傾向に応じた対策をしつつ、英語力を身につける。

授業計画

1 ガイダンス、2019年第3回大問2、Listening Part 1
2 2019年第3回大問3、Listening Part 2
3 2019年第3回大問1、4、Listening Part 1
4 2020年第1回大問2、Listening Part 1
5 2020年第1回大問3、Listening Part 2
6 2020年第1回大問1、4、Listening Part 2
7 2020年第2回大問2、Listening Part 1
8 2020年第2回大問3、Listening Part 1
9 2020年第2回大問1、4、Listening Part 2
10 2019年第2回大問2、Listening Part 1
11 2019年第2回大問3、Listening Part 2
12 2019年第2回大問1、4、Listening Part 2
13 2019年第1回大問1～3、二次試験対策
14 2019年第1回Listening Part 1～2、二次試験対策
15 総まとめ、復習、期末テスト

授業の方法

英検2級1次試験で問われる語彙・読解・リスニング・ライティングの各分野に必要な力と、二次試験で問われるスピーキング力を身につけるため、過去に出題された問題を大量演習する。また正解の導き方や得点につながる書き方・答え方を身につける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

テキスト

2021年度版英検2級過去問レビュー（河合出版）購入に関しては初回授業で案内する。

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

教員連絡先

izumi@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光英検3級	ET		13845	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
國本 恵理香	選択	1	ホテル勤務			

授業の到達目標

観光英語検定試験３級を受験する際に必要となる語彙・文法を確認しながら、読解・リスニング力を深めるために資格取得に向けた演習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

毎回、基本的に観光に特化したテキストの　つのユニットを行い、様々な場面での専門用語の習得を目指す。試験に合格するための対策として過去の観光英検３級の問題演習も随時採り入れながら、観光・旅行に必要となる英語表現と語彙を半期でマスターすることを目標とする。

授業計画

1 Introduction
2 Unit 1 Travel
3 Unit 2 Jobs and People
4 Unit 3 Getting on the Plane
5 Unit 4 At the Immigration and Customs
6 Unit 5 At the Airport
7 Unit 6 Hotel(Accomodations)
8 Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food)
9 Unit 8 Sightseeing
10 Unit 9 Shopping
11 Unit 10 Transportation
12 Unit 11 Problems and Complaints
13 Additional Unit Traveling in Japan
14 観光英検３級過去問題(模擬試験)
15 まとめ､定期試験

授業の方法

毎回、１ユニットの演習問題と過去の試験問題を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、模擬試験20％、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき、平常点と定期試験より算出した評価点から２点減点する。

テキスト

English for Tourism Basic, Sanshusha、他にハンドアウトを配布する。

参考図書

山口百々男著　全国語学ビジネス観光教育協会編『観光英検３級の過去問題　解答と解説』三修社
『観光のための初級英単語と用例-観光英検３級～２級対応』三修社

留意事項

英和辞書（紙版/電子辞書）必携

教員連絡先

kunimoto@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光英検2級	ET		13846	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1	観光案内通訳・ガイド			

授業の到達目標

英語の　般的能力だけでなく、観光・旅行分野の英語力を身につけ、観光英語検定試験２級の取得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行客に対応する職業では国際人としての高い英語力が求められている。授業では、その基本ともいうべき旅行や観光に関連する専門用語や独特の表現などを習得する。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら筆記とリスニング両面から観光英検２級対策を行う。

授業計画

1 オリエンテーション
2 観光英語キーワード演習１､観光英検２級(観光用語)
3 観光英語キーワード演習２､観光英検２級(写真説明)
4 観光英語キーワード演習３､観光英検２級(英語コミュニケーション)
5 観光英語キーワード演習４､観光英検２級(イラスト説明)
6 観光英語キーワード演習５､観光英検２級(英文構成)
7 観光英語キーワード演習６､観光英検２級(英語コミュニケーション)
8 観光英語キーワード演習７､観光英検２級(英文読解)
9 観光英語キーワード演習８､観光英検２級(状況把握)
10 観光英語キーワード演習９､観光英検２級(海外･国内の観光と文化)
11 観光英語キーワード演習10､観光英検２級(観光･旅行事情)
12 観光英語キーワード試験､観光英検過去問２級
13 観光英検過去問２級
14 観光英検過去問２級
15 Review､定期試験

授業の方法

実践演習問題、解説を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
適宜キーワードと過去問の復習試験を組み入れ、フィードバックは講義中に行う。

欠席について

欠席１回につき、平常点から２点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編　『観光英語検定試験　問題と解説　２級』　研究社。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

山口百々男著　全国語学ビジネス観光教育協会観光英検センター編『観光のための初級英単語と用例　観光英検３級～２級対応』三修社、その他については適宜紹介する。

留意事項

配布するハンドアウトはきちんとファイリングをし、試験に備えて繰り返し復習をすること。このクラスは観光英語検定３級相当以上の英語力を有している者が対象である。

教員連絡先

irie@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
観光英検１級	ET		13847	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	2	観光案内通訳・ガイド			

授業の到達目標

観光・旅行業に必要な実務英語力とコミュニケーション能力を身につけ、観光英語検定試験１級の取得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行客に対応する職業に必要不可欠な国際人としての英語力全般を高め、専門用語・表現に習熟して具体的かつ実践的な対応力を養っていく。さらに語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら観光英検１級対策を行う。

授業計画

1 オリエンテーション
2 日本地理基礎知識＆観光名所１、観光英検過去問１級
3 日本地理基礎知識＆観光名所２、観光英検過去問１級
4 日本地理基礎知識＆観光名所３、観光英検過去問１級
5 日本地理基礎知識＆観光名所４、観光英検過去問１級
6 日本地理基礎知識＆観光名所５、観光英検過去問１級
7 日本地理基礎知識＆観光名所６、観光英検過去問１級
8 Review、Mid Term
9 世界地理基礎知識＆観光名所７、観光英検過去問１級
10 世界地理基礎知識＆観光名所８、観光英検過去問１級
11 世界地理基礎知識＆観光名所９、観光英検過去問１級
12 世界地理基礎知識＆観光名所10、観光英検過去問１級
13 世界地理基礎知識＆観光名所11、観光英検過去問１級
14 世界地理基礎知識＆観光名所12、観光英検過去問１級
15 Review、定期試験

授業の方法

実践演習問題、解説を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%
過去問・模擬試験のフィードバックは講義中に行う。

欠席について

欠席１回につき、平常点から２点減点する。その他は学内の規定に準じる。

テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編『第39回観光英語検定試験１級筆記・リスニング試験問題』。他にハンドアウトを配布する。

参考図書

山口百々男著　全国語学ビジネス観光教育協会編『観光のための中級英単語と用例　観光英検２級～１級対応　』三修社、その他については適宜紹介する。

留意事項

配布するハンドアウトはきちんとファイリングをし、試験に備えて繰り返し復習すること。このクラスを受講するには観光英語検定２級、あるいは英語検定２級相当の英語力が必要である。

教員連絡先

irie@kaisei.ac.jp

現代人間学部　心理こども学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標
家族やその生活の研究に必要な基礎知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
家族への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この演習では、女性の晩婚化、少子化、仕事と家族的責任（育児や介護等）の調和、親子関係、きょうだい関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに、学際的に接近したい。まず演習Ⅰでは、家族社会学を中心とした家族研究の基礎知識を身に付ける。歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶ。

授業計画
1 家族とは
2 家族研究の方法　1
3 家族研究の方法　2
4 研究テーマの設定
5 文献･資料の収集と整理
6 家族の研究論文を読む　1
7 家族の研究論文を読む　2
8 家族の研究論文を読む　3
9 家族の研究論文を読む　4
10 個人研究の発表　1
11 個人研究の発表　2
12 個人研究の発表　3
13 個人研究の発表　4
14 現代の家族問題
15 まとめ

授業の方法
プレゼンテーションやディスカッションを多くとりいれる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について
欠席１回につき２点減点する。

テキスト
なし。

参考図書
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項
「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先
yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標
人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネージメント、アンガーマネージメント等、子ども（人）を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要
益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

授業計画
1 オリエンテーション
2 ケーススタディーその１子ども
3 ケーススタディーその２子ども
4 ケーススタディーその３保護者等
5 ケーススタディーその４保護者等
6 共有するテーマの絞り込みその１
7 共有するテーマの絞り込みその２
8 各自が研究の方向性について報告･意見交換その１
9 各自が研究の方向性について報告･意見交換その２
10 kj法によるテーマ分類１小表札討議
11 kj法によるテーマ分類２中表札討議
12 グループ発表準備１
13 グループ発表準備２
14 発表会
15 総括

授業の方法
講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

準備学修
日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

欠席について
学内規定に準ずる

テキスト
必要に応じて紹介する

参考図書
必要に応じて紹介する

留意事項
自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求めることがある。

教員連絡先
shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標
乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、新たな知識と確かな情報を得る。適切な先行文献を選定することを通して、要約し考察する力と、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
課題文献・資料を講読し、発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出す。考察力や伝える力、記録する力を高める　つの方法として、栽培活動や教材制作を行い、ドキュメンテーションを作成し、学習成果を検証する。そして、自分の研究したい内容や方向性に見通しをもつようにする。

授業計画
1 オリエンテーション
2 自然体験に関する課題文献・資料の講読
3 文化体験に関する課題文献・資料の講読
4 ドキュメンテーションとポートフォリオ、ラーニング・ストーリーについて
5 特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
6 防災教育に関する課題文献・資料の講読
7 認定こども園、小規模保育所に関する課題文献・資料の講読
8 食育に関する課題文献・資料の講読
9 乳幼児教育におけるESDとSDGs
10 課題の調査と発表①
11 課題の調査と発表②
12 課題の調査と発表③
13 課題の調査と発表④
14 文献検索の方法と実際について
15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法
講義とディスカッションを中心とする。学生が作成した資料にもとづく発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気付き、新たな課題を得られるようにする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
②平常点70％、定期試験30％

欠席について
欠席１回につき５点の減点、遅刻１回につき２点の減点とする。

テキスト
必要に応じて提示、紹介する。

参考図書
必要に応じて提示、紹介する。

留意事項
自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先
mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標
心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なﾃﾞｰﾀに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要
様々な心理臨床領域における心理学論文の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画
1 オリエンテーション
2 全員で共通の文献講読１
3 全員で共通の文献講読２
4 全員で共通の文献講読３
5 共同研究のためのリサーチの準備
6 リサーチ・結果の処理・データ入力
7 リサーチ・結果の処理・データ入力
8 リサーチ・結果の処理・データ入力
9 リサーチ・結果の処理・データ入力
10 リサーチ・結果の処理・データ入力
11 リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
12 共同研究の発表の準備
13 共同研究の発表の準備
14 共同研究の発表の準備
15 全体の振り返りと、個人のテーマの評価

授業の方法
教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

欠席について
　回の欠席につき５点、遅刻は２点の減点とする。５回を超える欠席は不合格とする。

テキスト
適宜紹介する。

参考図書
適宜紹介する。

留意事項
課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先
nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅰ	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

教育・保育について、文献を読んで協議したり、実技研修や領域に関わる研修をしたりする中で、幼児期の教育・保育の重要性を認識するとともに、研究の方法と方向性を見出していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児期にふさわしい園生活の展開等について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の読後感想発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。

授業計画

1 オリエンテーション
　演習の取組について
2 幼児期の教育についての資料を読み､協議する
3 「幼稚園の生活･四季を感じて」①グループで教材作成
4 「幼稚園の生活･四季を感じて」②グループで教材作成
5 「幼稚園の生活･四季を感じて」③グループで発表し協議
6 「幼稚園の生活･四季を感じて」④グループで発表し協議
7 図書館の利用と情報検索について
8 幼児教育に関する文献を読んで協議①
9 幼児教育に関する文献を読んで協議②
10 幼児教育に関する文献を読んで協議③
11 研究の意義と方法について①
12 研究の意義と方法について②
13 研究の意義と方法について③
14 研究の意義と方法について④
15 まとめ･演習Ⅱに向けて

授業の方法

収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる・協議する・発表するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上をめざす授業とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

１回の欠席につき５点減点し、遅刻は２点減点する。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する

参考図書

授業内で随時紹介する。

留意事項

主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。学外ボランテイァや幼稚園行事等に積極的に参加すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族研究の基礎を学び、卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

演習Ⅰに引き続き、家族研究のための基礎知識を学ぶ。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、家族やその生活についての理解を深める。

授業計画

1 現代家族の問題
2 先行研究を学ぶ　1
3 先行研究を学ぶ　2
4 先行研究を学ぶ　3
5 先行研究を学ぶ　4
6 先行研究を学ぶ　5
7 先行研究を学ぶ　6
8 調査･研究の報告　1
9 調査･研究の報告　2
10 調査･研究の報告　3
11 調査･研究の報告　4
12 調査･研究の報告　5
13 調査･研究の報告　6
14 調査･研究の報告　7
15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50％、定期試験50％

欠席について

欠席１回につき２点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	必修	2	公立学校教員、学校心理士SV、臨床心理士			

授業の到達目標
科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要
共同研究として、　つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

授業計画
1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
2 各自の興味関心を聞き合う。
3 各自の興味関心の集団討議
4 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
5 研究計画・文献・資料に関する指導１
6 研究計画・文献・資料に関する指導２
7 研究計画・文献・資料に関する指導３
8 研究テーマの検討と討議１
9 研究テーマの検討と討議２
10 研究テーマの検討と討議３
11 各自の研究進捗報告会１
12 各自の研究進捗報告会２
13 各自の研究進捗報告会３
14 卒業研究に向けての質問会
15 まとめ

授業の方法
グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

準備学修
先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

課題・評価方法、その他
平常点70%、定期試験30%

欠席について
学内規定に準ずる

テキスト
必要に応じて紹介する。

参考図書
必要に応じて紹介する。

留意事項
ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

教員連絡先
shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標
演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要
各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立て、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画
1 演習Ⅱの進め方について
2 質問紙法について
3 非構造的面接法について
4 概念抽出までの手続き
5 研究活動における倫理
6 実地研修①
7 実地研修②
8 実地研修のまとめ③
9 ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
10 研究マップ発表
11 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13 仮研究テーマでのミニ論文発表③
14 研究計画、研究方法の検討
15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法
伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。
②平常点70％、定期試験30％

欠席について
欠席１回につき５点の減点、遅刻１回につき２点の減点とする。

テキスト
必要に応じて提示、紹介する。

参考図書
『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項
提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先
mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なﾃﾞｰﾀに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

1 オリエンテーション
2 共同研究発表の準備
3 共同研究発表の準備
4 共同研究発表の準備・反省会
5 各自のリサーチ発表１
6 各自のリサーチ発表２
7 各自のリサーチ発表３
8 研究法・手続きについての話し合い１
9 研究法・手続きについての話し合い２
10 各自のリサーチ発表４
11 各自のリサーチ発表５
12 各自の研究計画の立案と発表４
13 各自の研究計画の立案と発表５
14 卒業研究発表・質疑応答の練習
15 まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

欠席について

欠席は１回につき５点、遅刻は２点の減点とする。５回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして、研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究について学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じたテーマを見出せるように、段階を追って授業を行う。

授業計画

1 演習Ⅱの進め方について共通理解する
2 課題レポートの推敲をし､考察を深めて再作成する①
3 課題レポートの推敲をし､考察を深めて再作成する②
4 秋をテーマに保育を考えてみよう①
5 秋をテーマに保育を考えてみよう②
6 秋をテーマに保育を考えてみよう③
7 秋をテーマに保育を考えてみよう④
8 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する①
9 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する②
10 教育実習での学びを研究テーマに活かす①
11 教育実習での学びを研究テーマに活かす②
12 卒業研究に向けて見通しを立てる①
13 卒業研究に向けて見通しを立てる②
14 卒業研究に向けて見通しを立てる③
15 演習Ⅱを振り返り､学びの確認をする

授業の方法

文献熟読後のレポート作成を中心にしつつ、教材研究・教材作成・模擬保育なども取り入れて、主体的に取り組みをめざす授業をする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるレポート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点50％　定期試験50％

欠席について

１回の欠席につき５点の減点とし、遅刻は２点減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために、主体的に文献等の収集などに努めること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標
卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の３分の１を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

授業計画
1 卒業研究テーマの確認
2 卒業研究の方法等の確認
3 卒業研究の執筆手順
4 卒業研究中間報告　1
5 卒業研究中間報告　2
6 卒業研究中間報告　3
7 卒業研究中間報告　4
8 卒業研究中間報告　5
9 卒業研究中間報告　6
10 卒業研究中間報告　7
11 卒業研究中間報告　8
12 卒業研究中間報告　9
13 卒業研究中間報告　10
14 今後の研究の進め方
15 まとめ

授業の方法
プレゼンテーションやディスカッションを多くとりいれる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50％、定期試験50％

欠席について
欠席１回につき２点減点する。

テキスト
なし。

参考図書
授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先
yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	必修	2	公立学校教員　学校心理士SV　臨床心理士			

授業の到達目標
演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要
研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見通しをもつようにする。

授業計画
1 演習Ⅲの進め方について
2 卒業研究･論文のまとめ方について
3 研究対象と調査期間について
4 研究方法と分析方法について
5 調査の進捗報告と討議＜外１＞
6 調査の進捗報告と討議＜外２＞
7 各自の先行文献調査のまとめ＜外１＞
8 各自の先行文献調査のまとめ＜外２＞
9 [問題と目的]の発表･討議＜外１＞
10 [問題と目的]の発表･討議＜外２＞
11 [研究方法]の発表･討議＜外１＞
12 [研究方法]の発表･討議＜外２＞
13 仮説と今後の見通しについて発表･調整＜外１＞
14 仮説と今後の見通しについて発表･調整＜外２＞
15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法
各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70％、定期試験30％

欠席について
欠席１回につき５点減点、遅刻１回につき２点減点とする。

テキスト
必要に応じて適宜紹介する。

参考図書
必要に応じて適宜紹介する。

留意事項
各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先
shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して研究テーマに迫るため、的確なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見通しをもつようにする。

授業計画

1 演習Ⅲの進め方について
2 卒業研究・論文のまとめ方について
3 研究対象と調査期間について
4 研究方法と分析方法について
5 調査の進捗報告と討議①
6 調査の進捗報告と討議②
7 各自の先行文献調査のまとめ①
8 各自の先行文献調査のまとめ②
9 ［問題と目的］の発表・討議①
10 ［問題と目的］の発表・討議②
11 ［研究方法］の発表・討議①
12 ［研究方法］の発表・討議②
13 仮説と今後の見通しについて発表・調整①
14 仮説と今後の見通しについて発表・調整②
15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への助言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70％、定期試験30％

欠席について

欠席１回につき５点減点、遅刻１回につき２点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なﾃﾞｰﾀに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

授業計画

1 オリエンテーション
2 リサーチ１・発表・ディスカッション１
3 リサーチ２
4 リサーチ３
5 リサーチ４
6 各自の研究の問題と目的について設定・発表
7 各自の研究の研究法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション１
8 進行報告２
9 進行報告３
10 調査報告１
11 調査報告２
12 調査報告３
13 結果のまとめ方について１
14 結果のまとめ方について２
15 結果のまとめ方について３

授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究法や分析の方法についても復習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

欠席１回につき５点、遅刻１回につき２点の減点とする。５回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を育成する。

授業の概要

研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

授業計画

1 研究テーマと研究方法の確認（1）
2 研究テーマと研究方法の確認（2）
3 研究計画の立案（1）
4 研究計画の立案（2）
5 各自の研究内容について発表とディスカッション（1）
6 各自の研究内容について発表とディスカッション（2）
7 各自の研究内容について発表とディスカッション（3）
8 各自の研究内容について発表とディスカッション（4）
9 各自の研究内容について発表とディスカッション（5）
10 研究の進捗状況について報告（1）
11 研究の進捗状況について報告（2）
12 研究の進捗状況について報告（3）
13 研究の進捗状況について報告（4）
14 まとめと今後の展望（1）
15 まとめと今後の展望（2）

授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき５点減点とし、遅刻は２点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

留意事項

研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

1 演習と卒業研究の進め方
2 研究発表と質疑応答　1
3 研究発表と質疑応答　2
4 研究発表と質疑応答　3
5 研究発表と質疑応答　4
6 研究発表と質疑応答　5
7 研究発表と質疑応答　6
8 研究発表と質疑応答　7
9 研究発表と質疑応答　8
10 研究発表と質疑応答　9
11 研究発表と質疑応答　10
12 卒業研究の要約
13 卒業研究の修正
14 卒業研究の発表
15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50％、定期試験50％

欠席について

欠席１回につき２点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

1 分析結果報告･仮説の検証①
2 分析結果報告･仮説の検証②
3 分析結果と考察①
4 分析結果と考察②
5 分析結果と考察③
6 分析結果と考察④
7 分析結果と考察⑤
8 研究のまとめと総合考察①
9 研究のまとめと総合考察②
10 今後の課題について
11 分析結果　覧表の作成
12 卒業研究の校正①
13 卒業研究の校正②
14 最終報告とまとめ①
15 まとめ②を行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席１回につき５点減点、遅刻１回につき２点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力する等して、自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）I（知性）E（倫理）を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

1 分析結果報告･仮説の検証①
2 分析結果報告･仮説の検証②
3 分析結果と考察①
4 分析結果と考察②
5 分析結果と考察③
6 分析結果と考察④
7 分析結果と考察⑤
8 研究のまとめと総合考察①
9 研究のまとめと総合考察②
10 今後の課題について
11 分析結果　覧表の作成
12 卒業研究の校正①
13 卒業研究の校正②
14 最終報告と討議
15 まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席１回につき５点減点、遅刻１回につき２点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意欲と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標
心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なﾃﾞｰﾀに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要
卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画
1 調査結果のまとめ１
2 調査結果のまとめ２
3 調査結果のまとめ３
4 結果報告１
5 結果報告２
6 結果報告３
7 結果報告４
8 まとめと考察１
9 まとめと考察２
10 まとめと考察３
11 要約作成･発表１
12 要約作成･発表２
13 要約作成･発表３
14 研究発表１
15 研究発表２

授業の方法
卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について
１回の欠席につき５点、遅刻につき２点の減点とする。５回を超える欠席は不合格とする。

テキスト
受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書
適宜紹介する

留意事項
心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先
nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標
テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究を進め、完成していく。

授業計画
1 研究の進捗状況の確認(１)
2 研究の進捗状況の確認(２)
3 研究の進捗状況の確認(３)
4 研究の報告と討議(１)
5 研究の報告と討議(２)
6 研究の報告と討議(３)
7 研究の報告と討議(４)
8 研究の報告と討議(５)
9 研究の報告と討議(６)
10 研究の報告と討議(７)
11 研究の修正とまとめ(１)
12 研究の修正とまとめ(２)
13 研究の修正とまとめ(３)
14 最終報告とまとめ
15 最終報告とまとめ

授業の方法
各自の報告や全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修
Webで参照すること

課題・評価方法、その他
①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について
１回の欠席につき５点減点とし、遅刻は２点の減点とする。

テキスト
必要に応じて提示、紹介する。

参考図書
「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」フレーベル館

留意事項
自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先
sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
発達心理学			17201	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員、上級教育カウンセラー			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

授業計画

1 精神機能を発生的に把握するということ　生物としての発生
2 精神機能を発生的に把握するということ　遺伝と環境
3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4 知的精神機能の発達:感覚運動期１(新生児期)
5 知的精神機能の発達:感覚運動期２(乳幼児期)・運動の発達
6 知的精神機能の発達:前操作期１(幼児期)・言語の発達
7 知的精神機能の発達:前操作期２(幼児期)　・認知の発達
8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)
学習活動の在り方
10 初期経験と発達:野生児の例から
11 対人関係と発達:愛着､社会性､遊びの発達
12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13 発達研究における生態学的視点
14 発達における障害の位置づけと診断・療育
15 人格としての生涯発達およびまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規則に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編　『人間関係の発達心理学２　乳幼児期の人間関係』培風館
川島　夫、渡辺弥生編著　『図で理解する発達ー新しい発達心理学への招待ー』福村出版　2010

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容総論			17205	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史的変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総括的に乳幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進める。情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

授業計画

1 保育の基本(１)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
2 保育の基本(２)｢幼稚園教育要領｣｢保育所保育指針｣｢幼保連携型認定こども園教育・保育要領｣の重要性について
3 保育内容の歴史的変遷
4 子どもの発達の特性
5 環境を通して行う教育､遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
6 養護と教育､乳児保育､長時間保育
7 保育内容 ５領域､幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
8 遊んでみよう(１)歌って手遊び(教材収集)
9 遊んでみよう(２)歌って手遊び(教材研究)
10 遊んでみよう(３)歌って手遊び(グループ発表)
11 保育の展開(１)発達や学びの連続性､小学校教育との円滑な接続
12 保育の展開(２)保護者との連携､家庭生活との連続性
13 保育の展開(３)子育ての支援､多文化共生の保育
14 保育の展開(４)特別な支援を必要とする子どもの保育
15 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題､定期試験

授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワークやグループディスカッションなどを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①授業内で小テスト等を５回程度実施し、フィードバックを行う。
②ワークシート25％　授業に臨む姿勢25％　定期試験50％

欠席について

欠席１回につき３点減点

テキスト

「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」（永岡書店）「実践！造形あそび」（ナツメ社）

参考図書

幼稚園教育指導資料　第５集「指導と評価に生かす記録」（チャイルド社)
「ようちえん あしたもいきたいな」（全国国公立幼稚園長会）

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
感情・人格心理学			17311	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
淺谷 豊	選択	2	公立高校教諭（過去）、大手前大学学習支援センタ　（現在）勤務、臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個別性を理解することで人間の心に関する理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉がうまれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

授業計画

1 はじめに:人格の定義と歴史
2 人格を理解する観点と理論Ⅰ:理論
3 人格を理解する観点と理論Ⅱ:類型論
4 人格を理解する観点を理論Ⅲ:特性論
5 人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
6 人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
7 人格と関係性
8 人間関係と性格(適性)
9 適性とやる気
10 適応と不適応
11 パーソナリティと不適応
12 交流分析とTEGⅡ他心理査定
13 感情とは何かⅠ一感情に関する理論および感情喚起の機序
14 感情とは何かⅡ　感情の進化と行動に及ぼす影響
15 総括

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を紹介する。

準備学修

授業後の復習が必要である。

課題・評価方法、その他

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席状況及び授業への取り組み態度（20%）、授業後の感想レポート（10%）

欠席について

欠席が５回以上で不合格とする。

テキスト

適宜プリント資料として配布する。

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待　自分を知り他者を理解するために』　サイエンス社

留意事項

「授業」は授業者と学生の相互の協力のもとに成立するものであるから、学生諸君は要望、意見を忌憚なく述べて欲しい。

教員連絡先

yasatani@otemae.ac.jp

オフィスアワー

非常勤のため、特に設けられない。質問等は授業の前後に受け付ける。特に対面を希望する場合は、上記アドレスまでメールにて申し込んで欲しい。できうる限り学生の要望に応えたい。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
臨床心理学概論			17327	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
津田 明子	選択	2	臨床心理士、公認心理師。大学病院心療内科、大学相談室勤務。小中高スク　ルカウンセラ　。			

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史的変遷を概観し、臨床心理学の代表的な理論について学習する。その上で、臨床心理学の実際としての心理アセスメントと基本的な心理療法について学ぶ。そして最終的に、臨床心理学における基礎知識とさらに、臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）について考える。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の成り立ちを歴史的変遷を通して概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の理論（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解するということについて考えてもらう。

授業計画

1 臨床心理学とは
2 臨床心理学の成り立ち
3 こころのしくみとパーソナリティ＜外１＞フロイトの考え方
4 こころのしくみとパーソナリティ＜外２＞ユングの考え方
5 こころの発達理論＜外１＞エリクソンの考え方
6 こころの発達理論＜外２＞クラインの考え方
7 こころの発達理論＜外３＞マーラーの考え方
8 こころの発達理論＜外４＞ウイニコットの考え方
9 臨床心理学の実際ー心理アセスメントについて
10 臨床心理学の実際ー心理療法とは
11 心理療法＜外１＞精神分析療法･分析心理学派
12 心理療法＜外２＞クライエント中心療法
13 心理療法＜外３＞森田療法･内観療法･遊戯療法
14 心理療法＜外４＞芸術療法･認知行動療法･家族療法
15 総括･テスト

授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところなどを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、１回の欠席につき、２点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
知覚・認知心理学			17331	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、また、人の認知・思考等の機序及びその障害についても理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということを、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

1 オリエンテーション
2 人間の知覚的特性:視覚
3 人間の知覚的特性:聴覚
4 人間の知覚的特性:運動感覚と認知
5 人間の知覚的特性:空間知覚
6 注意と記憶１
7 注意と記憶２
8 イメージ処理
9 言語と談話理解１
10 言語と談話理解２
11 推論と問題解決
12 思考と言語１
13 思考と言語２
14 社会的認知
15 まとめと期末テスト

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に実験などの活動を通じて毎時間回答しながら学習をすすめる。レポート作成が課題となる。また小テストも実施する。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、定期試験70％

欠席について

　回の欠席で３点、遅刻で２点の減点とし、５回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』末田啓二編著　あいり出版　2013

留意事項

毎週実験を実施するため、欠席した場合は必ず補習を受け、実験レポートを提出すること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理学統計法			17339	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2				

授業の到達目標

心理学で用いられる統計手法の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味と、統計に関する基礎的な知識について解説する。講義は、できる限り具体的なデータを学生が扱い、実際の統計の手法について触れ、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学んでゆく。

授業計画

1 データの性質について①
2 データの性質について②
3 データの表現
4 代表値と散布度
5 標準化とは何か
6 相関係数とは何か①
7 相関係数とは何か②
8 標本と母集団①
9 標本と母集団②
10 統計的仮設検定の考え方①
11 統計的仮設検定の考え方②
12 ノンパラメトリックな検定
13 平均値の差の検定
14 データの分散と条件の比較
15 試験

授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジメと教科書を用いて学習を進める。

準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は５回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤　郎　2004　よくわかる心理統計　ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫　1993　すぐわかる統計解析　東京図書
吉村寿夫　1998　本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本　北大路書房
田中敏・山際勇　郎　1992　ユーザーのための教育心理統計と実験計画法　教育出版
南原風朝和　2002　心理統計学の基礎　有斐閣

留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

教員連絡先

メール：yasuoka@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか　方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

1 オリエンテーション
2 心理学実験と統計の基礎知識
3 知覚１　　ミューラー･リヤー錯覚
4 知覚２　　ミューラー･リヤー錯覚
5 認知･学習１　鏡映描写
6 認知･学習２　鏡映描写
7 記憶と忘却１
8 記憶と忘却２
9 要求水準１
10 要求水準２
11 イメージの測定(SD法) 1
12 イメージの測定(SD法) 2
13 社会的促進１
14 社会的促進２
15 まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10時間）

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被検者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1 はじめに:心理検査法概論
2 東大式エゴグラム
3 矢田部･ギルフォード性格検査
4 コーネルメディカルインデックス
5 BIG FIVE尺度
6 津守･稲毛式乳幼児発達診断１
7 津守･稲毛式乳幼児発達診断２
8 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
9 新版K式発達検査①
10 新版K式発達検査②
11 新版K式発達検査③
12 WISC知能検査①
13 WISC知能検査②
14 WISC知能検査③
15 総括･期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	児童心理治療施設・児童養護施設の主任セラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

・心理学における調査法の基本的な考え方を理解する。
・実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を身につける。
・このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用い、データ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法について、問題の設定、質問紙の作成、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

1 質問紙法による人間理解
2 質問紙作成の基礎
3 質問紙法の実施方法①
4 質問紙法の実施方法②
5 質問紙法の実施方法③
6 コーディングと入力
7 心理尺度の作成
8 量的資料収集のための質問紙作成①
9 量的資料収集のための質問紙作成②
10 心理尺度の作成
11 データの処理法:質的データの集計
12 データの処理法:平均値の比較
13 データの処理法:相関分析
14 質問紙法の実際
15 質問紙法のまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を教科書を中心に、レジュメ等の資料を基に学びながら、学習を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は５回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

鎌原雅彦・宮下　博・大野木裕明・中澤潤　1998　心理学マニュアル質問紙法　北大路書房

参考図書

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
臨床心理学実習（心理テスト法）			17375	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	1	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スク　ルカウンセラ　（神戸市）			

授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

1 はじめに　心理テスト概論
2 心理検査法実習の復習
3 P-Fスタディ①
4 P-Fスタディ①
5 文章完成法　SCT
6 内田クレペリン作業検査
7 新規検査発達検査④
8 新規検査発達検査⑤
9 WISE知能検査④
10 WISC知能検査⑤
11 バウムテスト
12 風景構成法
13 スクイグル法
14 箱庭療法①
15 箱庭療法②･統括･期末テスト

授業の方法

実習形式で行い、検査結果を分析し、所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

授業中に資料配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

定員20名までとし、超過する場合は資格取得予定者を優先する。
レポート課題の提出は、実習の翌週とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理学的支援法			17383	Ⅲ	秋	20人
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
津田 明子	選択	1	臨床心理士、公認心理師。大学病院心療内科に勤務。 小中高のスク　ルカウンセラ　。大学相談室カウンセラ			

授業の到達目標

本授業では、心理学的支援とは何かについて学ぶ。代表的な心理療法並びに、カウンセリングの歴史、概念、意義、について学び、さらにそれらの適応及び限界についても触れる。また、今後ますます必要になってくると思われる訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の重要性についても学ぶ。そして、心理学的支援を行う上で必要な、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について、プライバシーへの配慮に触れながら実習などを通して学ぶ。心の健康教育の重要性についても考える。このクラスでは、海星パーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

心理学的支援について、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応、及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育、を中心に講義と実習（グループワーク、ペアワーク）を通して心理学的支援とは何かについて学ぶ。

授業計画

1 心理療法とカウンセリング①
2 心理療法とカウンセリング②
3 心理療法とカウンセリング③
4 心理療法とカウンセリング④
5 信頼実習
6 助言の実習
7 心理学的支援におけるプライバシーへの配慮
8 地域支援と訪問支援
9 「宝探しの地図」実習
10 心理学的支援を要する人の関係者に対する支援
11 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション
12 コンセンサスの実習
13 「共感」実習
14 「純粋性」実習
15 心の健康教育

授業の方法

講義と実習（グループ、ペア）を中心とする。実習の後には振り返りを行い、それを基にレポートを提出してもらう。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①グループ実習やペア実習の後には、講義の中で振り返りを行い、レポートの提出を求める。
②平常点70％、定期試験30％にて評価を行う。

欠席について

連絡なしの欠席は大幅な原点の対象とする。

テキスト

特に用いない。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理学研究法			17387	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学における基礎的な研究方法には様々な方法がある。本講義は「心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）」、「データを用いた実証的な思考方法」、「研究における倫理」について学ぶ。実証的な研究方法、データの分析、研究倫理の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

主に心理学における研究方法の基礎知識について学ぶ。研究計画を立て、データを分析し、考察を加えるという基本的な研究の流れと各研究方法について学び、研究する力を養う。

授業計画

1 心理学における研究
2 心理学研究の基礎知識
3 先行研究の調査
4 研究法の概説　量的研究
5 研究法の概説　質的研究
6 心理統計法１
7 心理統計法２
8 実験法
9 調査法
10 観察法
11 面接法
12 研究倫理１
13 研究倫理２
14 研究のまとめ方
15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

三浦麻子　著『心理学ベーシック第１巻　なるほど！心理学研究法』北大路書房

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
社会・集団・家族心理学			17399	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標
人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

授業計画
1 社会心理学とは
2 認知と感情
3 自己概念と自己評価
4 ステレオタイプ
5 態度と態度変化
6 対人関係
7 集団と個人１
8 集団と個人２
9 組織と個人
10 集団行動
11 心と文化１
12 心と文化２
13 家族という集団
14 家族の心理
15 まとめ

授業の方法
講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について
学内の規定に従う。

テキスト
池田謙　・唐沢　穣・工藤恵理子・村本由紀子　著『社会心理学　補訂版』　有斐閣

教員連絡先
nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
生活文化概論			17405	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標
子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要
現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画
1 授業の目的　　生活科を踏まえて考える生活文化概論
2 子ども文化の意義､定義とその構造
3 子どもを取り巻く生活環境の変化
4 子どもを取り巻く生活環境について
5 現代の子どもたちの遊びと生活
6 集団遊びの重要性
7 集団遊びの重要性
　異年齢集団の遊びの重要性
8 自然とのかかわりについて(教室を出ての実際体験)
9 自然の中での遊びの重要性
10 地域､公共物とのかかわりについて
11 児童文化財について
　伝承遊びについて
12 １年を通して､季節の子どもの文化と遊び
13 季節の遊びについて(お正月)
14 子どもを取り巻く「ひと」･「もの」･「こと」
15 まとめ･定期試験

授業の方法
講義・演習・実践により進める。

準備学修
webで参照すること。

課題・評価方法、その他
レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について
出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト
必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書
子どもとあそび　仙田満著　岩波新書
児童文化　皆川美恵子、武田京子著　ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日　萌文書林

留意事項
実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

教員連絡先
shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育・学校心理学	PC		17411	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

1 幼児､児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2 幼児､児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3 幼児､児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4 幼児期から青年期において､社会性の発達
5 幼児期から青年期における現代の発達課題
6 認知発達､認知機構の変遷
7 主体的な学びの開発と体系化
8 主体的､対話的で深い学びの実践例
9 学習内容､発達に応じた適切な学習形態
10 動機づけ､意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12 学習成果の可視化
13 主体的な学習､思考力を育む学習集団
14 発達障害の理解と支援
15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』　株式会社ERP

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子どもの理解と援助			17412	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅田 裕子	選択	1				

授業の到達目標

保育実践において、子ども　人　人の発達や学びを把握することの意義について理解する。子どもが、生活や遊びの中で、何を経験し学んでいくのか、子どもを理解するための基本的な考え方を学ぶ。合わせて子どもの心身の発達や保育実践について学ぶと共に保育における発達援助の基本について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

子どもの発達と学びをとらえ、子どもを理解する際に必要となる様々な視点や方法について、具体的な事例や演習を通して学び、考察する。また特別な配慮を要する子どもへの援助や保幼小の接続、保護者支援など、子どもをめぐる課題についても理解を深めるようにする。

授業計画

1 オリエンテーション
2 子どもの発達と保育実践①　子ども理解における発達の把握
3 子どもの発達と保育実践②　保育者のかかわりと子どもの発達
4 生活や遊びを通した学びの過程①　子どもの生活と学び
5 生活や遊びを通した学びの過程②　子供の遊びと学び
6 保育における発達援助①　基本的生活習慣の獲得と発達援助
7 保育における発達援助②　特別な配慮を要する子どもへの理解と援助
8 まとめ　現代社会における子どもの発達と保育の課題

授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。またグループ討議や意見発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50％　定期試験50％

欠席について

欠席数は成績評価に反映する。

テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

参考図書

保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、幼稚園教育要領解説（フレーベル館）
子ども理解と保育実践（萌文書林）

教員連絡先

asada@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等音楽１	①/②/③/④		17417	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世／由井 敦子	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を修得することがねらいである。子どもの発達や現代の環境等を踏まえ、幅広い表現活動が展開できる保育者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード習得のための音楽理論を中心に、読譜に必要な音楽の基礎知識を学習する。「歌唱・弾き歌い」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるようにするとともに、学習したコードによるコード伴奏での弾き歌いの演習をする。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
2 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
3 音楽表現活動について。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
4 コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
5 コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
6 コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
7 コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
8 コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
9 コード奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10 コード奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13 コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
14 コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15 まとめと試験。

授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
②平常点70％　定期試験30％
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の３項目を実施する。
授業内で行われる歌唱・コード等の小テストは平常点に反映する。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。５回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」（YAMAHA MUSIC MEDIA）
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム１」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

入学時にピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
授業時には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等音楽２	①/②/③/④		17421	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
由井 敦子／南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を高めることがねらいである。子どもの発達や現代の環境をふまえ、幅広い表現活動が展開できる保育者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要

「楽典」については、コード学習に加え、調性やカデンツの学習と演習を重ねる。「歌唱・弾き歌い」については、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。さらに「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を、表情豊かに演奏できるようにピアノ技能を高めていく。その際、各自の目標として定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1 コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
2 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
3 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
4 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
5 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
6 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
7 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
8 コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
9 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12 こどもの発達と歌唱教材。連弾。
13 こどもの発達と歌唱教材。連弾。
14 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
②平常点70％　定期試験30％
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の３項目を実施する。
授業内で行われる連弾・コード等の小テストは平常点に反映する。
③個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。５回を越えると単位修得できない。

テキスト

「マイレパートリー」（YAMAHA MUSIC MEDIA）
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム１」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
児童文学	PC		17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子／宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）（箕野） 私立中学高等学校教員（科目「英語」）（宮副）			

授業の到達目標

初等国語の　貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）
すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）
児童童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの１作品を鑑賞する。（宮副）

授業計画

1 巌谷小波「日本昔噺其　桃太郎」
2 浜田広介「泣いた赤鬼」
3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
4 坪田譲治「河童のはなし」
5 有島武郎「　房の葡萄」
6 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
7 松谷みよ子「貝になった子供の話」
8 英米の児童文学の歴史
9 ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』
10 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
11 R.L.スティーブンソン『宝島』
12 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
13 L.M.オルコット『若草物語』
14 ベアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本
15 アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。（箕野）
演習形式の授業である。学生の担当を決めて発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。（箕野）
平常点15%、小テスト15%、発表、および提出物 30%、レポート40%（宮副）

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）
『たのしく読める英米児童文学』本多英明/桂宥子/小峰和子編著　ミネルヴァ書房（宮副）

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp
miyazoe@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
長谷川 貴子	選択	2				

授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさと多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人の関わりについて検討する。

授業計画

1 はじめに：乳幼児心理学とは
2 胎児の発達
3 身体・運動機能の発達
4 知覚の発達
5 認知・思考の発達
6 情緒の発達
7 ことばの発達
8 自己の発達
9 親子関係の形成と発達Ⅰ：錯覚から脱錯覚へ
10 親子関係の形成と発達Ⅱ：愛着
11 社会性・道徳性の発達
12 子育て・親としての成長と支援
13 乳幼児虐待
14 発達の偏りと支援
15 まとめ

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験（50%）、小レポート（20%）、出席（30%）

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
学習・言語心理学			17447	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身につける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。

授業計画

1 オリエンテーション
2 学習理論１
3 学習理論２
4 学習理論と動機づけ
5 自己とことば１
6 自己とことば２
7 ことばの発達１
8 ことばの発達２
9 ことばの発達３
10 ことばの発達４
11 思考とことば
12 行動のコントロール
13 ことばを育むために
14 ことばにおけるナラティブ理論
15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

毎日30分程度、予習・復習を行う。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

松川利広監修　横山真貴子編著　『子どもの育ちとことば』保育出版社

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等英語科指導法			17467	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「５つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

1 小学校外国語教育の目標･内容（１）年間指導計画と小中高連携
2 小学校外国語教育の目標･内容（２）教材研究と学習指導案作成法
3 小学校外国語教育の目標･内容（３）ICTの効果的な活用法
4 コミュニケーション能力を育成する指導法　ティームティーチング
5 コミュニケーション能力を育成する指導法　発話を促す活動
6 小学校英語教材研究（１）音声習得中心の活動
7 小学校英語指導法（ワークショップ）（１）音声習得中心の活動
8 小学校英語教材研究（２）文字習得中心の活動
9 小学校英語指導法（ワークショップ）（２）文字習得中心の活動
10 小学校英語教材研究（３）表現形式に焦点を当てた活動
11 小学校英語指導法（ワークショップ）（３）表現形式に焦点を当てた活動
12 小学校英語教材研究（４）言語使用の場面･背景（物語）に焦点を当てた活動
13 小学校英語指導法（ワークショップ）（４）物語の場面･背景に焦点を当てた活動
14 小学校英語　模擬授業
15 Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、プレゼンテーション50％、レポート20％

欠席について

３分の２以上の出席が必要。

テキスト

テキスト　『新編　小学校英語教育法入門』樋口忠彦他（編著）研究社
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説　外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let’s Try! １』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	PC		17469	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

1 児童の発達段階にあった英語活動を創る（1）
「活動案作成のポイント」
2 児童の発達段階にあった英語活動を創る（2）
「絵カード･教具･ワークシート作成法」
3 児童の発達段階にあった英語活動を創る（3）
「活動案草案発表」
4 実習授業活動案作成（1）『教材研究』
5 実習授業活動案作成（2）『教具作成』
6 実習授業活動案作成（3）『評価の観点と振り返りカード作成』
7 実習授業活動案発表と模擬授業
8 第１回　小学校英語活動　実習授業
9 実習リフレクション
10 実習授業活動案作成（4）『教材研究･教案発表』
11 実習授業活動案作成（5）『教具作成』
12 実習授業活動案作成（6）『評価の観点と振り返りカード作成』
13 実習授業活動案発表と模擬授業
14 第２回小学校英語活動　実習体験
15 まとめ　授業評価､ポートフォリオ作成

授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

準備学修

教材を作成し､模擬授業の練習をしておくこと

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強　　成美堂
「小学校英語の教育法 理論と実践.」アレン玉井光江　大修館書店

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等音楽３	①/②		17473	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう音楽技能を磨き高めるとともに、教材を研究し、実践する方法を修得する。
この授業ではKAISEIパーソナリティ　のI（知性）とK（思いやり）を身につける。

授業の概要

子どもの歌、生活の歌、季節の歌等を、明瞭な日本語で、コード奏による弾き歌いができるように演習する。また、表現活動のために、音楽の基本となるリズムについての理解を深め、ピアノ演奏や身体表現の音楽が表情豊かに演奏できるよう実践を重ねる。さらに、ピアノでできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習する。

授業計画

1 生活の歌､コード奏による弾き歌い。
2 生活の歌､コード奏による弾き歌い。
3 生活の歌､コード奏による弾き歌い。
4 生活の歌､コード奏による弾き歌い。
5 季節の歌､遊びの歌､教材研究と実践。
6 表現活動のためのピアノの演習｡楽典。
7 場面に応じた音楽の研究。
8 ピアノの特殊効果と変奏。
9 身体表現のための変奏の習得。
10 身体表現のための変奏の習得と発表。
11 表現活動のためのピアノの演習｡楽典。
12 和太鼓の打法と演奏。
13 音楽会プロデュース､計画､指導､演奏の総合演習。
14 音楽会プロデュース､計画､指導､演奏の総合演習。
15 音楽会プロデュース､計画､指導､演奏の総合演習。
16

授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。個人レッスンを行う回もある。

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法、その他

①項目ごとにテストや発表を実施し、フィールドバックを行う。
②平常点70%、定期試験30%　また、レポート提出も求める。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用うること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等音楽４	①/②		17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標
豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。
この授業ではKAISEIパーソナリティ　のI（知性）とA（自律）とS（奉仕）を身につける。

授業の概要
領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて楽譜の書き方を学習し、楽典の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

授業計画
1 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2 わらべうたと子どもの歌など歌唱教材研究と演習。
3 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
4 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
5 打楽器の奏法とリズム合奏。
6 合奏演奏と編曲法。
7 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
8 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
9 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
10 歌唱指導の実践。
11 歌唱指導の実践。
12 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
13 さまざまな表現活動とそのまとめ。
14 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
15 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

授業の方法
実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修
Webを参照すること。

課題・評価方法、その他
①項目ごとにテスト、発表を実施し、フィールドバックを行う。
②平常点70%、定期試験30%　レポート提出も求める。

欠席について
授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト
『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『リズム曲集』（サーベル社）

参考図書
授業時に指示する。

留意事項
初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

教員連絡先
minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用うること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む)	教職小		17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士			

授業の到達目標
幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要
教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画
1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4 幼児期から青年期において、社会性の発達
5 幼児期から青年期における現代の発達課題
6 認知発達、認知機構の変遷
7 主体的な学びの開発と体系化
8 主体的、対話的で深い学びの実践例
9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12 学習成果の可視化
13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14 発達障害の理解と支援
15 まとめと振り返り

授業の方法
講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修
各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%

欠席について
学内規定に準ずる

テキスト
濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』　株式会社ERP

参考図書
授業中に紹介する

留意事項
マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

教員連絡先
shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
ボランティア論			17505	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）社会福祉士			

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に体験活動に参加することを目標とする。また体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践などを織り込みながら、参加のモティベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」など,授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていく。

授業計画

1 オリエンテーション
2 ボランティアの基本理念
3 ボランティアの歴史
4 人と未来防災センター及びJICA関西での実習(土曜日)
5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
6 社会福祉施設等でのボランティア活動
7 地域でのボランティア活動
8 国際社会とボランティア活動
9 環境問題とボランティア活動
10 ボランティア活動の体験(1)
11 ボランティア活動の体験(2)
12 体験活動の記録化と振り返り
13 グループ討議(KJ法による)
14 プレゼンテーション(体験活動の成果)
15 まとめとしての講義の後､ボランティア体験活動のレポート提出を求める

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションや視聴覚教材を取り入れていく。さらにボランティア活動を体験することが重要であり事前学習や事後学習を通じて準備していく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

２日間のボランティア活動記録とレポートによる。また授業への積極的な参加を求めます。

欠席について

欠席が５回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

２日間のボランティア体験活動への参加が必要である。
体験の実践にあたり個別相談や個別指導を第９回～第11回の講義内で行う。

教員連絡先

nishihashi@kaisei.ac.jp

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
図画工作	①/②		17509	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐくむ指導の在り方を理解することを目指す。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートやポートフォリオを作成する。情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにする。作品の　部は地域や学内の子育て支援活動にいかす。

授業計画

1 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
2 図画工作科の内容と幼稚園からの接続､中学校への接続
3 造形的な視点　色と形の出会い
4 造形遊びをする活動　並べたり積んだりして
5 絵に表す活動　パスを使って
6 絵に表す活動　筆やペンを使って
7 立体に表す活動　土粘土を使って
8 立体に表す活動　教材用粘土を使って
9 工作に表す活動　伝統文化と関連して
10 工作に表す活動　様々な用具を扱いながら
11 身近な材料を使った表現　リサイクルの視点で
12 生活に役立つものを作る　防災の視点で
13 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
14 情報機器を活用した活動
15 外部資源の活用と連携　まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

①実習課題の構想シート、制作物、ポートフォリオの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席１回につき５点減点、遅刻１回につき２点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人もしくは小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等英語			17511	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コ　スにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第２言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「３つの資質・能力」を踏まえた「５つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。各回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

1 小学校英語教育の目的(１)小学校学習指導要領の理解
2 小学校英語教育の目的(２)世界の言語政策事情
3 小学校英語教育の目的(３)異文化理解
4 小学校英語教育の目的(４)児童文学
5 第２言語習得研究(１)年齢と言語習得
6 第２言語習得研究(２)学習と環境
7 第２言語習得研究(３)学習者要因､指導者要因
8 第２言語習得研究(４)児童期の第２言語習得における語彙習得
9 第２言語習得研究(５)児童期の第２言語習得における文法習得
10 第２言語習得研究(６)児童期の第２言語習得における音声習得
11 技能の育成(１)リスニング
12 技能の育成(２)スピーキング
13 技能の育成(３)リーディング
14 技能の育成(４)ライティング
15 まとめ､小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％、プレゼンテーション50％、レポート20％

欠席について

３分の２以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校英語内容論入門』樋口忠彦編著　研究者　2019
『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説　外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
その他、必要に応じて、随時紹介する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等体育	①/②		17513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木岡 正雄	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校学習指導要領、及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫を学ぶ。グループワークを通してKSAISEIパーソナリティK（思いやり）とA（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育の教材内容を実技を通して、運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通じて、他への思いやりや仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

授業計画

1 オリエンテーション。自己紹介。運動学習について概略を講義する。
2 体つくり運動　体ほぐしの運動の実技をする。
3 体つくり運動　体力を高める運動の実技をする。
4 陸上運動系　かけっこの実技をする。
5 陸上運動系　障害走の実技をする。
6 陸上運動系　リレーの実技をする。
7 器械運動系　マット運動の実技をする。
8 器械運動系　跳び箱の実技をする。
9 器械運動系　マット･跳び箱運動の実技をする。
10 ゲーム　鬼遊び等のゲームをする。
11 ボール運動　ベースボール型のゲームをする。
12 ボール運動　ネット型のゲームをする。
13 ボール運動　ゴール型のゲームをする
14 ボール運動　ゴール型のゲームをする。
15 学習のまとめ。体育学習の工夫等について講義する。

授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、自ら運動の工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

準備学修

文部科学省　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育篇」を読み、体育指導について、事前学習及び、復習等を60時間行う。

課題・評価方法、その他

平常点30点、毎時の小テスト（学習カード等）70点

欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

テキスト

参考図書

文部科学省　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育篇
平成23年版、令和２年度版神戸市小学校学習指導のてびき

留意事項

登校できるなら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

教員連絡先

〒651-2277　神戸市西区美賀多台４　7　20
自宅電話＆Fax　078　961　4362

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育原理	教職小		17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

1　教育の理念と目的について理解する。
2　教育に関する歴史及び思想について理解する。
3　日本と諸外国の学校制度について理解する。
4　現代社会における教育の現状と課題について理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史的変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

1 講義の進め方と講義概要について説明する。
2 人とは？教育とは？
3 学校の歴史　その１　諸外国の教育の思想と歴史
4 学校の歴史　その２　日本における学校制度の成立と展開
5 教育に関する法規
6 現行法における日本の学校教育の目的
7 教育課程と教育内容
8 学習指導要領の変遷
9 教師の仕事と専門性
10 よい授業とは
11 現代社会と教育問題　いじめ･不登校問題など
12 教育改革の新しい動きと方向について
13 日本と諸外国の教育制度
14 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

・「問いからはじめる教育学」　勝野　正章・庄井　良信著　出版社：有斐閣
・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説（幼稚園教育要領解説）
　その他　必要に応じて資料を配付

参考図書

・「はじめての子どもの教育原理」　福元真由美著　出版社：有斐閣
・「やさしい教育原理」　田嶋　　他著　出版社：有斐閣
・「教育の原理を学ぶ」　遠藤　克弥・山崎　真之著　出版者：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子ども家庭福祉			17523	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
久松 睦典	選択	2	公立中学校スクールカウンセラー			

授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が　層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の　員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

授業計画

1 オリエンテーション
2 子ども家庭福祉とは
3 子ども家庭福祉のあゆみ
4 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5 子どもと家庭を支援する法律の体系
6　子どもと家庭を支援する制度の体系
7 子どもと家庭を支援する施設の体系
8 子どもと家庭を支援する専門職
9 子どもと家庭を支援する活動方法
10 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー虐待について
11 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー親子関係
12 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー非行
13 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー保育
14 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー　人親家庭
15 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応ー貧困

授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

　回の欠席で３点、遅刻で２点減点し、欠席が５回以上で不合格とする。

テキスト

吉田眞理編『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』萌文書林

参考図書

適時紹介する。

オフィスアワー

講義の前後

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

1 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
2 保育士・教師としてできる個別配慮
3 介助者が加わったときの役割
4 室内トラブルへの対応その１解決のポイント
5 室内トラブルへの対応その２たち歩きやエスケープ
6 室内トラブルへの対応その３人間関係のトラブル
7 室内トラブルへの対応その４パニックを起こしたときの対処
8 保護者とともに子どもを育てるその１保護者面談の進め方
9 保護者とともに子どもを育てるその２親から学ぶ支援のあり方
10 周りの子どもやその保護者への対応その１周辺の子ども
11 周りの子どもやその保護者への対応その２保護者に対して
12 チーム支援その１確かな情報を共有する
13 チーム支援その２実態の把握方法
14 チーム支援その３組織的支援の進め方
15 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎　『子どもの発達障害と情緒障害』（ 健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
福祉心理学			17543	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理判定士、児童養護施設・児童心理治療施設のセラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

・福祉心理学関連の法・制度・用語を理解できる。
・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる。
・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
・虐待についての基本的知識を身につける。
・このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのS（奉仕）とE（倫理）を養う。

授業の概要

福祉心理学の分野は幅広く支援対象者もさまざまであり、必要となる支援内容も多岐にわたる。しかし人の安全・安心を保障し、安定した生活へと支援していくという点では共通している。このクラスでは福祉領域における心理臨床について、先ずは福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を総論的に学び、その後に福祉心理学的心理支援の実際について実践内容を中心に学ぶ。その中で虐待をはじめとする福祉現場における心理社会的課題や必要な支援さらには福祉現場で生じる問題とその背景についても理解し、実践的知識を身につける。

授業計画

1 第１章　社会福祉の展開と心理支援
2 第２章　総論：生活を支える心理支援
3 第３章　暴力被害者への心理支援
4 第４章　高齢者への心理支援
5 第５章　障害・疾病のある人への心理支援
6 第６章　生活困窮・貧困者への心理支援
7 第７章　児童虐待への心理支援の実際
8 第８章　子どもと親への心理支援の実際
9 第９章　認知症高齢者の心理支援の実際
10 第10章　ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際
11 第11章　精神障碍者への心理支援の実際
12 第12章　家族・職員への心理支援の実際
13 第13章　福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
14 第14章　多職種協働実践事例報告
15 福祉心理学のまとめ

授業の方法

授業は基本的に各章のテキストの内容に沿って講義形式で進める。福祉現場への理解を深めるため、適宜レジュメを配布し、実践的知識の習得を目指す。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30％，定期試験70％

欠席について

通常欠席は５回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

野島　彦・繁桝算男 監修　中島健　編　2018　公認心理師の基礎と実践⑰ 福祉心理学　遠見書房

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②		17601	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標
乳幼児の造形表現遊びを指導するための理論と保育実践例を学び、自らの表現力を高める。教材や用具の扱い方の基礎基本を理解し環境を構成する力や作品を読み取る力、保育指導案を立案し実践する力を身に付ける。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
造形表現における乳幼児の発達や特徴について詳述する。造形表現で扱う材料用具の基礎基本事項と技法について演習を行い、鑑賞活動を通して感性をより高める。教材研究を継続して行い、保育指導案作成のポイントを学び、実践力を身に付ける。造形表現に使う材料を自ら収集し、それらを使って模擬保育を行う。授業での制作物の　部は地域や学内の子育ての支援活動に活かす。

授業計画
1 領域「表現」のねらいと内容、乳幼児の造形表現の意義について
2 造形表現における乳幼児の発達と他領域との関連
3 情報機器、視聴覚教材の活用法及び保育指導案の構成と展開
4 地域や美術館との連携、小学校教育への接続
5 園行事やごっこ遊び、お話の世界と造形表現
6 様々な技法や身近な材料、自然物を使った楽しい造形表現
7 模擬保育と評価及び反省
8 模擬保育の改善とまとめ

授業の方法
講義と実習を中心とする。学修のまとめとして模擬保育を行い学び合いの機会をもつ。

準備学修
Webを参照すること。

課題・評価方法、その他
①製作遊びの作品提出、鑑賞レポート、シミュレーションシート、収集した教材の提出、保育指導案の作成と実践を課題とする。講義においてフィードバックを行う。
②平常点70％、定期試験30％

欠席について
欠席１回につき５点減点、遅刻１回につき２点減点とする。

テキスト
樋口　成『幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林

参考図書
文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項
身近な素材や自然に触れる経験を積むように努めること。

教員連絡先
mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育原理			17607	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士　私立保育園保育士			

授業の到達目標
1．保育の意義について理解する。
2．保育所保育指針について基本的知識を得る。
3．保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4．保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5．保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要
1．保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていきながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2．現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
3．現代における子育て支援について理解を深める。

授業計画
1 保育原理を学ぶ意義について
2 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理（1）
5 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理（2）
6 養護と教育の　体化について
7 保育実践の基本的構造について
8 多様な保育内容とその方法
9 子育て支援について
10 西洋と日本の保育の創成期
11 西洋の保育実践の発展過程
12 日本の保育実践の発展過程
13 児童中心主義の保育を探る
14 保育者の在り方を考える
15 これからの保育にむけて
まとめを行ってから試験を行う。

授業の方法
講義を主とするが、グループトークを取り入れる。
毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点30％確認小テスト20％定期試験50％

欠席について
欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点減点とする。

テキスト
佐伯　弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

参考図書
文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

教員連絡先
nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教職概論（小）			17613	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭　中学校教頭　小学校校長			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に着けることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2 教員の服務と義務
3 学校制度の変遷と教員養成
4 公教育の目的と教員の役割
5 学校の組織と運営における教員の役割
6 教員の研修の意義と制度
7 教員に求められる資質能力
8 教科と教科外の指導
9 教師力と教員の評価
10 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11 地域社会との連携における教員の役割
12 教員の人権感覚
13 チーム学校の在り方と危機管理
14 教職とボランティア活動の関係
15 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示されたテキストを事前に読んで理解したり、義務教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

毎回、授業のレジメや資料を整理保存し、最後に講義メモを添えて提出してもらいます。

教員連絡先

matsui@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教職概論（幼保）			17613	Ⅰ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員に求められる資質能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育や就学前教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員・保育士の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師・保育者像を明確にもつようにする。

授業計画

1 「教職概論」科目の特性と概要
2 教職の意義
3 幼稚園教育と小学校教育
4 教員の歴史、女性と教職
5 学校の組織と運営
6 教員の職務内容
7 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8 学び続ける教員へ（教員のライフステージと研修制度）
9 国際化・情報化と教員の役割
10 学校における社会体験とキャリア教育
11 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13 学校（園）・地域・家庭の連携と役割
14 チーム学校の意義と実際について
15 今後の教員に求められる資質・能力（専門職としての教員）まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①リフレクションシートや課題レポートの提出を２回求め、講義中にフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点の減点とする。

テキスト

古橋和夫（編）『新訂　教職入門　未来の教師に向けて』2018年（株）萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著　『新しい時代の教職入門』改訂版　有斐閣アルマ　文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員・保育士を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
幼児教育学原理			17617	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
須河内 優子	選択	2	幼稚園教諭			

授業の到達目標
幼児教育の意義や目的、歴史、さらに今日の幼児教育の課題について学び、幼児教育の原理について理解する。また、幼児教育における「環境」「あそび」や、幼稚園教育要領についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を目指す。

授業の概要
幼児教育の意義や目的、歴史を学び、そのことを踏まえた上で、幼稚園教育要領を、具体的な園での子どもの姿と照らし合わせながら学んでいく。また、幼児教育におけるさまざまな問題について、ディスカッションや発表を通して、関心を深めていく。

授業計画
1 オリエンテーション　幼児教育の意義
2 幼児教育を取り巻く環境
3 幼児教育の歴史
4 幼稚園教育要領の歴史
5 幼児教育の課題
6 教育観と子ども観　①歴史
7 教育観と子ども観　②自分の教育観・子ども観
8 幼児教育に影響を与えた人物　①日本
9 幼児教育に影響を与えた人物　②諸外国
10 幼稚園教育要領　①幼稚園教育の基本
11 幼稚園教育要領　②幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
12 幼児教育における「環境」
13 幼児教育における「あそび」　①子どもにとっての「あそび」
14 幼児教育における「あそび」　②保育者の「あそび」へのかかわり
15 まとめ

授業の方法
参考資料を配布し、それに沿って講義する。また、DVD視聴やディスカッション、発表も取り入れる。

準備学修
「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席１回につき２点減点。

テキスト
幼稚園教育要領

参考図書
必要に応じて適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
幼児教育課程論			17623	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標
教育課程を編成する重要性の理解と指導計画作成の具体的な方法の習得をめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要
幼児が日々充実した園生活を送り、健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・全体的な計画編成のもと指導計画が作成され、それに基づいた環境構成や援助による教育実践が必要であることを理解する。それとともに、教育現場での実践事例や情報機器の有効な活用等を通し、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解するとともに、指導計画の作成とその評価と改善の方法についての習得をめざす。

授業計画
1 幼児期の教育・保育の基本
2 幼児期の特性と幼稚園教育の役割重要性
3 教育課程(全体的な計画)編成の意義と目的
4 教育課程(全体的な計画)の編成から指導計画の作成と実践。
5 指導計画(長期・短期)作成の際の留意事項
6 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程　3歳児の生活　①
7 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程　4歳児の生活　②
8 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程　5歳児の生活　③
9 ねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の考え方と指導計画の関係
10 月の指導計画(月案)作成の実際　①長期的な視野で教育内容をとらえ月案を作成する
11 月の指導計画(月案)作成の実際　②グループ単位で作成した月案を発表し合う
12 週の指導計画(週案)作成の実際　①領域を総合的にとらえ豊かな体験がえられる週案を作成する
13 週の指導計画(週案)作成の実際　②グループ単位で作成した週案を発表し合う
14 日の指導計画(日案)作成の実際　①幼児期にふさわしい生活の展開を考慮した日案を作成する
15 教育課程及び指導計画の実践から評価と改善の重要性とカリキュラムマネジメントの意義について理解する

定期試験

授業の方法
資料を配付し、それに沿って授業を進める。DVD視聴や指導計画の作成をもとにして、グループで話し合い意見発表をして、互いに学びあえるようにする。

準備学修
Webで参照すること

課題・評価方法、その他
①ワークシートとレポートについては、授業内で評価・助言をする。
②ワークシート等の提出30％　授業に臨む姿勢20％　定期試験50％

欠席について
１回の欠席につき、３点の減点とする。

テキスト
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

参考図書
幼稚園教育指導資料集　第１集「指導計画の作成と保育の展開」（フレーベル館）　第３集「幼児理解と評価」（ぎょうせい）「保育とカリキュラム」（ひかりのくに）

留意事項
図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育の視野を広げること。

教員連絡先
sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士　私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）の育成を目指す。

授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

1 幼児教育の目的と領域･領域「人間関係」
2 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
3 乳幼児期の発達と領域「人間関係」①
4 乳幼児期の発達と領域「人間関係」②
5 子どもと保育者の関わり①
6 子どもと保育者の関わり②
7 遊びのなかの人との関わり①
課題レポートを提出
8 遊びのなかの人との関わり②
9 生活を通して育つ人との関わり①
10 生活を通して育つ人との関わり②
11 個と集団の育ち①
12 個と集団の育ち②
13 人との関わりを見る視点
自己の発達と人との関わり
14 現代の保育の課題と領域「人間関係」
15 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する。
まとめを行ってから試験をする。

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。
グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点の減点とする。

テキスト

岩立京子（編者代表）、無藤隆（監修）「新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係」萌文書林

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し、生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言語環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育む保育を学ぶ。

授業計画

1 領域「言葉」について
2 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
3 乳児期の発達と言葉の獲得
4 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
5 満１歳以上満３歳未満児の発達と言葉の獲得
6 満１歳以上満３歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
7 満３歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
8 満３歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
9 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
10 豊かな言葉を育む児童文化(歌、手遊び、言葉遊び)(情報機器及び教材の活用を含む)
11 豊かな言葉を育む児童文化(絵本や紙芝居)
12 豊かな言葉を育む児童文化(人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等)
13 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び(情報機器及び教材の活用を含む)
14 模擬保育と振り返り
15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、言葉を育む保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着を図るため、小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①絵本データシートや、自修シートの提出を２回、模擬保育（教材の作成を含む）を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき３点、遅刻１回につき１点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹[監修]太田光洋[編著]『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉　第三版』2018年（株）同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもつこと。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
社会的養護Ⅰ			17639	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
曽田 里美	選択	2	児童養護施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実際について理解を深めることを目標とする。 このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を目標す。

授業の概要

社会的養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。
特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、（1）社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、（2）社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、（3）児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1 オリエンテーション　子どもの社会的養護トピックス
2 日本における社会的養護のしくみ
3 社会的養護の歴史
4 子どもの権利擁護
5 社会的養護の体系
6 社会的養護の領域と概要①(養護系施設)
7 社会的養護の領域と概要②(養護系施設)
8 社会的養護の領域と概要③(家庭養護)
9 社会的養護の領域と概要④(障害系施設)
10 社会的養護の領域と概要⑤(児童自立支援)
11 児童虐待の現状と対応
12 社会的養護に関わる専門職
13 社会的養護とソーシャルワーク
14 施設の運営管理
15 まとめ

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じて視聴覚教材等で社会的養護の現状について理解を深める。また、ディスカッションや発表を取り入れ双方向の授業を行う。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法、その他

①授業後に振り返りレポートを求め、講義の中でフィードバックを行う。
②評価方法は、平常点30%、定期試験70%

欠席について

公欠以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

喜多　憲 監修・堀場純矢 編『社会的養護Ⅰ』みらい、2020、ISBN 9784860154981

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
社会的養護Ⅱ			17640	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
曽田 里美	選択	1	児童養護施設職員			

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育機能は脆弱化している。家庭養育だけでは子どもの養育は困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護および家庭養護の本質と機能を理解し、援助技術について実践的活動事例を通して学びを深める。 このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を目標す。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親家庭で暮らす子どもについてその現状、施設養護との違いを理解する。
さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

1 オリエンテーション　社会的養護Ⅱを学ぶにあたって
2 社会的養護の基礎理解
3 社会的養護における支援内容
4 社会的養護の実際①(養護系施設)
5 社会的養護の実際②(家庭養護)
6 社会的養護の実際③(障害系施設)
7 社会的養護のこれから
8 まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。双方向の授業のため積極的な参加を求める。

準備学修

日ごろから新聞、ニュース等で子どもを取り巻く問題に関心を深めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

公欠以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

喜多　憲 監修・堀場純矢 編集『社会的養護Ⅱ』みらい、2019、ISBN 9784860154677

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子どもの保健			17643	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医 インフェクションコントロールドクター（感染管理）			

授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされて、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育を総合的に支援することが必要とされている。これらのことは小児科医に限られたことではなく、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのために以下の項目を理解する。
1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なると共に、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしっかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達の知識に基づいて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防（予防接種、感染対策など）、対応（初期対応、事後対応など）を理解する。以上の知識に基づいて、ある時にある子どもを観て、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

授業計画

1 子どもの心身の健康と保健の意義　（1）生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2 子どもの心身の健康と保健の意義　（2）健康の概念と健康指標
3 子どもの心身の健康と保健の意義　（3）現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4 子どもの心身の健康と保健の意義　（4）地域における保健活動と子ども虐待防止
5 子どもの身体的発育・発達と保健　（1）身体発育及び運動機能の発達と保健
6 子どもの身体的発育・発達と保健　（2）生理機能の発達と保健
7 子どもの心身の健康状態とその把握　（1）健康状態の観察
8 子どもの心身の健康状態とその把握　（2）心身の不調等の早期発見
9 子どもの心身の健康状態とその把握　（3）発育・発達の把握と健康診断（Ⅰ）
10 子どもの心身の健康状態とその把握　（3）発育・発達の把握と健康診断（Ⅱ）
11 子どもの心身の健康状態とその把握　（4）保護者との情報共有
12 子どもの疾病の予防及び適切な対応　（1）主な疾病の特徴（Ⅰ）
13 子どもの疾病の予防及び適切な対応　（1）主な疾病の特徴（Ⅱ）
14 子どもの疾病の予防及び適切な対応　（2）子どもの疾病の予防と適切な対応（Ⅰ）
15 子どもの疾病の予防及び適切な対応　（2）子どもの疾病の予防と適切な対応（Ⅱ）

授業の方法

スライド講義を中心とする。スライド配布資料を用い、症例、症状検討も行う。新聞、雑誌、ネットなどの子どもに関する情報（感染、制度、社会問題など）は常にチェックしておく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①課題
講義内容のまとめ、提示課題、症例、症状検討のレポートの提出（全３回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
②評価方法について、
平常点30％、定期試験70％

欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、　般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は３点減点、遅刻は１点減点。

テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容のスライド配布資料とする。

参考図書

子どもの保健Ⅰ 佐藤益子／中根淳子編著　ななみ書房、
子どもの健康と安全　「最新　保育士養成講座」　総括編集委員会／編　全国社会福祉協議会
保育者・養護教諭を目指す人のための　子どもの保健　～健康と安全～　大澤眞木子／小國美也子　日本小児医事出版社
保育所保育指針解説　平成30年３月　厚生労働省編
幼稚園教育要領解説　平成30年３月　文部科学省

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子どもの健康と安全			17647	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士　私立保育園保育士			

授業の到達目標

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解する。子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。
※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年３月厚生労働省）
「2018年改訂版　保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年３月　厚生労働省）
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年３月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育のおける衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等ついに対する適切な対応（応急処置や救急処置及び救急蘇生法含む）、感染症対策について具体的に理解する。保育における保健的対応の中で３歳未満児、個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応について学ぶ。健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解する。

授業計画

1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
2 保育における健康及び安全の管理
3 子どもの体調不良に対する適切な対応
4 救急処置及び蘇生法
5 感染症対策について
6 保育における保健的対応について
7 健康及び安全の管理の実施体制について
8 まとめ　定期試験

授業の方法

講義及び演習を中心とする。グループワークも取り入れる。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも留意する。
事前に必ずテキストを熟読しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50％　定期試験50％

欠席について

欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点減点とする。

テキスト

「子どもの健康と安全」中根淳子・佐藤直子　編著　ななみ書房

参考図書

保育所保育指針解説（フレーベル館）
授業時に随時紹介する。

留意事項

演習については事前に連絡する。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士　私立保育園保育士			

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体の発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

1 保育における子どもの食と栄養
2 子どもの心身の健康と食生活
3 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
5 胎児期､乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6 幼児期の心身の発達と食生活
7 学童期､思春期の心身の発達と食生活
8 幼児施設における食育
9 食育の内容と計画および評価
10 食を通じた地域の関係機関や職員間の連携
11 食生活指導および食を通した保護者への支援
12 家庭における食事と栄養
13 児童福祉施設における食事と栄養
14 特別な配慮を要する子どもの食事と栄養
15 子どもの食生活の現状と課題・まとめ・定期試験

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点減点とする。

テキスト

子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養　堤ちはる・土井正子　編著　萌文書林

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②		17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士　私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを存分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身に着ける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

授業計画

1 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
2 子どもの表現行動と精神発達（表出することを楽しむ、模倣性を経験する）
3 子どものからだと表現（発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現）
4 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
5 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
6 創造性を豊かにする身体表現と小学校の教科との関連
7 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成（情報機器や教材の活用を行う）
8 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点60％　課題レポート30％　指導案10％

欠席について

欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点減点とする。

テキスト

池田裕恵・猪崎弥生編著　「保育内容「表現」　からだで感じる・表す・伝える　」改訂第２版
株式会社杏林書院

参考図書

授業時に紹介する。

留意事項

第１講義より２号館体育室で行う。動きやすい服装、体育館シューズ着用で出席すること。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・表現（音楽表現）			17655	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	1				

授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえて様々な音楽表現活動が展開できるよう教材を研究し、演習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

１．領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
２．音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動を理解する。
３．日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導方法を修得する。

授業計画

1 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
2 リズム・リズム遊び
3 器楽合奏
4 器楽合奏
5 子どもの歌について（わらべうたと童謡）
6 子どもの歌の教材研究と指導法
7 指導案作成と実践
8 授業の振り返りとまとめ
9
10
11
12
13
14
15

授業の方法

講義内容に則り、演習・発表を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィールドバックを行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

「あそびうた大全集200」細田淳子著　永岡書店発行

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラ　、教育委員会			

授業の到達目標
激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。　また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。　このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

授業の概要
教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

授業計画
1 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
2 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
3 授業と教育方法の基本原理の　つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
4 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
5 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
6 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
7 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
8 聞き手によくわかる話し方(話法)について基礎的な技術を身につける。
9 めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
10 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
11 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
12 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
13 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書けるようにする。
14 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
15 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。
講義後、試験を実施

授業の方法
講義、発表とワークショップ

準備学修
参考図書からレポートを指示することがある

課題・評価方法、その他
平常点30%、定期試験70%

欠席について
学内の規定に準ずる

テキスト
必要な場合授業時に指示する。

参考図書
必要に応じて指示する

教員連絡先
shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標
小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要
国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画
1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2 国語科教育の意義と役割
3 国語科の目標と内容
4 学習指導要領に基づいた学習指導計画
5 国語科の指導法と評価
6 話すこと・聞くことの指導
7 書くことの指導
8 説明的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
9 文学的な文章の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
10 音読・朗読の指導
11 伝統的な言語文化の指導(情報機器及び教材の活用を含む)
12 国語の特質に関する指導
13 模擬授業(低学年)
14 模擬授業(高学年)
15 これからの国語科教育の課題

授業の方法
発表やディスカッションを多く取り入れる。

準備学修
テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

欠席について
欠席は５点減点し、遅刻は２点減点する。

テキスト
吉田武男 監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版

参考図書
必要に応じて、随時紹介する。

留意事項
出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先
ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校における社会科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。（1）小学校学習指導要領（社会）の目指す理念や目標を理解することができる。（2）小学校学習指導要領（社会）の変遷と今求められている社会科の学力について理解することができる。（3）具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。（4）社会の出来事について関心を持つことができる。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校学習指導要領（社会）の変遷を概観し、現行の小学校学習指導要領（社会）に基づき、教育内容と指導法を考察する。教科の特性に応じた情報機器の有効な活用方法や教材研究の方法や学習指導法、評価方法の修得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

授業計画

1 社会科とは何か､小学校社会科の成立と変遷
2 小学校学習指導要領社会の構成
3 小学校学習指導要領社会の内容
4 社会科教育の今日的課題
5 社会科の教材研究と授業の構想:資料の活用と教材化
6 社会科の教材研究と授業の構想:授業の仕組みと展開
7 社会科の教材研究と授業の構想:学習指導案の書き方と授業の見方､評価
8 地域学習の教材研究と授業の構想:教材研究と学習指導案の作成(情報機器及び教材の活用を含む)(3､4年　身近な地域や市の様子　県の様子　生産や販売の仕事　安全を守る働き)
9 地域学習の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(身近な地域や市の様子､地域に見られる生産や販売の仕事､地域の安全を守る働き)
10 地域学習の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(市の様子の移り変わり､県の様子､県内の特色ある地域の様子)
11 地域学習の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(人々の健康や生活環境を支える事業､自然災害から人々を守る活動､県内の伝統や文化､先人の働き)
12 地理的､現代社会の仕組みや働き､歴史的学習の教材研究と授業の構想:教材研究と学習指導案の作成(5､6年　国土の様子と国民生活､政治の働き､歴史的な事象､自然環境と国民生活との関連､世界と日本の役割)
13 地理的環境と人々の生活､現代社会の仕組みや人々の生活､歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(国土の様子と国民生活､国土の自然環境と国民生活との関連､農業や水産業における食料生産)
14 地理的環境と人々の生活､現代社会の仕組みや人々の生活､歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(工業生産､情報と産業との関わり､国土の自然環境と国民生活との関連)
15 地理的環境と人々の生活､現代社会の仕組みや人々の生活､歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(政治の働き､グローバル化する世界と日本の役割､歴史上の主な事象)

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他

レポート提出（全３回）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
『平常点50％、定期試験50％』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校で38年教員をする。 （算数を専門的に研究し、神戸市算数研究会部長を務める）			

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法を習得する。教材研究、模擬授業を通して、子どもの主体的・対話的で深い学びを進めるための授業づくりの工夫や留意点を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

算数科の目標、内容、系統性、各領域の特徴を学ぶ。子供のつまずきやすい教材を取り上げ、具体的な指導法を現場での実践成果と絡ませながらプレゼン、討議する。学校現場での45分授業の構成、指導案の書き方を学び、模擬授業も行う。

授業計画

1 オリエンテーション　・　算数科の目標(その趣旨及び要点)
2 算数科の内容と構成(領域と概観)
3 授業45分間の構成上の留意点
4 第１学年の目標及び内容
5 第２学年の目標及び内容
6 第３学年の目標及び内容
7 学習指導案の書き方(１)指導案を学ぶ
8 学習指導案(２)指導案を書く
9 第４学年の目標及び内容
10 第５学年の目標及び内容
11 第６学年の目標及び内容
12 低学年　模擬授業とふりかえり
13 中学年　模擬授業とふりかえり
14 高学年　模擬授業とふりかえり
15 算数科内容の取扱いまとめと考査

授業の方法

講義と指導法についてのディスカッション、さらに模擬授業、事後の討議などの活動を大切にしていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題　レポートの提出、学習指導案の提出、模擬授業を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価方法　平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席１回につき４点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説　算数編」　文部科学省（H29.6）

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得する。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導のあり方について実践を通して学び、理科の授業作りの基礎を培うことを目的とする。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自立）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領（理科）の教科目標及び学年目標、指導のあり方を把握する。エネルギー、粒子、生命、地球を中心に具体的な内容を取り上げ、指導力、応用力を養う。さらに、情報機器及び教材の効果的な活用を理解した上で、指導案作成や模擬授業を通して、実践力を育成する。

授業計画

1 理科とは何か､小学校学習指導要領　理科の変遷
2 小学校学習指導要領　理科の構成
3 小学校学習指導要領　理科の内容
4 理科教育の今日的課題
5 理科の教材研究と授業の構想:授業の仕組みと展開
6 理科の教材研究と授業の構想:学習指導案の書き方と授業の見方
7 理科の教材研究と授業の構想:評価規準の考え方と実際の評価
8 教材研究と授業化に向けて:教材研究と学習指導案の作成(情報機器及び教材の活用を含む)(3､4年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容から)
9 3､4年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(風とゴムの力の働き､光と音の性質､電流の働き､身の回りの生物､人の体のつくりと運動)
10 3､4年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(磁石の性質､空気と水の性質､太陽と地面の様子､季節と生物)
11 3､4年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(物の重さ､金属､水､空気と温度､雨水の行方と地面の様子､天気の様子､月と星)
12 教材研究と授業化に向けて:教材研究と学習指導案の作成(情報機器及び教材の活用を含む)(5､6年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容から)
13 5､6年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(振り子の運動､てこの規則性､植物の発芽､成長､結実､動物の誕生､人の体のつくりと働き)
14 5､6年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(電流がつくる磁力､電気の利用､流れる水の働きと土地の変化､植物の養分と水の通り道､生物と環境)
15 5､6年　エネルギー､粒子を柱とした内容､生命､地球を柱とした内容の教材研究と授業化:模擬授業と相互評価(物の溶け方､燃焼の仕組み､水溶液の性質､天気の変化､土地のつくりと変化､月と太陽)

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め（全３回）、講義の中でフィードバックを行う。
『平常点50%、定期試験50%』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　理科編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
東内 則子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

・生活科誕生の背景や経緯について理解する。
・生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。
・学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。
・内容の組み合わせによる有効な単元活動や指導計画を探る。
・各内容を通して他教科や道徳との関連的な指導方法を理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その、誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。

授業計画

1 オリエンテーション　「私が学んだ生活科」レポート
2 各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差
3 生活科誕生の背景･生活科とはどんな教科か
4 生活科の目標(生活科の抱える課題と新指導要領のねらい)
5 生活科の内容(内容構成と階層性)
6 生活科の内容１　「学校と生活」
7 内容２　「家庭と生活」内容３「地域と生活」
8 内容４　「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える
9 内容５　「季節の変化と生活」･
内容の関連付けの意義を知り年間計画を考える
10 内容６　「自然や物を使った遊び」身近な物での物づくり体験
11 内容７　「動植物の飼育･栽培」内容８「生活や出来事の交流」
12 内容９　「自分の成長」「生活科の評価方法」
13 学習指導案づくり
内容６　物づくりの場面の展開を考える
14 模擬授業
15 テスト

授業の方法

テキストによる講義を行うとともに、ワークショップやディスカッションを織りまぜながら理解を深める。

授業の初めは、身近な植物の観察「知っておきたい身近な植物」を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は２点減点し、遅刻は１点減点とする。

テキスト

レジュメを配布

参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説　生活編」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。特別活動の授業発表・研究発表あり。 神戸市で特別活動担当指導主事経験あり。			

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日的課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身に着ける。
kaiseiパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標と内容を理解する。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、学級会活動等での映像を通して子供の姿を捉え、特別活動の理解を深めていく。

授業計画

1 オリエンテーション､改訂の趣旨と目標
2 基本的な性格と意義
3 学級活動の目標と内容
4 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
5 学級活動の指導計画
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
6 学級活動の内容の取扱い
「　人　人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
7 児童会活動の目標と内容
8 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
9 クラブ活動の目標と内容､指導計画と内容の取扱い
10 学校行事の目標と内容
11 学校行事の指導計画と内容の取扱い
12 指導計画の作成に当たっての配慮事項　特別活動における主体的･対話的で深い学び
13 指導計画の作成に当たっての配慮事項　全体計画･年間計画の作成とその留意点
14 内容の取扱いについての配慮事項
15 まとめと､定期試験

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマについて自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。また模擬授業を行い批評会を行う。
評価方法：平常点50％　定期試験50％

欠席について

欠席は１回につき４点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「特別活動」　文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラ　、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

1 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児･児童･生徒の困り感
3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児･児童･生徒の心の発達
4 障害のある幼児･児童･生徒の困り感
5 障害のある幼児･児童･生徒の家族､特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6 障害のある幼児･児童･生徒の保護者･兄弟姉妹･祖父母等の障害受容
7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8 障害のある幼児･児童･生徒の教材選定
9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11 様々な障害種､重複障害と個別の教育支援
12 特別支援教育コーディネーター等との連携
13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14 障害のある幼児･児童･生徒以外の個別の教育支援
15 外国から移住してきた幼児･児童･生徒の学習､生活面での支援
16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80％、授業最後に提出するレポートと振り返り20％

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）。

留意事項

必要な場合授業時に指示する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテ　マで研究発表会も行う。			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。
また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。
KaiseiパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。
また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

授業計画

1 教育課程改定の経緯と基本原則
2 教育課程の基準
3 学習指導要領の改訂の変遷
4 特色ある教育の推進とカリキュラム･マネジメント
5 教育課程の編成
6 教育課程の授業改善
7 教育課程の改善と学校評価(教育課程におけるPDCA)
8 児童の発達の支援(発達支援と個に応じた指導の充実)
9 道徳教育推進上の配慮事項(豊かな体験活動､家庭･地域社会･学校間の連携)
10 総合的な学習の時間の歴史と目標
11 総合的な学習の時間の指導計画
12 総合的な学習の時間の単元計画
13 総合的な学習の時間の実践と評価
14 総合的な学習の時間の指導の具体的事例に学ぶ
15 教育課程論と総合的な学習の時間の指導法の振り返り･定期試験

授業の方法

学生の発表・論述を大切にし、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現場での取り組みについて共感を深めていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。
評価方法：平常点50％　定期試験50％

欠席について

欠席は１回につき４点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」　文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子／佐原 信江	選択	2	公立小学校教員、公立幼稚園教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

1 授業概要の説明､受講の心構え､これまでの学修の振り返り
2 保育･教職の意義や保育士･教員の役割､職務内容､子どもに対する責任等についての討議
3 社会性や対人関係能力(職場､保護者･地域との人間関係の構築等)についての講義･グループ討議
4 幼児･児童理解や学級経営についての講義･グループ討議
5 保育計画案･学級経営案の作成
6 保育計画案･学級経営案の発表とグループ討議
7 学校園現場の見学･調査①
8 学校園現場の見学･調査②
9 社会性､対人関係能力､幼児･児童理解､学級経営についてのグループ討議
10 保育･教科の指導力についての講義･グループ討議
11 模擬保育･模擬授業と討議①
12 模擬保育･模擬授業と討議②
13 事例研究とロールプレイング①
14 事例研究とロールプレイング②
15 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

課題・評価方法、その他

①レポートや作品等の提出物については、担当教員による批評とアドバイスを行う。
②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は５点減点し、遅刻は２点減点する。

テキスト

各担当教員が参考図書の中から指定する。

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習　これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	教職幼		17691	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

授業の到達目標
教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教諭の仕事とは何かなど、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）の育成をめざす。

授業の概要
１週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れている。

授業計画
1 幼稚園教諭とは
2 教育実習の意義と目的
3 教育実習園の選択と決定
4 教育実習園の教育などの理解
5 教員に求められる資質
6 週間実習に向け､園への依頼の仕方
7 実習記録の取り方と記載について
8 実習記録の記載に際しての留意事項
9 実習に際しての具体的な留意事項
10 実習後について(礼状の作成など)
11 １週間実習を終えての成果や課題について協議①
12 １週間実習を終えての成果や課題について協議･発表②
13 実習記録について個人指導及び指導
　３週間実習に向けて課題の整理
14 実習記録について個人指導及び指導
　３週間実習に向けて課題の整理
15 実習記録について個人指導及び指導
　３週間実習に向けての準備

授業の方法
テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果と課題を明確にする。

準備学修
Webで参照すること

課題・評価方法、その他
①提出を求めるワークシート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について
基本的に欠席は認められない。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ１回につき３点の減点とする。

テキスト
本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
「あそびうた大全集200」永岡書店　「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書
「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料第５集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

留意事項
免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ること。

教員連絡先
sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小		17697	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標
「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要
いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の　層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（５日間）と特別支援学校（２日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画
1「介護等体験」の目的と概要
2 社会福祉施設　1
3 社会福祉施設　2
4 介護の心構えと実際
5 高齢者の心と身体
6 特別支援学校
7 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
8「介護等体験」に臨む心構え･留意事項

授業の方法
講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50％、定期試験50％

欠席について
欠席１回につき３点減点する。

テキスト
『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校長会『介護等体験ガイドブック　新フィリア』ジアース教育新社

参考図書
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項
この授業は7.5回行う。

教員連絡先
yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ			17707	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

１週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した３週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は評価反省を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

授業の概要

１週間実習の成果と課題を自ら明確にし、３週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

授業計画

1 実習園でのオリエンテーション（依頼電話のかけ方、訪問に際して等）
2 指導実習に向けての教材の作成①
3 〃②
4 〃③
5 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
6 〃②
7 実習園のオリエンテーションを受ける。
8 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
9 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
10 〃②
11 実習記録の記入方法について
12 実習に向けて留意事項の再確認
13 礼状の作成
14 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
15 まとめ

授業の方法

実習園の教育方針について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるシート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず全回出席である。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。その場合のみ、１回につき３点減点する。

テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成　「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　「あそびうた大全集200」永岡書店　「実践！造形あそび」ナツメ社

参考図書

「教員をめざそう！」文部科学省

留意事項

免許取得のための教育実習に向けての授業であることを十分心得ておくこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

授業計画

1 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2 教育制度の歴史と発展　1
3 教育制度の歴史と発展　2
4 子どもの権利と人権　1
5 子どもの権利と人権　2
6 教育制度を学ぶ意義　1
7 教育制度を学ぶ意義　1
8 教育法　1
9 教育法　2
10 教育の目的と目標
11 学校の制度
12 義務教育の制度
13 教育の機会均等
14 教職員の制度
15 まとめ

授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。授業時間の２倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

テキスト

必要な場合授業時に指示する。

参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る　教育制度論』北樹出版

留意事項

出席と授業態度を重視する。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石田 伸子	選択	2	私立幼稚園教員			

授業の到達目標
教育要領には「見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる」のが終了時の具体的な姿として示されている。幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要
毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、幼児自ら心身ともに健康な生活ができるようにするには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

授業計画
1 健康とは何か
2 子どもの身体の発育･発達
3 乳幼児期の運動
4 乳幼児期の安全教育と病気の予防
5 運動遊び(実技)①(縄､新聞紙､ボールなどを使った遊び等)
6 運動遊び(実技)②(大縄､フープを使った遊び｡用具を使わない運動遊び等)
7 運動遊び(実技)③(運動用具ー平均台､跳び箱､マット等ーを使った遊び等)
8 乳幼児期の生活習慣の形成
9 乳幼児期の遊びと運動
10 乳幼児期の生活と食
11 領域｢健康｣の理解と指導法
12 領域｢健康｣をめぐる現代の諸問題
13 指導計画作成から保育へ①
14 指導計画作成から保育へ②
15 学習した内容のまとめとテスト

授業の方法
テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しやすいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体得していけるようにする。

準備学修
Webで参照すること

課題・評価方法、その他
グループ発表後は、教員によるフィードバックを行う。
実技の積極性、動きなどを評価する。
平常点60％　定期試験40％とする。

欠席について
欠席数は成績評価に反映する

テキスト
演習　保育内容「健康」　基礎的事項の理解と指導法ー
川邉貴子・吉田伊津美編著　建帛社

参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

留意事項
実技①②③は、運動しやすい服装（名前がわかりやすい名札あるいはゼッケンをつけること）・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標
近年の社会の変化にともなって、子どもを取り巻く様々な環境も従来とは変わり続けている。この現状をしっかり受け止め、子どもを取り巻く環境のあり方や保育者の役割を理解する。環境が成長過程に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となることを踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要
幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。子どもたちが園内外の“自然・文化・人・もの・事象・文字・記号”などに自ら触れ、生きる力を育む直接的体験を積み重ねられる環境を準備するために、保育者自身が様々な環境に対し興味や関心をもち理解し、子どもの主体性を引き出す為にどのような環境づくりをしていけばいいのか、指導案作成と模擬保育等を通して、保育者自身も常に主体性を持って環境について学び、専門的な能力を身につけていけるようにする。

授業計画
1 保育と｢環境｣
2 領域｢環境｣とは
3 子どもの育ちと領域｢環境｣(DVD視聴｢子どもを育む保育の環境｣)
4 教室を出ての実際体験とグループワーク
5 子どもを取り巻く自然環境
6 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち(DVD視聴｢動物を知る｣)
7 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
8 子どもを取り巻く人的環境
9 子どもを取り巻く物的環境
10 子どもの活動をひきだす保育環境(数量･図形･文字･標識に対する感覚)
11 子どもの活動を引き出す保育環境(教室を出て実際体験､DVD 視聴)
12 子どもの生きる力を育む環境
　子どもを取り巻く社会的環境
13 環境を通した保育の内容･教材研究
14 子どもを守り育てる環境
　気になる子どもと環境
15 環境を通した教育･保育の現在の課題　　まとめ

授業の方法
講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点50%、定期試験50%。
レポートの提出や振り替えりテストなどについて講義の中でフィードバックを行う。

欠席について
欠席数は成績評価に反映する

テキスト
「保育内容　環境　あなたならどうしますか？」岡澤陽子、杉本裕子、平野麻衣子、松山洋平、山下文　、萌文書林

参考図書
保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説　フレーベル館
3,4,5歳児が夢中になる実践「造形遊び」　平田智久監修　ナツメ社
あそびうた大全集　　永岡書店

留意事項
教室を出ての実際体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、教学課前のボードをよく注意して見ておくこと

教員連絡先
shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標
幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材（PP）を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものか学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画
1 幼児の生活と幼稚園の役割､幼児期の特性
2 幼児期の教育の基本(人格形成の基礎･環境を通して行う教育)
3 幼児期の教育の基本(５領域のねらい及び内容･幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿･個々に応じた指導 など)
4 幼児期の教育の基本(教師の役割､教職員間の連携)
5 教材研究と演習①ペープサート　シナリオと教材の作成
6 教材研究と演習②ペープサート　グループで協力し人形劇の完成
7 教材研究と演習③ペープサート　各グループの演習と評価
8 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成･安全教育
9 保育内容の指導実践②いろいろな行事､自然を取り入れた活動
10 保育内容の指導実践③保護者との連携､子育ての支援･預かり保育
11 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
12 教材作成と模擬保育①パネルシアターの作成
13 教材作成と模擬保育②パネルシアターを活用した保育指導案の作成
14 教材作成と模擬保育③指導案をもとに模擬保育
15 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

授業の方法
実際の園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションなどを通して、実践的な指導力をつけていく。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①教材作成のもと指導案作成と模擬保育を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う。
②平常点30％　演習30％　レポート等の提出40％

欠席について
１回の欠席につき３点減点とする。

テキスト
「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）「実践！造形あそび」（ナツメ社）「あそびうた大全集200」（永岡書店）

参考図書
「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園長会

教員連絡先
sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）			17727	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士　私立保育園保育士			

授業の到達目標
幼児の実態に即し､生育環境や集団の中での育ち合い等の多様な環境を背景とした幼児理解の意義を理解する。また､幼児の発達や学びを捉える基礎資料となる観察､記録の基礎的事項､多面的な考察と分析の重要性を理解する。幼児のつまずき等の発達上の課題や保護者の多様な思いに対応する保育者の姿勢やカウンセリングの方法を理解する。このクラスでは､KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要
幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践やエピソード記録、カンファレンスの実践を通して、幼児を多面的に理解する力を身に付ける。また、幼児の発達や生育環境など、幼児　人ひとりの実態に即した指導や、専門家を交えたチームでの対応方法、保護者の心情を理解した連携とカウンセリングマインドを基にした支援方法を身に付ける。

授業計画
1 幼児理解を踏まえた指導案の立案､実践後の省察を通した幼児理解の深まりと保育の改善
2 統計や報道資料､保育実践尻から捉える幼児の発達に関わる様々な課題
3 幼児と保育者の信頼関係の構築及び他者との信頼関係を広げる保育者の援助
4 幼児期の発達と学びの理解
5 遊びを通した協同性の育ちと保育者の援助の在り方
6 事例から捉える幼児の葛藤やつまずき等の内面理解及び個と集団の関係やその他の背景の理解
7 幼児理解に基づく保育者の個別支援の在り方及び幼児同士の育ち合いへの指導の在り方
8 幼児の発達や学びを捉え､保育に生かす観察及び記録の方法
9 演習:行動観察やエピソードの記録を通した幼児理解
10 発表と協議:観察や記録の読み取り､幼児の多面的理解
11 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と小学校への接続
12 子育てに関する様々な課題と教育相談の在り方
13 カウンセリングマインドの重要性と基礎的な技法
14 演習:保護者対応を想定としたロールプレイから学ぶ心情理解と支援の在り方
15 園内の協力体制の構築と家庭や地域･専門機関との連携､まとめ､定期試験

授業の方法
保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議や演習を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修
Webで詳細を参照とすること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他
平常点50% 定期試験及び課題レポート50%

欠席について
出席状況も成績評価の対象とする。
欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点減点とする。

テキスト
「やさしく学べる保育カウンセリング」大竹直子　著　金子書房

参考図書
「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美　著（ひとなる書房）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』､厚生労働省『保育所保育指針解説』
内閣府･文部科学省･厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』

留意事項
グループ演習等が多いため、毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。

教員連絡先
nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標
教科「音楽」の意義を理解し、実態を視野に入れた授業を構成できる能力や、幅広い音楽活動の指導ができる技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要
『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得するとともに、これからの音楽教育について考察する。歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習や発表を行い、現代の環境に適した音楽指導法を研究する。

授業計画
1 「小学校学習指導要領(音楽)」の概説と理解
2 「小学校学習指導要領(音楽)」の概説と理解
3 楽典の基礎と他教科とのかかわり
4 リコーダーの理解と合奏
5 いろいろな楽器の理解と奏法
6 合奏教材と指揮法基礎演習
7 歌唱教材の研究と演習
8 歌唱教材の研究と演習
9 鑑賞教材の研究(音楽の歴史)
10 鑑賞教材の研究(日本の音楽・世界の音楽)
11 日本の音楽教育
12 ピアノ演習
13 模擬授業
14 模擬授業
15 振り返りと展望

授業の方法
講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①授業で研究発表、演奏を行い、フィールドバックをする。
②平常点50%、定期試験50%　各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

欠席について
授業時の発表や演習も評価の対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト
初等科音楽教育法（音楽之友社）

参考図書
教育芸術社「小学校の音楽１～６」

留意事項
グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

教員連絡先
minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標
小学校学習指導要領にある図画工作科の低・中・高学年それぞれの目標を理解し、教材研究や模擬授業等をとおして指導上必要な知識と技術を習得し、授業実践できる力を身に付けることが到達目標である。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要
講義やディスカッション、模擬授業、教材研究をとおして図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について学ぶ。鑑賞の分野では、視聴覚機材及び博物館、美術館等を活用し作品鑑賞のねらい等を学ぶ。

授業計画
1 学習指導要領にある図画工作科の目標等と役割
2 図画工作科の年間計画、授業設計、指導案のつくり方
3 思考の継続化を図る図画工作科としての横断的学習の授業設計
4 図画工作科と他教科との領域の関係を理解した横断的学習の教材研究と模擬授業
5 図画工作科としての言語活動と評価
6 絵画の表現形式
7 絵画表現に関する教材研究と模擬授業
8 版画の種類と仕組み、用具の安全な使い方
9 版画の表現技法に関する指導方法と授業改善の視点
10 様々な材料、用具を使った立体・工作の表現
11 立体・工作に関する用具の安全な使用方法
12 造形遊びに関する用具や材料の使用方法と場所の活用方法
13 美術館を活用した効果的な鑑賞指導と授業設計
14 美術館での効果的な鑑賞指導のあり方と模擬授業
15 まとめと定期テスト

授業の方法
講義と作品制作（教材研究）、美術館等での作品鑑賞を中心とする。

準備学修
Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
平常点70％定期試験30％の割合で評価する。評価の観点は知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう姿勢等である。

欠席について
欠席１回について３点減点、遅刻１回について１点減点

テキスト
文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』

参考図書
日本文教出版『図画工作』『ずがこうさく』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。学習指導要領に示された小学校家庭科の目標と内容、その指導上の留意点を理解する。小学校家庭科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。小学校家庭科の学習指導の理論と方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

小学校家庭科の目標と内容、家庭科教育のために必要な学習指導の理論と方法、教材研究などを学ぶ。さらに、子どもの発達段階や生活実態を踏まえた、また情報機器及び教材を活用した授業設計と学習指導案の作成を学び、模擬授業を行う。

授業計画

1 小学校家庭科の目標と内容
2 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する指導上の留意点
3 「消費生活・環境」に関する指導上の留意点
4 小学校家庭科の評価
5 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する教材研究
6 「消費生活・環境」に関する教材研究
7 子どもの発達・生活と家庭科教育
8 小学校家庭科の施設・設備（情報機器含む）
9 小学校家庭科の学習指導の理論と方法
10 小学校家庭科の学習指導計画
11 小学校家庭科の学習指導案の作成
12 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」の模擬授業
13 「消費生活・環境」の模擬授業
14 模擬授業の検討・改善
15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席１回につき３点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版

参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木岡 正雄	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

体育科の学習指導案を作成することができて、模擬授業を行う力を養う。また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方等を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

授業計画

1 オリエンテーション。体育科の目指す授業について
2 小学校学習指導要領､体育編の内容を知る。
3 これから目指す体育授業について。運動の特性について
4 低学年の目標と学習内容について
5 中学年の目標と学習内容について
6 高学年の目標と学習内容について
7 学指導案の書き方について
8 指導案を作成する。＜外１＞
9 指導案を作成する。＜外２＞
10 指導案を作成する。＜外３＞
11 模擬授業を実施する。＜外１＞
12 模擬授業を実施する。＜外２＞
13 模擬授業を実施する。＜外３＞
14 模擬授業を振り返る。学習評価について。
15 学習のまとめ。これからの体育学習について

授業の方法

少人数グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実技も実施予定である。

準備学修

文部科学省　小学校学習指導要領（平成29年告示）
文部科学省　小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編等を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を費やすこと。

課題・評価方法、その他

①学習指導計画案と模擬授業について、評価とアドバイスを行う。
②評価方法は平常点30点、学習指導計画案40点、模擬授業30点とする。

欠席について

原則欠席をしない事。登校できる程度なら見学でも出席すること。

テキスト

文部科学省　「小学校学習指導要領（平成29年告示）」と「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育篇」

参考図書

新しい体育授業の運動学　三木四郎　著　　明和出版
平成23年版、令和２年度版神戸市小学校体育指導の手引き

留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。
可能なら、学外にて、体育授業の参観を行う。

教員連絡先

〒651-2277　　神戸市西区美賀多台４　7　20
自宅電話番号＆Fax　078　961　4362

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校「特別の教科　道徳」の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の指導法を把握するための講義と演習を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

授業計画

1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育の基礎理論
2 道徳教育の歴史
3 道徳性とは何か
4 道徳の目標と内容
5 道徳性の発達理論と道徳教育
6 道徳教育の計画
7 道徳科の学習指導
8 道徳教材の活用
9 道徳科における問題解決的な学習
10 道徳科における体験的な学習
11 道徳科の授業展開
12 道徳の評価
13 模擬授業(低学年)
14 模擬授業(高学年)
15 これからの道徳教育の課題

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
②授業への参加度50%、定期試験50%とする。

欠席について

欠席は５点減点し、遅刻は２点減点する。

テキスト

柳沼良太『道徳の理論と指導法』図書文化社
文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』廣済堂あかつき

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備や提出物を含む）を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小中学校教員			

授業の到達目標

小学校における生徒指導体制や指導方法、課題等を理解し、人権尊重の精神を根幹に据えた生徒指導と自己実現を目指す進路指導のあり方を学び、自己指導能力を育む教員としての実践力を身に付けることが到達目標である。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導の課題を学校現場の情報や新聞等の資料より把握し、『生徒指導提要』等に基づき児童の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

授業計画

1 生徒指導の意義と目的
2 教育課程と生徒指導
3 学校組織としての生徒指導
4 進路指導・キャリア教育と生徒指導
5 児童生徒理解を図る方法とその活用
6 学級担任としての生徒指導
7 集団指導と個別指導
8 教育相談の進め方
9 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11 生徒指導に関する法制度
12 問題行動の未然防止と早期発見
13 いじめと不登校
14 情報教育と生徒指導
15 まとめと定期テスト

授業の方法

講義とディスカッション

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30％定期試験70％の割合で評価し、評価の観点は知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう姿勢等である。

欠席について

欠席１回につき３点減点、遅刻１回につき１点減点

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』に基づいた配布資料

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子ども家庭支援論			17759	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。保育の専門性をいかした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

授業の概要

家族の機能、家庭の意義や役割、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援体制や支援方法等について解説する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関係機関との連携を考える。

授業計画

1 子ども家庭支援の意義と必要性
2 子ども家庭支援の目的と機能
3 子ども家庭支援における保育士等の役割
4 保育士に求められる基本的態度
5 保育の特性と保育士の専門性をいかした子ども家庭支援
6 保護者との相互理解と信頼関係の形成
7 家庭の状況に応じた支援
8 地域の資源の活用と関係機関との連携･協力
9 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10 子育て支援施策･次世代育成支援策
11 子ども家庭支援の内容と対象
12 保育所等利用児童の家庭への支援
13 地域の子育て家庭への支援
14 要保護児童等およびその家庭に対する支援
15 子ども家庭支援に関する現状と課題･まとめ

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点30％、定期試験70％

欠席について

欠席１回につき３点減点する。

テキスト

松村和子編著『子ども家庭支援論』建帛社

参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
子ども家庭支援の心理学			17763	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
島田 麻美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

生涯発達という視点から、発達の諸特徴や発達課題、初期経験の重要性について学ぶ。また、社会や文化の時代的変化とともに変容し、多様化してきた家族・家庭について理解を深める。保育者として、人の生涯発達について理解した上で、家庭の持つ意味と現状、そしてさまざまな課題を抱える子どもや家庭の理解と支援につながる力を身につけることを目指す。テーマに関連する事例を挙げ、具体的な支援場面へどうつなげていくかを考える。

授業計画

1 オリエンテーション､生涯発達とは
2 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
3 学童期後期から青年期にかけての発達
4 成人期から老年期にかけての発達
5 親子関係･家族関係の理解
6 子育ての経験と親としての育ち
7 子どもと家庭の状況
8 ライフコースと仕事･子育て
9 多様な家庭とその理解
10 特別な配慮を要する家庭への支援①
11 特別な配慮を要する家庭への支援②
12 子どもの精神保健とその課題
13 子どもの生活･生育環境とその影響
14 子どもの心の健康に関わる問題
15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

グループ発表後は、担当教員よりフィードバックを行う。
平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

原信夫・井上美鈴編著『子ども家庭支援の心理学』北樹出版

参考図書

松本園子他『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
乳児保育Ⅰ			17778	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。乳児期（３歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して保育の内容を理解する。また、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史的変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を資料を基に把握し、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を理解する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実際を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1 乳児保育とは（DVD視聴「乳幼児の発達と保育　０歳児」）
2 乳児保育の理念と歴史的変遷
3 乳児の保育と思春期への育ち
4 愛されて育つということの意味（DVD視聴「アタッチメント関係」）
5 胎児の世界
6 乳児期の発達と保育内容（DVD視聴「乳児の成長記録」）
7 乳児期の発達と保育内容（DVD視聴「乳児の成長記録」）
8 乳児期の生活と保育
9 乳児期の環境と人間関係（DVD視聴「環境構成」
10 乳児期の環境と人間関係（DVD視聴「人とのかかわりの中で学ぶ」
11 乳児期の全体的な計画と指導計画
12 地域における子育て支援
　保育所や保育所以外の施設における乳児保育
13 伸びやかさを育てる遊びと保育
　乳児期の児童文化と遊び
14 様々な発達の考え方
　乳幼児健康診査による早期発見・早期療育と保育の役割
15 まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%
レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書　乳児保育第３版　（株）みらい　大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本　責任編集　汐見稔幸・小西行郎・榊原洋　　フレーベル館
保育の内容・方法を知る　乳児保育〔新版〕　増田まゆみ編著　北大路書房
保育所保育指針解説　フレーベル館
乳児の生活と保育　ななみ書房

留意事項

教室を出ての実際体験等を含むため、授業計画の変更もある。教学課前のボードをよく注意して見ておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
乳児保育 Ⅱ			17779	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育Ⅰを踏まえて、乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりについての理解を深め、養護と教育の　体性を考えた生活や遊びと、保育の方法について、実際体験を通して具体的に理解する。また、そのための指導計画のあり方を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

乳児保育Ⅰでの授業を振り返りながら、乳児保育とはどういうものであるかを、実際体験や演習を通して再認識し、またその保育をする上での計画について理解を深め、乳児保育にあたる保育者として専門的能力を身につけられるようにする。

授業計画

1 乳児保育の基本　発達と援助
2 乳児保育の基本　発達と援助（DVD視聴「乳幼児の発達と保育　０，１，２歳児」）
3 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
4 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
5 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
6 乳児保育の実際（教室を出て実際体験をする。DVD視聴）
7 乳児保育における計画の実際
8 まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%
レポート提出を求め、講義の中でのフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

はじめて学ぶ　乳児保育　第２版　同文書院　志村聡子編著者

参考図書

保育所保育指針解説（フレーベル館）
新時代の保育双書　乳児保育　第３版　（株）みらい　大橋貴美子編
乳児の生活と保育（改訂版）　ななみ書房　松本園子編著
あそびうた大全集　永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験もあるため、授業計画の変更もある。教務課前掲示板をよく注意してみておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史的変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題のつである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

障害児保育は特別支援教育へとつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個々人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

授業計画

1 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2 肢体不自由児･難聴幼児通園施設の実際
3 知的障害がある子どもの理解と支援
4 学校園における発達障害がある子どもへの支援　1
5 学校園における発達障害がある子どもへの支援　2
6 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7 障害がある子どもの受け入れポイント
8 障害がある子どもの受け入れに関する施設･設備の工夫と課題
9 障害がある子どもの面談法
10 障害がある子どもの行動観察法
11 関係諸機関　専門医の診断法
12 関係諸機関　保健センター､福祉関係機関
13 家庭への子育て支援　幼児期の障害児への支援
14 家庭への支援　健常者の保護者への啓発
15 就学に向けての保護者との連携支援

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の　コマを、　つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

若井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的にしている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの　生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

1 オリエンテーション
2 特別支援教育の現状
3 視覚障害の理解と特別支援教育
4 聴覚障害の理解と特別支援教育
5 言語障害の理解と特別支援教育
6 知的障害の理解と特別支援教育
7 発達障害の理解と特別支援教育１
8 発達障害の理解と特別支援教育２
9 肢体不自由の理解と特別支援教育
10 それぞれの障害の理解と特別支援教育１
11 それぞれの障害の理解と特別支援教育２
12 特別支援教育の変遷
13 生涯発達支援について１
14 生涯発達支援について２
15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するのかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法、その他

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋　智　編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	1	公立小学校教員			

授業の到達目標
小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要
教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画
1 受講の心構え･授業内容についてのガイダンス､小学校教育実習を受ける前に
2 実習校との事前打合せ､小学校の組織と日程
3 実習中の心得(勤務､礼儀､言葉遣い､服装､持ち物)
4 実習中の心得(学級経営､給食指導､休み時間)
5 児童や教職員との接し方
6 実習記録の書き方
7 学習指導と生徒指導
8 算数科模擬授業(低学年)
9 算数科模擬授業(高学年)
10 教育実習の成果と課題

授業の方法
書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修
テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスを行う。
②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について
欠席は10点減点し、遅刻は３点減点する。

テキスト
石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項
小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先
ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育実習指導 ＩＡ			17812	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標
保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要
保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画
1 保育所実習の意義･目的･概要について理解する
2 保育所の役割と機能を理解する
3 発達過程の理解を深める
4 保育の計画について再認識し､理解を深める　実習指導案の書き方を知る
5 保育内容の実践
6 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方､事務手続きについて理解する
7 実習記録の書き方を知る
8 実習に際しての心構え､留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9 事後指導における実習の総括と自己評価･課題の明確化

授業の方法
講義・演習・実践により進める。

準備学修
webで参照すること。

課題・評価方法、その他
授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について
欠席は、１回につき５点減点とする。

テキスト
保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書
あそびうた大全集　永岡書店
手あそび百科　ひかりのくに
実習の記録と指導案　ひかりのくに
３．４．５歳児が夢中になる実践！造形遊び　ナツメ社

留意事項
実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など）

教員連絡先
shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育実習指導 ＩB			17813	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

1 実習の意義･目的･概要について理解する。
2 各施設の役割と機能を理解する。①
3 各施設の役割と機能を理解する。②
4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
6 実習における観察･記録･評価の仕方を理解する。
7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
8 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、１回につき５点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集　永岡書店
手あそび百科　ひかりのくに
実習の記録と指導案　ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育実習指導B			17820	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育実習ＩAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を目ざして学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものと考える。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ＩAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

1 保育実習Ⅱの意義･目的を理解する
2 保育実習Ⅱに関する事務手続き､書類等の配布と指導
3 保育実習に向けての遊びの指導①
4 保育実習に向けての遊びの指導②
5 保育実習に向けての遊びの指導③
6 実習指導案の作成　実習指導案に基づいた保育内容の確認､実践
7 実習記録の書き方について。
　個人票の書き方について
8 実習の心構え､留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9 事後指導における実習の総括と自己評価　課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席１回につき５点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科　　ひかりのくに
実習の記録と指導案　　ひかりのくに
あそびうた大全集　永岡書店
３，４，５歳児が夢中になる実践！造形遊び　ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
保育実習指導Ⅱ			17821	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育実習ＩAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を目ざして学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものと考える。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ＩAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

1 保育実習Ⅱの意義･目的を理解する
2 保育実習Ⅱに関する事務手続き､書類等の配布と指導
3 保育実習に向けての遊びの指導①
4 保育実習に向けての遊びの指導②
5 保育実習に向けての遊びの指導③
6 実習指導案の作成　実習指導案に基づいた保育内容の確認､実践
7 実習記録の書き方について。
　個人票の書き方について
8 実習の心構え､留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9 事後指導における実習の総括と自己評価　課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席１回につき５点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科　　ひかりのくに
実習の記録と指導案　　ひかりのくに
あそびうた大全集　永岡書店
３，４，５歳児が夢中になる実践！造形遊び　ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
神経・生理心理学			17827	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
古谷 真樹	選択	2				

授業の到達目標

中枢神経や自律神経の構造と機能について理解し、注意や記憶、感情等の生理学的反応の機序、夢などのトピックから、心と脳の関係および高次脳機能障害の概要について説明できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神経・生理心理学は複雑で多様な人間の心理とそれに伴う行動について、脳神経をはじめ生理指標から考察する学問である。中枢神経や自律神経の構造や機能といった基礎的な内容から医療や福祉、教育現場における応用まで幅広く学ぶ。

授業計画

1 神経心理学･生理心理学とは
2 中枢神経系(脳神経系の構造及び機能)
3 ニューロンと活動電位
4 認知･注意と高次脳機能障害
5 記憶と高次脳機能障害
6 脳画像法と高次脳機能障害
7 睡眠中の認知活動
8 自律神経系と情動
9 皮膚電気活動
10 筋電図
11 神経伝達物質
12 ホルモン
13 リラクセーション法
14 テストバッテリー
15 まとめと試験
16

授業の方法

事前学修としてプリントに次回の内容を調べて提出してもらう。
毎回、授業始めに復習の小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点60％（事前学修のプリントまとめ30％、小テスト30％）、定期試験40％

欠席について

１回欠席で５点減点（小テスト含む）、５回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

教員連絡先

furutani@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
司法・犯罪心理学			17831	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
十倉 利廣	選択	2	法務省心理専門職として犯罪アセスメントや処遇に従事する。 少年鑑別所長，矯正研修所長等を歴任する。			

授業の到達目標

・司法・犯罪分野の制度及び同分野の心理臨床の領域を概観できる。
・犯罪原因やメカニズムに関する諸理論を理解できる。
・警察関係機関，家庭裁判所（少年及び家事），少年鑑別所，少年院，刑事施設（刑務所），保護観察所，被害者支援領域における心理臨床業務に関する知識を習得する。
・非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法に関する基礎知識を習得する。
・この授業を通して，KAISEパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を身につける。

授業の概要

司法・犯罪領域における心理臨床の理論や業務を理解するために，犯罪・非行，犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につけるとともに，司法・犯罪分野の問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識を身につける。

授業計画

1 司法･犯罪心理学の基礎知識
2 犯罪心理学理論の進展１
3 犯罪心理学理論の進展２
4 各種犯罪１(窃盗)
5 各種犯罪２(薬物犯罪)
6 各種犯罪３(性犯罪)
7 各種犯罪４(暴力犯罪)
8 捜査心理学１(プロファイリング)
9 捜査心理学２(虚偽検出,証言)
10 精神鑑定
11 家庭裁判所における心理臨床
12 少年鑑別所における心理臨床
13 少年院･刑務所における心理臨床
14 犯罪被害者支援
15 まとめ及び試験

授業の方法

講義を中心とする。資料等について，Web上で提供する。

なお，新型コロナウィルス感染症の拡大状況によっては，授業方法が変更されることがある。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

適宜レポートの提出を求め，講義の中でフィードバックを行う。
平常点70％，定期試験30％
なお，新型コロナウィルス感染症の拡大状況によっては，評価方法が変更されることがある。

欠席について

原則として，欠席数が５回を超える場合は成績評価対象外とする。

テキスト

毎回講義資料を配布する。

留意事項

なお，新型コロナウィルス感染症の拡大状況によっては，授業方法や評価方法等が変更されることがあるので，留意しておくこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
健康・医療心理学			17835	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	医師			

授業の到達目標

心理職に求められる健康心理学の基礎及び応用領域についての知識を深める。また、健康心理学に関する原理や方法、求められている専門性について具体的に説明できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

近年我が国でも心理の国家資格が誕生し、健康保健・医療分野における心理職の立場は確立しつつある。今後心理職による社会への貢献を考える上で、健康心理学、医療心理学の基礎知識の獲得、および近年の動向を把握してゆくことが必要である。この授業では、健康とは何か、疾病予防、健康増進に対する心理学的なアプローチについて、またストレスと心理支援、そして、健康・医療の様々な現場における心理支援の実際について領域ごとに幅広く学ぶ。

授業計画

1 ガイダンス 健康心理学とは
2 健康心理学におけるアセスメントと支援
3 ストレスマネジメント ストレスと心身の疾病との関係
4 各種の心理支援法
5 医療心理学　医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
6 医療心理学におけるアセスメントと支援
7 精神科､児童精神科
8 院内独立型心理室
9 心療内科
10 小児科(母子保健含む)
11 緩和医療
12 産業保健
13 地域保健活動の実際　保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援
14 災害心理学　災害時等に必要な心理に関する支援､多職種協働と医療連携
15 まとめと試験

授業の方法

講義形式で実施する。

準備学修

テキストの予習復習、小テストの準備、レポート作成等の課題を実施する。

課題・評価方法、その他

出席・レポート：60点、終了時課題：40点

欠席について

各授業への欠席で３点、遅刻で２点の減点とする。５回を超える欠席は不合格となる。

テキスト

宮脇稔他編『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社　2018

参考図書

その都度適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
心理演習			17839	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

医療機関・福祉施設・教育機関等での臨床心理士または心理専門職としての心理支援に関する実務経験をもとに具体的場面を設定した演習を実施し、公認心理師として必要とされる知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を実施する。

授業計画

1 オリエンテーション
対人支援者としての姿勢、公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する
2 コミュニケーション実習（1）非言語的交流
身ぶり、他者に添う動き、姿勢、距離、アイコンタクト等の非言語的交流の意識化を行い、話し手が話を聴いてもらえていると感じる関わりについて学ぶ。
3 コミュニケーション実習（2）傾聴と応答
あいづち、短い言葉の応答のみを行いながら、相手の話しを傾聴し、話し手の気持ち、感情を理解する。
4 コミュニケーション実習（3）傾聴とストーリー理解
傾聴後、大切と思われる箇所を相手の言葉を使用して短い言葉でのみ返し、理解の確認、質問、話の焦点づけを行いながらストーリーを理解する。
5 コミュニケーション実習（4）傾聴とストーリー理解の伝え返し
実習（1）～（3）で学んだことを総合し、話し手の伝えたい感情や内容を、相手の言葉を用いてストーリーとして伝え返す関わり方について学ぶ。
6 心理面接のロールプレイング（1）
Cl役、Clの観察者役、Th役、Thの観察者役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、その後フィードバックを行う。
7 心理面接のロールプレイング（2）
Cl役、Clの観察者役、Th役、Thの観察者役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、そのフィードバックを行う。
8 心理検査のロールプレイング（1）　質問紙法
心理検査の準備、ラポールの持ち方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
9 心理検査のロールプレイング（2）　描画法
心理検査の準備、ラポールのつけ方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
10 心理検査のロールプレイング（3）　投影法
心理検査の準備、ラポールのつけ方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
11 事例の理解（1）
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
12 事例の理解（2）
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
13 事例の理解（3）
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
14 多職種連携と地域支援
支援を要する者等に対するチームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解する。
15 総括・振り返り・達成度の評価
ここまでの授業内容の振り返りを行う。出題された授業内課題を各自行う。

授業の方法

講義、ロールプレイング、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。逐語記録の提出等の課題作業もある。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

２～10回はロールプレイ等への積極的参加、授業終了時の達成度、授業内・事後課題がある場合にはその内容を評価する
11～14回は事例検討への積極的参加、授業内・事後課題がある場合にはその内容を評価する
15回は授業内に行う課題を評価する
評価の配分は２～14回が各回７点満点、15回が９点満点とする。

欠席について

欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

プロカウンセラーの聞く技術、東山紘久著、創元社

留意事項

公認心理師養成大学院受験予定者は受講すること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
公認心理師の職責			17843	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師。教育相談員（神戸市教育委員会）、スク　ルカウンセラ　（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

公認心理師が担う職務と責任の内容を理解し、公認心理師を目指すための基礎的な知識を習得する。
①公認心理師の役割について理解し、法的義務や倫理、チーム支援、守秘義務のあり方等についての知識を身につける。
②保健医療、福祉、教育、司法・矯正、産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務の内容について理解し、説明できる。
③心理的援助者としての自己の課題に向き合い、課題解決能力を身につけるのに必要なことを考え、生涯学習の準備に取り組んでいける態度を獲得する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）I（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

公認心理師の学びの導入として、公認心理師の職責に求められる８つの事項を踏まえた授業内容となる。８つの事項は次のとおりである。「①. 公認心理師の役割」「②. 公認心理師の法的義務及び倫理」「③. 心理に関する支援を要する者等の安全の確保」「④. 情報の適切な取り扱い」「⑤. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務」「⑥. 自己課題発見・解決能力」「⑦. 生涯学習への準備」「⑧. 多職種連携及び地域連携」

授業計画

1 オリエンテーション
2 心理学的支援の歴史 心理学･臨床心理学の成り立ちについての振り返り
3 公認心理師の役割 公認心理師法
4 公認心理師の法的義務･倫理
5 公認心理師の職業倫理
6 心理に関する支援を要する者等の安全の確保
7 情報の適切な取り扱いについて 守秘義務 個人情報保護
8 情報共有･連携について 多職種連携･地域連携 多職種連携　地域連携　生物･心理･社会モデル
9 公認心理師の業務① 保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
10 公認心理師の業務② 福祉分野における公認心理師の具体的な業務
11 公認心理師の業務③ 教育分野における公認心理師の具体的な業務
12 公認心理師の業務④ 司法･犯罪分野における公認心理師の具体的な業務
13 公認心理師の業務⑤ 産業･労働分野における公認心理師の具体的な業務
14 問題解決能力と生涯学習
15 期末試験

授業の方法

テキストを中心にした講義形式である。リサーチしたことを発表する時間も設定する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

１回の欠席につき平常点より３点減点、遅刻は２点減点となる。

テキスト

野島　彦編　公認心理師の職責　遠見書房　2018

留意事項

①公認心理師養成大学院受験予定者は受講すること。
②事例等を活用した倫理問題などを扱うこともあるので、受講者はしっかりとしたプライバシー保護の意識をもって授業に臨むこと。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
産業・組織心理学			17847	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2				

授業の到達目標

人が幸福に働くとはどういうことか、働く上での心理的問題をどう考えるかについて、産業・組織倫理学の知見をもとに深めていく。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

産業・組織心理学の知見を学びながら、人が幸福に働くためには何が必要なのか、働く上での心理的問題にどう対応し、どのように支援していくかについて学習する。

授業計画

1 産業･組織心理学の歴史
2 ワーク･モティベーション
3 採用と面接
4 人事評価
5 キャリア発達①
6 キャリア発達②
7 職場のコミュニケーションと人間関係①
8 職場のコミュニケーションと人間関係②
9 リーダーシップ
10 消費者行動とマーケティング
11 仕事の能率と安全①
12 仕事の能率と安全②
13 職場のストレスとメンタルヘルス①
14 職場のストレスとメンタルヘルス②
15 試験

授業の方法

レジメと教科書を用いて授業を進める。少人数の場合、ディスカッションも織り交ぜながら知見を深めていく。

準備学修

事前に産業・組織心理学の基本的な分野について予習を進めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席は５回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山口裕幸・金井篤子　2007　よくわかる産業・組織心理学

教員連絡先

yasuoka@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
精神疾患とその治療			17851	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	精神科医師			

授業の達成目標

公認心理師にとって必要な知識である代表的な精神疾患の症状・経過・治療に関して理解する。
(1)精神疾患の診断方法について説明できる。
(2)精神疾患の薬物療法、心理療法について説明できる。
(3)主要な精神疾患の特徴的な症状と経過について説明できる。
(4)主要な精神疾患の治療について説明できる。
(5)リエゾン精神医学、多職種連携について説明できる。
(6)公認心理師の精神科医療における役割や支援について説明できる。
このクラスでは、海星パーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う

授業の概要

公認心理師にとって必要な知識である代表的な精神疾患の症状・経過・治療に関して学ぶ。
精神医学の考え方、精神医学的診断、精神疾患の治療方法である、薬物療法（向精神薬の種類、心身の変化等）や心理療法（心理療法の種類、本人や家族への支援等）等について概説する。また、代表的な精神疾患について成因、特徴、症状、経過、治療について解説する。さらに、精神医学の応用例として、コンサルテーションリエゾン、多職種協働、医療連携について学び、公認心理師の精神科医療での役割や業務について理解する。

授業計画

1 精神疾患とは
2 精神症状のみかた･精神疾患の診断
3 精神疾患と薬物療法
4 心理療法について
5 統合失調症
6 うつ病､双極性障害
7 強迫症､不安症群
8 適応障害
9 神経発達症群
10 児童･思春期における心理的問題
11 女性の心理的問題
12 高齢期における心理的問題
13 公認心理師の役割
14 リエゾン精神医学､多職種協働
15 まとめ

準備学習

Webで参照すること
全ての事前学習：テーマについてテキストを読み、関連箇所をまとめておくこと（90分）
全ての事後学習：学習内容の復習と課題（90分）

授業の方法

テキストを用いた講義形式で行う。毎回課題が出される。

成績評価の方法

毎回の課題60%
学期末課題レポート40%

テキスト

公認心理師カリキュラム準拠　精神疾患とその治療/三村将ら編/医歯薬出版

参考文献

専門医がやさしく語る　はじめての精神医学 改訂第２版/渡辺雅幸/中山書店/2007

留意事項

本講義は公認心理師カリキュラムの必修科目である。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
人体の構造と機能及び疾病			17855	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医　人間ドック認定医　日本医師会認定産業医 インフェクションコントロ　ルドクタ　（感染管理）			

授業の到達目標

世の中には医学に関する知識や情報が溢れており、中には明らかに間違っているものもある。それらに惑わされず、病気を正しく理解するには、子ども大人にかかわらず、まず基本である人体の構造（解剖）、生理機能を理解する必要がある。その上で、その異常状態（疾病）の原因や成り立ち、経過を理解する（病態生理）。また、近年がんの生存率の向上、難病の生活の質の改善により社会復帰が可能となり、それらをサポートする体制の改善と社会の理解も必要とされている。そのために以下の項目を理解する。
1.身体の構造、生理機能を理解する。
2.様々な疾病や障害の病態生理、症状、治療を理解する。
3.がん､難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病､支援制度を理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

授業の概要

子どもも大人も人の体は構造、機能ともに複雑であり、また、色々の器官が互いに作用し、内外からの刺激に対して、体の状態はある範囲で変動しながら（揺らぎ）、　定の状態を保つ恒常性（ホメオスタシス）を有している。この恒常性が崩れると病気（疾病）が引き起こされる。また、心と体はお互いに強く作用し、健康にも影響を与えることがあり、ストレスにより多くの病気が引き起こされる。病気とは言えなくても、ストレスが原因で体に症状が現われたり、逆に病気自体が心に影響を与えることがある。医学の発達により病気の解明が進み、病態や症状が理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない知識を身につけることが可能であると考える。また、近年治療法の改善で、難治性の疾患を持ち治療しながら学校、社会生活が可能となり、それらをサポートする体制の改善や社会の理解も必要とされている。このような背景から、まず人の体についての基本事項を理解し、それを基礎として病気（疾病）の理解を深め、さらに、心や社会との関わり、支援についても学ぶ。

授業計画

1 生物としての人:生物学的特徴､生化学的特徴
2 人体の構造と生理　（1）骨格筋　脈管
3 人体の構造と生理　（2）神経　感覚器
4 人体の構造と生理　（3）呼吸器　皮膚
5 人体の構造と生理　（4）消化器
6 人体の構造と生理　（5）血液　リンパ　免疫
7 人体の構造と生理　（6）腎尿路　生殖器　内分泌　代謝
8 人体の疾病　（1）病態　症状　（2）循環器
9 人体の疾病　（3）消化器
10 人体の疾病　（4）呼吸器　（5）腎尿路　生殖器
11 人体の疾病　（6）内分泌　代謝　（7）整形外科
12 人体の疾病　（8）感染症
13 人体の疾病　（9）神経筋　感覚器　心身症
14 人体の疾病　(10) 血液　免疫　アレルギー
15 人体の疾病　(11) がん　難病　認知症

授業の方法

スライド講義を中心とする。スライド資料、参考資料を配布するので講義内容を復習し、提示された課題のレポートを作成する。新聞、ネット、雑誌などの健康、病気に関する情報をチェックしておく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①課題
講義内容のまとめ、提示課題のレポートの提出（全２回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
②評価方法について、
平常点30％、定期試験70％

欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、　般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は３点減点、遅刻は１点減点。

テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容とその配布資料とする。

参考図書

　般雑誌ではあるが、Newton 別冊　巧妙な構造としくみがよくわかる！　人体完全ガイド　改訂　第２版

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
関係行政論			17859	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	学校心理士SV　臨床心理士 上級教育カウンセラ　、小学校長、教育委員会			

授業の到達目標

心理・社会福祉に関する支援を求められる分野を理解する。さらに、代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な臨床活動を支える基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

公認心理師に求められる法律・制度は、社会のニーズに応じて刻々と変わっている。柔軟な姿勢で臨めるよう指導する。
クライエントが課題を乗り越える支援として法律の基本をきちんと押さえる。

授業計画

1 公認心理師に関係する法規紹介と全体像を理解する。
2 教育分野では、教育基本法を頂点とする各法律の中で、公認心理師が担うべき内容を理解する。
3 学校教育と教育委員会な関係、チームワークについて理解する。
4 学習指導要領の特に総則について理解を深め、学校教育への支援の在り方を学ぶ。
5 保健医療分野では、医療制度の概略を理解する。
6 公認心理師が主にかかわるであろう精神保健福祉法、医療観察法の内容を理解する。
7 高齢化社会に向けて、益々介護保険法の知識が必要となると思われるので、事例を入れながら理解を深める。
8 児童虐待が激増している社会状況を踏まえ、児童福祉法の概略を理解する。
9 インクルーシブシステムが様々な現場で認知され始めたことを受け、障害児(者)の福祉関連法規を理解する。
10 増々の高齢化社会に向け、高齢者福祉領域のニーズは格段に増えつつある。心理職の関わり方を理解する。
11 若者の犯罪が急増している現代、少年法、犯罪被害者支援法等について理解する。
12 家族崩壊や夫婦離婚、それらに関連する子どもの養育問題等、司法、犯罪分野の知識理解を深める。
13 産業・労働分野、特に労働者のメンタルヘルスは重要である。そこで、これらの関連法規を理解する。
14 男女共同参画、で女性も企業にとって活躍している現代において、多忙な家庭生活が予想される。産業・労働分野における心の健康について深く考える。
15 労働者を守る「労働三法」についてきちんと知識を蓄えて、支援できるよう理解を深める。講義後に全体を振り返り、試験を課す。

授業の方法

法規の文言は難解な語句が多いので、事例を加えながら解説していく。

準備学修

社会の出来事に日ごろから関心を持つこと

課題・評価方法、その他

レポート、発表、定期試験

欠席について

学内基準に準拠

テキスト

授業中に指示する

参考図書

授業で指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

掲示板を参照すること

現代人間学部　英語観光学科

教職に関する科目

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育原理	教職中等		14115	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

1　教育の理念と目的について理解する。
2　教育に関する歴史及び思想について理解する。
3　日本と諸外国の学校制度について理解する。
4　現代社会における教育の現状と課題について理解する。
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史的変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

授業計画

1 講義の進め方と講義概要について説明する。
2 人とは？教育とは？
3 学校の歴史　その１　諸外国の教育の思想と歴史
4 学校の歴史　その２　日本における学校制度の成立と展開
5 教育に関する法規
6 現行法における日本の学校教育の目的
7 教育課程と教育内容
8 学習指導要領の変遷
9 教師の仕事と専門性
10 よい授業とは
11 現代社会と教育問題　いじめ･不登校問題など
12 教育改革の新しい動きと方向について
13 日本と諸外国の教育制度
14 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関しての思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習を必ず行うこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準ずる。

テキスト

・「問いからはじめる教育学」　勝野　正章・庄井　良信著　出版社：有斐閣
・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説
　その他　必要に応じて資料を配付

参考図書

・「はじめての子どもの教育原理」　福元真由美著　出版社：有斐閣
・「やさしい教育原理」　田嶋　　他著　出版社：有斐閣
・「教育の原理を学ぶ」　遠藤　克弥・山崎　真之著　出版者：川島書店

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等		14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の　層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（５日間）と特別支援学校（２日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

授業計画

1「介護等体験」の目的と概要
2 社会福祉施設　1
3 社会福祉施設　2
4 介護の心構えと実際
5 高齢者の心と身体
6 特別支援学校
7 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
8「介護等体験」に臨む心構え･留意事項

授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50％、定期試験50％

欠席について

欠席１回につき３点減点する。

テキスト

『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
全国特別支援学校長会『介護等体験ガイドブック　新フィリア』ジアース教育新社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

この授業は7.5回行う。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。
　このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。
1　特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
2　特別活動の４つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
3　特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

1 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
2 教育課程における特別活動の位置づけ
3 特別活動の歴史的変遷
4 ①　各校種における特別活動の内容と目標
　②　特別活動の内容１「学級活動」について
5 特別活動の内容２「生徒会(児童会)活動」について
6 特別活動の内容３「学校行事」について
7 学校目標と特別活動の指導計画について
8 演習１　学級活動の指導計画を作成する。その１
9 演習２　学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
10 演習３　事前に作成した計画に基づき施設を利用して校外学習を行う。
11 演習４　校外学習を終えて
12 演習５　学級活動の指導計画を作成する。　その２
13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
14 特別活動と社会とのかかわり
15 まとめとテスト

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

○各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領　解説　特別活動編」を熟読し予習する。
○自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
○特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
○Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】　東京書籍　国立教育研究所　教育課程研究センター
・「社会力を育てる」岩波新書　門脇厚司著
・「学校の社会力」朝日新聞　　門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
特別支援教育（中高）			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濵田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラ　、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

1 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児･児童･生徒の困り感
3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児･児童･生徒の心の発達
4 障害のある幼児･児童･生徒の困り感
5 障害のある幼児･児童･生徒の家族､特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6 障害のある幼児･児童･生徒の保護者･兄弟姉妹･祖父母等の障害受容
7 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8 障害のある幼児･児童･生徒の教材選定
9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11 様々な障害種､重複障害と個別の教育支援
12 特別支援教育コーディネーター等との連携
13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14 障害のある幼児･児童･生徒以外の個別の教育支援
15 外国から移住してきた幼児･児童･生徒の学習､生活面での支援
16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80％、授業最後に提出するレポートと振り返り20％

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教職実践演習（中・高）	ET		14214	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人／惣谷 美智子	選択	2	私立・公立中学校、私立高等学校教員 神戸市教育委員会指導課指導主事　中学校長			

授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である（1）使命感・責任感・資質に関する知識、（2）社会性や対人関係能力、（3）教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

授業計画

1 イントロダクション　これまでの学習や教育実習について(1)～講義､発表
2 教師としての使命感や責任感､資質について(1)～講義
3 教師としての使命感や責任感､資質について(2)～グループ討論
4 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8 学級経営案の作成とグループ討論
9 学校現場の見学(1)～見学･調査
10 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11 教科の指導力について(1)～講義
12 教科の指導力について(2)～グループ討論
13 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14 資質能力の確認･まとめ(1)～小論文とアンケート
15 資質能力の確認･まとめ(2)～講評

授業の方法

講義の中でグループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

準備学修

次回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は１回につき20点減点、遅刻・早退は１回につき６点減点する。

テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。
実際の中学校を訪問し随時研修を行うので、平素から服装等に配慮すること。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp
mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
生徒指導論	教職中等		14217	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
松井 敦	選択	2	中学校教諭　中学教頭　小学校校長			

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA（自律）でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK（思いやり：傾聴力）とI（知性）状況把握力を高める訓練をする。

授業の概要

教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1 生徒指導の意義と原理(集団指導､個別指導の方法原理)
2 学校運営と生徒指導の関連
3 教育課程と生徒指導(教科､道徳教育)
4 教育課程と生徒指導(総合的な学習の時間､特別活動)
5 キャリア教育と生徒指導の関わり
6 生徒の心理分析と理解の方法
7 学校における生徒指導体制を学ぶ(実際の中学での見学体験)
8 教育相談の進め方(カウンセラー､専門機関)
9 生徒指導の進め方(支援体制､関係機関との連携)
10 生徒指導における教職員の役割
11 進路指導における生徒指導について
12 課題別生徒指導の考察
13 生徒指導に関する法制度について
14 生徒指導短縮事例研究(前半)
15 生徒指導短縮事例研究(後半)､まとめ

授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した資料をもとに事例研究を行い考察をする。

準備学修

テキスト「生徒指導提要」（文部科学省）を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

テキスト

文部科学省編「生徒指導提要」最新版

参考図書

随時、紹介する。

留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、毎回レポートを作成する。
臨地研修として、１回は近隣の中学校を訪問し見学する予定です。
平素から服装等に配慮すること

教員連絡先

matui@kaisei.ac.jp

ET 教職科目〈ET 教職科目 〉	クラス		科目コード	配当年次	期　間	人数制限
教育実習指導（中等）	教職中		14231	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人／吉野 美智子	選択	1	神戸市教育委員会指導課教育実習担当主事 中学校長			

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1 教育実習事前指導①
2 教育実習事前指導②
3 教育実習事前指導③
4 教育実習事前指導④
5 教育実習事前指導⑤
6 教育実習事前指導⑥
7 教育実習事後指導①
8 教育実習事後指導②

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
・中学校・高等学校の学習指導要領をもう　度よく読むこと。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20％とし、欠席は１回につき、20点減点する。遅刻・早退は１回につき６点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）
文部科学省『中学校学習指導要領解説　外国語編』最新版
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』最新版
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
・毎回の授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp
myosino@kaisei.ac.jp

索　　引

・シラバス索引　(科目コード順) …… P.343

・シラバス索引　(五十音順) …… P.350

2021年度　シラバス索引（科目コード順）

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	１１１０１	尾﨑 秀夫	Ⅰ	153
聖書概論	１１１０５	森 陽子	Ⅰ	153
キリスト教海外研修	１１１０９	尾﨑 秀夫	Ⅰ	154
聖書と現代	１１１１３	森 陽子	Ⅱ	154
キリスト教と文化	１１１１７	尾﨑 秀夫	Ⅲ	155
基礎演習Ⅰ	１１２０１	宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	Ⅰ	155
基礎演習Ⅰ	１１２０１	森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅰ	156
基礎演習Ⅱ	１１２０５	宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	Ⅰ	156
基礎演習Ⅱ	１１２０５	森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅰ	157
海星学Ⅰ	１１２０６	箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	Ⅱ	157
海星学Ⅰ	１１２０６	南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅱ	158
海星学Ⅱ	１１２０７	箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	Ⅱ	158
海星学Ⅱ	１１２０７	南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅱ	159
人間学１	１１２０９	尾﨑 秀夫	Ⅰ	159
人間学２	１１２１３	芝山 豊	Ⅲ	160
キャリアデザイン入門	１１３０１	前田 典子	Ⅰ	160
キャリアデザイン入門	１１３０１	前田 典子	Ⅰ	161
文学入門	１１３０９	箕野 聡子	Ⅰ	161
情報活用の基礎知識	１１３１３	埴岡 忠清	Ⅰ	162
心理学概論	１１３１７	中植 満美子	Ⅰ	162
統計学入門	１１３２１	埴岡 忠清	Ⅰ	163
ジェンダー論	１１３２５	浅井 由美	Ⅰ	163
日本国憲法	１１３２９	浅野 宜之	Ⅰ	164
健康科学	１１３３３	柳本 有二	Ⅰ	164
健康スポーツ１	１１３３７	後藤 磨也子／片岡 安美子	Ⅰ	165
日本文化史	１１３５３	箕野 聡子	Ⅱ	165
簿記会計学	１１３５７	埴岡 忠清	Ⅱ	166
現代家族関係論	１１３６５	浅井 由美	Ⅱ	166
社会福祉論	１１３６９	西橋 隆三	Ⅲ	167
人権教育論	１１３７３	堀 正人	Ⅱ	167
社会科学概論	１１３７７	尾﨑 秀夫	Ⅱ	168
家政学概論	１１３８１	浅井 由美	Ⅱ	168
経営学入門	１１３８５	栗木 契	Ⅲ	169
手話コミュニケーションⅠ	１１３９３	多賀 真里子／嘉田 眞典	Ⅱ	169
手話コミュニケーションⅡ	１１３９７	多賀 真里子／嘉田 眞典	Ⅱ	170
日本語表現法	１１４０１	箕野 聡子	Ⅰ	170
日本語表現法	１１４０１	大岸 啓子	Ⅰ	171
日本語文章構成法	１１４０５	箕野 聡子	Ⅱ	171
情報リテラシー１	１１５０１	米田 里香	Ⅰ	172
情報リテラシー１	１１５０１	渡辺 卓也	Ⅰ	172
情報リテラシー２	１１５０５	米田 里香	Ⅰ	173
情報リテラシー２	１１５０５	渡辺 卓也	Ⅰ	173
オフィス情報処理１	１１５０９	米田 里香	Ⅱ	174
オフィス情報処理２	１１５１３	米田 里香	Ⅱ	174
英語１	１１６０１	後藤 江里	Ⅰ	175
英語１	１１６０１	釜須 久夫	Ⅰ	175
英語２	１１６０５	入江 和子	Ⅰ	176
英語２	１１６０５	木下 奈美	Ⅰ	176

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
英語３	１１６０９	石原 敬子	Ⅰ	177
英語４	１１６１３	木下 奈美	Ⅰ	177
英語５	１１６１７	James C. JENSEN／Tim KERN	Ⅱ	178
英語６	１１６２１	國本 恵理香	Ⅱ	178
英語７	１１６２５	James C. JENSEN／Andy RUSHTON	Ⅱ	179
英語８	１１６２９	後藤 江里	Ⅱ	179
フランス語１	１１６３３	平田 淳子	Ⅰ	180
フランス語２	１１６３７	平田 淳子	Ⅰ	180
フランス語３	１１６４１	平田 淳子	Ⅰ	181
フランス語４	１１６４５	平田 淳子	Ⅰ	181
フランス語５	１１６４９	平田 淳子	Ⅱ	182
フランス語６	１１６５３	平田 淳子	Ⅱ	182
フランス語７	１１６５７	平田 淳子	Ⅱ	183
フランス語８	１１６６１	平田 淳子	Ⅱ	183
中国語１	１１６６５	坂口 文馨	Ⅰ	184
中国語２	１１６６９	沈 竑	Ⅰ	184
中国語３	１１６７３	坂口 文馨	Ⅰ	185
中国語４	１１６７７	沈 竑	Ⅰ	185
中国語５	１１６８１	坂口 文馨	Ⅱ	186
中国語６	１１６８５	王 嫣	Ⅱ	186
中国語７	１１６８９	王 嫣	Ⅱ	187
中国語８	１１６９３	王 嫣	Ⅱ	187
韓国語１	１１６９７	宋 京珠	Ⅰ	188
韓国語２	１１７０１	宋 京珠	Ⅰ	188
韓国語２	１１７０１	宋 京珠	Ⅰ	189
韓国語３	１１７０５	宋 京珠	Ⅰ	189
韓国語４	１１７０９	宋 京珠	Ⅰ	190
韓国語４	１１７０９	宋 京珠	Ⅰ	190
韓国語５	１１７１３	金 宝英	Ⅱ	191
韓国語６	１１７１７	金 宝英	Ⅱ	191
韓国語７	１１７２１	金 宝英	Ⅱ	192
韓国語８	１１７２５	金 宝英	Ⅱ	192
専門科目（英語観光学科）				
演習Ⅰ	１３１０１	一尾 敏正	Ⅲ	195
演習Ⅰ	１３１０１	箕野 聡子	Ⅲ	195
演習Ⅰ	１３１０１	宮副 紀子	Ⅲ	196
演習Ⅰ	１３１０１	小野 礼子	Ⅲ	196
演習Ⅰ	１３１０１	酒井 新一郎	Ⅲ	197
演習Ⅰ	１３１０１	白井 昭彦	Ⅲ	197
演習Ⅰ	１３１０１	吉野 美智子	Ⅲ	198
演習Ⅱ	１３１０５	一尾 敏正	Ⅲ	198
演習Ⅱ	１３１０５	箕野 聡子	Ⅲ	199
演習Ⅱ	１３１０５	宮副 紀子	Ⅲ	199
演習Ⅱ	１３１０５	小野 礼子	Ⅲ	200
演習Ⅱ	１３１０５	酒井 新一郎	Ⅲ	200
演習Ⅱ	１３１０５	白井 昭彦	Ⅲ	201
演習Ⅱ	１３１０５	吉野 美智子	Ⅲ	201
演習Ⅲ	１３１０９	一尾 敏正	Ⅳ	202
演習Ⅲ	１３１０９	石原 敬子	Ⅳ	202

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅲ	１３１０９	箕野 聡子	Ⅳ	203
演習Ⅲ	１３１０９	宮副 紀子	Ⅳ	203
演習Ⅲ	１３１０９	酒井 新一郎	Ⅳ	204
演習Ⅲ	１３１０９	吉野 美智子	Ⅳ	204
演習Ⅳ	１３１１３	一尾 敏正	Ⅳ	205
演習Ⅳ	１３１１３	石原 敬子	Ⅳ	205
演習Ⅳ	１３１１３	箕野 聡子	Ⅳ	206
演習Ⅳ	１３１１３	宮副 紀子	Ⅳ	206
演習Ⅳ	１３１１３	酒井 新一郎	Ⅳ	207
演習Ⅳ	１３１１３	吉野 美智子	Ⅳ	207
ホスピタリティ精神論	１３２７２	白井 昭彦	Ⅰ	227
日本文化論	１３２７３	箕野 聡子	Ⅱ	229
翻訳・通訳論入門	１３３０１	和泉 有香／樫本 雄三	Ⅱ	230
ことばと社会	１３４０５	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	228
異文化理解	１３４０９	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	227
英米文学入門	１３４１３	吉野 美智子	Ⅰ	228
コミュニケーションと文化	１３４１９	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	229
観光概論	１３４２６	一尾 敏正	Ⅰ	232
国際観光交流論	１３４２７	白井 昭彦	Ⅰ	232
環境ツーリズム論	１３４３０	酒井 新一郎	Ⅱ	234
観光事業総論	１３４３１	一尾 敏正	Ⅰ	234
観光と世界遺産	１３４３２	酒井 新一郎	Ⅱ	235
観光ビジネス実務論	１３４３４	酒井 新一郎	Ⅱ	235
海外ツーリズム研修	１３４４５	酒井 新一郎	Ⅱ	236
ツーリズム実務特論	１３４５０	酒井 新一郎	Ⅱ	236
児童文学	１３５０１	箕野 聡子／宮副 紀子	Ⅱ	231
英米文学研究	１３５２１	惣谷 美智子	Ⅲ	245
女性と社会	１３５２５	浅井 由美	Ⅲ	246
ビジネス翻訳	１３６２１	樫本 雄三	Ⅲ	245
児童英語教育概論	１３７０１	高田 悦子	Ⅰ	251
英語科教育法Ⅰ	１３７０５	後藤 江里	Ⅰ	252
英語科教育法Ⅱ	１３７０９	宮副 紀子	Ⅱ	252
英語学概論	１３７１３	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	230
キッズ・イングリッシュⅠ	１３７２５	高田 悦子	Ⅱ	253
キッズ・イングリッシュⅡ	１３７２９	後藤 江里	Ⅱ	253
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）	１３７３３	後藤 江里	Ⅲ	255
英語科教育法Ⅲ	１３７３７	吉野 美智子	Ⅲ	254
英語科教育法Ⅳ	１３７４１	吉野 美智子	Ⅲ	254
外国語教授法	１３７４５	後藤 江里	Ⅲ	255
TOEIC/TOEFL入門 1	１３８０６	和泉 有香	Ⅰ	260
TOEIC/TOEFL入門 1	１３８０６	入江 和子	Ⅰ	260
TOEIC/TOEFL入門 2	１３８０７	後藤 江里	Ⅱ	261
TOEIC/TOEFL入門 2	１３８０７	後藤 江里	Ⅱ	261
教職概論（中高）	１３８０９	松井 敦	Ⅰ	256
教職概論（キッズ）	１３８０９	森 晴美	Ⅰ	256
教育・学校心理学	１３８１５	濵田 誠二郎	Ⅰ	257
TOEIC/TOEFL 1	１３８２２	和泉 有香	Ⅱ	262
道徳教育指導論	１３８２９	松井 敦	Ⅲ	259
比較文化論	１３８３０	箕野 聡子	Ⅲ	246
ホスピタリティ・マネジメント	１３８３１	一尾 敏正	Ⅱ/Ⅲ	247

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
ビジネス中国語	１３８３２	王 嫣	Ⅲ	250
観光マーケティング論	１３８３３	一尾 敏正	Ⅱ/Ⅲ	248
宿泊事業論	１３８３５	一尾 敏正	Ⅲ	249
航空ツーリズム論	１３８３６	白井 昭彦	Ⅲ	248
観光フランス語	１３８３７	平田 淳子	Ⅲ	251
観光文化地理論	１３８３８	釜須 久夫	Ⅰ	233
WEBトラベルプレゼンテーション	１３８３９	釜須 久夫	Ⅲ	249
神戸学	１３８４１	箕野 聡子	Ⅲ	250
観光英検３級	１３８４５	國本 恵理香	Ⅰ	263
観光英検２級	１３８４６	入江 和子	Ⅰ	263
観光英検１級	１３８４７	入江 和子	Ⅱ	264
英検２級	１３８４８	和泉 有香	Ⅰ	262
教育方法論	１３８５１	堀 正人	Ⅱ	258
教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む）	１３８５２	濵田 誠二郎	Ⅲ	259
教育経営論（中高）	１３８５３	堀 正人	Ⅲ	258
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）	１３８５４	都賀 純／堀 正人	Ⅱ	257
Oral Communication 100	１３９０１	James C. JENSEN／Cory McKENZIE	Ⅰ	208
Oral Communication 100	１３９０１	Angus HALL	Ⅰ	208
Reading 101	１３９０３	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	209
Reading 101	１３９０３	小野 礼子／和泉 有香	Ⅰ	209
Reading 101	１３９０３	宮副 紀子	Ⅰ	210
Writing 102	１３９０５	Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅰ	210
Writing 102	１３９０５	宮副 紀子	Ⅰ	211
Grammar 103	１３９０７	入江 和子／和泉 有香	Ⅰ	211
Grammar 103	１３９０７	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	212
Pronunciation 104	１３９０８	石原 敬子	Ⅰ	212
Oral Communication 200	１３９０９	Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅰ	213
Oral Communication 200	１３９０９	Angus HALL	Ⅰ	213
Reading 201	１３９１１	惣谷 美智子	Ⅰ	214
Reading 201	１３９１１	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	214
Reading 201	１３９１１	佐伯 瑠璃子／小野 礼子	Ⅰ	215
Reading 201	１３９１１	宮副 紀子	Ⅰ	215
Writing 202	１３９１３	Tim KERN／Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅰ	216
Writing 202	１３９１３	吉野 美智子	Ⅰ	216
Grammar 203	１３９１５	小野 礼子／國本 恵理香	Ⅰ	217
Grammar 203	１３９１５	和泉 有香	Ⅰ	217
Pronunciation 204	１３９１６	和泉 有香	Ⅰ	218
Oral Communication 300	１３９１７	Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Tim KERN	Ⅰ/Ⅱ	218
Oral Communication 300	１３９１７	Andy RUSHTON	Ⅱ	219
Reading 301	１３９１９	入江 和子／國本 恵理香／後藤 江里	Ⅰ/Ⅱ	219
Reading 301	１３９１９	吉野 美智子	Ⅱ	220
Writing 302	１３９２１	James C. JENSEN／Andy RUSHTON／Cory McKENZIE	Ⅰ/Ⅱ	220
Writing 302	１３９２１	Angus HALL	Ⅱ	221
Grammar 303	１３９２３	佐伯 瑠璃子／木下 奈美／和泉 有香／後藤 江里	Ⅰ/Ⅱ	221
Grammar 303	１３９２３	和泉 有香	Ⅱ	222
Pronunciation 304	１３９２４	和泉 有香	Ⅱ	222
Oral Communication 400	１３９２５	Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅱ	223
Oral Communication 400	１３９２５	Cory McKENZIE	Ⅱ	223
Reading 401	１３９２７	木下 奈美／國本 恵理香／後藤 江里	Ⅱ	224
Reading 401	１３９２７	吉野 美智子	Ⅱ	224

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Writing 402	１３９２９	Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Angus HALL	Ⅱ	225
Writing 402	１３９２９	James C. JENSEN	Ⅱ	225
Grammar 403	１３９３１	小野 礼子／後藤 江里／佐伯 瑠璃子／和泉 有香	Ⅱ	226
Grammar 403	１３９３１	後藤 江里	Ⅱ	226
Business English	１３９３５	白井 昭彦	Ⅱ	237
English for Tourism	１３９３７	白井 昭彦	Ⅱ	237
Oral Communication 500	１３９３９	Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Cory McKENZIE	Ⅱ/Ⅲ	238
Reading 501	１３９４１	國本 恵理香／宮副 紀子	Ⅱ/Ⅲ	238
Writing 502	１３９４３	Andy RUSHTON／Cory McKENZIE	Ⅱ/Ⅲ	239
Grammar 503	１３９４４	小野 礼子	Ⅱ	239
Pronunciation 504	１３９４５	石原 敬子	Ⅲ	240
Oral Communication 600	１３９４７	Cory McKENZIE／Andy RUSHTON	Ⅲ	240
Reading 601	１３９４９	後藤 江里／宮副 紀子	Ⅲ	241
Writing 602	１３９５１	Andy RUSHTON	Ⅲ	241
Pronunciation 604	１３９５３	和泉 有香	Ⅲ	242
Oral Communication 700	１３９５５	Cory McKENZIE	Ⅲ/Ⅳ	242
English for Academic Purposes 701	１３９５７	Cory McKENZIE	Ⅲ/Ⅳ	243
Pronunciation 704	１３９５９	和泉 有香	Ⅲ/Ⅳ	243
Oral Communication 800	１３９６１	Andy RUSHTON	Ⅳ	244
English for Academic Purposes 801	１３９６３	Tim KERN	Ⅳ	244
ハワイ文化研究	１３９６５	釜須 久夫	Ⅰ	233
インターンシップ（海外）	１３９６７	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	231
インターンシップ（国内）	１３９６９	酒井 新一郎／白井 昭彦	Ⅲ	247
専門科目（心理こども学科）				
演習Ⅰ	１７１０１	浅井 由美	Ⅲ	267
演習Ⅰ	１７１０１	濵田 誠二郎	Ⅲ	267
演習Ⅰ	１７１０１	森 晴美	Ⅲ	268
演習Ⅰ	１７１０１	中植 満美子	Ⅲ	268
演習Ⅰ	１７１０１	佐原 信江	Ⅲ	269
演習Ⅱ	１７１０５	浅井 由美	Ⅲ	269
演習Ⅱ	１７１０５	濵田 誠二郎	Ⅲ	270
演習Ⅱ	１７１０５	森 晴美	Ⅲ	270
演習Ⅱ	１７１０５	中植 満美子	Ⅲ	271
演習Ⅱ	１７１０５	佐原 信江	Ⅲ	271
演習Ⅲ	１７１０９	浅井 由美	Ⅳ	272
演習Ⅲ	１７１０９	濵田 誠二郎	Ⅳ	272
演習Ⅲ	１７１０９	森 晴美	Ⅳ	273
演習Ⅲ	１７１０９	中植 満美子	Ⅳ	273
演習Ⅲ	１７１０９	佐原 信江	Ⅳ	274
演習Ⅳ	１７１１３	浅井 由美	Ⅳ	274
演習Ⅳ	１７１１３	濵田 誠二郎	Ⅳ	275
演習Ⅳ	１７１１３	森 晴美	Ⅳ	275
演習Ⅳ	１７１１３	中植 満美子	Ⅳ	276
演習Ⅳ	１７１１３	佐原 信江	Ⅳ	276
発達心理学	１７２０１	濵田 誠二郎	Ⅰ	277
保育内容総論	１７２０５	佐原 信江	Ⅰ	277
感情・人格心理学	１７３１１	淺谷 豊	Ⅰ	278
臨床心理学概論	１７３２７	津田 明子	Ⅱ	278
知覚・認知心理学	１７３３１	中植 満美子	Ⅱ	279

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
心理学統計法	１７３３９	安岡 勇輝	Ⅱ	279
心理学実験	１７３４２	中園 佐恵子	Ⅱ	280
心理的アセスメント	１７３４４	中植 満美子	Ⅱ	280
心理調査・データ処理法	１７３４５	新美 裕之	Ⅱ	281
臨床心理学実習（心理テスト法）	１７３７５	中植 満美子	Ⅲ	281
心理学的支援法	１７３８３	津田 明子	Ⅲ	282
心理学研究法	１７３８７	中園 佐恵子	Ⅲ	282
社会・集団・家族心理学	１７３９９	中園 佐恵子	Ⅲ	283
生活文化概論	１７４０５	渋谷 美智	Ⅰ	283
教育・学校心理学	１７４１１	濵田 誠二郎	Ⅰ	284
子どもの理解と援助	１７４１２	浅田 裕子	Ⅲ	284
初等音楽１	１７４１７	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	285
初等音楽２	１７４２１	由井 敦子／南 夏世	Ⅰ	285
児童文学	１７４３７	箕野 聡子／宮副 紀子	Ⅱ	286
乳幼児心理学	１７４４５	長谷川 貴子	Ⅱ	286
学習・言語心理学	１７４４７	中園 佐恵子	Ⅱ	287
初等英語科指導法	１７４６７	高田 悦子	Ⅱ	287
キッズ・イングリッシュⅡ	１７４６９	後藤 江里	Ⅱ	288
初等音楽３	１７４７３	南 夏世	Ⅱ	288
初等音楽４	１７４７７	南 夏世	Ⅲ	289
教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む）	１７４９７	濵田 誠二郎	Ⅲ	289
ボランティア論	１７５０５	西橋 隆三	Ⅰ	290
図画工作	１７５０９	森 晴美	Ⅰ	290
初等英語	１７５１１	高田 悦子	Ⅰ	291
初等体育	１７５１３	木岡 正雄	Ⅱ	291
教育原理	１７５２１	澤井 一夫	Ⅱ	292
子ども家庭福祉	１７５２３	久松 睦典	Ⅱ	292
情緒・学習障害の心理	１７５３７	濵田 誠二郎	Ⅲ	293
福祉心理学	１７５４３	新美 裕之	Ⅳ	293
保育内容の研究・表現（造形表現）	１７６０１	森 晴美	Ⅲ	294
保育原理	１７６０７	成木 智子	Ⅰ	294
教職概論（小）	１７６１３	松井 敦	Ⅰ	295
教職概論（幼保）	１７６１３	森 晴美	Ⅰ	295
幼児教育学原理	１７６１７	須河内 優子	Ⅱ	296
幼児教育課程論	１７６２３	佐原 信江	Ⅱ	296
保育内容の研究・人間関係	１７６２９	成木 智子	Ⅱ	297
保育内容の研究・言葉	１７６３３	森 晴美	Ⅲ	297
社会的養護Ⅰ	１７６３９	曽田 里美	Ⅰ	298
社会的養護Ⅱ	１７６４０	曽田 里美	Ⅲ	298
子どもの保健	１７６４３	狐塚 善樹	Ⅱ	299
子どもの健康と安全	１７６４７	成木 智子	Ⅲ	300
子どもの食と栄養	１７６５０	成木 智子	Ⅲ	300
保育内容の研究・表現（身体表現）	１７６５３	成木 智子	Ⅱ	301
保育内容の研究・表現（音楽表現）	１７６５５	南 夏世	Ⅱ	301
教育方法論	１７６５７	濵田 誠二郎	Ⅱ	302
初等国語科指導法	１７６６１	大岸 啓子	Ⅲ	302
初等社会科指導法	１７６６５	山本 博	Ⅱ	303
初等算数科指導法	１７６６９	都賀 純	Ⅱ	303
初等理科指導法	１７６７３	山本 博	Ⅱ	304
初等生活科指導法	１７６７７	東内 則子	Ⅱ	304

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
特別活動論	１７６８１	都賀 純	Ⅱ	305
特別支援教育（幼小）	１７６８３	濵田 誠二郎	Ⅱ	305
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法	１７６８４	都賀 純	Ⅱ	306
保育・教職実践演習（幼・小）	１７６８６	大岸 啓子／佐原 信江	Ⅳ	306
教育実習指導（幼稚園） Ⅰ	１７６９１	佐原 信江	Ⅱ	307
介護等の体験（事前指導）	１７６９７	浅井 由美	Ⅱ	307
教育実習指導（幼稚園） Ⅱ	１７７０７	佐原 信江	Ⅲ	308
教育経営論	１７７１３	濵田 誠二郎	Ⅲ	308
保育内容の研究・健康	１７７１７	石田 伸子	Ⅲ	309
保育内容の研究・環境	１７７２１	渋谷 美智	Ⅲ	309
幼児教育指導法	１７７２５	佐原 信江	Ⅲ	310
幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）	１７７２７	成木 智子	Ⅲ	310
初等音楽科指導法	１７７３３	南 夏世	Ⅲ	311
初等図画工作科指導法	１７７３７	花房 雅剛	Ⅲ	311
初等家庭科指導法	１７７４１	浅井 由美	Ⅲ	312
初等体育科指導法	１７７４５	木岡 正雄	Ⅲ	312
道徳教育指導論	１７７４９	大岸 啓子	Ⅱ	313
生徒指導論（進路指導を含む）	１７７５３	花房 雅剛	Ⅲ	313
子ども家庭支援論	１７７５９	浅井 由美	Ⅲ	314
子ども家庭支援の心理学	１７７６３	島田 麻美子	Ⅲ	314
乳児保育Ⅰ	１７７７８	渋谷 美智	Ⅰ	315
乳児保育 Ⅱ	１７７７９	渋谷 美智	Ⅱ	315
障害児保育	１７７８２	中園 佐恵子	Ⅱ	316
障害者・障害児心理学	１７７８３	中園 佐恵子	Ⅱ	316
教育実習指導（小学校）	１７７８５	大岸 啓子	Ⅲ	317
保育実習指導 ⅠA	１７８１２	渋谷 美智	Ⅱ	317
保育実習指導 ⅠB	１７８１３	成木 智子	Ⅱ	318
保育実習指導B	１７８２０	渋谷 美智	Ⅳ	318
保育実習指導Ⅱ	１７８２１	渋谷 美智	Ⅲ	319
神経・生理心理学	１７８２７	古谷 真樹	Ⅱ	319
司法・犯罪心理学	１７８３１	十倉 利廣	Ⅱ	320
健康・医療心理学	１７８３５	石川 慎一	Ⅲ	320
心理演習	１７８３９	中植 満美子	Ⅳ	321
公認心理師の職責	１７８４３	中植 満美子	Ⅳ	322
産業・組織心理学	１７８４７	安岡 勇輝	Ⅳ	322
精神疾患とその治療	１７８５１	石川 慎一	Ⅳ	323
人体の構造と機能及び疾病	１７８５５	狐塚 善樹	Ⅳ	323
関係行政論	１７８５９	濵田 誠二郎	Ⅳ	324
教職に関する科目				
教育原理	１４１１５	澤井 一夫	Ⅱ	327
介護等の体験（事前指導）	１４１４７	浅井 由美	Ⅱ	327
特別活動論	１４１８５	澤井 一夫	Ⅱ	328
特別支援教育（中高）	１４１８７	濵田 誠二郎	Ⅱ	328
教職実践演習（中・高）	１４２１４	堀 正人／惣谷 美智子	Ⅳ	329
生徒指導論	１４２１７	松井 敦	Ⅲ	329
教育実習指導（中等）	１４２３１	堀 正人／吉野 美智子	Ⅳ	330

2021年度　シラバス索引（五十音順）

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
B	Business English	１３９３５	白井 昭彦	Ⅱ	237
E	English for Academic Purposes 701	１３９５７	Cory McKENZIE	Ⅲ/Ⅳ	243
	English for Academic Purposes 801	１３９６３	Tim KERN	Ⅳ	244
	English for Tourism	１３９３７	白井 昭彦	Ⅱ	237
G	Grammar 103	１３９０７	入江 和子／和泉 有香	Ⅰ	211
	Grammar 103	１３９０７	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	212
	Grammar 203	１３９１５	小野 礼子／國本 恵理香	Ⅰ	217
	Grammar 203	１３９１５	和泉 有香	Ⅰ	217
	Grammar 303	１３９２３	佐伯 瑠璃子／木下 奈美／和泉 有香／後藤 江里	Ⅰ/Ⅱ	221
	Grammar 303	１３９２３	和泉 有香	Ⅱ	222
	Grammar 403	１３９３１	小野 礼子／後藤 江里／佐伯 瑠璃子／和泉 有香	Ⅱ	226
	Grammar 403	１３９３１	後藤 江里	Ⅱ	226
	Grammar 503	１３９４４	小野 礼子	Ⅱ	239
O	Oral Communication 100	１３９０１	James C. JENSEN／Cory McKENZIE	Ⅰ	208
	Oral Communication 100	１３９０１	Angus HALL	Ⅰ	208
	Oral Communication 200	１３９０９	Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅰ	213
	Oral Communication 200	１３９０９	Angus HALL	Ⅰ	213
	Oral Communication 300	１３９１７	Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Tim KERN	Ⅰ/Ⅱ	218
	Oral Communication 300	１３９１７	Andy RUSHTON	Ⅱ	219
	Oral Communication 400	１３９２５	Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅱ	223
	Oral Communication 400	１３９２５	Cory McKENZIE	Ⅱ	223
	Oral Communication 500	１３９３９	Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Cory McKENZIE	Ⅱ/Ⅲ	238
	Oral Communication 600	１３９４７	Cory McKENZIE／Andy RUSHTON	Ⅲ	240
	Oral Communication 700	１３９５５	Cory McKENZIE	Ⅲ/Ⅳ	242
	Oral Communication 800	１３９６１	Andy RUSHTON	Ⅳ	244
P	Pronunciation 104	１３９０８	石原 敬子	Ⅰ	212
	Pronunciation 204	１３９１６	和泉 有香	Ⅰ	218
	Pronunciation 304	１３９２４	和泉 有香	Ⅱ	222
	Pronunciation 504	１３９４５	石原 敬子	Ⅲ	240
	Pronunciation 604	１３９５３	和泉 有香	Ⅲ	242
	Pronunciation 704	１３９５９	和泉 有香	Ⅲ/Ⅳ	243
R	Reading 101	１３９０３	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	209
	Reading 101	１３９０３	小野 礼子／和泉 有香	Ⅰ	209
	Reading 101	１３９０３	宮副 紀子	Ⅰ	210
	Reading 201	１３９１１	惣谷 美智子	Ⅰ	214
	Reading 201	１３９１１	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	214
	Reading 201	１３９１１	佐伯 瑠璃子／小野 礼子	Ⅰ	215
	Reading 201	１３９１１	宮副 紀子	Ⅰ	215
	Reading 301	１３９１９	入江 和子／國本 恵理香／後藤 江里	Ⅰ/Ⅱ	219
	Reading 301	１３９１９	吉野 美智子	Ⅱ	220
	Reading 401	１３９２７	木下 奈美／國本 恵理香／後藤 江里	Ⅱ	224
	Reading 401	１３９２７	吉野 美智子	Ⅱ	224
	Reading 501	１３９４１	國本 恵理香／宮副 紀子	Ⅱ/Ⅲ	238
	Reading 601	１３９４９	後藤 江里／宮副 紀子	Ⅲ	241
T	TOEIC/TOEFL 1	１３８２２	和泉 有香	Ⅱ	262
	TOEIC/TOEFL入門 1	１３８０６	和泉 有香	Ⅰ	260
	TOEIC/TOEFL入門 1	１３８０６	入江 和子	Ⅰ	260
	TOEIC/TOEFL入門 2	１３８０７	後藤 江里	Ⅱ	261

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	TOEIC/TOEFL入門 2	１３８０７	後藤 江里	Ⅱ	261
W	WEBトラベルプレゼンテーション	１３８３９	釜須 久夫	Ⅲ	249
	Writing 102	１３９０５	Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅰ	210
	Writing 102	１３９０５	宮副 紀子	Ⅰ	211
	Writing 202	１３９１３	Tim KERN／Andy RUSHTON／James C. JENSEN	Ⅰ	216
	Writing 202	１３９１３	吉野 美智子	Ⅰ	216
	Writing 302	１３９２１	James C. JENSEN／Andy RUSHTON／Cory McKENZIE	Ⅰ/Ⅱ	220
	Writing 302	１３９２１	Angus HALL	Ⅱ	221
	Writing 402	１３９２９	Andy RUSHTON／James C. JENSEN／Angus HALL	Ⅱ	225
	Writing 402	１３９２９	James C. JENSEN	Ⅱ	225
	Writing 502	１３９４３	Andy RUSHTON／Cory McKENZIE	Ⅱ/Ⅲ	239
	Writing 602	１３９５１	Andy RUSHTON	Ⅲ	241
い	異文化理解	１３４０９	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	227
	インターンシップ（海外）	１３９６７	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	231
	インターンシップ（国内）	１３９６９	酒井 新一郎／白井 昭彦	Ⅲ	247
え	英検２級	１３８４８	和泉 有香	Ⅰ	262
	英語１	１１６０１	後藤 江里	Ⅰ	175
	英語１	１１６０１	釜須 久夫	Ⅰ	175
	英語２	１１６０５	入江 和子	Ⅰ	176
	英語２	１１６０５	木下 奈美	Ⅰ	176
	英語３	１１６０９	石原 敬子	Ⅰ	177
	英語４	１１６１３	木下 奈美	Ⅰ	177
	英語５	１１６１７	James C. JENSEN／Tim KERN	Ⅱ	178
	英語６	１１６２１	國本 恵理香	Ⅱ	178
	英語７	１１６２５	James C. JENSEN／Andy RUSHTON	Ⅱ	179
	英語８	１１６２９	後藤 江里	Ⅱ	179
	英語科教育法Ⅰ	１３７０５	後藤 江里	Ⅰ	252
	英語科教育法Ⅱ	１３７０９	宮副 紀子	Ⅱ	252
	英語科教育法Ⅲ	１３７３７	吉野 美智子	Ⅲ	254
	英語科教育法Ⅳ	１３７４１	吉野 美智子	Ⅲ	254
	英語学概論	１３７１３	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	230
	英米文学研究	１３５２１	惣谷 美智子	Ⅲ	245
	英米文学入門	１３４１３	吉野 美智子	Ⅰ	228
	演習Ⅰ	１３１０１	一尾 敏正	Ⅲ	195
	演習Ⅰ	１３１０１	箕野 聡子	Ⅲ	195
	演習Ⅰ	１３１０１	宮副 紀子	Ⅲ	196
	演習Ⅰ	１３１０１	小野 礼子	Ⅲ	196
	演習Ⅰ	１３１０１	酒井 新一郎	Ⅲ	197
	演習Ⅰ	１３１０１	白井 昭彦	Ⅲ	197
	演習Ⅰ	１３１０１	吉野 美智子	Ⅲ	198
	演習Ⅰ	１７１０１	浅井 由美	Ⅲ	267
	演習Ⅰ	１７１０１	濵田 誠二郎	Ⅲ	267
	演習Ⅰ	１７１０１	森 晴美	Ⅲ	268
	演習Ⅰ	１７１０１	中植 満美子	Ⅲ	268
	演習Ⅰ	１７１０１	佐原 信江	Ⅲ	269
	演習Ⅱ	１３１０５	一尾 敏正	Ⅲ	198
	演習Ⅱ	１３１０５	箕野 聡子	Ⅲ	199
	演習Ⅱ	１３１０５	宮副 紀子	Ⅲ	199
	演習Ⅱ	１３１０５	小野 礼子	Ⅲ	200
	演習Ⅱ	１３１０５	酒井 新一郎	Ⅲ	200

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	演習Ⅱ	１３１０５	白井 昭彦	Ⅲ	201
	演習Ⅱ	１３１０５	吉野 美智子	Ⅲ	201
	演習Ⅱ	１７１０５	浅井 由美	Ⅲ	269
	演習Ⅱ	１７１０５	濵田 誠二郎	Ⅲ	270
	演習Ⅱ	１７１０５	森 晴美	Ⅲ	270
	演習Ⅱ	１７１０５	中植 満美子	Ⅲ	271
	演習Ⅱ	１７１０５	佐原 信江	Ⅲ	271
	演習Ⅲ	１３１０９	一尾 敏正	Ⅳ	202
	演習Ⅲ	１３１０９	石原 敬子	Ⅳ	202
	演習Ⅲ	１３１０９	箕野 聡子	Ⅳ	203
	演習Ⅲ	１３１０９	宮副 紀子	Ⅳ	203
	演習Ⅲ	１３１０９	酒井 新一郎	Ⅳ	204
	演習Ⅲ	１３１０９	吉野 美智子	Ⅳ	204
	演習Ⅲ	１７１０９	浅井 由美	Ⅳ	272
	演習Ⅲ	１７１０９	濵田 誠二郎	Ⅳ	272
	演習Ⅲ	１７１０９	森 晴美	Ⅳ	273
	演習Ⅲ	１７１０９	中植 満美子	Ⅳ	273
	演習Ⅲ	１７１０９	佐原 信江	Ⅳ	274
	演習Ⅳ	１３１１３	一尾 敏正	Ⅳ	205
	演習Ⅳ	１３１１３	石原 敬子	Ⅳ	205
	演習Ⅳ	１３１１３	箕野 聡子	Ⅳ	206
	演習Ⅳ	１３１１３	宮副 紀子	Ⅳ	206
	演習Ⅳ	１３１１３	酒井 新一郎	Ⅳ	207
	演習Ⅳ	１３１１３	吉野 美智子	Ⅳ	207
	演習Ⅳ	１７１１３	浅井 由美	Ⅳ	274
	演習Ⅳ	１７１１３	濵田 誠二郎	Ⅳ	275
	演習Ⅳ	１７１１３	森 晴美	Ⅳ	275
	演習Ⅳ	１７１１３	中植 満美子	Ⅳ	276
	演習Ⅳ	１７１１３	佐原 信江	Ⅳ	276
お	オフィス情報処理１	１１５０９	米田 里香	Ⅱ	174
	オフィス情報処理２	１１５１３	米田 里香	Ⅱ	174
か	海外ツーリズム研修	１３４４５	酒井 新一郎	Ⅱ	236
	外国語教授法	１３７４５	後藤 江里	Ⅲ	255
	介護等の体験（事前指導）	１４１４７	浅井 由美	Ⅱ	327
	介護等の体験（事前指導）	１７６９７	浅井 由美	Ⅱ	307
	海星学Ⅰ	１１２０６	箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	Ⅱ	157
	海星学Ⅰ	１１２０６	南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅱ	158
	海星学Ⅱ	１１２０７	箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	Ⅱ	158
	海星学Ⅱ	１１２０７	南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅱ	159
	学習・言語心理学	１７４４７	中園 佐恵子	Ⅱ	287
	家政学概論	１１３８１	浅井 由美	Ⅱ	168
	環境ツーリズム論	１３４３０	酒井 新一郎	Ⅱ	234
	関係行政論	１７８５９	濵田 誠二郎	Ⅳ	324
	観光英検１級	１３８４７	入江 和子	Ⅱ	264
	観光英検２級	１３８４６	入江 和子	Ⅰ	263
	観光英検３級	１３８４５	國本 恵理香	Ⅰ	263
	観光概論	１３４２６	一尾 敏正	Ⅰ	232
	観光事業総論	１３４３１	一尾 敏正	Ⅰ	234
	観光と世界遺産	１３４３２	酒井 新一郎	Ⅱ	235
	観光ビジネス実務論	１３４３４	酒井 新一郎	Ⅱ	235

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	観光フランス語	１３８３７	平田 淳子	Ⅲ	251
	観光文化地理論	１３８３８	釜須 久夫	Ⅰ	233
	観光マーケティング論	１３８３３	一尾 敏正	Ⅱ/Ⅲ	248
	韓国語１	１１６９７	宋 京珠	Ⅰ	188
	韓国語２	１１７０１	宋 京珠	Ⅰ	188
	韓国語２	１１７０１	宋 京珠	Ⅰ	189
	韓国語３	１１７０５	宋 京珠	Ⅰ	189
	韓国語４	１１７０９	宋 京珠	Ⅰ	190
	韓国語４	１１７０９	宋 京珠	Ⅰ	190
	韓国語５	１１７１３	金 宝英	Ⅱ	191
	韓国語６	１１７１７	金 宝英	Ⅱ	191
	韓国語７	１１７２１	金 宝英	Ⅱ	192
	韓国語８	１１７２５	金 宝英	Ⅱ	192
	感情・人格心理学	１７３１１	淺谷 豊	Ⅰ	278
き	基礎演習Ⅰ	１１２０１	宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	Ⅰ	155
	基礎演習Ⅰ	１１２０１	森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅰ	156
	基礎演習Ⅱ	１１２０５	宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	Ⅰ	156
	基礎演習Ⅱ	１１２０５	森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	Ⅰ	157
	キッズ・イングリッシュⅠ	１３７２５	高田 悦子	Ⅱ	253
	キッズ・イングリッシュⅡ	１３７２９	後藤 江里	Ⅱ	253
	キッズ・イングリッシュⅡ	１７４６９	後藤 江里	Ⅱ	288
	キッズ・イングリッシュⅢ（実習）	１３７３３	後藤 江里	Ⅲ	255
	キャリアデザイン入門	１１３０１	前田 典子	Ⅰ	160
	キャリアデザイン入門	１１３０１	前田 典子	Ⅰ	161
	教育・学校心理学	１３８１５	濵田 誠二郎	Ⅰ	257
	教育・学校心理学	１７４１１	濵田 誠二郎	Ⅰ	284
	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法	１７６８４	都賀 純	Ⅱ	306
	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）	１３８５４	都賀 純／堀 正人	Ⅱ	257
	教育経営論	１７７１３	濵田 誠二郎	Ⅲ	308
	教育経営論（中高）	１３８５３	堀 正人	Ⅲ	258
	教育原理	１４１１５	澤井 一夫	Ⅱ	327
	教育原理	１７５２１	澤井 一夫	Ⅱ	292
	教育実習指導（小学校）	１７７８５	大岸 啓子	Ⅲ	317
	教育実習指導（中等）	１４２３１	堀 正人／吉野 美智子	Ⅳ	330
	教育実習指導（幼稚園）Ⅰ	１７６９１	佐原 信江	Ⅱ	307
	教育実習指導（幼稚園）Ⅱ	１７７０７	佐原 信江	Ⅲ	308
	教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む）	１３８５２	濵田 誠二郎	Ⅲ	259
	教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む）	１７４９７	濵田 誠二郎	Ⅲ	289
	教育方法論	１３８５１	堀 正人	Ⅱ	258
	教育方法論	１７６５７	濵田 誠二郎	Ⅱ	302
	教職概論（キッズ）	１３８０９	森 晴美	Ⅰ	256
	教職概論（小）	１７６１３	松井 敦	Ⅰ	295
	教職概論（中高）	１３８０９	松井 敦	Ⅰ	256
	教職概論（幼保）	１７６１３	森 晴美	Ⅰ	295
	教職実践演習（中・高）	１４２１４	堀 正人／惣谷 美智子	Ⅳ	329
	キリスト教海外研修	１１１０９	尾﨑 秀夫	Ⅰ	154
	キリスト教と文化	１１１１７	尾﨑 秀夫	Ⅲ	155
	キリスト教入門	１１１０１	尾﨑 秀夫	Ⅰ	153
け	経営学入門	１１３８５	栗木 契	Ⅲ	169
	健康・医療心理学	１７８３５	石川 慎一	Ⅲ	320

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	健康科学	１１３３３	柳本 有二	Ⅰ	164
	健康スポーツ１	１１３３７	後藤 磨也子／片岡 安美子	Ⅰ	165
	現代家族関係論	１１３６５	浅井 由美	Ⅱ	166
こ	航空ツーリズム論	１３８３６	白井 昭彦	Ⅲ	248
	公認心理師の職責	１７８４３	中植 満美子	Ⅳ	322
	神戸学	１３８４１	箕野 聡子	Ⅲ	250
	国際観光交流論	１３４２７	白井 昭彦	Ⅰ	232
	ことばと社会	１３４０５	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	228
	子ども家庭支援の心理学	１７７６３	島田 麻美子	Ⅲ	314
	子ども家庭支援論	１７７５９	浅井 由美	Ⅲ	314
	子ども家庭福祉	１７５２３	久松 睦典	Ⅱ	292
	子どもの健康と安全	１７６４７	成木 智子	Ⅲ	300
	子どもの食と栄養	１７６５０	成木 智子	Ⅲ	300
	子どもの保健	１７６４３	狐塚 善樹	Ⅱ	299
	子どもの理解と援助	１７４１２	浅田 裕子	Ⅲ	284
	コミュニケーションと文化	１３４１９	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	229
さ	産業・組織心理学	１７８４７	安岡 勇輝	Ⅳ	322
し	ジェンダー論	１１３２５	浅井 由美	Ⅰ	163
	児童英語教育概論	１３７０１	高田 悦子	Ⅰ	251
	児童文学	１３５０１	箕野 聡子／宮副 紀子	Ⅱ	231
	児童文学	１７４３７	箕野 聡子／宮副 紀子	Ⅱ	286
	司法・犯罪心理学	１７８３１	十倉 利廣	Ⅱ	320
	社会・集団・家族心理学	１７３９９	中園 佐恵子	Ⅲ	283
	社会科学概論	１１３７７	尾﨑 秀夫	Ⅱ	168
	社会的養護Ⅰ	１７６３９	曽田 里美	Ⅰ	298
	社会的養護Ⅱ	１７６４０	曽田 里美	Ⅲ	298
	社会福祉論	１１３６９	西橋 隆三	Ⅲ	167
	宿泊事業論	１３８３５	一尾 敏正	Ⅲ	249
	手話コミュニケーションⅠ	１１３９３	多賀 真里子／嘉田 眞典	Ⅱ	169
	手話コミュニケーションⅡ	１１３９７	多賀 真里子／嘉田 眞典	Ⅱ	170
	障害児保育	１７７８２	中園 佐恵子	Ⅱ	316
	障害者・障害児心理学	１７７８３	中園 佐恵子	Ⅱ	316
	情緒・学習障害の心理	１７５３７	濱田 誠二郎	Ⅲ	293
	情報活用の基礎知識	１１３１３	埴岡 忠清	Ⅰ	162
	情報リテラシー１	１１５０１	米田 里香	Ⅰ	172
	情報リテラシー１	１１５０１	渡辺 卓也	Ⅰ	172
	情報リテラシー２	１１５０５	米田 里香	Ⅰ	173
	情報リテラシー２	１１５０５	渡辺 卓也	Ⅰ	173
	女性と社会	１３５２５	浅井 由美	Ⅲ	246
	初等英語科指導法	１７４６７	高田 悦子	Ⅱ	287
	初等英語	１７５１１	高田 悦子	Ⅰ	291
	初等音楽１	１７４１７	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	285
	初等音楽２	１７４２１	由井 敦子／南 夏世	Ⅰ	285
	初等音楽３	１７４７３	南 夏世	Ⅱ	288
	初等音楽４	１７４７７	南 夏世	Ⅲ	289
	初等音楽科指導法	１７７３３	南 夏世	Ⅲ	311
	初等家庭科指導法	１７７４１	浅井 由美	Ⅲ	312
	初等国語科指導法	１７６６１	大岸 啓子	Ⅲ	302
	初等算数科指導法	１７６６９	都賀 純	Ⅱ	303
	初等社会科指導法	１７６６５	山本 博	Ⅱ	303

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	初等図画工作科指導法	１７７３７	花房 雅剛	Ⅲ	311
	初等生活科指導法	１７６７７	東内 則子	Ⅱ	304
	初等体育	１７５１３	木岡 正雄	Ⅱ	291
	初等体育科指導法	１７７４５	木岡 正雄	Ⅲ	312
	初等理科指導法	１７６７３	山本 博	Ⅱ	304
	神経・生理心理学	１７８２７	古谷 真樹	Ⅱ	319
	人権教育論	１１３７３	堀 正人	Ⅱ	167
	人体の構造と機能及び疾病	１７８５５	狐塚 善樹	Ⅳ	323
	心理演習	１７８３９	中植 満美子	Ⅳ	321
	心理学概論	１１３１７	中植 満美子	Ⅰ	162
	心理学研究法	１７３８７	中園 佐恵子	Ⅲ	282
	心理学実験	１７３４２	中園 佐恵子	Ⅱ	280
	心理学的支援法	１７３８３	津田 明子	Ⅲ	282
	心理学統計法	１７３３９	安岡 勇輝	Ⅱ	279
	心理調査・データ処理法	１７３４５	新美 裕之	Ⅱ	281
	心理的アセスメント	１７３４４	中植 満美子	Ⅱ	280
す	図画工作	１７５０９	森 晴美	Ⅰ	290
せ	生活文化概論	１７４０５	渋谷 美智	Ⅰ	283
	聖書概論	１１１０５	森 陽子	Ⅰ	153
	聖書と現代	１１１１３	森 陽子	Ⅱ	154
	精神疾患とその治療	１７８５１	石川 慎一	Ⅳ	323
	生徒指導論	１４２１７	松井 敦	Ⅲ	329
	生徒指導論（進路指導を含む）	１７７５３	花房 雅剛	Ⅲ	313
ち	知覚・認知心理学	１７３３１	中植 満美子	Ⅱ	279
	中国語１	１１６６５	坂口 文馨	Ⅰ	184
	中国語２	１１６６９	沈 竑	Ⅰ	184
	中国語３	１１６７３	坂口 文馨	Ⅰ	185
	中国語４	１１６７７	沈 竑	Ⅰ	185
	中国語５	１１６８１	坂口 文馨	Ⅱ	186
	中国語６	１１６８５	王 嫣	Ⅱ	186
	中国語７	１１６８９	王 嫣	Ⅱ	187
	中国語８	１１６９３	王 嫣	Ⅱ	187
つ	ツーリズム実務特論	１３４５０	酒井 新一郎	Ⅱ	236
と	統計学入門	１１３２１	埴岡 忠清	Ⅰ	163
	道徳教育指導論	１３８２９	松井 敦	Ⅲ	259
	道徳教育指導論	１７７４９	大岸 啓子	Ⅱ	313
	特別活動論	１４１８５	澤井 一夫	Ⅱ	328
	特別活動論	１７６８１	都賀 純	Ⅱ	305
	特別支援教育（中高）	１４１８７	濵田 誠二郎	Ⅱ	328
	特別支援教育（幼小）	１７６８３	濵田 誠二郎	Ⅱ	305
に	日本国憲法	１１３２９	浅野 宜之	Ⅰ	164
	日本語表現法	１１４０１	箕野 聡子	Ⅰ	170
	日本語表現法	１１４０１	大岸 啓子	Ⅰ	171
	日本語文章構成法	１１４０５	箕野 聡子	Ⅱ	171
	日本文化史	１１３５３	箕野 聡子	Ⅱ	165
	日本文化論	１３２７３	箕野 聡子	Ⅱ	229
	乳児保育Ⅰ	１７７７８	渋谷 美智	Ⅰ	315
	乳児保育 Ⅱ	１７７７９	渋谷 美智	Ⅱ	315
	乳幼児心理学	１７４４５	長谷川 貴子	Ⅱ	286
	人間学１	１１２０９	尾﨑 秀夫	Ⅰ	159

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	人間学２	１１２１３	芝山 豊	Ⅲ	160
は	発達心理学	１７２０１	濵田 誠二郎	Ⅰ	277
	ハワイ文化研究	１３９６５	釜須 久夫	Ⅰ	233
ひ	比較文化論	１３８３０	箕野 聡子	Ⅲ	246
	ビジネス中国語	１３８３２	王 嫣	Ⅲ	250
	ビジネス翻訳	１３６２１	樫本 雄三	Ⅲ	245
ふ	福祉心理学	１７５４３	新美 裕之	Ⅳ	293
	フランス語１	１１６３３	平田 淳子	Ⅰ	180
	フランス語２	１１６３７	平田 淳子	Ⅰ	180
	フランス語３	１１６４１	平田 淳子	Ⅰ	181
	フランス語４	１１６４５	平田 淳子	Ⅰ	181
	フランス語５	１１６４９	平田 淳子	Ⅱ	182
	フランス語６	１１６５３	平田 淳子	Ⅱ	182
	フランス語７	１１６５７	平田 淳子	Ⅱ	183
	フランス語８	１１６６１	平田 淳子	Ⅱ	183
	文学入門	１１３０９	箕野 聡子	Ⅰ	161
ほ	保育・教職実践演習（幼・小）	１７６８６	大岸 啓子／佐原 信江	Ⅳ	306
	保育原理	１７６０７	成木 智子	Ⅰ	294
	保育実習指導 ＩA	１７８１２	渋谷 美智	Ⅱ	317
	保育実習指導 ＩB	１７８１３	成木 智子	Ⅱ	318
	保育実習指導Ⅱ	１７８２１	渋谷 美智	Ⅲ	319
	保育実習指導B	１７８２０	渋谷 美智	Ⅳ	318
	保育内容総論	１７２０５	佐原 信江	Ⅰ	277
	保育内容の研究・環境	１７７２１	渋谷 美智	Ⅲ	309
	保育内容の研究・健康	１７７１７	石田 伸子	Ⅲ	309
	保育内容の研究・言葉	１７６３３	森 晴美	Ⅲ	297
	保育内容の研究・人間関係	１７６２９	成木 智子	Ⅱ	297
	保育内容の研究・表現（音楽表現）	１７６５５	南 夏世	Ⅱ	301
	保育内容の研究・表現（身体表現）	１７６５３	成木 智子	Ⅱ	301
	保育内容の研究・表現（造形表現）	１７６０１	森 晴美	Ⅲ	294
	簿記会計学	１１３５７	埴岡 忠清	Ⅱ	166
	ホスピタリティ・マネジメント	１３８３１	一尾 敏正	Ⅱ/Ⅲ	247
	ホスピタリティ精神論	１３２７２	白井 昭彦	Ⅰ	227
	ボランティア論	１７５０５	西橋 隆三	Ⅰ	290
	翻訳・通訳論入門	１３３０１	和泉 有香／樫本 雄三	Ⅱ	230
よ	幼児教育学原理	１７６１７	須河内 優子	Ⅱ	296
	幼児教育課程論	１７６２３	佐原 信江	Ⅱ	296
	幼児教育指導法	１７７２５	佐原 信江	Ⅲ	310
	幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）	１７７２７	成木 智子	Ⅲ	310
り	臨床心理学概論	１７３２７	津田 明子	Ⅱ	278
	臨床心理学実習（心理テスト法）	１７３７５	中植 満美子	Ⅲ	281